

Y.V.ヴィシュニャコフ N.A.モギレフスキー S.V.アガフォノフ

ロシア史

19世紀～20世紀初頭

9



年表

1801-1825年 - アレクサンドル1世の治世

1802年 - 省庁の設立

1803年 - 「自由耕作者」に関する法令

1804-1813年 - ロシア・イラン戦争、グリスタン条約、ダゲスタンと北アゼルバイジャンのロシアへの併合

1805-1807年 - ロシアの第3次および第4次反フランス連合への参加

1806-1812年 - ロシア・トルコ戦争、ブカレスト講和、ベッサラビアのロシアへの併合

1807年 - ティルジット講和

1808-1809年 - ロシア・スウェーデン戦争、フレドリクハムン条約、フィンランドのロシアへの併合

1810年 - 国家評議会の設立

1812年6月12日-12月14日 - 1812年祖国戦争

1812年8月26日 - ボロジノの戦い

1813-1814年 - ロシア軍の海外遠征

1814-1815年 - ウィーン会議、神聖同盟の結成

1815年 - ポーランド王国憲法の授与

1817-1864年 - コーカサス戦争

1821年 - 北部および南部の秘密結社の結成

1825年12月14日 - デカブリストの反乱

1825-1855年 - ニコライ1世の治世

1826-1828年 - ロシア・イラン戦争。トルクマンチャイ条約、アルメニアのロシアへの併合

1828-1829年 - 露土戦争、アドリアノーブル条約、コーカサスの黒海沿岸のロシアへの併合

1832年 - ロシア帝国の法律の成文化の完了

1837-1841年 - 国有農民の管理の改革

1839-1843年 - 通貨改革、銀ルーブルの導入

1842年 - 義務農民に関する法令

1853-1856年 - クリミア戦争。パリ条約

1855-1881年 - アレクサンドル2世の治世

1858-1860年 - アムール川と沿海地方のロシアへの併合

1860-1880年代 - 中央アジアのロシアへの併合

1861年2月19日 - 農民解放宣言

1861-1874年 - 軍事改革

1864年 - ゼムストヴォと司法改革

はじめに 1801-1914年のロシア

産業社会の構築が困難だったため、西ヨーロッパ諸国に軍事技術面で遅れをとり、クリミア戦争でロシア帝国は敗北した。しかし、ロシアの支配層はこの大惨事から教訓を得ることができた。彼らは、我が国の歴史に残る大改革を実行した。その中で最も重要なのは、1861年の農民改革、つまり農奴制の廃止だった。大改革は、国の経済構造に根本的な変化をもたらした。積極的な鉄道建設、起業家のイニシアチブの自由、人口移動の自由の拡大は、工業化と都市化のプロセスの加速に貢献した。世紀末までに経済への政府の介入が増加し、これらのプロセスはさらに激しくなった。

しかし、地主と農民の関係における階級秩序の維持、非効率な地主農場と農民共同体に対する国家の支援、土地不足の現状における義務的支払いによる農民への過度の負担は、農業の緩やかな発展と産業および金融分野の急速な成長との間のギャップの拡大を招いた。ゼムストヴォと都市自治の発展、独立した裁判所、検閲の弱体化、教育へのアクセスの拡大は、当面のところ矛盾の深刻さを和らげたが、解決には至らなかった。



1837年10月30日のツァールスコエ・セロー鉄道の開通式。画家: F. マルテンス

そのため、ロシア社会の一部はロシアの発展を促進しようとし、自由の拡大に対する主な障害とみなした独裁政治に対する革命闘争の道を歩み始めた。革命家と当局の闘争における相互の憎悪は、ロシアを当時の主要国の仲間入りに押し上げようと全力を尽くしていたアレクサンドル2世の暗殺につながるほどのレベルに達した。この悲劇の後、アレクサンドル3世に代表されるロシア当局は、政治的反対勢力を抑圧し、自由を制限する一方で、近代的な産業と交通の発展を奨励する方針を取った。しかし、ロシアの村落の地主共同体制度はそのまま残った。

ロシア国家における社会的流動性の経路は弱かった。出生率が高いため、毎年、独立した生活を始める何百万人もの若者が社会的地位の向上を期待できないという状況に陥った。時には、両親が持っていた社会的地位を維持することさえできなかった。そして、これは下層から上層まで、すべての社会階層に共通していた。この状況により、ロシアは1905年から1907年の革命に至った。皇帝ニコライ2世は改革に同意せざるを得なかった。ロシアには、選挙で選ばれた立法諮問機関である下院、複数政党制、政治的自由と市民的自由が生まれた。ロシア政府の長であるP.A.ストルイピンは、農民問題の解決に着手した。しかし、遅すぎた。ロシアの人口の大半を占める農民の貧困により、国内需要に基づく産業の発展は不可能であった。そのため、ロシアは外国投資に大きく依存していた。

19世紀末の複雑な国際関係の複雑さにより、ロシアはフランスおよびイギリスと同盟を結んだ。この和解はドイツとの関係悪化を伴った。ヨーロッパの主要国は、軍事的および政治的に対立するブロックに分かれていた。1914年に第一次世界大戦が始まった。ロシア帝国はこの試練に耐えられなかった。これがどのように、そしてなぜ起こったのかは、10年生で学ぶ。

最後に、19世紀にロシアは政治的、軍事的に強大な国としてだけでなく、1801年から1914年にかけて金の時代と銀の時代と呼ばれる2つの高みを相次いで経験した偉大な文化の国としても世界的に知られるようになったことに特に注目すべきである。ロシア文化の成果は今日に至るまで、世界中の何百万人もの人々の人生に意味を与え、進歩の道における新たな成果への刺激を与えている。



ロシア初の鉄道を描いた絵画の複製が、19世紀のロシアの視覚的イメージとして選ばれたのはなぜだと思うか？

記号



- この章の主な質問



- このセクションの主な質問



- 基本的な概念



- 歴史上の人物



- 年表



- 段落の質問とタスク



- 見出し、イラスト、図、地図に関する質問とタスク



- 難易度の高いタスク



- 世界史とロシア史の出来事を関連付ける質問と課題



- プロジェクトのトピック



- 推奨図書・動画等



この章のリソースへのリンク:

- 教科書のページ

- タスク番号



I

1801-1825年の アレクサンドル1世統治下のロシア



1834年8月30日、サンクトペテルブルクのアレクサンドル1世記念碑の開会式で宮殿広場で行われたパレード。画家 G.G. チェルネツォフ

「私の番が来たら、もちろん、徐々に国民代表を形成するよう努める必要がある。その代表が適切に指導されれば、自由な憲法が成立する。その後、私の権力は完全になくなる。そして、もし神のご加護があれば、私はどこかの隅に退き、そこで幸せに、満ち足りて暮らし、祖国の繁栄を見て、それを楽しむだろう。」

アレクサンドル・パヴロヴィチからラ・アルプへの1797年9月27日の手紙より



アレクサンドル1世は、ロシアで自由主義改革を実行する計画を実行することに成功したのか？ その理由は？

§ 1

19世紀初頭のロシア帝国



耕された畑にて。画家 M.K. クロット・フォン・ユルゲンスブルク



19世紀初頭のロシアの領土、住民、政府、社会構造の特徴は何だったか？



ブルジョア・独裁政治

69

1

1. 領土と統治。 19世紀初頭までに、ロシア帝国は約1,600万km²の領土を占め、当時最大の国家となっていた。

ロシアは国家構造上、君主制だった。最高行政、立法、司法の権力は皇帝に属していた。つまり、皇帝は国境内では独裁者であり、何にも制限されなかった。

皇帝は中央当局、つまり上院、教会会議、大学を利用して権力を行使した。

ロシアの領土は州に分割されていた。19世紀初頭には43の州があった。州はさらに地区に分割されていた。

州の長は、皇帝によって任命された知事だった。

地区では、警察署長が統治の主な役割を担っていた。19世紀初頭、警察署長は貴族から選出され、知事の承認を得ていた。

都市では、元老院によって任命された市長が治安維持の責任を負っていた。選出された役人が都市の権力機関を構成していた。市長、市議会は公共の福祉を監視した。市政長官は市民を裁いた。市政府の役人は主に商人によって、商人の中から選出された。

役人は皇帝やその他の主要な役人の命令を直接実行した。官僚は主に貴族から構成されていたが、他の階級 (農奴を除く) の代表者も参加できた。



- 1. ロシア帝国の政府形態と国家構造を定義せよ。定義の根拠を示すこと。
- 2. 国家統治において最も重要な役割を果たしたのはどの階級で、その理由は何だったか？

2. 多民族国家。 19世紀初頭、ロシア帝国の領土には約 4,300 万人が住んでいた。

ロシア帝国の民族

民族	人口	宗教
大ロシア人 (ロシア人)	20,010,000	正教, 古儀式派
小ロシア人 (ウクライナ人)	8,200,000	正教, 東方典礼カトリック教会
ベラルーシ人	3,400,000	
ポーランド人	2,500,000	カトリック
リトアニア人	820,000	
タタール人	800,000	イスラム教
ラトビア人	700,000	ルーテル教会, カトリック
ユダヤ人	600,000	ユダヤ教
エストニア人	500,000	ルーテル教会
チュヴァシ人	350,000	正教, ペイガニズム
モルドヴィン人	350,000	ルーテル教会, カトリック
ドイツ人	240,000	
パシキール人	200,000	イスラム教
マリ人	150,000	正教, ペイガニズム
カレリア人	140,000	
ウドムルト人	130,000	
ブリヤート人	120,000	仏教



19世紀初頭、ロシア帝国は世界のどの地域に位置していたか？その領土がどのように形成されたかを覚えておくこと。



民族	人口	宗教
クリミア・タタール人	110,000	イスラム教
ヤクート人	100,000	正教, ペイガニズム
カルムイク人	90,000	仏教
コミ・ズィリヤ人	50,000	正教, ペイガニズム
その他	350,000	さまざま



ロシア帝国が多民族、多宗派の国であったことを具体的な例で証明せよ。それは常にそうだったのだろうか？

ロシア当局は国を統一することに関心があった。名目上の国民であるロシア人は、他の民族と比べて特別な権利を持っていなかった。外国人は、通常的生活様式を変えることを強制されず、ロシア語も強制されなかった。ロシア人でも正教でもない貴族でも、皇帝に忠実で、熱心に奉仕すれば、輝かしいキャリアを築くことができた。

ロシアの人口の94%は農村部に住み、残りは都市部に住んでいた。ヨーロッパとアジアのほとんどの国では、当時は都市部に住む人の割合はるかに高かった。最も人口の多い都市はサンクトペテルブルク(約33万人)とモスクワ(約27万人)だった。他のほとんどの都市の住民は、1,000人から(非常にまれな例で)数万人だった。外観と生活様式において、多くのロシアの都市は大きな村に似ていた。



ペテルスブルク, インペリアルバンク 画家 B.ペテルセン 1801年



- 1. ロシア当局はなぜ多国籍で多宗派の国を統一することに関心があったのか？
2つの説明をまとめよ。
- 2. 多くの都市の人口が少なかった理由を説明せよ。

3. 社会構造。 19世紀初頭、ロシア社会は、階級で構成されていた。

19世紀初頭のロシア帝国の主な階級

階級	権利と自由	義務	人口
貴族	税金、体罰、徴兵、および強制奉仕の免除。 移動の自由、農民の私有権、階級自治、階級裁判所の権利。 公務員になり教育を受ける場合の優遇。	地主は領地の秩序維持と農奴による国税の支払い義務。	500,000
聖職者	税金、体罰、および徴兵の免除。 階級裁判所と教育を受ける権利。	一般人の道徳と善意の監視。	500,000
商人	人頭税、体罰、徴兵の免除（第1ギルドと第2ギルドの場合）、貿易の優先権、都市自治における決定権利。	税金の支払い（たとえば、国家の1%商人税）、採用（第3ギルドの場合）	250,000

階級	権利と自由	義務	人口
コサック	個人の自由、土地の割り当て、手工芸、階級自治の権利	18歳から50歳までの男性の平時の兵役	2,500,000
市民	個人の自由、市町村自治への参加	人頭税、徴兵	750,000
国有農民	個人の自由の権利	人頭税、国庫への金銭税、その他の義務(旅行、宿泊など)、徴兵	14,500,000
小作農民		人頭税、地代、皇室の利益のためのその他の義務、徴兵	3,500,000
農奴	生存権(個人権と財産権は地主が所有)	人頭税、地主に対する税金(地代、賦役など)、徴兵	18,000,000



社会の階級区分の根底にある原則は何か？

貴族になるには、生まれながらの権利、階級表で一定の位に達すること、あるいは君主自身から貴族の地位を与えられることが必要だった。世襲貴族と個人貴族は区別されていた。世襲貴族は貴族の地位（および農奴を所有する権利）を相続で受け継ぐことができたが、個人貴族は功績により貴族の地位を受け、子供に貴族の地位（および農奴を所有する権利）を受け継ぐことはできなかった。

聖職者になるには、司祭の子供や他の階級の代表者は、精神的な教育を受け、聖職に就くか、修道誓願を立てる必要があった。

商人階級は3つのギルドで構成されていた。第1ギルドには、資本金1万ルーブル以上の商人で構成されていた。彼らはロシア全土と海外で取引する権利を持っていた。第2ギルドには、資本金5,000～1万ルーブルの商人構成されていた。彼らはロシア全土で取引する権利を持っていた。第3ギルドには、資本金1,000～5,000ルーブルの商人構成されていた。

国の人口の大半は、主な納税階級である農民で構成されていた。地主の農民はロシアの人口の半分弱を占め、完全に地主の支配下に置かれていた。

もう1つの課税階級は、都市の個人的自由人である市民だった。これらは商人、職人、召使、工場の雇われ労働者だった。

ある程度、コサックの地位は特権的であると考えられる。兵役の自由時間には、コサックは農業や漁業などの他の商売に従事していた。コサックの割り当ては、国有農民の数倍だった。コサックは「ホスト」に分かれていた。19世紀初頭に最大だったのはドンホストだった。ドンホストに加えて、黒海、テレク、オレンブルク、ウラル、シベリア、ザバイカルホストもあった。



17世紀から18世紀にかけて、コサックは反政府民衆の蜂起に欠かせない参加者であり、19世紀初頭には独裁政権の信頼できる拠点となった。なぜこのようなことが起こったと思うか？



ロシアの農民。
画家 E. M. コルネエフ。19 世紀



ウラル コサック。
画家 E. M. コルネエフ。19 世紀



ガラス職人と青果店主。
画家 K. G. ガイスラー 19世紀

ロシアには、兵士とその家族、単独の開拓者、外国人入植者、ギルド職人、職人、外国人など、それらに相当する他の階級や住民集団もあった。それらはすべて、税金や関税に関して国家にさまざまな程度依存することで結びついていた。



1. 貴族は特権階級と呼べるか？ 2つまたは3つの論拠で自分の意見を正当化すること。
2. 別の階級の代表者が商人階級に入ろうと決めたでしょう。彼が満たさなければならなかった主な要件は何だったと思うか？
3. ロシアの農奴制は奴隷制と比較されることがある。この比較に同意するか？ 自分の意見を正当化すること。
4. 特権階級と課税階級の違いは何だったと思うか？
5. 19世紀初頭のロシアの階級をどのようなグループに分けることができるか？ 選択した分類原則を正当化すること。

質問とタスク

1. 自分で定義した基準を使用して、19世紀初頭のロシアの階級について説明せよ。それ以降、何が変わったか？
2. エカチェリーナ2世は次のように書いている。「ロシア帝国は非常に広大であるため、独裁的な君主を除いて、他の形態の政府はすべて実行が遅く、ロシア帝国に有害である...」エカチェリーナ2世の判断をどのように理解するか？ 彼女の意見に同意するか？ 彼女の判断を裏付けるために使用できる別の議論を作成し、次にこれらの議論に対する反論、つまりそれらを反証する事実を選択すること。
3. 独自に定義した基準を使用して、19世紀初頭のロシア国家の統治について説明せよ。
4. 自分で定義した基準を使用して、19世紀初頭のロシアの社会構造について説明せよ。それ以降、何が変わったか？
5. 19世紀初頭にロシアに似た国家と社会体制を持つ国はあるか？

セクションの主な質問に対する答えをまとめること。



19世紀初頭のロシアの領土、住民、政府、社会構造の特徴は何だったか？

§ 2

1801-1812年のアレクサンドル1世の内政



アレクサンドル1世の肖像画。画家 V. G. ボロヴィコフスキー



アレクサンドル1世の治世初期の内政は自由主義的と言えるか？



「自由農民」・国家評議会・自由主義・省庁・重要な助言・秘密委員会



アレクサンドル1世・H. N. ノヴォシルツェフ・M. M. スペランスキー・A. チャルトリスキ・V. P. コチュベイ・F. ラハルペ・P. A. ストロガノフ



1804年5月18日 - ナポレオン ボナパルト
がフランス皇帝に即位

1804年 - ナポレオンの民法

1807年 - フランスで商法が採択

1807年 - プロイセンで農奴制が廃止

1801年3月12日 - アレクサンドル 1 世が
即位

1802年 - 省庁の設置

1803年 - 「自由耕作者」に関する法令

1804年 - ロシア帝国で最初の検閲憲章

1810年 - 国家評議会の設立



アレクサンドル1世。
画家: S.S. シュチューキン

1.アレクサンドル1世とアレクサンドル時代の始

まり。 1801年3月12日の夜、陰謀を企む衛兵が皇帝パーヴェル1世を殺害。長男のアレクサンドルが帝位に就いた。当時、アレクサンドル・パーヴロヴィチは23歳だった。未来の皇帝は、弟のコンスタンチンと同様、幼少期を祖母のエカチェリーナ2世に育てられた。アレクサンドルと弟が成長すると、彼らの教育監督はプロイセンやトルコとの戦争の英雄であるN.I. サルトゥイコフに委ねられ、最も重要な科学の教育はスイス人のフレデリック・ラ・アルプに委ねられた。ラ・アルプは確信に満ちた共和主義者だった。授業では、人々の自由と平等、正義、専制政治の不条理と害悪、奴隷制の卑劣さについて頻繁に語った。後にアレクサンドルは、自分が「心から喜んで抱いている真実と正義の原則」をラ・アルペに負っていることを認めた。こうして、ロシアの王位継承者は自由主義者となった。

自由主義とは、すべての人の権利と自由を最高の価値と社会秩序の基礎として宣言するイデオロギー（見解の体系）である。

即位宣言書の中で、新皇帝は臣民に対し、「祖母であるエカチェリーナ2世の法と心に従って」統治すると宣言した。アレクサンドル1世は、まず父の最も嫌われていた法令を撤廃した。解任された役人や将校全員を復職させ、秘密調査隊（政治調査機関）を壊滅させ、外国の書籍の輸入禁止を解除し、貴族や都市に特許状を復活させた。



F. ラアルプ。
画家: O. パジュー



1. 自由主義以外に、どのようなイデオロギーを知っているか？ それらはどう違うか？
2. 政治家の教育者や教師が誰であったかを知ることがなぜ重要であるかについて、2つまたは3つの論点を述べよ。

2. 行政改革。アレクサンドルは、さらに大規模な改革の計画を持っていた。しかし、皇帝は実際にそれをどのように実行したらよいか知らなかった。エカチェリーナ2世とパーヴェル2世時代の元政治家たちの支援を期待することはほとんど不可能だった。しかし、彼らを見捨てることはできなかった。1801年3月末、アレクサンドルは、かつての家庭教師であるN.I. サルティコフを長とする12人の貴族からなる評議会を設立した。評議会は常時活動していたため常設と呼ばれた。しかし、アレクサンドルは、改革作業の真の助手を友人たちから探していた。彼らは、西側の国家制度に精通し、今世紀の最先端の考えで育てられた人々、A. チャルトリスキ、H.N. ノヴォシルツェフ、V.P. コチュベイ、P.A. ストロガノフだった。彼らは皇帝のもとで非公式の評議会を結成し、秘密委員会と名付けられた。こうして、秘密委員会が改革計画を準備し、常設評議会がそれを議論して修正し、皇帝がそれを承認した。

歴史上の人物。アダム・チャルトリスキ (1770-1861) - リトアニア大公ゲディミナス公の子孫。1804-1806年 - ロシア外務大臣。1810-1823年 - ヴィリニウス教育区の理事。1830-1831年 - ポーランド独立蜂起の指導者の一人。亡命先のパリで死去。

ニコライ・ニコラエヴィチ・ノヴォシルツェフ (1761-1838) - 伯爵。1788-1790年のスウェーデンとの戦争および1794年のポーランド蜂起鎮圧に参加。1803-1810年 - 科学アカデミー会長、サンクトペテルブルク教育区の理事。1804-1806年 - 司法副大臣。1806-1812年 - 外交官。1812年の祖国戦争後、リトアニアとポーランドの行政に携わった。1820年、ロシア帝国の憲法草案、すなわち国家憲章を作成した。

ピョートル・アレクサンドロヴィチ・ストロガノフ (1774-1817) - 伯爵。有名なストロガノフ一族の実業家出身 (かつてはイェルマークのシベリア・ハン国に対する作戦に資金を提供した)。パリ生まれ。フランス大革命中、ジャコバン派クラブのメンバーで、資金援助を行った。1802-1807年 - 外務次官、内務次官。1812年のボロジノの戦いと1813年のライプツィヒ近郊での諸国民の戦いに参加。

ヴィクトル・パブロヴィチ・コチュベイ (1768-1834) は、小ロシア (ウクライナ) コサックのコチュベイ家出身で、伯爵 (1799年以降)、公爵 (1831年以降) となった。外交官として勤務を開始し、パリでフランス大革命の出来事を目撃した。1802-1807年と1819-1823年にはロシア内務大臣を務めた。1812年の戦争中はM.I. クトゥーゾフの庇護者であった。国務院議長 (1827-1834年) および閣僚委員会議長 (1827-1832年)。



P.A. ストロガノフ。
画家: G. ドー



V.P. コチュベイ。
画家: F. ジェラルド



スペランスキーのプロジェクトは自由主義と言えるだろうか？ 2、3の議論で自分の意見を正当化すること。

1801年6月から、アレクサンドルと秘密委員会のメンバーは、改革計画について話し合うために定期的に会合するようになった。最も重要なのは、1802年の中央政府改革だった。この改革で、ピョートルの参議会(コレギウム)の代わりに、外務、陸軍、海軍、内務、財務、司法、商業、公教育の8つの省が設立された。省と参議会の主な違いは、ワンマン管理の原則、職務範囲の正確な定義、皇帝に対する大臣の個人的責任、厳格な執行規律だった。すぐに、秘密委員会のメンバーは大臣やその代理人(当時の言い方では同志)になった。皇帝との秘密会議は中止された。1802年9月から、すべての改革作業は、アレクサンドル1世の法令によって設立された大臣委員会に移行した。委員会の会議は皇帝自身が議長を務めた。

1804年、アレクサンドルはロシア帝国で最初の検閲憲章を承認し、大学教授の委員会に検閲の実行を任せ、一般管理を公教育省に移管した。同時に、検閲官は著者や出版者に対して「妥当な寛大さ」を指針とするよう勧告された。政府のこの姿勢のおかげで、出版活動は盛んになった。



アレクサンドル1世が秘密委員会を創設したとき、どのような目標を追求したのか？ 2つか3つの条項を挙げる。委員会はなぜ活動を停止したのか？

3. 農民問題。 アレクサンドル1世は即位後、国有農民を私人に分配する慣行を廃止し、家政婦の売買広告の掲載を禁止した。その後、農民を市で売って家族を分離することが禁止され、地主が軽微な違反で農民をシベリアに追放する権利は廃止された。1803年2月20日、アレクサンドル1世は「自由農民」に関する法令を發布した。

地主は、農奴を個別に、または村全体で解放する権利を得たが、農奴に土地を割り当てる義務があった。このようにして自由を得た農民は「自由農民」と呼ばれた。しかし、彼らは税金を支払い、兵役に就く義務を負った。つまり、彼らは課税対象階級のままだった。(法令が廃止された 1858 年までに、合計 152,000 人 (1.5%) の農奴が「自由農民」になった。)

1804-1805年に、リヴォニア州とエストニア州で重要な改革が実施された。地主は土地を持たずに農奴を売却したり、勝手に地代金を増額したりすることが禁じられ、農民自治が導入され、賦役は週2日に制限された。

69

2



1. アレクサンドル1世は「自由農民」に関する法令を発布したとき、何を期待していたのだろうか？ また、その期待が正当化されなかったのはなぜだろうか？
2. 農奴制の改革はなぜリヴォニアとエストニアから始まったのだろうか？ 2つの説明を述べてること。19世紀初頭のロシア帝国の地図を使って答えること。

4. M.M. スペランスキーの活動。 ランとの戦争 (1804年-) とフランスとの戦争 (1805年-) は、アレクサンドル1世を国内改革から遠ざけた。しかし、1807年に和平を締結すると、皇帝は再び計画に戻った。改革プロジェクトの開発は、M.M. スペランスキーに委ねられた。)

歴史上の人物。 ミハイル・ミハイロヴィチ・スペランスキー伯爵 (1839 年以降) (1772-1839) は、最下層から権力の頂点に上り詰めた。彼の父親は、ウラジミール州の村の1つに住む素朴な司祭だった。スペランスキーは、サンクトペテルブルクのアレクサンドル・ネフスキー神学校を優秀な成績で卒業した。彼は、1797年に名目上の評議員 (階級表のIX等級) の地位で公務を開始し、1801年には、その卓越した能力により、実質的な国家評議員 (階級表のIV等級) の地位を獲得した。内務大臣 V.P. コチュベイは、しばしばスペランスキーを皇帝への報告に派遣した。アレクサンドル1世は、彼の有益なメモを気に入り、ミハイル・ミハイロヴィチを最も親しい助手にした。

1809年10月、「国家法典の導入」と題するプロジェクトがアレクサンドル1世に提出された。権力分立の原則は、ロシアの国家構造の基礎となるはずだった。各行政単位 (州、地区、郷) は、独自の立法権 (郷ドゥーマ、地区ドゥーマ、州ドゥーマ)、独自の裁判所、独自の行政 (行政権) を持つことになる。

全ロシアレベルでは、立法諮問機関として国家ドゥーマが設立され、行政権は皇帝と省庁に残った。司法権の最高機関とし元老院が任命された。さらに、スペランスキーは、皇帝が議長を務める国家評議会という新しい機関の設立を提案した。



M.M. スペランスキー。
画家: 不詳



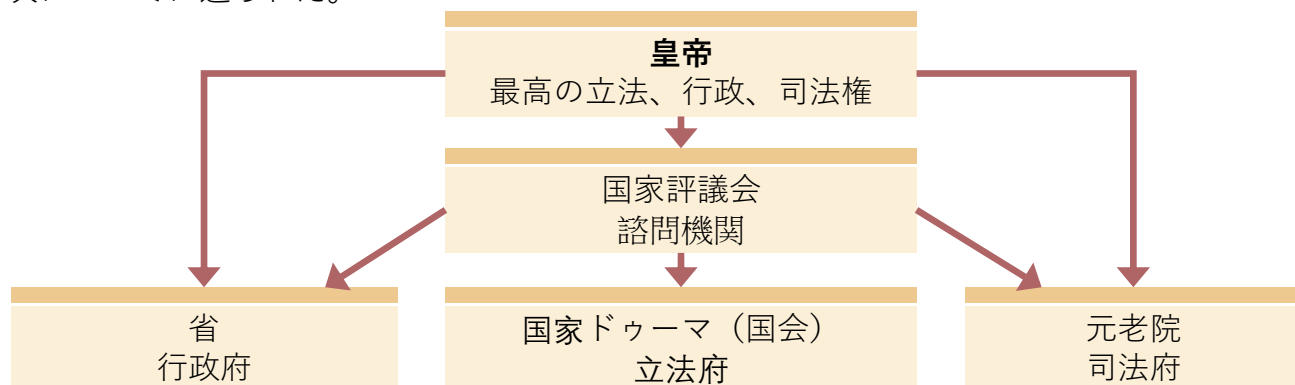
M.M. スペランスキーのキャリアに貢献した要因は何か？

評議会は、国家ドゥーマでの議論と採択のための法律を策定し、省庁への命令を準備し、上院と裁判所の活動手順を決定し、そのメンバーを承認することになった。国家評議会のすべての決定は、皇帝の承認後に発効することになった。スペランスキーは不動産所有者全員に投票権を与えることを提案した。しかし農奴には投票権が与えられなかった。

皇帝はスペランスキーの計画を「満足のいく有益なもの」と認めたが、元老院議員、大臣、その他の高官らの激しい抵抗に遭い、実際に実行に移すことはしなかった。「序文」のすべての条項のうち、皇帝が受け入れたのは1つだけだった。1810年1月1日、国の最高立法機関である国家評議会の設立に関する宣言が発表された。

スペランスキーの立場は揺らいだ。彼の提案はどれも、廷臣や官僚の間で抗議の波を引き起こした。特に不満が高まったのは、1809年に彼が起草した2つの法令だった。法令の1つによれば、侍従と侍従長の宮廷階級は事実上価値が下げられ、もう1つは、評議員（個人貴族の地位を与える）と国务委員（世襲貴族の地位を与える）の地位の取得を複雑にし、これらの地位を申請する役人は大学の卒業証書を提示するか、特別試験に合格する必要があった。

結局、隠された陰謀と公然たる非難（結局は中傷であることが判明）の後、M.M. スペランスキーはアレクサンドル1世によって追放され、最初はニジニノヴゴロド、次にペルミに送られた。



スペランスキーのプロジェクトは自由主義と言えるだろうか？ 2、3の議論で自分の意見を正当化すること。

皇帝は後に、ロシアがナポレオン率いるフランスとの新たな戦争の瀬戸際にあった当時、社会の分裂を防ぐためにそうせざるを得なかったことを認めた。



1. イランおよびフランスとの戦争によりアレクサンドル1世が改革を中断せざるを得なくなり、フランスとの戦争の終結により改革を再開せざるを得なくなったのはなぜだと思うか？
2. 1808年、M.M. スペランスキーはドイツのエアフルトで行われたアレクサンドル1世とナポレオンの交渉に参加した。交渉が終わった後、ナポレオンはスペランスキーに、ダイヤモンドがちりばめられ、自分の肖像が描かれた嗅ぎタバコ入れを贈った。すぐに、ナポレオンがアレクサンドルにスペランスキーをどこかの王国と交換するよう申し出たという噂が広まった。これらの出来事は、スペランスキーの改革プロジェクトの運命にどのような影響を与えただろうか？ 自分の意見を正当化すること。

質問とタスク

1. アレクサンドル1世が父であるパーヴェル1世の政策を改訂して統治を開始した理由を説明せよ。2つまたは3つの説明をまとめること。
2. 歴史家ニコライ。ミハイロヴィチ大公は、「皇帝アレクサンドル1世は決して改革者ではなく、統治の最初の数年間は周囲のすべての顧問よりも保守的だった」と主張した。彼の意見に同意するか？ 2つまたは3つの議論で自分の見解を正当化すること。
3. A.S. プーシキンがアレクサンドル1世の統治の始まりについて与えた定義、「アレクサンドルの時代の美しい始まり...」に同意するか？ 2つまたは3つの議論で自分の意見を正当化すること。
4. M.M. スペランスキーが提案したロシア帝国の国家再編のすべてのプロジェクトのうち、国家評議会の設立だけがなぜ実行されたのか？ 2つの説明をまとめること。
5. 歴史家 N.M. カラムジンの「旧ロシアと新ロシアに関する覚書」からの抜粋を読んで、課題を完了せよ。

「指示書を作成しても有用な内閣は形成されない。有能な内閣を準備すれば形成される...一言で言えば、今最も必要なのは人である！」

- 1) このテキストの著者はどのような問題を提起しているか？
- 2) アレクサンドル1世はこの問題を認識していたか？ 2つまたは3つの議論で自分の意見を正当化すること。
6. アレクサンドル1世の改革計画と 18世紀末から19世紀初頭のヨーロッパでの出来事との間には関連があるか？ 事実で自分の意見を裏付けること。

セクションの主な質問に対する答えをまとめること。



アレクサンドル1世の治世初期の国内政策は自由主義的と言えるだろうか？

§ 3

1801-1812年のアレクサンドル1世の外交



1809年にフィンランドでボルゴ議会を開会したアレクサンドル1世。画家 R. エクマン



19世紀初頭にロシアが直面していた外交政策上の問題を解決する上で、アレクサンドル1世の行動はどの程度成功したか？



反フランス連合・「三皇帝の戦い」・大陸封鎖



P.I. バグラチオン・L.L. ベニグセン・P.D. ツィツィアノフ・M.B. バルクライ
ド・トーリ・M.I. クトゥーゾフ



1802年 - フランスとイギリスの間のアミアン条約
1803年 - パリ条約。フランスが西ルイジアナを米
国に割譲

1801年 - グルジア王国カルトリ・カヘ
ティがロシアの一部となる

1803-1814年 - 英仏戦争

1804年8月11日 - オーストリア帝国の宣言

1806年 - ライン同盟の結成。神聖ローマ帝国の解体

1807-1808年 - フランス・スペイン・ポルトガル戦争

1808-1814年 - 半島戦争

1809年 - オーストリア・フランス戦争

1810年 - ラテンアメリカにおける反スペイン反乱の始まり

1804-1813年 - ロシア・イラン戦争

1805-1807年 - 第3次および第4次反フランス連合の一環としてのナポレオンとの戦争

1805年11月20日（12月2日） - アウステルリッツの戦い

1806-1812年 - 露土戦争

1807年6月25日（7月7日） - ティルジットの和約

1808-1809年 - ロシア・スウェーデン戦争

1. アレクサンドル1世の最初的外交政策。 皇帝アレクサンドル・パヴロヴィチは即位後、自由主義改革の遂行を主な任務と見なし、国内政策を第一に考えていた。しかし、状況が進展し、間もなく彼は外交政策の複雑さに完全に注意を集中しなくなってきた。ここでロシアが直面する任務は、いくつかの要因によって決定された。第一に、イギリスが率いるヨーロッパ諸国の連合が1792年以来革命フランスに対して行ってきた戦争。第二に、ロシア政府はバルト海と黒海の港を通じた途切れない貿易を確保しようとした。第三に、エカチェリーナ2世がロシアの保護下に置いた東グルジアのカルトリ・カヘティ王国をトルコとイランから守る必要があった。

パーヴェル1世は、イギリスが率いる第二次反フランス連合にロシアを参加させた。しかし、イギリスが「同盟国として行動していない」と判断したため、イギリスとの関係は断絶された。正式にはフランスとの戦争状態が続いていたが、パーヴェル1世はドン・コサックをインドに派遣し、「イギリスを混乱させる」作戦を実行した。これに対し、ネルソン中将の指揮下にあるイギリス艦隊がバルト海に向かった。

権力を握ったアレクサンドル1世は、コサックに作戦からの撤退を命じた。イギリスとの関係は回復した。1801年9月28日、ロシアとフランスの間でパリ講和条約が締結された。

トランスコーカサスでは重要な変化が起こった。ロシアの支援にもかかわらず、トルコ人とイラン人はカルトリ・カヘティ王国への攻撃を続けた。最終的に平和を確立するため、パーヴェル1世は1801年1月にカルトリ・カヘティをロシア帝国に組み入れるという宣言書を出した。アレクサンドル1世はそれをジョージアの州と宣言した。地元の貴族はロシア貴族の特権を得たが、これは他のジョージア諸国の統治者にとって魅力的であった。1803年、ジョージア西部のメグレリア公国は自発的にロシアに加わった。



1804-1813年の戦争の結果、ロシアの一部となった領土を地図上に示せ。それらの領土は現在どの国に属しているか？



1. アレクサンドル1世が直面した主な外交政策の課題をまとめよ。
2. イギリス海軍司令官 G. ネルソンについて何を知っているか？
3. アレクサンドル1世は治世の初めにどのような外交政策行動をとったか？
それは、どのような結果をもたらしたか？

2. 1804-1813年のロシア・イラン戦争。 グルジア州は東でギャンジャ汗国と接していた。ギャンジャ汗国はイランに貢物を納めていたアゼルバイジャンの汗国の一つだった。(アゼルバイジャンはトランスコーカサスの東部に位置し、住民の大部分はトルコ語を話していた。) ギャンジャ汗国はグルジア領土を頻繁に攻撃し、ロシアの報復を招いた。1804年1月、グルジア州総督P.D. ツィツィアノフ公は、汗国の首都である要塞都市ギャンジャを襲撃した。1804年4月、イメレティ王ソロモン2世はロシアへの従属を承認した。これらの行動により、イラン国王との元々困難な関係が極限まで悪化し、1804年6月にロシア・イラン戦争が始まった。戦争は9年間続いた。この間ずっと、ロシア軍は敵軍と数倍もの数で戦っていた。しかし、ロシアの軍事力と技術力の優位性により、戦争は勝利に終わった。1813年、グリスタン平和条約が締結された。イランは、グルジア領土の大半、アブハジア、ダゲスタン、北アゼルバイジャンの汗国をロシアに編入することを承認した。



1804年1月3日のガンジャ要塞の襲撃。画家 A. シャルルマーニュ



- 1804-1813年にかけてのロシア・イラン戦争の2つの理由と2つの結果をまとめよ。

3. 1805年のフランスとの戦争。 「三皇帝の戦い」。1804年3月、廃位されたフランスブルボン王朝の一員であるアンギャン公爵が、ナポレオン・ボナパルトの手先によってドイツで捕らえられた。ボナパルトは、アンギャン公爵が陰謀を企てていると非難した。アンギャン公爵は有罪判決を受け、処刑された。この残忍な報復は、ヨーロッパで憤慨の嵐を引き起こした。1804年12月、ナポレオン(以前は第一執政官と呼ばれていた)は自ら皇帝を宣言した。彼の野心はイギリスとロシアを苛立たせ、オーストリアとプロイセンを怖がらせた。1805年の夏までに、イギリス、オーストリア、ロシア、ナポリ王国、スウェーデンからなる第三次反フランス対仏大同盟が結成された。

行動の連携が欠如していたため、同盟軍は最初から困難な状況に陥っていた。マック將軍率いるオーストリア軍はロシア軍と合流する時間がなかったため、1805年9月にウルム近郊で降伏した。M.I. クトゥーゾフ指揮下のロシア軍は、攻撃を避けるために撤退しなければならなかった。P.I. バグラチオン將軍指揮下の後衛は、勇敢な奇跡を見せた。

クトゥーゾフがオーストリア軍の残党に加わったとき、次に何をすべきかという問題が浮上した。ロシア皇帝とオーストリア皇帝（アレクサンドル1世とフランツ1世）は復讐に飢えていた。クトゥーゾフは全面戦争に反対し、ロシアからの援軍とイタリアからのオーストリア軍の到着を待つことを提案した。しかし皇帝たちは自らの手で戦うことを主張した。1805年11月20日（12月2日）、「三皇帝の戦い」として知られる有名なアウステルリッツの戦いが起こった。ナポレオン自身がフランス軍を指揮した。彼はオーストリア・ロシア軍が大きく展開しているのを見て、彼らの陣地の中心に強力な打撃を与えた。同盟軍の戦線は破られ、彼らは制御を失い、敗北したが、P.I. バグラチオン指揮下のロシア軍は必死に戦い、最後まで持ちこたえた。アレクサンドル1世とフランツ1世は戦場から逃げ、クトゥーゾフは捕虜になりかけた。



1. 1805-1807年にかけてロシアとフランスの間で戦争が起こった2つの理由を述べよ。
2. アウステルリッツの戦いが「三皇帝の戦い」として歴史に残るのはなぜか？

4. 1806-1807年のフランスとの戦争。ティルジットの和約。 フランツ1世はプレスブルク市でナポレオンと和平協定を結んだが、アレクサンドル1世は戦争を継続した。1806年、ロシア、イギリス、プロイセン、ザクセン、スウェーデンを含む新たな第4次反フランス連合が結成された。ナポレオンは敵が力を合わせるのを待たなかった。1806年10月14日、ナポレオンはイエナ近郊でプロイセン軍を破り、ダヴー元帥は同日アウエルシュテットで別のプロイセン軍を破った。1806年10月27日、ナポレオンは厳粛にベルリンに入城した。そして同年11月21日、ナポレオンは大陸封鎖に関する法令に署名し、同盟国がイギリスと一切の貿易を行うことを禁じた。1806年12月、フランスの外交官はトルコのスルタン、セリム3世にロシアへの宣戦布告を迫った。

ロシアはナポレオンと二人きりになり、さらにオスマン帝国とイランとの二つの戦争にも対処しなければならなかった。クトゥーゾフに失望したアレクサンドル1世は、L.L. ベニヒセンを総司令官に任命した。1807年1月26日-27日（2月7日-8日）、プロイシッシュ・アイラウ近郊でロシア軍とフランス軍の間で血なまぐさい戦いが起こった。どちらの側も勝利を収めることはできず、戦闘では双方で約5万人が死亡した。同年6月2日（14日）、ナポレオンはフリートラントの戦いでベニヒセンに大敗を喫した。すべての砲兵を敵の手に委ね、ベニヒセンはネマン川の向こうに撤退した。ナポレオンはロシア帝国の国境に立っていたが、まだ国境を越える準備はできていなかった。



地図を使って、フリーランドの戦いの後にアレクサンドル1世がナポレオンと交渉しに行った理由を説明せよ。



ティルジットで会談するナポレオンと皇帝アレクサンドル1世。
画家: A.D. キフシェンコ

ロシアも戦争を続けることはできなかった。アレクサンドル1世はナポレオンと和平を結ぶことを決めた。1807年6月13日（25日）、ナポレオンの提案で、両者はネマン川の真ん中のいかだの上で一対一で会談し、2時間の交渉の末、和平を結ぶことに同意した。


その後、交渉はティルジット（現在のカーリーニングラード州ソビエツク）市で続けられた。1807年6月25日（7月7日）、交渉はティルジット条約の調印で終了した。和平条件によると、プロイセンはポーランド領土を含む領土の3分の2を失った。そこから、ロシア国境のすぐそばにナポレオンの保護領（後援）の下でワルシャワ公国が形成された。ロシアはイギリスの大陸封鎖に加わる義務があった。ナポレオンはスウェーデン（イギリスの積極的な同盟国であり続けた）に関してアレクサンドルの自由な裁量を認めた。




1. オスマン帝国がロシアとの戦争に参戦した根拠は何か？
2. ティルジットの和約の締結がロシアにもたらしたプラス面とマイナス面をそれぞれ2つ挙げよ。

5. 1808-1809年のロシア・スウェーデン戦争。フィンランド併合。歴史上最後のロシア・スウェーデン戦争は1808年2月に始まり、ロシアの多大な努力を必要とした。戦争は、1809年3月にM.B.バルクライ・ド・トーリ指揮下の軍団がボスニア湾の氷を越えてストックホルム方面に果敢に攻撃したことで終結した。1809年9月、フレドリクハム条約が調印され、フィンランドは自治領としてロシアの一部となった（それ以前は数世紀にわたりスウェーデンに属していた）。

1808年、アレクサンダーとナポレオンがエアフルト市で再び会談した。スペインとポルトガルで戦争を始めたフランス皇帝は、イギリスとオーストリアに対抗するためにロシアに支援を求めたが、言葉だけで受けただけだった。

 1808年から1809年にかけてのスウェーデンとの戦争はロシアにとってどのような意味を持っていたか？2、3の点を述べること。


6. オスマン帝国との戦争の終結。 フランスとスウェーデンとの平和条約の締結により、オスマン帝国を倒すための軍隊を解放することが可能になった。M.I. クトゥーゾフがロシア軍の司令官に任命された。1811年6月、彼はルシュク要塞付近でトルコ軍に深刻な敗北を与え、11月にはついにスロボジア付近で、そして再びルシュク付近で敵を敗走させた。1812年5月、ブカレスト平和条約が調印され、それによってロシアはベッサラビアと黒海沿岸の一部、およびスフミ市（現在のアブハジアの首都）を獲得した。オスマン帝国は、ジョージアの領土がロシアに併合されたことを承認した。

 1806-1812年の露土戦争と1804-1813年のロシア・イラン戦争の間には関連があるか？2～3の論拠で自分の意見を正当化すること。

質問とタスク

1. アレクサンドル1世の治世の初めにロシアはどのような外交政策上の課題に直面していたか？
2. 1801年、アレクサンドル1世はロシア駐在のフランス大使J.デュロックにこう述べた。「私は自分のために何も望んでいない。ヨーロッパ全土に平和を確立したいだけである。」ロシア皇帝の意図が真実であることを裏付ける2～3の事実を挙げよ。
3. 1801-1813年にロシアが締結した一連の平和条約を思い起こそう。それらの間には関連があるか？自分の意見を正当化すること。これらの条約によると、どの領土がロシアの一部になったか？
4. アレクサンドル1世の外交政策は、どのように、そしてなぜ彼の国内政策に影響を与えたか？
5. 1809年3月16日、ボルゴ市でフィンランドのセイム(階級代表機関)を開会したアレクサンドル1世は次のように述べた。「私は、諸君らの憲法と基本法を守ると約束した。ここでの諸君らの集会は、私の約束の履行を証明するものである。」この点で、アレクサンドル1世の治世中のロシアの外交政策を、ナポレオンの外交政策と比較してどのように特徴づけることができるだろうか？

セクションの主な質問に対する答えをまとめること。

 19世紀初頭にロシアが直面していた外交政策の問題を解決する上で、アレクサンドル1世の行動はどの程度成功しただろうか？。

§ 4

1812年の祖国戦争



ロシアの農民とフランス兵の戦い。画家: I. F. トゥピレフ



ロシア軍はどのようにしてナポレオンの「大軍」を粉砕したのか？



「大軍」・祖国戦争・堡壘・フレッシュ



D.V. ダヴィドフ・M.I. プラトフ・K. プフエル・H.N. ラエフスキー・A.N. セスラヴィン・A.S. フィグナー

1812年3月19日 - カディス憲法の採択 (スペイン)

1812年6月 - 1812-1814年の英米戦争の始まり。

1812年7月22日 - アラピレスの戦いでフランス軍が敗北 (スペイン)

1812年6月12日 - 大軍がロシアに侵攻

1812年8月26日 - ボロジノの戦い

1812年9月初旬-10月初旬 - ナポレオンがモスクワを占領

1812年12月21日 - 「敵の完全な殲滅」による戦争の終結

1. 戦争への道。 1808年のエアフルト会談後、アレクサンドル1世とナポレオン1世は同盟者として別れたように見えた。しかし、これは外見上の印象に過ぎなかった。両国間の政治的、経済的矛盾は依然として残っており、さらに増大し続けた。大陸封鎖に不本意ながら参加したロシアは、その条件をすべて満たそうとはしなかった。

1810年、ロシアの港は中立旗を掲げた船舶に開放され、イギリスはすぐにこれを利用。同時に貿易戦争が始まった。フランスは輸入税を引き上げ、ロシアはそれに対抗して高級品の輸入を禁止した。

他にも不満があった。ナポレオンはアレクサンドル1世の姉妹であるエカチェリーナとアンナに2度プロポーズしたが、どちらも断られた。1810年12月、フランス軍はロマノフ王朝と密接な家族関係にあったドイツのオルデンブルク公国を占領した。さらに、アレクサンドル1世は、ロシアの外交官が盗んだ秘密文書から、ナポレオンがポーランド・リトアニア共和国を1772年の国境、つまり分割前の国境に復歸させようとしていることを知っていた。これらすべてが脅威とみなされた。ワルシャワ公国との国境に駐留するロシア軍の数は増加した。ナポレオンはポーランドに部隊を移し始めた。1811年の夏から、双方はすでに公然と戦争の準備を進めていた。ナポレオンは、彼自身が「大軍」と呼んだ部隊を、ワルシャワ公国に集中した。その兵士数は約44万人だった(援軍を考慮すると、合計で60万人以上がナポレオンのロシア遠征に参加した)。そのうちフランス人は半分だけで、残りはポーランド人、ドイツ人、プロイセン人、イタリア人、スペイン人、クロアチア人などだった。



ロシアとフランスの間で戦争が起こった理由をまとめよ。

2. 当事者の計画。 ナポレオンは先制攻撃を仕掛けるつもりだった。ロシアに侵攻し、国境付近でロシア軍を打ち破り、皇帝アレクサンドル1世に対して、自国に有利な和平条件を押し付けるつもりだった。



M.B.バルクライ・ド・トーリ。画家: G. ドー

アレクサンドルは、国に迫る脅威をよく認識していた。形式上は、敵と同等の規模の軍隊に対抗できるが、現実には彼の軍隊は極めて限られていた。イランとの戦争はコーカサスで続き、オスマン帝国との戦争が終わったばかりのバルカン半島には一部の軍隊が残っていた。ナポレオンに対抗するために召集できる正規軍はわずか22万人だった。彼らをどう使うのが最善かを決める必要があった。

プロイセンの将軍K. プフエルが考案した計画(1806年にロシア軍に採用)によると、西側国境のロシア軍は3つの軍に分かれていた。リトアニアに駐留する第1軍は、M.B.バルクライ・ド・トーリが指揮を執った。ナポレオンが侵攻すると、バークレイは西ドヴィナ川の左岸にあるドリッサの町の近くの要塞化された駐留地に撤退することになっていた。そこで第1軍は自衛し、敵軍を疲弊させなければならなかった。

ベラルーシに位置する第2軍はP.I. バグラチオンが指揮していた。プフエルの計画によると、彼はドリッサ駐留地への攻撃でフランス軍が行き詰まったときに、後方からフランス軍を攻撃することになっていた。

ウクライナに位置する第3軍はA.P. トルマソフが指揮していた。この軍はキエフへの道を封鎖した。アレクサンドル1世は第1軍に同行していた。



戦争の計画を立てる際、交戦国はどのような想定を立てたか?



P.I. バグラチオン。画家: G. ドー

3. ネマン川からスモレンスクまで。1812年6月12日、「大軍」の主力部隊は国境のネマン川を渡り始めた。圧倒的な戦力優位に立っていたナポレオンは、第1軍と第2軍を別々に包囲して壊滅させ、合流させないようにしようと考えていた。初日から、プフエルの計画を実行すればロシアは必然的に敗北することが明らかになった。アレクサンドルはバグラチオンに撤退して第1軍に合流するよう命じた。

間もなく、側近(A.A. アラクチェエフら)がアレクサンドルにメモを提出し、彼がこれ以上軍隊に留まるのは不便だと指摘した。皇帝自身もこれを理解した。7月初旬、彼はモスクワに向けて出発した。



1812年7月11日、サルタノフカ近郊でN. N. ラエフスキー將軍の兵士たちの偉業。
画家: N.S. サモキシユ

包囲を回避しようと、バルクライ・ド・トーリとバグラチオンは国土の奥深くへと撤退を開始した。ナポレオンは自ら第1軍を追跡し、バグラチオン軍の撃破を元帥たちに託した。しかし、ロシア軍の撤退は逃走とはまったく似ていなかった。敵と絶えず戦い、兵士から將軍まで全員が勇敢さの奇跡を見せた。例えば、モギリョフ近郊のサルタノフカ村付近の戦闘では、N.N.ラエフスキー中將が自らスモレンスク連隊の兵士を率いてダヴー元帥の陣地を攻撃し、ぶどう弾で胸を負傷したが、戦場を離れなかった。

「大軍」がロシアの奥深くに進軍するほど、食料、弾薬、武器、その他の装備を運ぶのが難しくなった。通信路を守るため、ナポレオンは占領した都市や村に強力な守備隊を残さなければならなかった。軍隊の数は急速に減少していた。皇帝は（ヨーロッパの戦争と同様に）征服した住民を犠牲にして兵士の補給をしようとした。しかし、食料を求めてロシアの村々を搜索する食料調達部隊は、ますます激しくなる抵抗に遭遇した。連隊から遅れをとった農民と兵士はパルチザン部隊に結集した。パルチザンはロシア軍司令部とほとんど接触せず、自らの責任で行動した。彼らは敵から武器を手に入れ、即興の手段で戦った。こうして、スモレンスク州では兵士のエルモライ・チェトヴェルタコフと農民のワシリサ・コジナによってパルチザン部隊が結成された。



なぜモスクワがフランス軍の攻勢の標的になったと思うか？ ナポレオンは別の方向を選んだ可能性があるか？

7月22日、第1軍と第2軍はスモレンスク近郊で合流した。バルクライ・ド・トーリは撤退を続けることを主張した。結局、合流したとはいえ、ロシア軍は「大軍」に比べて明らかに数で劣っていた。しかし、P.I. バグラチオンと他の将軍は断固たる行動を要求した。バークレイは屈した。8月4日、ナポレオンは主力をスモレンスクに引き上げ、攻撃を開始した。ロシア軍は2日間激しく防衛した。強力な砲撃により、至る所で火災が発生した。8月6日の夕方、バルクライ・ド・トーリは焼け落ちた都市を放棄するよう命じた。敵を倒して戦争を終わらせたいと考えていたナポレオンは、スモレンスクの煙る廃墟しか手に入らなかった。ロシア軍は順番に東へさらに撤退し、「大軍」はそれに従わなければならなかった。



1. パルチザンとは誰かを説明せよ。2、3のポイントを述べること。
2. スモレンスクの戦いの終わりに、ナポレオンとロシア軍のどちらの戦争計画がより実行に近かったと思うか？ 2つの論拠で自分の意見を正当化すること。

4. ボロジノの戦い。その間、軍と社会ではバルクライ・ド・トーリに対する不満が高まっていた。彼はほとんど裏切り者とみなされていた。確かに彼は軍を敗北から救ったが、その代償は大きかった！広大な領土が敵に明け渡され、撤退の終わりは見えなかった。しかも、ロシア社会のあらゆる階層が愛国心にとらわれ、ロシア軍が勝利し始めるために最後の力を捧げる覚悟ができていたにもかかわらずだ。商人、町民、農民は軍に金銭、衣服、食料を寄付し、人民兵に志願した。地主は自費で軍の分遣隊を編成し、女性たちは包帯を準備し、負傷者の世話をした。戦争は最初から国家戦争となった。愛国戦争だ。

8月5日、アレクサンドル1世はサンクトペテルブルクで最高司令官を選ぶ特別委員会を招集した。委員会は、数か月前にトルコ軍を破ったM.I. クトゥーゾフを推薦した。アウステルリッツ以来クトゥーゾフを好んでいなかった皇帝は、少しためらった後、この決定を承認した。「国民は彼の任命を望んでいた。私が任命したのだ」と皇帝は言った。「私としては、手を引かない」。それどころか、クトゥーゾフを任命する勅令は、社会と軍で熱狂的に受け入れられた。「クトゥーゾフはフランス軍を倒しに来た！」兵士たちは、8月17日に部隊に到着した67歳の指揮官を歓迎した。誰もが決戦を予想し、すぐに戦いが始まった。

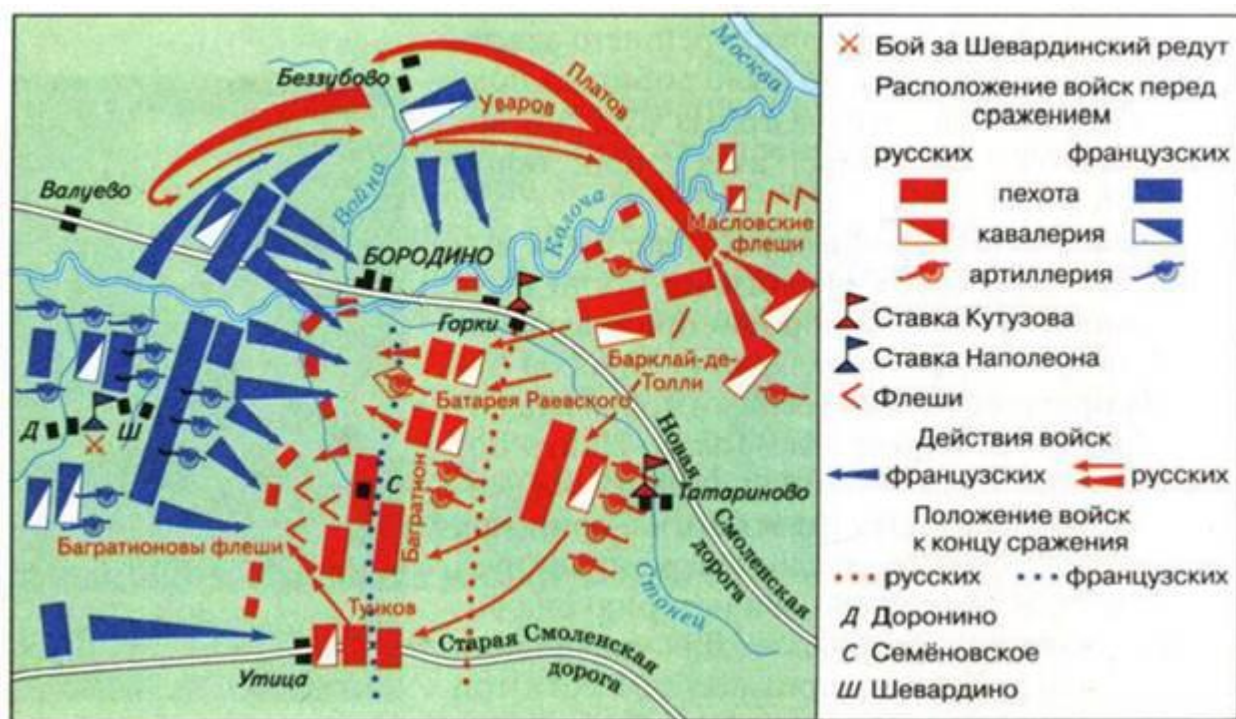
8月22日、ロシア軍はモスクワ州モジャイスク地区のボロジノ村近くの広大な野原に陣取った。ここで、クトゥーゾフはナポレオンを阻止することを決意した。この時点で、両陣営の勢力はほぼ互角だった。ナポレオンは587門の大砲を持つ約135,000人の兵士と将校を擁し、クトゥーゾフは640門の大砲を持つ約130,000人の兵士と将校を擁していた。クトゥーゾフはフランス軍にできるだけ多くの損害を与えるために自衛を計画していた。戦争をできるだけ早く終わらせるために、ナポレオンはロシア軍を完全に打ち負かす必要があった。そのため、彼は攻撃的な行動方針を選択した。

ボロジノ平原の陣地は偶然に選ばれたわけではない。その側面は、右側はコロチャ川、左側は森林地帯にしっかりと覆われていたため、迂回できなかった。右翼では、ロシア軍はM.B. バルクライ・ド・トーリが指揮していた。陣地の中心はクルガン高原にあり、その上に砲兵隊が配置されていた。その防衛はN.N. ラエフスキー将軍の軍団に委ねられ、歴史上「ラエフスキー砲台」として名を残した。左翼を強化するため、クトゥーゾフは3つのフレッシュ（敵に対して鋭角に面した土塁）の建設を命じた（この指揮はP.I. バグラチオンに委ねられたため、バグラチオン砲台として知られるようになった）。ここ、シェヴァルディノ村の近くに、全方位防衛を目的とした独立した要塞である堡壘が建設された。8月24日、一日中続いた激しい戦闘の末、フランス軍はこの堡壘を占領した。



M.I. クトゥーゾフ。
画家: R.M. ヴォルコフ

ボロジノの戦いは、8月26日の夜明け、ロシア軍の陣地への砲撃で始まった。その後、フランス軍は攻勢に出た。主な出来事はフレッシュで起こった。前進するフランス軍の縦隊は、ロシア軍の砲台の猛烈な砲火にさらされ、大きな損害を被った。フランス軍の攻撃は7回とも撃退された。ナポレオンは軍の3分の2とほぼすべての砲兵（400門の大砲を備えた8万6千人）をバグラチオンのフレッシュに集中させた。その後、フランス軍はようやくフレッシュを奪取することができた。フレッシュを守備していたバグラチオンは致命傷を負った。皇帝は成功を重ね、攻撃の矛先をクルガン高地のラエフスキーの砲台に移した。この決定的な瞬間、クトゥーゾフはナポレオンの左翼を迂回するために、F.P. ウヴァーロフ將軍の騎兵隊とアタマンM.I. プラトフのコサック連隊を派遣した。この攻撃を撃退したナポレオンは、クルガン高地への攻撃を2時間遅らせた。フランス軍は、3回目の攻撃で（多大な困難と多大な損失を被りながらも）午後4時によりやく高地を占領した。しかし、皇帝の予想に反して、ロシア軍の陣地は突破されなかった。ナポレオンはどの方向でも決定的な勝利を収めることができなかった。クトゥーゾフは撤退したが、敗北はしなかった。夕方6時、ナポレオンは軍を元の位置に撤退させた。双方で約10万人が死亡したこの戦いの結果は未定のままだった。翌日、ナポレオンは攻撃を続ける準備を整えたが、ロシア軍は早朝にモスクワに向けて出発した。



ボロジノの戦いはナポレオンの計画どおりに展開したと思うか？ それともクトゥーゾフの計画どおりに展開したと思うか？ 2つの論拠で自分の意見を正当化すること。



ボロジノの戦い(断片)。画家: P. フォン ヘス



後にフランス皇帝はボロジノの戦いについて回想録にこう記している。「フランス軍は勝利に値することを証明し、ロシア軍は無敵の資格を得た」。このナポレオンの意見に賛成か？ 2、3の論拠で自分の見解を正当化すること。

5. ナポレオンの「モスクワの座り込み」。モスクワに撤退するクトゥーゾフは新たな予備軍を期待していたが、予備軍は到着しなかった。9月1日、モスクワ近郊のフィリ村で軍事会議が開かれた。長い議論の末、クトゥーゾフの主張により、戦わずにモスクワを離れ、旧リャザン街道に沿って撤退することが決定された。モスクワ市民の大半は、そこを通過する軍隊とともに街を去った。翌日、ナポレオンはポクロンナヤ丘で街の鍵を持った市民の代表団を待ったが、誰も現れなかった。「大軍」は無人のモスクワに入った。9月2日の夕方、旧首都のさまざまな場所で火災が発生し、その後1週間以上続いた。この間、市の3分の2が焼け落ちた。モスクワに火をつけたのが誰なのかという議論は今日まで続いている。同時代の人々(および歴史家)の中には、フランス人自身が犯人であると確信している人もいれば、モスクワの司令官であるF.V. ロストプチン伯爵の扇動を受けたロシアの愛国者たちがやったと考える人もいる。いずれにせよ、「大軍」はモスクワで暖かい住居、食料、または飼料を確保できなかった。



住民に見捨てられたモスクワの略奪。画家: D.N. カルドフスキー



モスクワにいる間、「大軍」は本格的な戦闘作戦には参加せず、すぐに戦闘能力を失った。どうしてこのようなことが起こったのだろうか？

一方、クトゥーゾフはロシア軍を旧リャザン街道から遠ざけ、モスクワを南から迂回してカールガ州のタルチノ村に撤退した。ここに要塞化されたキャンプが設けられ、ロシア軍は戦争を継続するために力を蓄えた。（「タルチンスキー作戦」は予想外に実行されたため、ロシア軍を追跡していたフランス騎兵はしばらくの間ロシア軍を見失った。）

ナポレオンはモスクワで1か月以上過ごした。最初はアレクサンドル1世が和平を求めるのを待ち、その後、自ら交渉開始の提案を送り始めた。しかしロシア皇帝は応答しなかった。一方、「大軍」の兵士たちは食糧不足を感じ始めた。市内の食糧は燃え、モスクワ郊外ではパルチザン部隊が食料調達者を迎え撃った。ゲラシム・クリンの農民部隊はフランス軍に対する勝利で特に有名になった。飢餓のため、モスクワでは馬が大量に死に始めた。軍の規律は崩れていた。

10月6日、ロシア軍はタルチノ付近にいたフランス軍の前衛部隊を攻撃し、撤退を余儀なくした。翌日、ナポレオンは軍にモスクワからカールガへの撤退を命じた。彼は、戦争でまだ荒廃していない南部の州で食料を見つけられることを期待していた。ロシア軍は敵と対峙するために進軍した。10月12日、マロヤロスラヴェツ近郊で激しい戦闘が起こった。炎に包まれたこの都市は、8回も支配者が変わった。



ナポレオンの軍隊はなぜモスクワから他のルートではなく旧スモレンスク街道に沿って撤退したのだろうか？2つの説明を述べること。

夕方までにフランス軍はこれを占領できたが、それ以上進軍することはできなかった。ナポレオンは軍を旧スモレンスク街道に向かわせた。撤退は戦争で荒廃した州を通り、そこでは馬の飼料や兵士の食料を見つけることは不可能だった。そして、この道で「大軍」は破滅した。

興味深い詳細。モスクワを去る際、ナポレオンはクレムリンの破壊を命じた。アルセナルの建物、クレムリンの壁の一部、ニコリスカヤ塔の一部が爆破された。計画は完全には実行されなかった。くすぶっていた導火線の一部は雨で消され、他の導火線は用心深いモスクワ市民と間に合って到着したコサックによって消された。



ナポレオンがモスクワのクレムリンを破壊したかった理由を2つ挙げよ。



1. M.I. クトゥーゾフが仲間にモスクワを離れるよう説得した2つまたは3つの論拠を挙げよ。
2. 軍事作戦の過程における「タルタ作戦」の重要性を説明せよ。
3. タルチノとマロヤロスラヴェツの戦いは戦争の過程においてどのような重要性を持ったか？2つまたは3つのポイントを挙げること。



M.I. プラトフ。画家: G. ドー

6. 勝利。1812年の冬は早く始まった。10月後半には、初雪が降り、霜が降り始めた。飢え、寒さ、M.I. プラトフのコサック(退却する「大軍」の追撃を組織する任務を負っていた)とパルチザンの攻撃により、かつては恐るべき軍は完全に混乱した。戦争のこの段階で特に目立ったのは、コサックと職業将校の指揮下にある兵士で構成された軍のパルチザン部隊だった。最も有名なのは、デニス・ダヴィドフ、アレクサンドル・セスラヴィン、アレクサンドル・フィグナーだが、飛行部隊の指揮官は彼らだけではなかった。

ナポレオンの兵士の士気は日を追うごとに低下していった。すぐに彼らの退却は無秩序な逃亡に変わった。11月14日から16日にかけて、フランス軍は戦いでベレジナ川を渡った。3日間で、ナポレオンは2万人以上の兵士を殺され、負傷し、捕虜になった。彼自身は奇跡的に捕獲を逃れた。



ベレジナ川の渡河。画家: F. ミルバッハ ラインフェルト



「これが本当のベレジナ川だ！」という表現は、今でもフランス語で広く使われている。この表現はどのような生活状況を表すために使われていると思うか？

ベレジナの戦いの後、「大軍」から残ったのはわずか3~4万人だった。1812年11月23日、フランス皇帝は軍の残党を放棄してパリに向かった。12月21日、クトゥーゾフは軍への命令で「戦争は敵の完全な殲滅で終わった」と宣言した。12月25日、アレクサンドル1世は宣言文を発し、その中でロシアの戦争勝利について次のように説明した。「軍隊、貴族、貴族階級、聖職者、商人、国民、一言で言えば、すべての国家階級と国家が、財産や命を惜しまず、ひとつの魂、勇敢で敬虔な魂を形成した...」



D.V. ダヴィドフ。
画家: G. ドー

? 1812年の祖国戦争でロシア軍が勝利した理由を3つまたは4つ述べよ。

質問とタスク

1. ナポレオンが1811年に「5年以内に私は世界の覇者になる。残っているのはロシアだけだが、私はそれを打ち負かす」と宣言した根拠は何か？ 2つまたは3つのポイントを述べること。
2. 「1812年の祖国戦争で最も重要な出来事」の年表を自分で作成し、記入すること。この表の分析からどのような結論を引き出すことができるか？
3. 1812年の戦争前夜、アレクサンドル1世はナポレオンの特使ナルボンヌ伯爵との会話の中で、ロシアとの戦争の結末を予言した。「私は...ナポレオン皇帝が偉大な指揮官であることを知っているが、私の側では...空間と時間がある。あなた方に敵対するこのすべての土地で、私が退却しないような遠い隅はない...恥ずべき和平を締結することに同意する前に守らないような隅はない。私は戦争を始めないが、少なくとも1人の敵兵がロシアに残っている限り、武器を捨てない。」アレクサンドル1世の予言は実現したか？ 3つの議論で自分の意見を正当化すること。
4. 1812年の戦争が祖国戦争として特徴付けられるのはなぜか？ 3つの説明を立てること。
5. 活動の開始時に、デニス・ダヴィドフのパルチザン分遣隊は待ち伏せされ、小さな戦闘に耐えることを余儀なくされた。その後、ダヴィドフはひげを生やし、農民の服に着替えた。待ち伏せを組織したのは誰か？ 誰と戦ったのか？ そしてなぜデニス・ダヴィドフは外見を変え、服を着替えなければならなかったのか？

セクションの主な質問に対する答えをまとめること。



ロシア軍はどのようにしてナポレオンの「大軍」を壊滅させたのか？

§ 5

ナポレオンの敗北。ウィーン会議と神聖同盟



皇帝アレクサンドル1世、または平和。画家:L.L. ボイリー



1813-1814年のロシア軍の海外遠征は、ロシアの国際的立場をどのように変えたか？



ウィーン会議・神聖同盟



P.X. ヴィトゲンシュタイン・K. F. シュヴァルツェンベルク



1813年12月 - スペインからのフランス軍の追放

1815年6月18日 - ワーテルローの戦い

1816-1826年 - アメリカにおけるスペイン植民地の独立戦争

1813-1814年 - ロシア軍の対外遠征

1813年10月4-7(16-19)日 - ライプツィヒ近郊での諸国民の戦い

1820-1821年 - ナポリ革命
1820-1823年 - スペインとポルトガルの革命
1821-1830年 - ギリシャ独立戦争

1814年3月19(31)日 - アレクサンドル1世率いる反フランス連合軍のパリ入城
1814年5月18(30)日 - パリ条約
1814年9月-1815年6月 - ウィーン会議
1815年9月14(26)日 - 神聖同盟の締結

1. ロシア軍の対外遠征。 ネマン川を越えて「大軍」の残党が撤退した後、1812年の祖国戦争は終結したが、ナポレオンとの戦争はまだ終わっていなかった。ロシアでの悲惨な敗北にもかかわらず、ナポレオンはまだ手強い敵であり続けた。ヨーロッパの大部分は依然として彼の支配下にあった。このことに気づいたクトゥーゾフは、ロシアを越えて撤退するフランス軍を追撃することを急がなかったが、アレクサンドル1世は強く決意していた。1812年12月中旬、アレクサンドル1世はナポレオンを完全に打ち負かすためにあらゆる手段を講じるという固い決意をもって軍に着任した。そして実際、間もなく始まったヨーロッパ戦争における彼の役割は、1812年の戦争におけるクトゥーゾフの役割と同じくらい大きかった。ロシア皇帝がその瞬間に敵を最終的に打ち負かすという揺るぎない願望を表明していなかったら、ヨーロッパの君主たちは長い間そうしようとはしなかっただろう。

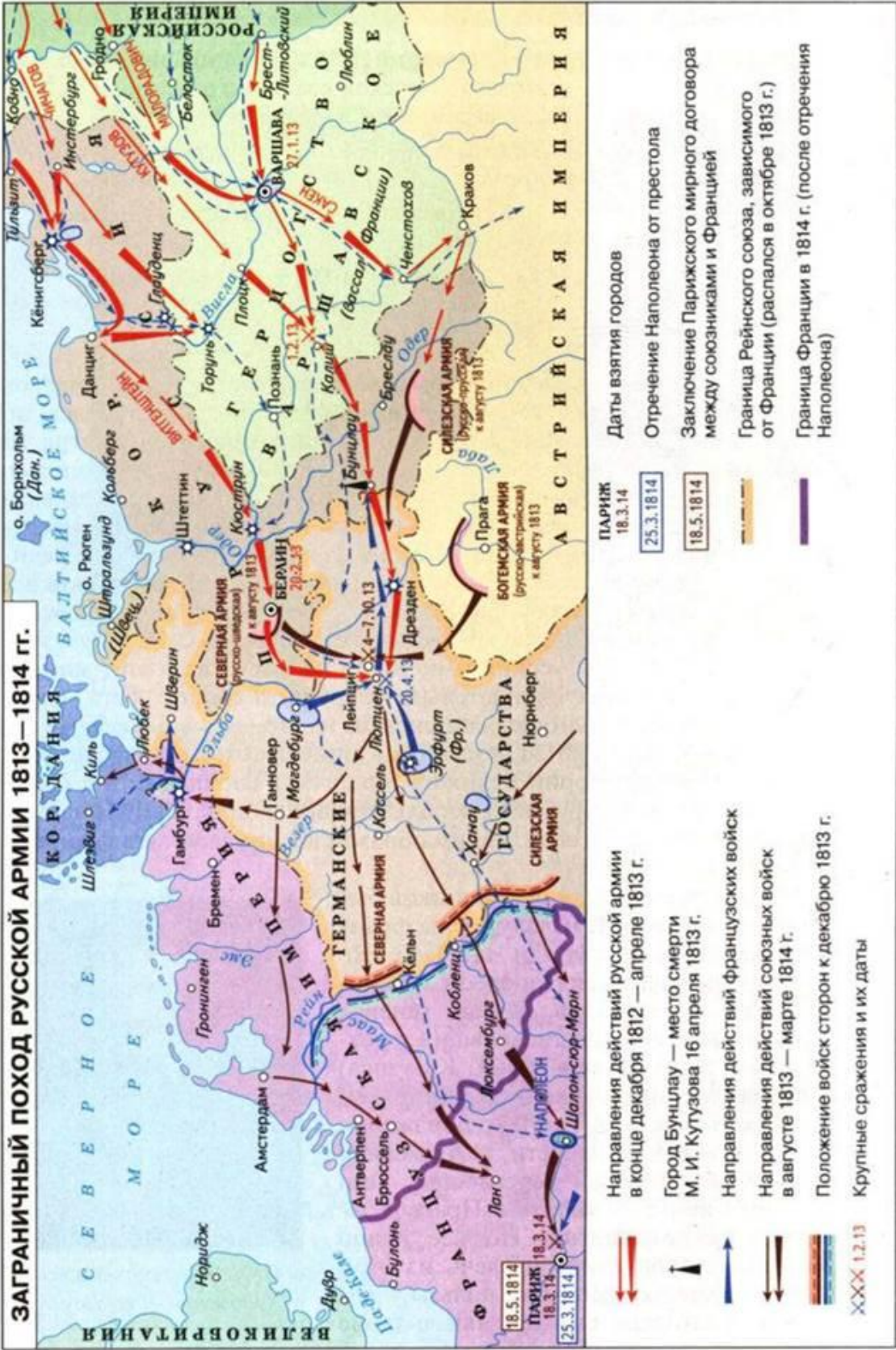
1813年1月から2月にかけて、ロシア軍はワルシャワ大公国とプロイセン大公国の領土のほとんどからフランス軍を追い出した。2月末、プロイセン王フリードリヒ・ヴィルヘルム3世はカリシュでロシアとの同盟を締結した。こうして、第6次反フランス連合が誕生した。

当初、同盟軍の行動は非常に成功した。春先までに、フランス元帥はオーデル川を越えて撤退した。しかし、その後ナポレオンが前線に戻り、状況は劇的に変化した。5月、P.X. ヴィトゲンシュタイン将軍(M.I. クトゥーゾフの死後、同盟軍を率いた)は、まずリュッツェンで、次にバウツェンで敗北した。同盟軍は3度目の敗北に耐えられず、アレクサンドルは和平交渉に同意した。和平交渉は6月から8月にかけてブラハで行われたが、成果なく終了した。

しかし、ロシア皇帝は、この平和な休息からナポレオンよりも多くの利益を得ることに成功した。彼の努力のおかげで、スウェーデンとイギリスは6月に第6次反フランス大同盟に加わり、オーストリアも8月にそれに続いた。アレクサンドル1世の提案により、総指揮権はオーストリア元帥K. F. シュヴァルツェンベルク公に委ねられた。今や連合軍はフランス軍を大きく上回っていた。しかし、8月にナポレオンはドレスデンの戦いで勝利した。この都市から撤退した連合軍は、ボヘミア山脈の罅に陥りそうになった。最終的な敗北を免れたのは、A.I. オステルマン＝トルストイ将軍の指揮するロシア親衛隊で、クルム近郊でフランス軍の進撃を食い止めた。



P.X. ヴィトゲンシュタイン。
 画家: G. ドー



9月には活発な軍事行動はなく、10月中旬にすべての軍がライプツィヒ近郊で会合した。1813年10月4日～7日（16日～19日）にこの都市の近郊で、一連のナポレオン戦争（および20世紀初頭までの世界史全体）で最大の戦い、別名諸国民の戦いが起こった。双方で50万人以上が参加した。ロシア軍はM.B.バークレイ・ド・トリーが指揮し、同盟軍の主力攻撃部隊であった。戦いは頑強で、その結末はすぐには決まらなかった。しかし、第6次反フランス大同盟の軍の数は増援の到着により絶えず増加していたが、ナポレオンは利用可能な戦力だけに頼らざるを得なかった。彼は攻撃から防御に切り替えた。1813年10月6日、戦闘の最も緊迫した瞬間、ドイツ軍（ザクセン人、バーデン人、ヴュルテンベルク人）がナポレオン軍の戦列を離れ、反フランス連合軍側についた。皇帝は大きな損失を被り撤退を余儀なくされた。1813年末までに、同盟軍はドイツとオランダからフランス軍を排除した。

この勝利は連合軍を強化するどころか、崩壊寸前だった。オーストリアとプロイセンの代表は和平交渉を主張した。しかしアレクサンドル1世は、ナポレオンが統治する限りフランスとの和平は不可能だと何度も繰り返した。遅かれ早かれ、ナポレオンが和平を破棄することは確実だった。イギリス外務大臣ロバート・カスルレーも和平に傾き、ロシア皇帝に圧力をかけようとしたが、アレクサンドルは屈しなかった。「閣下、これは和平ではない。一時的に武器を放棄するだけの休戦協定である」と彼は答えた。「私は閣下の助けに駆けつけられない。400リーグ（約2,222 km）先まで軍隊を率いて進まなければならない。ナポレオンが王位に就いている間は和平はしない」

アレクサンドルは自らの主張を貫き、1814年1月に戦争はフランス領土に移った。同盟軍はナポレオンとゲリラ戦の可能性を恐れて慎重にフランスに入った。フランス皇帝は敵軍に何度か敗北を喫したが、敵軍は彼より何倍も優勢だった。しかし、フランスで「人民戦争」の炎は燃え上がらなかった。フランス人は果てしない戦いに疲れ、外国の侵略を無関心に受け止めていた。



ロシア軍が参加した最も重要な戦いの場所を地図に示せ。なぜ重要な戦いと見なされているのだろうか？



1814年3月31日の連合軍のパリ入城。無名の画家による彩色版画。19世紀第1四半期



アレクサンドル1世のパリ入城とナポレオンのモスクワ入城を比較する。この比較からどのような結論を導き出せるか？

3月末、連合軍はパリに接近した。フランスの首都への接近路での激しい戦闘（ロシア軍が主役を演じた）は3月18日（30日）終日続いたが、市街戦には至らなかった。翌日、フランス軍守備隊は降伏した。1814年3月19日（31日）、アレクサンドル1世はフリードリヒ・ヴィルヘルム王とシュヴァルツェンベルク公を伴い、連合軍の先頭に立って灰色の馬エクリプス（エアフルトのナポレオンから贈られたもの）に乗ってパリに入城した。勝利者たちはパリ市民の群衆に迎えられた。



1. ロシア国外でナポレオンを追跡する必要があった理由を2つ挙げよ。
2. 反フランス連合軍が拡大した理由を2つか3つ挙げよ。
3. ライプツィヒの戦いにおけるザクセン人、バーデン人、ヴェルテンベルク人の行動をどのように説明できるか？
4. アレクサンドル1世と同盟国の戦争における立場をナポレオンと比較する。この比較からどのような結論を導き出せるか？

2. ウィーン会議とナポレオンの「百日天下」。1814年4月6日、ナポレオンは王位を退位し、地中海のエルバ島に亡命した。フランスではブルボン王朝が復活し、ルイ18世が王位に就いた。フランスの勝利者は会議のためにウィーンに集まり、そこで戦後の世界再編に関するすべての問題を決定することになった。

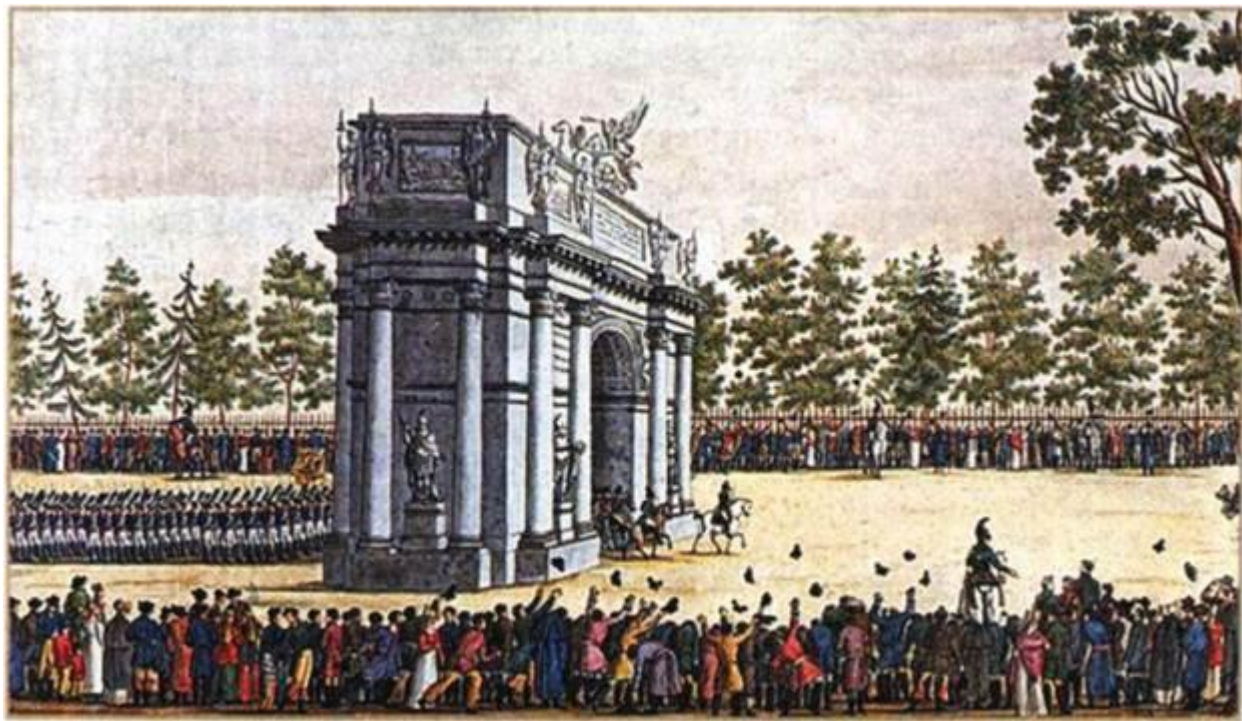
1814年5月18日(30日)、同盟国とフランスの間でパリ平和条約が締結された。条約の条項によると、フランスは1792年の国境に戻り、イギリスは戦略的に重要なマルタ島を保持し、オーストリアは北イタリアの領土(ロンバルディアとヴェネツィア)とバルカン半島の一部(イリュリア)を受け取った。ウィーン会議(1814年9月-1815年6月)では、ポーランド問題とザクセン問題をめぐって主な論争が起きた。

ポーランド問題は次のとおり。ロシアは、ナポレオンとの戦いで主に攻撃を受けたとして、ワルシャワ大公国の領土の譲渡を主張した。イギリスとオーストリアは、この譲渡に断固として反対した。プロイセンは躊躇したが(ロシアから背を向ければザクセンの領土を差し出すと提案されていた。これがザクセン問題だった)、結局はアレクサンドル1世に公然と反対する勇氣はなかった。

状況は緊迫し、イギリス、オーストリア、フランスの連合軍がロシアに対抗するために結成された。しかし、ウィーンに予期せぬニュースが届いた。1815年3月1日、ナポレオンがエルバ島を離れ、南フランスに上陸した。共通の脅威を前に、互いの相違は忘れ去られた。第7次反フランス連合が直ちに結成された。もちろんロシアはその主要メンバーの1つだったが、ナポレオンの復位はわずか100日しか続かなかったため、ロシア軍には軍事行動に参加する時間がなかった。6月13日、ナポレオンはワーテルローの戦いでイギリスとプロイセンに敗れ、降伏して遠く離れたセントヘレナ島に亡命した(1821年にここで死去)。

72

7



ナポレオン軍との戦争に勝利した後、ロシア軍がサンクトペテルブルクに帰還する様子。画家 A. I. イワノフ

ワテルローの戦い（6月9日）の数日前、同盟国はウィーン会議の最終文書に署名し、それによるとワルシャワ大公国のほぼ全領土（プロイセンに与えられたトルンとポズナンを除く）がロシアに譲渡された。オーストリアは東ガリツィアを獲得した。ドイツではドイツ連邦が結成され、オーストリアが主導的な役割を果たした。大陸全土で合法的な君主制が復活した。

ロシアにとってナポレオン戦争の時代が終結したことの主な結果は、その国際的な権威が前例のないほど高まったことであった。ロシアの参加なしには、ヨーロッパ生活の多かれ少なかれ重要な問題は1つも解決できなかった。



1. アレクサンドル1世はなぜポーランドの領土をロシアに組み入れようとしたのか？彼はポーランド問題を解決することができたのか？自分の意見を正当化すること。
2. ロシアの最近の同盟国はなぜロシアとの戦争を考えたが、敢えてこのステップを踏まなかったのか？

3. 神聖同盟と会議の時代。 ナポレオンに対する勝利の主役であるアレクサンドル1世は、ヨーロッパがナポレオン戦争の惨劇を繰り返さないようにする国際システムの創設に関心を持っていた。彼の主導で、**1815年9月14日（26日）**にパリで神聖同盟が結成された。同盟結成の宣言には、「...唯一の支配的ルールは...当局と国民の間で、互いに奉仕し、相互の善意と愛を示し、自分たちを単一のキリスト教民族の一員とみなすことである...」と記されていた。

ロシア、プロイセン、オーストリアは神聖同盟の積極的なメンバーになった。同盟の主な活動形態は会議であり、そこでは国際関係の緊急の問題が議論され、さまざまな国の内部政治紛争を解決するための措置が合意された。アレクサンドル1世はこれらの交渉に最も積極的に参加した。

第1回会議は**1818年**にプロイセンの都市アーヘンで開催された。この会議で最も重要な決定は、フランスからの連合軍の占領軍の撤退とフランスが神聖同盟に加盟することだった。**1820年**、スペイン、両シチリア王国、ポルトガルで革命が勃発した。革命はトロッパウ（オーストリア帝国）で開かれた第2回会議の主要議題となった。他国で違法な（革命的な）国家体制の変化が起こった場合、神聖同盟加盟国が（軍事的に）内政に介入する権利について決定が下された。**1821年**、ライバッハ（オーストリア帝国）で会議が開催され、参加者は両シチリア王フェルディナンド1世の支援にオーストリア軍を派遣することに合意した。会議は、同時期に始まったオスマン帝国からの独立を求めて戦っていたギリシャ人の反乱を敵対的に扱った。イギリスとフランスは、ロシアがコンスタンティノープルと黒海海峡の占領を狙っていたため、反乱軍を密かに支援していると疑った。しかし、アレクサンドル1世はギリシャ問題へのロシアの不干渉を宣言した。神聖同盟の最後の会議は**1822年**にヴェローナ(オーストリア帝国)で開催された。この会議には、オーストリア、イギリス、両シチリア王国、教皇領、プロイセン、ロシア、サルデーニャ王国、トスカーナ公国、フランスの代表が出席した。この会議では、フランスにスペイン革命を鎮圧するよう指示が出された。さらに会議を開催する計画があったが、アレクサンドル1世の死去により、この慣習は中止された。



1. 神聖同盟が結成された理由を2つまたは3つ挙げよ。
2. 英国と米国が神聖同盟の政策に反対した理由を2つ挙げよ。同時期に登場した米国の外交政策の教義がなぜ、どのように呼ばれたかを思い起こそう。その本質は何だったか？
3. 国際関係に対する「会議の時代」の2つのプラスの影響と2つのマイナスの影響を挙げよ。
4. 会議が開催された都市を地図で探してください。これらの都市が主にオーストリア帝国の領土内の都市だったのはなぜだと思うか？

質問とタスク

1. 1813年から1814年にかけてのロシア軍の対外作戦の理由を2つまたは3つ挙げよ。
2. 「1813年から1814年にかけてのロシア軍の対外作戦」の年表を作成する。この表の分析からどのような結論を導き出せるか？
3. 神聖同盟の締結を主導したのはなぜアレクサンドル1世だったのか？ 2つまたは3つの説明を挙げること。
4. 1813年から1825年にかけてのロシアの外交政策の最も重要な結果を、自分の意見で挙げよ。自分の意見の根拠を示すこと。
5. ロシア皇帝アレクサンドル1世は、歴史家S.M. ソロヴィヨフの言葉を借りれば、「王の中のアガメムノン」となった。追加資料を使用して、この比喻の意味を調べよ。
6. セクション「皇帝アレクサンドル1世、または平和」の冒頭にある絵の作者であるフランスの芸術家ルイ・レオポルド・ボワイーは、ピエール・ポール・プルドンが1801年に描いた、ナポレオン・ボナパルトを讃える「平和の寓話」という絵を模写した。ボワイーはナポレオンの姿をアレクサンドル1世のイメージに置き換えた。芸術家の行動をどのように説明できるか？ どの絵が、そしてなぜそれが歴史的現実をより反映しているか？

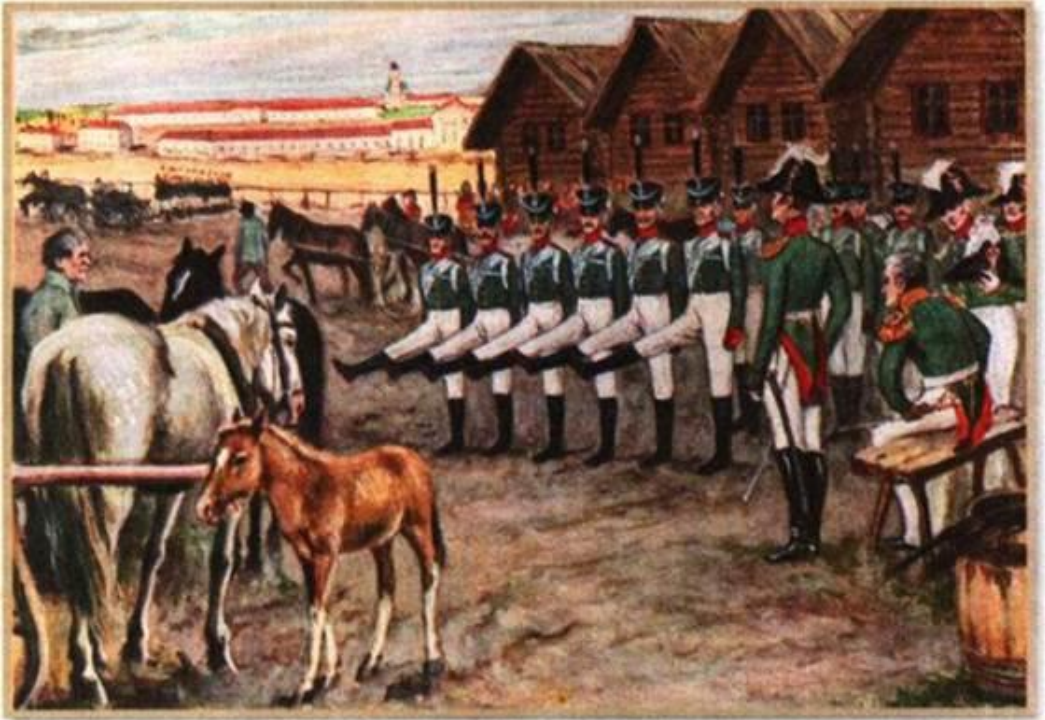
セクションの主な質問に対する答えをまとめること。



1813年から1814年にかけてのロシア軍の対外作戦は、ロシアの国際的立場をどのように変えたか？

§ 6

1815-1825年のロシア



屯田兵。画家: A. V. モロゾフ



ロシアの自由主義改革がアラクチェフ主義に取って代わられたのはなぜか？



アラクチェフシチナ・屯田兵・セイム・「ロシア帝国法定憲章」



A. A. アラクチェフ・コンスタンチン大公



1814年 - フランス憲法

1818-1819年 - ドイツ諸州 (バーデン、バイエルン、ヴュルテンベルク) での憲法導入

1820年 - 米国でのミズーリ妥協

1815年 - ポーランドへの憲法付与

1816-1819年 - エストニア、クールラント、リヴォニアでの農奴制廃止

1816年 - 軍事的和解の創設
1820年 - 「ロシア帝国憲章」

1. 自由主義改革の復活。 ナポレオンに対する勝利により、ロシアはヨーロッパ政治の第一位に上り詰めた。しかし、この勝利はわが国に多大な犠牲を強いた。西部諸州は壊滅した。モスクワ州だけでも、被害額は2億7千万ルーブルと推定された。それにもかかわらず、社会にはアレクサンドル1世が治世初期の精神ですぐに改革を再開するだろうという楽観主義と信念が支配していた。こうした感情は、海外から帰国したロシア人将校たちによって支えられ、ヨーロッパ諸国、特にフランスの慣習や構造について語られた。

1815年の秋、ロシア皇帝はロシアに戻り、彼の最初の行動は国民の感情に応えているように見えた。同年、アレクサンドル1世はワルシャワ大公国を基盤として自治権を持つポーランド王国を樹立し、憲法を制定した。ロシア皇帝はポーランドのツァーリ（王）と宣言され、憲法への忠誠の誓いを立てなければならなかった。立法権は二院制の議会である下院に属した。下院議員は貴族とその他の国民から別々に選出された。上院議員は皇帝（国王）によって任命された。行政権はロシア皇帝の副王が率いる5人の大臣からなる政府に属していた。ポーランド語は行政、裁判所、軍隊などの言語と宣言された。ポーランド軍の司令官はアレクサンドル1世の弟、コンスタンチン大公であった。憲法はポーランド王国における報道の自由を宣言した。公開裁判所が設立された（つまり、法廷審問は出席を希望するすべての人に公開された）。憲法によれば、裁判所の判決以外で自由を奪われる者はいなかった。



この硬貨はロシア帝国におけるポーランドの立場のどのような特徴を示しているか？



1. 社会が自由主義改革の再開を期待している理由を2つ挙げよ
2. アレクサンドル1世はなぜポーランドに対して自由主義的な改革を実施し始めたのか？ 2つの説明を述べること。



1825年にポーランド王国のために鑄造された10ズウォティ硬貨

2. 「ロシア帝国法定憲章」。1818年、ポーランド下院の開会式でアレクサンドル1世は次のように述べた。「私があなた方に授けたこの構造は、自由制度の規則に導かれており、私の関心の対象であり続け、神の助けにより、その有益な影響が私の管理下に置かれたすべての国々に及ぶことを私は願っている...」

1820年までに、アレクサンドル1世の指示により、旧秘密委員会の委員の1人である N.N. ノヴォシルツェフが「ロシア帝国法定憲章」を作成した。この憲法プロジェクトでは、独裁政治に対する制限は規定されていなかった。憲章の第12条には次のように記されている。「君主は、帝国におけるすべての民事、政治、立法、軍事の権威の唯一の源泉である。君主は、帝国全域の行政部門を統制する。行政、行政、司法の各権威は、君主のみによって確立される...」それでも、国家行政に対する公的な統制の役割は増大することになった。ロシアは10の副王領に分割され、各副王領には二院制のセイムが設けられることになっていた。下院議員の3分の1は地区貴族および市議会によって選出され、残りは皇帝によって任命されることになっていた。さらに、「帝国法定憲章」はロシアに二院制のセイムを導入することを規定していた。上院(元老院)の議員は皇帝によって任命され、下院(代議員会)の議員は副王領議会によって委任された候補者から皇帝によって選出された。ロシア帝国の臣民には、移動の自由、報道の自由、法と裁判所の前での平等、財産の不可侵、裁判所の命令による場合以外の自由の剥奪の禁止など、一定の権利が認められていた。しかし、アレクサンドルは「帝国法定憲章」を施行する勇気はなかった。それは公表さえされなかった。



1. ポーランド王国憲法と「ロシア帝国法定憲章」の間には関連があるか？ 2、3の論拠で自分の意見を正当化すること。
2. 「帝国法定憲章」はロシアの国家構造にどのような新しいものをもたらすことを意図していたか？

3. 農民問題を解決するための試み。1816年から1819年にかけて、アレクサンドル1世はバルト海沿岸の諸州で農奴制を廃止した。最初はエストニアで、次にクールラントとリヴォニアで廃止した。農民は個人の自由を獲得したが、土地は地主の手に残った。したがって、農民の地主への依存は残った。昨日の農奴は、以前の所有者の小作人になったり、農場労働者(雇われ労働者)として彼らのために働いたりした。1818年、皇帝は帝国全土で農奴制を廃止するためのプロジェクトを開発するよう、数人の高官に指示した。提出されたメモの中で、E.F. カンクリン将軍と A.A. アラクチェエフ将軍の計画が際立っていた。カンクリンの計画は60年計画で、農民の土地を段階的に各家庭の所有に移し、比例税を支払うことを条件としていた。アラクチェエフの計画の実施も数十年かかるとされていた。彼は、国の費用で農民を地主から段階的に買い上げることを提案し、この目的のために毎年500万ルーブルを割り当てた。解放された農民には土地(1人あたり2デシアティーヌ)が与えられることになった。しかし、問題は計画と議論の域を出ず、アレクサンドルは提案されたプロジェクトのいずれも実行しようとしなかった。

歴史上の人物。アレクセイ・アンドレーエヴィチ・アラクチェエフ伯爵（1769-1834）は、小規模な地主階級の出身。有能で有能な人物で、パーヴェル1世の治世中に輝かしい経歴を積んだ。当時から、彼の性格の主な特徴は、厳粛な厳格さ、同僚に対する冷淡さ、個人的な自制心、奉仕への熱意など、定まっていた。アレクサンドル1世のもとで、アラクチェエフは陸軍大臣と砲兵監察官になった。これらの役職に就いている間に、彼は軍の組織において、遅れていた多くの改革を実行した。特に砲兵に関しては多くの改革が行われた。**1812年**からは、皇帝陛下官邸の管理者となった。アラクチェエフは、他の多くの役人とは違い、横領には関与しない正直者だったが、残酷なまでに無礼だった。他人の意見は彼にとって何の意味も持たず、アラクチェエフにとって最も重要なことは君主の支持を得ることだった。パーヴェル1世の治世下でさえ、彼は紋章に「おべっかを使わず献身する」というモットーを入れることを許可された。



アラクチェエフがパーヴェル1世の側近だったという事実が、彼がアレクサンドル1世の側近になったことに影響を与えたと思うか？ 自分の意見を正当化すること。



農民1人の値段は大きく変動したが、アレクサンドル1世の治世の終わりに、一部の地主が農民に**250ルーブル**で自由を買うよう申し出たことが知られている。§ 1の表を参照して、**A.A. アラクチェエフ**の計画に従って農奴制を解消するのにどれくらいの時間が必要だったかを計算せよ。

4. 屯田兵。1812年の祖国戦争と対外遠征の後、ロシアは世界最大の軍隊を擁し、兵士は**100万人**を超えた。彼らの維持は国家予算にとって大きな負担だった。このような状況下で、皇帝は戦前の古い計画の**1つ**に戻ることを決定した。コサック連隊の例に倣って、軍隊の一部を西部国境沿いに定住させ、兵役に加えて農業作業も割り当てるといったものだった。このような体制により、軍隊の維持にかかる費用が大幅に削減されるはずだった。アレクサンドルは、**A.A. アラクチェエフ伯爵**に軍事居住地の組織と管理を任せた。彼の精力的な行動力と実践的な洞察力により、皇帝の計画はすぐに実現した。**1816年**には、ノヴゴロド州の農民郷全体が軍事居住地に転換された。正規軍の大隊もそこに駐留した。兵士は農業に従事させられ、農民は髭を剃られ、制服を与えられ、兵役を学ばされた。

興味深い詳細。10年の間に、森林と沼地の多いノヴゴロド州に、滑らかな幹線道路が交差し、刈り込まれた木々が並び、手入れの行き届いた耕作地が現れた。村民の家、司令部、学校、監視所、将校の家、新しい教会、練兵場の建物が一直線に(2~3マイル)建てられた。アラクチェエフは、細部にまで注意を払って、自ら建設を監督した。すべての建物は、芸術的な趣味さえも持ち込んで、徹底的に建てられた。しかし、これらすべては、軍の労働大隊の兵士と軍の村民自身の重労働の犠牲の上に達成された。彼らは、春から晩秋にかけて、森林を伐採し、通行不能なノヴゴロドの沼地に運河を掘り、道路を建設し、穴を掘り、木材を切り倒し、建築資材を持ち込み、建物を建てた。おいしくて満腹になる食事にもかかわらず(アラクチェエフはこれを注意深く監視していた)、多くの人々は厳しい生活に耐えられなかった。労働大隊の死亡率が10分の1だったことは、高いとは考えられていなかった。



屯田兵の設立に伴って、なぜ人的損失が大きかったのか？ 2つの理由を挙げること。

屯田では、農業だけでなく工芸も発達した。屯田兵に必要な制服のほとんどすべてが、屯田兵によって生産された。屯田兵はすべての税金や関税を免除された。彼らはほとんどが裕福な人々だった。冷酷だが倏約家だった所有者のアラクチェフは、貧困を容認せず、すべての屯田兵に耕作地、干し草畑、牛が提供されることを確認した。彼は命令により、高度な農法を導入した。屯田兵のニーズに合わせて、病院や学校がいたるところに設立された。7歳から子供たちは読み書きと計算を教えられ、18歳からは兵士になった。屯田兵とその家族の生活全体は、厳格なスケジュールの対象であり、違反すると厳しい罰が科せられた。入植者は朝の決まった時間に起き、ストーブに火をつけた。小屋の中のそれぞれの道具をどこに保管するかは厳しく規制されていた。女の子と男の子が結婚するとき、彼らは2列に並び、2つの帽子からくじを引き、誰が誰をもらうかを決めた。



ノヴゴロド州での屯田兵の反乱。1831年。



屯田兵はなぜ反乱を起こしたのでか？ 2つの説明を述べること。

屯田兵者たちは時折反乱を起こした。最も有名な反乱は1819年にハリコフ州のチュグエフ村で起こった。それにもかかわらず、屯田兵の数は増えていった。1825年までに、屯田兵には37万4千人の元国有農民とウクライナ・コサックが含まれ、これに13万1千人の正規軍人が加わった。



農民とコサックが屯田兵とみなされたのはなぜだと思うか？ 屯田兵が設立された理由を2つか3つ挙げることを。

5. 1820年の出来事。アラチェフシチナ。 1820年7月、ナポリの連隊の1つが蜂起し、両シチリア王国で革命が始まった。この問題はトロップハウ会議で神聖同盟のメンバーによって議論された。会議に向かう途中、アレクサンドル1世はワルシャワに立ち寄り、そこでポーランド王国の第2回国会が開かれた。ここで彼は、野党議員たちの行動にひどく動揺し、苛立ちを覚えた。彼らは、検閲の廃止や裁判所の改革など、憲法（その条項は時々違反されていた）を皇帝が遵守することを要求した。皇帝は憂鬱で失望した気持ちでセイムを去った。アレクサンドルにとってさらに大きな打撃となったのは、セミョーノフスキー近衛連隊の動乱だった。1820年10月、連隊の指揮官F. E. シュワルツ（アラクチェフの弟子）は、法で禁じられている規律違反の罪で、聖ゲオルギオス十字章受章者の兵士数名を鞭打ちにするよう命じた。セミョーノフ派はこのような不当行為に怒りをもって抗議し、指揮官の命令に従うことを拒否した。

アレクサンドルは、「革命の感染」がすでにロシアに浸透していると判断した。セミョーノフ派は厳しく処罰された。多くは鞭で打たれ、重労働に送られ、残りはシベリアの駐屯地に送られたり、遠くの軍連隊に配属された。連隊は解散され、新たに募集された。同時に、アレクサンドルは近衛軍団の指揮官I.V. ヴァシルチコフから、近衛軍の中に、憲法、選挙による議会、ロシアにおける農奴制の廃止を目標とする将校の秘密結社があることを知った。アレクサンドルは彼らを迫害しなかったが、あらゆる秘密結社の活動を禁止し、文民および軍の政府職員に、そのメンバーではないと誓うよう義務付けた。



A.A. アラクチェエフの紋章にはどんなモットーが書かれていたか？ それは何を意味していると思うか？



A.A. アラクチェエフの肖像。
画家不詳

皇帝は権力に重圧を感じ始め、次第に国政への関心を失い、それを A.A. アラクチェエフに押しつけた。1815年後半、アレクサンドルは彼を閣僚委員会の報告者に任命した。それ以降、閣僚はアラクチェエフに報告し、彼は結論を添えた短い文書でそれをアレクサンドルに渡した。彼の提案のほとんどすべては、皇帝に異議なく受け入れられた。この廷臣がロシアで最大の影響力を持っていた時代の国家権力体制は、「アラクチェエフシチナ」と呼ばれていた。



1. 屯田兵の創設は、アラクチェエフの台頭にどのような役割を果たしたか？
2. アラクチェエフ主義は具体的にどのように現れたか？2、3の事実を挙げる。自分の意見では、アラクチェエフ主義の真の創始者は誰で、なぜだったか？2、3の議論で自分の意見を正当化すること。

質問とタスク

1. バルト海沿岸諸州（エストニア、クールラント、リヴォニア）における農奴制の廃止、ポーランド議会の開設、セミョーノフスキー連隊の騒乱、ナポリ王国の革命のうち、どの出来事が他の出来事よりも後に起こったか？
2. ナポレオン戦争終結後にロシアで自由主義改革が再開された理由を2つか3つ述べよ。
3. ナポレオン戦争終結後にロシアで行われた自由主義改革の例を2つか3つ挙げよ。選択の正当性を説明すること。
4. 軍事入植地の創設による2つの良い結果と2つの悪い結果を述べよ。
5. アレクサンドル1世が自由主義改革の継続を拒否したのはいつ、なぜか？2つか3つの説明を述べる。
6. A.S. プーシキンの警句を読んで課題を完了せよ。

全ロシアの圧政者で
 県知事諸侯の虐待者で
 評議会の指導者で
 それに 皇帝とは--友だちで 兄弟づきあい
 うらみぶかくて 復讐心がお強く
 無知で 無情で 恥知らずとは
 いったい どなたさま 尽忠報国 だなどど
 ・・・・たかが知れた兵隊あがりさ

この警句は誰についてのものなのか？自分の意見を正当化すること。この警句が向けられている人物についての著者の描写に同意するか？自分の意見を正当化すること。この警句が生まれた理由を述べよ。

7. アレクサンドル1世はなぜヨーロッパ諸国で憲法と選挙による議会の導入を推進したが、ロシア帝国全体で導入することを決して決めなかったのか？

セクションの主な質問に対する答えをまとめること。



なぜロシアの自由主義改革はアラクチェヴィズムに取って代わられたのか？

§ 7

デカブリストの乱



デカブリストの反乱。画家: V.G. ペロフ



独裁政権に対する高貴な反対派が求めていたのは、権力か、それとも国の
変革か？ それは何につながったのか？



デカブリスト・貴族の反対派・祖国の忠実で真の息子たちの協会・スラヴ人
連合協会・北方結社・「福祉同盟」・「救済同盟」・南方結社



M.P.ベストゥージェフ＝リューチン・P.G.カホフスキー・N.M.ムラヴィヨ
フ・S.I.ムラヴィヨフ＝アポストル・ニコライ1世・P.I.ペステル・K.F.ルイレ
エフ



1820-1823年 - スペイン革命

**1820-1821年 - 両シチリア王国
とポルトガルの革命**

1821年 - サルデーニャ王国の革命

1816-1818年 - 「救済同盟」（祖国の忠実で真の息子たちの協会）

1818-1821年 - 「福祉同盟」

1821-1826年 - 南方結社

1822-1825年 - 北方結社

1825年11月19日 - アレクサンドル 1 世の死

1825年12月14日 - デカブリスト蜂起

**1825年12月29日-1826年1月3日 - チェルニゴフ
連隊蜂起**

1. 高貴な反対派の出現。 1812年の祖国戦争、人民の党派闘争、海外遠征は多くの貴族に強い印象を与えた。海外から帰国したロシア将校たちは、祖国のための活動を渴望しており、ロシアの生活全体の根本的な変化を望んでいた。たとえ政府がこれに障害を起こすなら！これらの人々は高貴な反対の基盤となった。彼らは10～20人の小さな法曹界から始まり、そこでは士官たちが独学や文学創作に従事し、外国の新聞や雑誌を読んで議論した。最初のそのようなサークルの1つは、セミノフスキー衛兵連隊の将校のアルテルだった。そこにはS.P.トルベツコイ、I.D.ヤクシュキン、S.I.ムラヴィヨフ＝アポストルなどがいた。しかし皇帝は将校の素人演技を気に入らず、セミョノフスカヤ・アルテルを禁止した。



P.I. ペステルの肖像。
画家不詳

警官たちは秘密裏に行動することにした。

1816年に彼らは救済同盟を設立した。その中には、A.N. ムラヴィヨフ、N.M. ムラヴィヨフ、S.I. と M.I. ムラヴィヨフ使徒兄弟、I.D. ヤクシュキンなど、合計約3名がいた。当初、救済同盟には特定の目標はなかった。P.I. ペステルの到着によってすべてが変わった。彼は救済同盟の憲章を作成し、その新しい名前を「祖国の忠実で真の息子たちの協会」と名付けた。この協会の目標は、ロシアにおける憲法、議会の導入、農奴制の廃止であると宣言された。それらは、国家で高い地位にある人々を社会に巻き込み、協会構成員を権力の高みに昇進させることによって達成されると考えられていた。しかし、この道のりは長すぎると考え、直ちに行動を起こすべきだと主張する人もいた。I.D.ヤクシュキンはアレクサンドル1世の殺害を志願したが、同志からの支援は得られなかった。

歴史上の人物。 パーヴェル・イワノビッチ・ペステル(1793-1826)は、17世紀末にロシアに移住したドイツ人の家庭に生まれた。父親はシベリア総督および上院議員だった。パーヴェル・イワノビッチはドレスデン大学とサンクトペテルブルクの中央幼年学校で学び、近衛兵として勤務した。ボロジノの戦いでの功績により、「勇敢さに対する」黄金剣を授与された。ロシア軍の対外作戦に参加した。1816年にフリーメーソンの支部に入会し、その後いくつかの秘密結社の会員になった。ペステルの主な著作である「ロシアの真実」は、ロシアの公的生活のあらゆる分野を再編成するプロジェクトとなった。



ペステルは、1801年の宮廷クーデターの首謀者である P.A. パレン伯爵と知り合いだったことが知られている。ペステルはパレン伯爵と計画について話し合ったと思うか？ 自分の意見を正当化すること。

1818年、ポーランド王国に憲法が与えられた後、ロシアで必要な改革が皇帝自身によって実行されるという希望があった。秘密結社のメンバーは皇帝を支援することを決定した。このとき、ペステルはサンクトペテルブルクにいなかった。彼は新しい任務の場に行った。最初はクールラント、次にウクライナのトゥルチンである。彼の代わりに新しい指導者、N.M. ムラヴィヨフが就任した。彼の主導により、祖国の誠実で忠実な息子たちの協会は「福祉同盟」に変わった。緑の表紙(希望の色)で綴られた新しい組織の憲章は、「緑の書」と呼ばれた。「緑の書」は、「福祉同盟」の主な目標は「同胞の間に真の道德と教育のルールを広めること」であると宣言し、参加者は「政府の善意」を期待していた。



N.M. ムラヴィヨフ。
画家: P.F. ソコロフ

福祉同盟には最大200人の会員がいた。彼らは15の支部に分かれており、モスクワ、スモレンスク、キシニョフ、トゥルチン、その他多くの都市に所在し、主な支部はサンクトペテルブルクにあった。福祉同盟のメンバーは兵士に読み書きを教え、農奴を自由にするために買い取り、不作の際には飢えた農民を助けた。



- アレクサンドル1世はなぜ衛兵の独立した活動を好まなかったのか？
- 秘密結社のメンバーはなぜ自分たちの組織を「救済同盟」と呼んだのか？彼らは誰を、何から救いたかったのか？彼らは誰を「祖国の真の忠実な息子」とみなしたのか？
- 秘密結社のメンバーはなぜ自分たちの組織の名前を「福祉同盟」に変更したのだろうか？「救済同盟」と「福祉同盟」の類似点と相違点を3つ挙げること。

2. 南方結社と北方結社。多様性にもかかわらず、「福祉同盟」の活動は、多くのメンバーにとってあまりに停滞しているように見えた。一方、ヨーロッパからは刺激的なニュースが届いた。1820年、スペイン、両シチリア王国、ポルトガルで革命が相次いで起こった。ロシアも落ち着きがなく、農奴が反乱を起こし、セミョーノフスキー近衛連隊の兵士が反乱を起こした。同時に、アレクサンドル1世が自由主義改革の継続について考えを変えたことが明らかになった。

1821年1月、連合のメンバーはモスクワに集まり、今後の対応について話し合った。しかし、彼らは合意に到達できなかった。意見の相違と、当局に秘密結社の活動を知られたため、福祉同盟を解散することが決定された。実際には、同盟の指導者たちは戦いをあきらめるつもりはなかった。彼らは、信頼できないメンバーが自ら運動から離れ、新しい秘密結社を作ることができると期待していた。1821年3月、P.I. ペステルは、解散した同盟のトゥルチン支部を南方結社に転換した。彼はまた、南方結社の綱領を作成した。それは「ロシアの真実」と呼ばれていた。協会の最も活発なメンバーは、S.I.およびM.I. ムラヴィヨフ=アポストル兄弟と M.P. ベストゥージェフ=リューミンだった。

1822年、サンクトペテルブルクで北方結社が結成され、N.M. ムラヴィヨフ、S.P. トルベツコイ、K.F. リレーエフが率いた。N.M. ムラヴィヨフは、「憲法」と題された結社の綱領を執筆した。



「それで共和国が誕生する!」 1824年、サンクトペテルブルクで行われた北方結社の会合での P. ペステルの演説。画家 K. ゴルシュテイン

同時に、南方結社と北方結社のプログラムには多くの違いがあった。「ルースカヤ・プ라우ダ」のペステルはロシアを共和国にし普通選挙を導入することを意図していた。一方、「憲法」のムラヴィヨフはロシアを立憲君主制とみなし、国民の富裕層にのみ投票権を与えることを意図していた。ペステルは大地主から土地を没収してロシアの農民に土地を割り当てつもりだった。ムラヴィヨフは、各農民家庭に2デシアティーヌの土地しか与えようとしなかった。

それぞれのプログラムに違いがあったにもかかわらず、南方結社と北方結社は互いに交流し、自分たちを1つの組織の一部とみなしていた。南方結社と北方結社には少なくとも200人の会員がおり、新しい会員も募集していた。



P.I. ペステル著「ロシアの真実」。
表紙と第2章の冒頭

こうして、1825年の夏、南方結社に統一スラヴ人協会が加わった。この協会は、すべてのスラヴ民族を連邦共和国に統合することを目指していた。秘密結社は、計画を実行する好機を待っていた。



1. 福祉同盟はなぜ活動を中止したのか？ 2つまたは3つの説明を述べること。
2. 「救済同盟」の時代から貴族の反対派はどのように変化したのか？ 3つまたは4つの違いを述べること。

3. アレクサンドル1世の死とデカブリストの乱。アレクサンドル1世には息子がいなかった。彼の正式な後継者は、皇帝パーヴェル1世の次男であるコンスタンチン大公だった。

コンスタンチンはポーランド王国の軍司令官だった。ワルシャワでの生活は彼にとって非常に快適だった。彼は皇帝になることを望んでいなかった。1820年、コンスタンチンはポーランドの伯爵夫人J.グルジンスカと結婚し、ロシアの皇位継承権を放棄する都合の良い口実を得た。1823年、アレクサンドル1世は、次男のニコライ・パヴロヴィチ大公を後継者と宣言する宣言書に署名した。しかし、宣言書は公表されなかった。

1825年秋、アレクサンドル1世は南部の地方への旅に出発した。この旅の途中で、彼は突然熱病にかかり、1825年11月19日にタガンログ市で亡くなった。

興味深い詳細。アレクサンドル1世の死後、皇帝は死を偽装しただけだという噂が流れた。自分を圧迫していた権力から解放された彼は、フョードル・クズミッチという名前でロシア中を放浪した。老フョードル・クズミッチは、その正義の生き方で多くの崇拜者を獲得した。彼はフランス語が話せたことが知られており、1812年の戦争の出来事、クトゥーゾフ、アラクチェフなどについて語った。彼は1864年に亡くなり、トムスクのボゴロディツェ・アレクセエフスキー修道院に埋葬された。



アレクサンドル1世の架空の死に関する伝説が生まれた理由を2つか3つ挙げてみよう。

アレクサンドルの死の知らせがワルシャワに届くと、コンスタンチンはすぐにペテルブルグに退位すると伝えた。しかし、退位は遅すぎた。衛兵、高官、そしてニコライ自身は、すでに新皇帝として彼に忠誠を誓っていた。しかしコンスタンチンは考えを変えなかった。今度はニコライ1世に対する新たな誓いは、1825年12月14日に予定された。権力を握ったとき、新皇帝は（アラクチェフや他の情報源から）ロシアでクーデターを準備していた衛兵の大規模な組織についてすでに知っていた。また、陰謀家たちが再誓を利用して反乱を起こすだろうという警告も受けていた。危険に立ち向かうか、それとも屈服するかを決める必要があった。ニコライは一瞬もためらわなかった。12月13日の夜、彼はこう書いた。「14日には、私は死ぬか、君主になるかだ。」



K. F. ルイレーエフ。細密画

一方、12月13日、K.F. ルイレーエフのアパートで（主に彼の主導で）、北方結社による蜂起計画が採択された。翌朝、協会のメンバーは軍隊を元老院広場に派遣し、ニコライへの忠誠を誓う代わりに憲法の導入を発表するよう元老院に強制することになっていた。M.M. スペランスキーをロシアの新政府の長にすることが提案された（彼自身はこのことを知らなかったが）。同時に、A.I. ヤクボヴィッチは冬宮殿で皇室を捕らえることになっていた。P.G. カホフスキーはニコライを殺害することになっていた。S.P. トルベツコイ公爵は「蜂起の独裁者」（つまり指揮官）と宣言された。



K.F. ルイレーエフは多才な人物だった。彼は事実上、アラスカの開発に従事していたロシア・アメリカ会社の長だった。彼は人気のある文芸雑誌「ポーラー・スター」を発行し、詩も書いた。彼の思想「イェルマークの死」は曲にされ、人気のフォークソングになった。ルイレーエフが独裁政権と戦うという危険な道を選んだのはなぜだと思うか？



反乱軍はなぜ抗議活動の場として元老院広場を選んだのか？

当初、事態は計画通りに展開した。12月14日の朝、蜂起の指導者たちは兵士たちに、新たな宣誓を放棄し、ニコライに対抗して武器を取るよう呼びかけた。忠誠を誓うことを拒否した部隊(モスクワ近衛連隊、近衛海軍兵、その他 - 合計約3,000人)は、ピョートル1世の記念碑の周囲にある元老院広場に並んだ。この時点で、彼らの行動力は枯渇した。ヤクボヴィッチは皇帝一家を捕らえることを拒否し、カホフスキーはニコライを殺すことを拒否した。一方、「独裁者」トルベツコイ公爵はまったく姿を現さなかった。反乱軍は元老院に圧力をかけることもできなかった。元老院議員たちはその朝すでに宣誓し、解散していた。

蜂起の指導者たちが議論し、どうすべきか決めている間、ニコライは断固として決断力を持って行動した。その日の初めには彼の軍は反乱軍に比べて数で大幅に劣っていたが、正午を過ぎると彼はすでに彼らに対して明らかに優位に立っていた。彼に忠誠を誓う部隊は元老院広場に集結した。好奇心旺盛な人々も大勢そこに集まった。

皇帝は流血を望まず、軍の間で人気があった M.A. ミロラドヴィチ将軍(当時はサントペテルブルク総督)を反乱軍に派遣した。彼は兵士たちに武器を捨てるよう説得し始めた。その瞬間、将軍は P.G. カホフスキーのピストルで致命傷を負った。



サンクトペテルブルク 元老院広場、1825年12月14日。画家: K. I. コールマン



なぜ市民はデカブリストを応援し、政府軍を応援しなかったのか？

他の交渉の試みも失敗に終わった。ニコライは反乱軍に対して騎兵を派遣しようとしたが、近衛騎兵連隊による2度の攻撃は撃退された。残された唯一の選択肢は最後の手段、つまり大砲に頼ることだった。これが対決に終止符を打った。数回の至近距離からのぶどう弾の一斉射撃が反乱軍の隊列を散らした。パニックと逃走が始まった。大砲が退却する軍に発砲し、隊列に大打撃を与えた。すぐに広場は空になり、ニコライが勝利した。夕方、彼は兄に手紙を書いた。「親愛なるコンスタンチン! あなたの意志は果たされた。私は皇帝だが、神よ、どんな犠牲を払ったのだろう! 我が臣民の血を犠牲にして...」

キエフ州の南方結社も独自の蜂起を準備していたが、その指導者たちは逮捕されていた。ペステルは12月13日に逮捕された。S.I. ムラヴィヨフ=アポストルは12月29日に逮捕されたが、同志たちは彼を解放することに成功した。ムラヴィヨフ=アポストルはベストウージェフ=リュエミン少尉とともにチェルニゴフ連隊で蜂起を起こした。南方結社の指導者たちは他の部隊がすぐに加わることを望んだが、それは実現しなかった。1826年1月3日、ウスチモフカ村の近くで反乱軍は優勢な政府軍に敗れた。蜂起の主催者の一部は戦闘で死亡し、他の者は逮捕された。

記述された蜂起が起こった月に基づいて、1816-1825年の貴族反対派のすべての参加者と、当時存在していたさまざまな秘密結社のメンバーは、歴史上デカブリストと呼ばれている。



1. デカブリスト蜂起が敗北した理由を2つまたは3つまとめよ。
2. 北方結社はなぜ1825年12月14日に蜂起を起こすことを決めたのだろうか？

質問とタスク

1. スペイン革命、元老院広場での蜂起、ペステルによる「ロシアの真実」の執筆、「救済連合」の創設という一連の出来事の順を定めよ。
2. 「貴族反対派」の概念の定義し、ロシアでそれが出現した理由を2つまたは3つまとめよ。
3. 貴族反対派の主な目標を列挙せよ。目標を達成する方法に関する彼らの考えはどのように、そしてなぜ変化したのだろうか？
4. デカブリストの南方結社と北方結社のプログラムを、独自定義した基準に従って比較せよ。この比較からどのような結論を導き出せるか？
5. ヤクボフスキー、カホフスキー、トルベツコイのうちの一人を選ぶ。同志たちに義務を果たせなかった理由を説明することになったとしたら、どのような説明ができるだろうか？
6. 貴族反対派たちはなぜ敗北したのか？ 3つまたは4つの説明にまとめること。

セクションの主な質問に対する答えをまとめること。



独裁政権に対する貴族反対派たちは何を求めていたのか？ 権力か、それとも国の変革か？ それは何につながったか？

章のまとめ

アレクサンドル1世は即位すると、当時の最も先進的な考えに従ってロシアを変革しようと決意した。農奴制を廃止し、憲法で君主制を制限し、ロシアに議会を設立しようとしていた。皇帝は治世の初めとナポレオン戦争後の2度、この計画を実行に移した。いくつかのことは実行された。ポーランド王国で憲法が発効し、エストニア、リヴォニア、クールラントで農奴制が廃止された。しかし、これは計画のほんの一部に過ぎなかった。

1812年の戦争前、ロシア社会は皇帝の計画に対して友好的というよりは警戒していた。戦争後、状況は変わった。アレクサンドル1世は以前の願望に対してますます冷淡になったが、言葉と行動で彼の構想を支持する用意のある人々が多数現れた。アレクサンドルは彼らの助けを求めなかった。それどころか、彼らを恐れ、彼らの活動を抑制しようとした。この不和の悲劇的な結末はデカブリストの乱であった。皇帝からの支援が得られなかった彼らは、ロシアの変化の責任を自ら負うことを決意した。デカブリストの敗北は、自由主義者の希望に終止符を打った。

質問とタスク

1. アレクサンドル1世の治世における、公的生活と国家政策の主要な領域における主要な出来事の年表を作成せよ。
2. アレクサンドル1世の治世中に、どの地域がどのような状況でロシアの一部になったか？これらの地域の一部は、帝国の一部としてどのような政治的および法的地位を獲得したか？その理由は何か？
3. アレクサンドル1世の時代の歴史上の人物を選択し、「歴史は私の正当性を証明した」というテーマで、彼に代わってスピーチ(ミニエッセイ)を書く。自分の選んだヒーローが何をしたかったか(そしてその理由)、彼が成功したこと(そしてその理由)、そして彼ができなかったこと(そしてその理由)を書き留めること。
4. 歴史学には、さまざまな、しばしば矛盾する視点が表現される論争の的となる問題がある。そのうちの1つは、次のように定式化できる。「皇帝アレクサンドル1世の国内政策は、ロシアの社会経済的および政治的發展に貢献した。」歴史的知識を使用して、この観点を支持する3つの論と、それを反駁する3つの論を提示せよ。各議論を提示する際には、必ず歴史的事実を使用すること。
5. 「アレクサンドル1世の外交政策」というトピックに関するレポートを作成するように指示されたとしよう。レポートを作成するための複雑な計画を立てよ。
6. 章の冒頭にある G.G. チェルネツォフの絵画のイラストを見る。この記念碑は、アレクサンドル1世のどのような功績を称えて建てられたのだろうか？

章の主な質問に対する答えをまとめること。



アレクサンドル1世は、ロシアで自由主義改革を実行するという計画を実行することに成功したか？その理由は何か？

プロジェクトのトピック



1. 偉大さは小さなものの中にある: アレクサンドル1世時代の私の故郷 (どのように暮らしていたか、何に喜びを感じていたか、何に悲しかったか)
2. あらゆる時代の英雄: 私の同胞 - アレクサンドル1世時代の戦争に参加した人々
3. 時代の接触: 私の小さな故郷における19世紀前半の建築
4. 抗えない魅力: フィクション、映画、コンピューターゲームにおけるアレクサンドル1世時代
5. 「おお、運命の若き将軍たちよ...」: アレクサンドル時代の戦争の英雄の記念碑のスケッチコンテスト
6. 音楽イメージの描画: アレクサンドル1世時代に関する詩 (ラップ) コンテスト (サウンドトラックには19世紀前半の音楽からの引用のこと)
7. 時代をとらえる: アレクサンドル1世時代の出来事に捧げられた絵の物語のコンテスト
8. アラクチェフシチナ - 現実か神話か?
9. アレクサンドル1世の保守主義は、勤勉さや強制労働の結果だったのか?
10. アレクサンドル1世は自由主義者だったのか?

章のリソース

1. 地図「19世紀初頭のロシア帝国」 (§ 1) を参照して、自分の地域のおおよその位置を特定する。馬の急使がサンクトペテルブルクからアレクサンドル1世の即位の知らせを届けるのにかった時間を計算せよ。急使の最高速度は1日180km だったとする。

2. 農民 H. N. シポフの回想録の抜粋を読んで、問いに答えよ。

...主人の農民の1人... プロホロフという人物は、村に小さな家を持ち、モスクワでわずかな金額で赤物を取引していた。彼の取引はうらやましいものではなかった... 1815年、プロホロフは主人に少額で自分を解放してくれるよう申し出た... 主人はこれに同意した... あるとき、このプロホロフはモスクワでかつての主人に会い、訪問するよう招待した。主人がやって来て、プロホロフの美しい家と工場を見て非常に驚いた。彼は、このような男を解放したことを非常に後悔し、今後は農民を解放しないと約束した...

1) 歴史的知識と原文を使用して、地主が「自由な耕作者」に関する法令に従うことを躊躇した理由を2つか、3つ挙げよ。 2) プロホロフが数年前に主人に少額のお金で釈放するよう頼んでいたら、同意を得ただろうか? また、その金額はいくらだっただろうか? 自分の意見を正当化すること。

3. 歴史的文書の抜粋を読んで、問いに答えよ。

...第4条。モルドバへの流入からドナウ川との合流点までのプルート川と、この合流点からインド川の河口および海までのドナウ川左岸が両帝国の国境となり、この河口は両帝国の共通となることが決定された。

第5条。全ロシア皇帝陛下は、プルート川の右岸に位置するモルダヴィアの土地、および大ワラキアと小ワラキアを... 与え、返還する。

1) この歴史的資料の種類を特定せよ。どのように特定したかを説明すること。2) この資料ではどの国の関係について説明しているか？これをどのように判断したか？3) この文書の出現につながった出来事の日付を示す。この出来事の2つの理由を述べよ。この出来事とこの文書の出現の両方で決定的な役割を果たしたロシアの傑出した指揮官は誰か？

4. 1812年の戦争でナポレオンに同行した元ロシア駐在フランス大使、アルマン・ド・カランクルの回想録の抜粋を読んで、課題を完了せよ。

...ロシアの地方都市は、ドイツの最小の都市と比べることさえできない。我々は、あらゆる種類の物資をそこで見つけることに慣れすぎていて、ロシアでも同じものを見つけてることを期待していた。失望は大きく、それは不幸な被災者に残酷な影響を与え、彼らの苦しみを和らげる手段はなかった。最初の瞬間に耐えなければならなかった窮乏は想像もできない。秩序の欠如、軍隊の規律の欠如、衛兵の間でさえ、まだ残っていたわずかな機会さえ台無しにした...行進の速さ、荷馬と予備馬の不足、飼料の不足、世話の欠如 - これらすべてが合わさって、馬の群れを台無しにした。ネマンからヴィテブスクまで、実質的な成果をあげずに戦われたこの作戦は、すでに軍に二度以上の敗北をもたらし、最も必要な資源と食糧を奪っていた。なぜなら、他の作戦の例に倣って、彼らは部隊を補充し、損失を徴発した馬で補うことを当てにしていたからだ。徴発した馬は通常、その場で見つかったが、ロシアにはそのようなものはなかった。馬も牛も、人々とともにすべてが消え去り、我々はまるで砂漠の真ん中にいるかのようだった。ヴィテブスクに到着してから10日後、食料を得るために、すでに市から10リーグか12リーグ離れた馬を送る必要があった。休息を必要とする馬は、食料を求める旅で疲れ果てていた。また、人も馬も危険にさらされていた。なぜなら、コサックに捕らえられたり、農民に切り刻まれたりする可能性があり、それはよく起こったことだった。ロシア軍は整然と撤退し、負傷者は一人も残さなかった。住民は軍の後を追った。村々は廃墟となった...

1) このテキストで説明されている出来事や現象は、1812年の祖国戦争のどの段階に属するだろうか？テキストからの引用で自分の意見を正当化すること。

2) 著者によると、ロシアでの戦争はヨーロッパでの戦争とどのように異なっていたか？3つか、4つの点を述べる。これらの違いをどのように説明できるか？2つか、3つの説明を述べる。

5. この地図には、1812年の祖国戦争のどのような出来事が反映されているか？

6. 1813年4月のドイツの雑誌「Das neue Deutschland」に掲載された、ベルリンの住民によるロシア軍の会合に関する記事の抜粋を読んで、タスクを完了せよ。

...朝から午後3時まで、ロシア軍はコサック、軽騎兵、歩兵、砲兵など、絶えず市内に侵入した... 午前中、パンとニシンを積んだカートが宮殿広場に置かれた。すべてのロシア人がそこで楽しむことができた。しかし、広場に並べられたものよりも多くの食べ物が、住民自身によってロシア人に配られた。



誰もが彼らと食べ物、飲み物、心を分かち合った。「ロシア人、プロイセン人、兄弟たち!」とコサックは言い、その多くがプロイセンの冠を身に付けた。心のこもった握手と抱擁が何度交わされ、心からの喜びの涙が何度流され、「神に感謝、我々は再び自由になった!」と叫ばれたことか。ベルリンでは1世紀もの間、このようなことは起きていなかった。フランス統治下では慣例だったように、憲兵は誰も町民を恐怖に陥れようとせず、事前に行動方針を指示しようとはしなかった。夕方には街全体が明るくなったが、ロシア人からも警察からもこれに関する命令は出ていなかった。その日、ロシア人は一人も宿舎に泊まらなかった。フランス軍を追跡しなかった者は皆、夜は屋外に留まった。しかし、住民は彼らに心のこもった温かい夕食を送った。

1) 記事の著者は、ベルリンの住民によるロシア軍の会合をどのように説明しているか？ 本文に基づいて、3つか4つの特徴をまとめること。2) 会合の性質をどのように説明できるか？ 2つか3つの説明をまとめること。3) この点に関して、ロシア軍の対外作戦がヨーロッパの人々にとってどのような意義を持つのか、どのように判断できるか？ 2つか3つの立場をまとめること。

7. このイギリスの漫画ではウィーン会議のどの瞬間が描かれているか？ これはどのようにして決定したのか？



8. E. F. フォン ブラッケの回想録の抜粋を読んで、問いに答えよ。

アレクサンドル1世皇帝は、祖国を守るために行動する兵士が、任務を終えた後に妻や子供たちに安心して見つけられる特別な避難所を提供するという慰めさえも奪われているという考えに、しばしばひどく心を痛めていた。彼の側近たちの頭の中には多くの計画が浮かんできた... 最終的に彼らは、ノヴゴロド州にある国務省の広大な土地を利用して、いくつかの連隊に恒久的な宿舎を提供し、平時にはそこで農業や工芸に従事できるようにする必要がある、軍事演習は通常どおり継続するという考えに落ち着いた... この計画は皇帝の全面的な承認を得た。彼の慈悲深い魂は、将来の牧歌的な生活を思い描いていた... 庭園と羊... アラクチェエフ伯爵は、最初はこれに断固として反対したが、この愛すべき夢の実現を引き受けた者が彼の危険なライバルになるかもしれないという恐れから、不本意ながら同意を表明せざるを得なかった... ここで我々が問うなら、屯田制は知恵と博愛の成果だったのだろうか、兵士をより幸せにし、家族関係をより合理的にしたのだろうか... 現役軍の維持にかかる膨大な費用を削減したのだろうか？— ならば、これらの問いすべてに、断固として「ノー」と答えなければならない。特に、伯爵の直接の監督下にあった北部の歩兵集落に関しては... モギリョフ州では大きな集落が選ばれ、その数千人の住民がヘルソン州に移住したが、目的地にたどり着いたのはごく少数で、残りは故郷への憧れから絶望して死んだ... 実際に亡くなった人の数は忘れてしまったが、それは恐ろしいことだった。この知らせはアレクサンドル皇帝を大いに悲嘆させたと伝えられている。彼らの代わりに、農業に慣れていない兵士の大隊がやって来た... 経験豊富な指導者を失ったため、彼らはひどく苦しみ、長い間、最も惨めな生活さえも送ることができなかった...

著者の意見では、屯田の創設によってどのような目的が追求されたのか？ その結果は何だったのか、そしてその理由は？ A. A. アラクチェエフはこれにどのような役割を果たしたのか？

9. 逮捕されたデカブリストP.I.ペステルの証言の抜粋を読んで、課題を完了せよ。

最初、私はこれらの科学を勉強し、一般的な政治書も読んだが、謙虚に、自由な考えを一切持たずに、いつか自分の時代と場所で主権者と祖国に役立つ奉仕者になりたいという唯一の願いを持っていた。このように勉強を続け、その後、最高権力には触れずに、省庁、地方自治体、民間機関などの主題について考えながら、ロシア政府の構造において政治学の規則が遵守されているかどうかについて推論し始めた。同時に、私の理解によれば、政治学の規則には多くの矛盾があることに気づき、さまざまな主題について考え始めた。どのような規則によってそれらを置き換え、補足し、改善できるかについてだ。私はまた、人々の状況に考えと注意を向けた。農民の奴隷制は常に私に強い影響を与えた。また、貴族の大きな利点も、いわば君主と人民の間に壁があり、君主は自らの利益のために人民の真の状況を隠していると見なしていた...

歴史的知識と歴史的資料のデータを使用して、証言の著者が独裁政治との戦いの道を歩み始めた3つの理由をまとめよ。



推奨図書・映画・音楽

一般書

L. M. リャシェンコ「デカブリスト 新しい視点」著者自身が、この本の課題を次のように述べている。「秘密主義や地下組織を嫌う高貴な革命家たちが、なぜ秘密結社のメンバーになったのか理解することが重要である..」

M.-P. レイ「恐ろしい悲劇 1812 年の新たな視点」フランスの歴史家が、膨大な歴史資料を使って、ロシア軍とフランス軍の日常生活を魅力的で印象的な詳細で描写している。

E. V. タルル「ナポレオンのロシア侵攻」両軍の軍事行動について語る軍事史エッセイで、ロシアの指揮官や軍の指導者、パルチザン運動の指導者、1812 年の戦争の英雄たちのイメージが紹介されている。

フィクション

D. S. メレシュコフスキー「アレクサンドル 1 世」この小説は、メレシュコフスキーの有名な三部作「獣の王国」の第 2 部である (三部作の第 1 部は劇「パーヴェル 1 世」、最終部は小説「デカブリスト」)。

D. S. サモイロフ「ストルフィアン」アレクサンドル 1 世と父フョードル・クズミチの死に関する有名な伝説を元にした詩。

映画

「軽騎兵のバラード」(E. A. リャザノフ監督、1962 年、ソ連)。1812 年の戦争 150 周年を記念して撮影されたミュージカル コメディ。

「幸福の魅惑的な星」(V. Ya. モティル監督、1975 年、ソ連)。デカブリストの歴史を描いた映画。元老院広場の蜂起 150 周年を記念して撮影。

「救済同盟」(A. Yu. クラチュク 監督、2019 年、ロシア)。

ミュージカル作品

A. A. ガリク。「サンクトペテルブルクのロマンス」。デカブリストについての吟遊詩人の歌。



II

第2章 ニコライ1世統治下における ロシア（1825～1855年）



サンクトペテルブルク近郊の建設工事にあたるニコライ1世。画家 M. A. ジニ

戴冠式後、ペテルブルクに戻ったニコライ皇帝は、アレクサンドル皇帝治世下の国家の内政についてデカブリストたちが表明した意見をボロフコフに伝え、それらから特別な覚書をまとめるよう命じた...「皇帝は、あなたの興味深いコレクションを頻繁にご覧になり、そこから多くの有益な情報を得ている...」とコチュベイ伯爵はボロフコフに言った。この覚書の最後の言葉を引用しよう...「明確な法律、実定法を制定し、正義を確立する必要がある...聖職者の道德教育を高め、金融機関からの融資によって没落し、完全に破滅した貴族を支援し、貿易と産業を復興させ、それぞれの国の状況に応じて青少年の教育を指導し、農民の状況を改善し、屈辱的な人身売買を廃止し、艦隊を復活させる必要がある...」

シルダー N.K. 「ニコライ1世皇帝：その生涯と治世」



ニコライ1世は、その治世中に、デカブリストが準備したロシア改革計画を実行しようとしたと言えるだろうか？

§ 8

ニコライ1世の国内政策



法典編纂の功績によりスペランスキーに褒賞を与えるニコライ1世。
画家：A.D. キフシェンコ



ニコライ1世の国内政策は、アレクサンドル1世の国内政策の継承だったのだろうか？



検閲総局
マジョラート法
土地登記改革
法典化
憲兵隊
貸方票
国有財産省
「義務農民」
皇帝直属官房第三部



A.H. ベンケンドルフ・E.F. カンクリン・P.D. キセレフ



1826年 - ラテンアメリカにおけるスペイン植民地の独立戦争終結

1830年 - フランスとベルギーにおける革命

1830年 - フランスによるアルジェリア植民地化開始

1830～1848年 - フランス七月王政

1839年 - オスマン帝国におけるタンジマート（改革）時代の始まり

1840～1842年 - イギリスと中国との間の第一次「アヘン戦争」

1825年～1855年 - ニコライ1世の治世

1826年7月25日 - ルイレエフ、カホフスカヤ、ペステル、ベストウージェフ＝リューミン、ムラヴィヨフ＝アポストルの処刑

1826年 - 皇帝陛下の官房第3部および憲兵隊の創設

1826, 1828年 - 検閲法

1826～1832年 - ロシア帝国法の成文化

1837～1841年 - 国有農民管理の改革

1839～1843年 - E. F. カンクリンの通貨改革

1842年 - 「義務農民」に関する法令

1845年 - 農民法

1847年 - 土地登記改革

1. ニコライ1世の性格の特徴とその統治スタイル。 ニコライ1世は、1825年から1855年までの30年間、ロシアを統治する運命にあった。この期間は、歴史上「ニコライのロシア時代」として知られている。しかし、ニコライは統治者となるための準備がほとんどなされていなかった。彼には2人の年上の兄がおり、皇位に就く可能性は低かった。そのため、将来の皇帝は平凡な教育しか受けておらず、視野も限定的であった。彼は早くから軍務に魅了され、軍隊こそが社会秩序の理想であると考えていた。すなわち、賢明で厳格な最高司令官が頂点に立ち、その命令を下級指揮官が迅速に受け取り、兵士たちが一糸乱れず実行するという構造である。ニコライは、秩序の乱れに対して徹底的かつ容赦なく処罰することが自らの義務であると信じていた。

私生活において、新皇帝は質素であった。皇帝の生活は職務に完全に捧げられていた。侍女A.F.チュチェワの言葉によれば、ニコライ1世は「1日の24時間のうち18時間を仕事に費やし、深夜まで働き、夜明けに起床し、硬い寝床で眠り、極めて節制した食事を取り、快樂のために何かを犠牲にすることは一切なく、すべてを義務のために捧げ、その臣下の最下層の日雇い労働者よりも多くの労苦と責任を自ら引き受けていた。彼は、すべてを自らの目で見、耳で聞き、自らの判断で規制し、自らの意志で変革できると、心から誠実に信じていた...」



ニコライ1世
画家：E.ヴェルネ



ロシア帝国の統治者としてのニコライ1世の人格特性を決定づけた要因を挙げよ。

2. デカブリストの調査と裁判。 リニコライ1世の治世の始まりは、デカブリストの裁判によって特徴づけられた。皇帝の直接の監視の下で行われたこの調査と裁判は、1825年12月から1826年6月まで続いた。合計545人の秘密結社のメンバーと約4000人の兵士と水兵が裁判にかけられた。デカブリストは尋問中に率直に証言した。彼らは新皇帝にロシアの諸問題への目を開かせ、解決に着手するよう促そうとしたからである。289人が有罪判決を受け、そのうち5人——K. F. ルイレエフ、P. G. カホフスキー、P. I. ペステル、M. P. ベストゥージェフ＝リュミン、S. I. ムラヴィヨフ＝アポストル——は死刑を宣告され、1826年7月25日の夜、ペトロパヴロフスク要塞で絞首刑に処された。その他のデカブリストたちは、重労働、シベリア流刑、兵士への降格、荘園追放など、様々な刑罰を宣告された。178人の兵士は強制的に試練の旅に出させられ、残りの兵士は独立した連隊に編成され、コーカサスの戦闘に送られた。

デカブリストに対する社会の態度は異なっていた。多くの人々が彼らに同情した。また、当局がデカブリストの妻たちがシベリアへ追放されることを望んだため、あらゆる妨害を行ったという事実も、人々の憤りを引き起こした。



同時代の多くの人々は、デカブリストの処罰はあまりにも残酷であり、死刑判決を受けた者たちは恩赦を受けるべきだったと考えていた。この意見に賛成するか？2、3の論拠を挙げて自分の見解を正当化すること。

3. 改革の始まり。 1826年12月6日、皇帝はロシアの諸問題の解決策を探るため、V. P. コチュベイ伯爵を委員長とする秘密委員会を設置した。M. M. スペランスキーが重要な役割を果たした。後に「12月6日委員会」と呼ばれるようになったこの委員会は、ニコライ1世の内政の主要な内容となるいくつかの改革案を立案した。これらの改革案は、皇帝陛下御自身の官房を通して実施された。官房は複数の部署から構成されていた。官房の第1部は勅令の草案を作成し、第2部は成文化、すなわちロシア帝国の現行法の整備を担当し、第3部は政治警察を担当し、第4部は教育機関と慈善団体を管理した。

1826年に創設された第3部は、ニコライ1世の治世下で特に重要な役割を担うようになった。反政府活動を特定し、鎮圧することが任務だった。この任務を支援するため、各地方都市に独自の部隊を持つ憲兵隊が組織された。第3部の初代長官はA. K. H. ベンケンドルフ将軍で、彼は憲兵隊の長官も務めた。

第3部の活動分野の一つは、検閲の全般的な監督だった。1826年、検閲憲章が発布された。これに基づき、文部省の下に検閲総局が設置された。検閲官は、「政府および政府によって設置された権力に反するだけでなく、それらに対する敬意を弱めるようなあらゆる文学作品」、ならびに「君主制を直接的または間接的に非難する作品」、そして「国家行政のいかなる部分の変革に関するいかなる憶測も含む作品」を禁止することになった。この憲章は作家たちの憤慨を招き、「鑄鉄」、つまり「重し」とさえ呼ばれた。1828年、ロシアに輸入される外国の書籍や定期刊行物の検閲を規定する、新たな拡張勅令が発布された。



近衛憲兵半中隊の制服を着たA. H. ベンケンドルフ。F. クルーガー作の肖像画の複製。1840年代

- ?** 1. ニコライ1世はなぜV. P. コチュベイとM. M. スペランスキーを改革に関与させたのだろうか？彼の国内政策において最も重要な分野はどれだろうか？これは何から導かれるのだろうか？これらの分野は、皇帝の人格に影響を与えた要因とどのように関連しているのだろうか？
2. 憲兵は青い制服を着用していた。この制服はニコライ1世の治世の象徴となった。なぜだと思うか？


131

1

4. 法典化。 ロシアにおける最後の法典化は、1649年、皇帝アレクセイ・ミハイロヴィチの治世中に行われた。その後2世紀にわたって、膨大な数の新しい法律が制定された。無知な者にとって、体系化されていない膨大な法律の集合体を理解することは困難だった。法秩序の欠如は、裁判所における多くの濫用を引き起こした。さらに、悪徳な役人たちは、法律の混乱に乗じて賄賂を強要した。

1826年1月、ニコライ1世は法典化を専門とする第2部を官邸内に設置した。M. M. スペランスキーがこの部署の全業務を担当し、その作業には7年を要した。1832年までに、スペランスキーはスタッフと共に、現行法をすべて収録した15巻からなる『ロシア帝国法典』と、1649年以降のすべての法律を収録した45巻からなる『ロシア帝国法全集』の出版準備を整えた。


1833年1月、国家評議会は法典をロシア帝国の主要な法的行為とすることを決定した。評議会の会合中、ニコライ1世は成果に満足し、ロシア帝国最高の国家勲章である聖アンドレイ勲章のリボンを外し、スペランスキーに授与した。

 なぜニコライ1世は法典化から改革を開始したのだろうか？

5. 貴族への支援。ニコライ1世は、貴族が帝位の主要な支えであると確信していた。多くの貴族が破産し、負債を抱え、国家の基盤を揺るがす危機に瀕していた。当局はこれを容認できなかった。

まず、破産した地主への物質的支援として、国有地基金からの土地の付与、優遇融資、無償での教育機関への入学など、様々な措置が講じられた。1845年には、相続地に関する法律が公布された。父の死後、財産は長男に相続されるという制度。この措置は、地主の領地の細分化、ひいては貴族の衰退を防ぐことを目的としていた。

ピョートル1世の時代から、貴族としての身分と世襲による地位は、奉仕によって得ることができた。その結果、他の階級出身者による新たな貴族家系の数は着実に増加し、1825年には既に全貴族の半数以上を占めていた。ニコライ1世はこの傾向を旧来の「土着」貴族にとって危険だと考えた。1845年の勅令は、外国人の貴族へのアクセスを制限した。以前は身分による地位の授与は位階表の12等級まで、世襲による地位の授与は8等級までだったが、今では身分による地位の授与には9等級まで、世襲による地位の授与には5等級まで従事する必要があった。

 ニコライ1世の治世下における貴族支援策と農民反乱の増加との間には関連性があるだろうか？ 2、3の論拠を挙げて自分の意見を正当化すること。

6. 農民問題。ニコライ1世は、自身を取り巻く最も困難な問題の中で、農奴制改革が最も重要だと考えていたことを認めた。ニコライ1世の治世下、農民問題に関する秘密委員会が合計9つ設置され、100以上の立法行為が採択された。しかし、抜本的な改革は行われなかった。歴史家V. O. クリュチェフスキーによれば、皇帝は「貴族の痛いところを立法で締め付ける」ことだけにとどまったという。

1827年、ニコライ1世は土地を持たない農奴の売却と工場への配属を禁止した。1833年、農奴を「家族の細分化を伴う」競売で売却すること、および農民を世帯に移送し、土地を没収することが禁止された。「12月6日の委員会」において、スペランスキーは「国有農民のためのより良い経済管理」、すなわち国有農民の経済管理の必要性を訴えた。なぜなら、そのような管理は「私有農民（地主）の手本となる」からである。当時、国有農民は約1700万人いた。重い税金のために、彼らの多くは貧困に陥り、彼らの生存を維持するためには多額の国家支出が必要だった。

国有農民の生活と福祉を向上させるため、1835年に皇帝直属官房第5部が設立され、P. D. キセリョフ将軍が長官を務めた（2年後に国有財産省に改組）。1837年から1841年にかけて、キセリョフは国有農民の経営改革を行った。農民は税制優遇措置と自治権を与えられ、集会で郷長と長老、そして裁判所の特別判事を自ら選出するようになった。同時に、農民に最良の農業技術を教え、穀物を供給し、土地の少ない農民には土地を与えた。また、農民のニーズに応えるため、学校や病院も設立された。ニコライ2世の治世下では、地主農民への支援は大幅に減少した。最も重要な措置は、1842年にキセリョフが提案した「義務農民」に関する法令であった。この法令によれば、地主は農民に土地を割り当てることで、農民を農奴制から解放する権利を得た。農民は個人的自由を得た後も割り当てられた土地に住住し続け、その使用に関して地主に対する義務を負う義務を負った。この法令の有効期間中、2万7千人強が「義務農民」となった。



P. D. キセレフ。作者不明

1847年、西部9州（ウクライナ右岸とベラルーシ）で地目録改革が実施された。その本質は、特別委員会が「地目録」、すなわち地主の土地の詳細な記録を作成することであった。同時に、農民への割り当てと地主に対する農民の義務が正確に記録された。今後、これらの規定は変更不可能となり、地方地主の専横に終止符が打たれるはずだった。

132

3



1. ニコライ1世はなぜ農奴と国有農民の支援に力を入れたのか？ 2つの説明を述べること。

2. 1841年、「ジャガイモ栽培普及のための措置について」という命令が発布された。国有農民は土地の一部を新しい農作物に割り当てるよう命じられたが、ジャガイモをどのように使用するかについては具体的な指示はなかった。多くの人々がジャガイモの塊茎の代わりにジャガイモの葉や有毒な果実を食べた。多数の中毒事件が暴動を引き起こし、武力で鎮圧することとなった。これらの出来事には、ニコライ1世の国内政策と性格のどのような特徴が反映されていたか？

7. 教会政策。1830年代の法典化において、聖職者の権利と義務が明確に規定された（体罰の廃止、人頭税の免除、宿舎税とゼムストヴォ税の免除、兵役、土地購入の許可など）。当局は、教会があらゆる宗派や古儀式派と闘うのを積極的に支援した。これは第3部の主要な任務の一つと考えられていた。1853年には、分裂派の修道院と祈祷所を破壊する法令が発布された。しかし、迫害にもかかわらず、分裂派の数は減少しなかった。



E.F.カンクリン。
画家: G.I.ボトキン

8. 財政政策。ニコライは、アレクサンドル1世の治世下でひどく混乱した財政を引き継いだ。ルーブル紙幣の交換レートは、わずか25コペイカ銀貨にしか達しなかった。大量の紙幣が流通していたにもかかわらず、常に通貨不足に陥り、新たな紙幣を印刷する必要があった。E.F.カンクリンはニコライ1世の治世のほぼ全期間、財務大臣を務めた。彼は1839年から1843年にかけて通貨改革を実施した。その要点は、カンクリンの国庫に相当量の金銀を蓄積し、それによって価値が下がった紙幣を廃棄し、新しい紙幣に置き換えることを決定できたことである。1839年には、銀ルーブルが主要通貨単位と宣言された。そして1843年までに、ほぼすべての紙幣が有利なレートで国民から買い取られた。紙幣は銀、またはカンクリンが発行する信用手形と交換された。信用手形は銀と1対1のレートで自由に交換された。

カンクリンの視点から見ると、国民の福祉の向上が最優先事項だった。彼は国家の支出が収入を上回らないよう厳しく監視した。輸入品には高い関税が設定された。これらすべての措置は、国の財政状況の安定化につながった。



1. ニコライ1世の治世下におけるロシア国家の財政政策の主要な方向性を述べよ。それはどのような結果をもたらしたか？
2. ニコライ1世がE.F.カンクリンに国家支出の増額を要求した際、カンクリンも同様の対応をしたことが知られている。大臣は皇帝に何と言ったと思うか？

9. 専門官僚制の形成。1830年代の法典化において、聖職者の権利と義務が明確に規定された（体罰の廃止、人頭税の免除、宿舎税とゼムストヴォ税の免除、兵役、土地購入の許可など）。当局は、教会があらゆる宗派や古儀式派と闘うのを積極的に支援した。これは第3部の主要な任務の一つと考えられていた。1853年には、分裂派の修道院と祈祷所を破壊する法令が発布された。しかし、迫害にもかかわらず、分裂派の数は減少しなかった。

低賃金のため、多くの官僚は賄賂を受け取っていた（これが彼らにとって生活の糧となり、家族を養う唯一の方法だった）。

官僚たちは地位にしがみつき、上司の怒りを買わないように国情を美化する傾向があった。そのため、ニコライ1世はしばしばロシアの現実に関する歪んだ考えに基づいて決定を下した。

権力の濫用に対しては対策が講じられた。監査官は国中を巡回して査察を行った。毎年、査察の結果、数千人の官僚が裁判にかけられ、重労働を含む様々な処罰を受けた。しかし、権力の濫用は根絶できなかった。



ニコライ1世治世下のロシアにおける官僚制の問題を整理せよ。それはロシア国家にどのような影響を与えたか？この問題はどの程度効果的に解決されたか？自分の意見の根拠を示すこと。

質問とタスク

1. 一連の出来事を整理せよ。国有農民の管理改革。皇帝陛下の官房第三部と憲兵隊の創設、土地登記制度の改革、ロシア帝国法の成文化、E.F. カンクリンの通貨改革、「義務農民」に関する法令など。
2. ニコライ1世の国内政策において決定的な影響を与えた要因は何か？2～3の論拠を挙げて自分の見解を正当化すること。
3. アレクサンドル1世が国内政治問題を解決するために創設した制度と、ニコライ1世が同じ目的で創設した制度を比較せよ。この比較からどのような結論を導き出せるか？
4. ニコライ1世とアレクサンドル1世の農民政策を比較せよ。この比較からどのような結論を導き出せるか？
5. ニコライ1世は農奴制を悪としたが、決して廃止しようとはしなかった。彼が廃止できなかった3つの理由を挙げること。
6. ニコライ1世が自らに課した国内政策の課題はどのように解決されたか？
7. ニコライ1世の治世中にロシア帝国に隣接するどの国で改革が行われたか？それらの国にはどのような共通点があり、ニコライ1世の改革とは何が違うのだろうか？

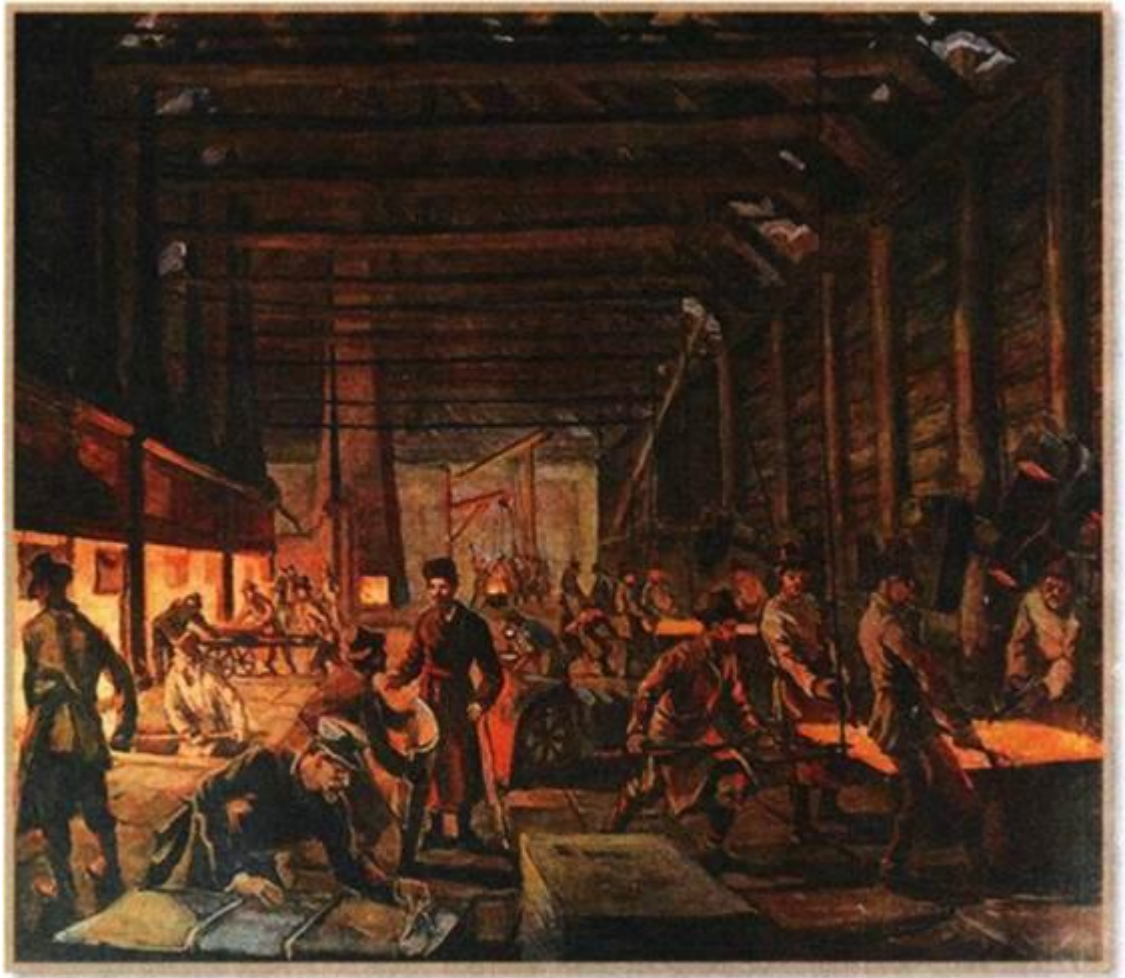
セクションの主な質問に対する答えをまとめること。



ニコライ1世の国内政策は、アレクサンドル1世の国内政策を継承したものだったか？

§ 9

19世紀前半の社会経済発展



ニジニ・タギル工場の葉刈り作業場（断片）。画家P.F. フドヤロフ、1830年代



19世紀前半のロシアの社会経済発展において、どのような新たな特徴が現れ、その要因は何であったか？



・ブルジョアジー ・ 船運搬人 ・ 資本主義的工場 ・ コロベイニキ
・ 職人 ・ 工場 ・ 労働者階級



・ Ch. ベルド ・ A.A. ボプリンスキー
・ E.A. チェレパノフ ・ M.E. チェレパノフ



1807年 - ハドソン川（アメリカ合衆国）に最初の蒸気船路線が開通

1825年 - 世界初の公共鉄道 ストックトン - ダーリントン（イギリス）

1840年代 - イギリスにおける産業革命の完成

1815年 - ネヴァ川に最初の蒸気船路線が開通

1830年代 - ロシアにおける産業革命の始まり

1837年 - ロシア初の公共鉄道 サンクトペテルブルク - ツァールスコエ・セロー 開通

1. 農奴制経営の危機と資本主義の発展。 19世紀前半、ロシアは依然として農業国であり、人口の95%が農業に従事していた。経済活動は主に農奴制によって規制されていた。地主制には、賦役と僭越の2つの主要な形態があった。この期間を通じて、農産物、特に穀物の需要は増加した（これは、国の人口増加、官僚や軍人の増加、そして輸出の増加によって促進された）。肥沃な黒土地域の地主たちは、収入を増やそうと、領主の耕作地を増やし、農民への割当農地を減らした。一部の農奴は割当農地を完全に剥奪され、家事農奴制または「月給農奴制」（後者の場合、農民は地主のために常に働き、月に一度食料や生活必需品を受け取った）へと移行された。しかし、あらゆる策略にもかかわらず、賦役地主の土地の収益性は着実に低下していった。農民は地主の土地でろくに働かなかった。「農民はできるだけ遅く出勤し、できるだけ頻繁に、できるだけ長く辺りを見回し、できるだけ働かない。何もすることがなく、ただ一日を過ごすだけだ」と、大地主A. I. コシェレフは記している。

1820年代以降、チェルノーゼム以外の地域では、地代金の滞納額（負債）が増加したが、地代金の額はそれほど上昇していなかった。実際、手工業の産物で生計を立てる農民の数が増え、農民同士の競争（そして新興の工場産業との競争）が激化したのだ。その結果、農民の生産物の価格は下落した。

贅沢な生活を手放したくなかった地主には、十分な資金がなかった。彼らは、例えば後見評議会といった様々な国家信用機関に土地を抵当に入れた。1796年には農奴の6%が抵当に入れられていたのに対し、1859年には農民の66%が抵当に入れられた。多くの地主は借入金の利息を支払えず、土地を失った。

こうして、農奴制は農民と地主の双方を破滅に追い込み、危機の時代を迎え、国家は崩壊の危機に瀕した。



地主の残骸。画家：K. A. トルトフスキー



この絵画のプロットは、ロシアにおける農奴制経営の危機を如実に示していると言えるだろうか？

ロシアにおける農奴制の危機は、新たな資本主義関係の発展を伴っていた。これは、雇われ労働者の増加からも明らかである。彼らは農奴よりも、より良く、より生産的に、そしてより効率的に働いた。なぜなら、彼らは自らの自由意志で働き、その労働に対して報酬を受け取っていたからである。

ロシアにおける雇用労働者数の増加

年	工業企業数	労働者数		
		農奴		家産
		雇用	所有	
1799	2094	33 500	14 700	33 600
1860	15338	12 000	91 000	462 000



ロシアの工業における全労働者のうち、雇用労働者の割合がどのように変化したかを計算しなさい。これらの変化は、ロシアの社会経済発展のどのような現象を示しているのだろうか？

しかし、農奴制が存在した国において、雇用労働者はどこから来たのだろうか？まず第一に、彼らは地主であり、国有農民であり、彼らは税金を納めるために収入を得ていた。都市の職人や小商人は、輸入品、工場、農民による工業との競争に耐えられず、労働者となった。こうして、ロシアに労働者階級という新たな社会階層が形成された。

企業家階級、すなわちブルジョワジーも形成されていった。工場を所有する地主に加えて、ブルジョワジーには商人や「資本家農民」もいた。こうした農民から、モロゾフ家、リャブシンスキー家、トレチャコフ家など、ロシア・ブルジョワジーの著名な家系が生まれた。



19世紀前半のロシアにおける農奴制農業の危機の原因を2、3挙げよ。

2. 農業。 19世紀前半、農業は主に大規模に発展した。1802年から1860年にかけて、耕作地面積は3,800万デシアティーヌから5,800万デシアティーヌに増加した。農民は通常、木製の鋤を用いて土地を耕作した。三圃輪作も依然として行われていた。彼らは主にライ麦、大麦、オート麦、小麦、キビなどの穀物を栽培していた。南部地域ではトウモロコシも栽培されていた。亜麻や麻などの工芸作物の栽培も拡大した。野菜の中で最も一般的だったのはタマネギ、カブ、そして冬に向けて酢漬けにされるキャベツだった。穀物の収穫量は依然として低く、通常、1デシアチンから4～5セントネル、1デシアチンあたり3～4セントネルしか収穫できなかった（つまり、1つの植えた穀物から3～4セントネルしか得られなかった）。頻繁な不作と家畜の死は、大規模な飢饉につながった。農民の家族で食事をする人の数は徐々に増加したが、一人当たりのパンの量は増加しなかった。政府は農民の支援に努めた。国家農民管理改革の一環として、当局はより生産性の高い作物としてジャガイモの導入を開始した。ロシアでテンサイ糖とヒマワリ油の生産方法が発明されたことで、農民はテンサイとヒマワリといった、それまで彼らにとって未知の作物を栽培するようになり、収入が増加した。



19世紀前半のロシアにおける農業の集約化の例を挙げよ。

3. 産業と都市開発。 中央部、主にチェルノーゼム以外の地域では、村全体が農作業に加えて、あるいは農作業の代わりに、何らかの手工芸に従事していた。つまり、様々な製品を少量ずつ手作業で生産し、販売していた。ウラジーミル州のイヴァノヴォ村は織物、トヴェリ州のキムリィ村はブーツ、ニジニ・ノヴゴロド州のパヴロヴォ村は金属製品などで有名だった。1850年代には、農民の手工芸品が全工業生産高の3分の2を占めていた。同時に、大規模産業の成長が徐々に加速していった。

19世紀前半のロシアの経済発展



賦役農業制度が普及していた地域が、販売用穀物の主な生産地でもあったという事実との間に関連があるだろうか？



モスクワ州ドミトロフスキー地区のシヴォズネセンスカヤ綿紡績工場とS. L. レペシュキンのブラッシュ工場が、強制労働によって運営されていた地域と、その地域との間には、何か関係があるのだろうか。1845年の版画。

強制労働を基盤とする旧来の農奴制工場は徐々に衰退していった。しかし、雇用労働者の労働力を利用する新たな資本主義工場の数は増加した。19世紀30年代、ロシアで産業革命が始まった。経営者たちは企業に機械を導入し始め、工場は工場へと変貌を遂げた。労働生産性は著しく向上した。19世紀初頭、工場の労働者は年間平均200ルーブルで製品を生産していたが、19世紀半ばには工場労働者は600ルーブルで生産していた。

当初、機械はイギリスからロシアに輸入された。1800年、スコットランド出身のC・バードがサントペテルブルクで蒸気機関の生産を開始した。19世紀半ばまでに、ロシアには約100の機械製造工場があり、必要な機械の最大70%を生産していた。

1834年、A・A・ボ布林スキー伯爵はトゥーラ州に製糖工場を設立し、農民にテンサイで地代を支払うことを義務付けた。その後、さらにいくつかの工場を開設した。彼の活動のおかげで、1850年までに砂糖は珍味から多くのロシア人にとって日常の食料へと変化した。

しかし、ロシアの産業の主力は繊維だった。19世紀前半には、ロシアの織物生産量は30倍に増加し、輸出が始まった。バフルシン家、グチコフ家、モロゾフ家、レペシュキン家、リャブシンスキー家、トレチャコフ家といったロシアで最も裕福な実業家たちが財を成したのは、繊維生産だった。経済システムにおいて、販売用穀物の主な生産者もいたのだろうか。

歴史上の人物。 サヴァ・ヴァシリエヴィチ・モロゾフ（1770-1860）は、ボゴロツキー地区ズエヴォ村の古儀式派農奴の家庭に生まれた。当初は絹織物工場で織工として働き、1797年にわずか5ルーブルの資本で自身の工房を開いた。サヴァは自らモスクワへ製品を運び、販売した。1820年代初頭、彼は家族全員と共に地主に1万7000ルーブルを支払い、自由の身となった。1838年、モロゾフは当時ロシア最大級のニコリスカヤ織物工場を開設した。



サヴァ・モロゾフの起業家としての成功は、1812年のモスクワ大火によって後押しされた。それはなぜだと思うか？

都市人口の増加は、国の社会経済発展の指標となることがある。19世紀前半、ロシアの都市数は630から1032に増加した（そのほとんどは人口5,000人以下の小さな町だった）。都市人口もそれに応じて増加し、280万人から610万人になった。最大の都市はサンクトペテルブルク（1863年までに人口54万人）とモスクワ（1863年までに人口46万2,000人）だった。



1. 19世紀前半のロシアで最も発展した産業は何か？また、その理由は何か？
2. 19世紀半ば、モスクワ住民の60%、サンクトペテルブルク住民の70%は農民出身だった。なぜだと思うか？2つの説明を挙げること。
3. このセクションのキャプションとなっているイラストを見る。このイラストには、工業都市のどのような特徴が見られるか？

4. 貿易。 国内貿易において、見本市が中心的な役割を果たした。毎年決まった時期に開催され、数日から数ヶ月にわたって続いた。最大のものはニジニ・ノヴゴロド（旧マカリエフスカヤ）市で、売上高は1億2500万ルーブルに達した。このほかにも、イルビツカヤ（シベリア）、コントラクトヴァヤ（キエフ）、コレナヤ（クルスク近郊）など、大規模な市が開催された。これらの市では、主にパン、家畜、農民工芸品が取引されていたが、徐々に工場製品、特に織物の割合が増加していった。

都市や大きな村では、商店や屋台の形で貿易が発展した。大都市では、民宿が建てられた。

訪問販売が広く行われ、行商人、つまりオフエニと呼ばれる行商人によって行われていた。

ロシアの対外貿易関係は徐々に拡大した。19世紀初頭、ロシアの主な貿易相手国はイギリス、フランス、中国であった。ロシアはオスマン帝国、イラン、中央アジアと貿易を行っていた。アメリカ諸国との貿易も発展しつつあった。当時のロシアの主な輸出品は亜麻、大麻、金属、木材、ラード、毛皮、穀物であった。ロシアはイギリスから綿織物、金属製品、染料を輸入していた。フランスは高級品やワインを、中国からは茶を、オスマン帝国からはドライフルーツやナッツを、イランからは絹を、中央アジアやアメリカからは綿花を、キューバやブラジルからは砂糖、コーヒー、ココアを輸入していた。



オフエーニャ行商人。画家：I. A. コシェレフ



N.A. ネクラソフの詩「行商人」の最初の2節は曲にされ、民謡として広く知られるようになった。なぜだと思うか？

19世紀半ばまでに、穀物はロシアのヨーロッパへの主要輸出品となった。木材、ラード、毛皮は依然として重要な位置を占めていたが、金属、亜麻、麻の輸出は減少した。この頃には、ドイツ諸国がロシアの主要な貿易相手国となっていた。機械、工具、その他の工業製品はドイツから輸入されていた。ロシア自身も、中国、イラン、トルコ、中央アジアへの工業製品の輸出を徐々に増加させ、主に織物、金属製品、砂糖が輸出された。全体として、1810年から1856年にかけて、ロシアからの輸出額は5,900万ルーブルから2億2,600万ルーブルに、輸入額は4,200万ルーブルから2億600万ルーブルに増加した。



1. 19世紀前半、ロシア居住者の様々な商品の購入費用は、一人当たり年間17コペイカから3ルーブル（40コペイカ）に増加した。この事実について、2つか3つの説明を述べること。
2. 19世紀前半、ロシアの対外貿易にはどのような変化があったか？ これらの変化について説明を述べること。

5. 輸送。19世紀前半の輸送手段は依然として水運と馬曳きであり、ロシアの主要な「道路」は依然として河川と運河だった。1804年から1805年にかけて、ドニエプル川と西ドヴィナ川、ネマン川、ヴィスワ川を結ぶオギンスキー運河とベレジンスキー運河が建設された。1808年から1809年には、マリインスキー運河とチフヴィン運河が開通し、ヴォルガ川上流域とバルト海が結ばれた。ヴォルガ川は最も重要な交易路だった。

穀物、羊毛、皮革を積んだ舢舨は、南部から中央部やサンクトペテルブルクへ、また織物、金属製品、木材などを積んだ舢舨は、河川や運河を通して往来した。舢舨曳き手は、流れに逆らって舢舨を引っ張った。1840年代には、約45万人の男女がこの重労働で生計を立てていた。

1815年、最初の蒸気船エリザベータ号がネヴァ川に登場した。この船はサンクトペテルブルクのCh.バード工場で建造された。1817年以降、蒸気船はヴォルガ川を航行するようになった。蒸気船建造の中心地は、ニジニ・ノヴゴロドのソルモフスキー工場だった。

馬車輸送は、荷馬車（馬、牛など）の力を牽引力として利用する、最も古い輸送手段である。馬は荷馬車、そり、荷馬車を牽引した。19世紀前半、ロシアで高速道路の建設が始まった。道路は、まず砂の層を敷き、その上に細かい砂利の層を敷き、側面に排水溝を掘るという手順で敷かれた。このような道路は、一年中どんな天候でも通行可能だった。しかし、1860年までにロシアにおける高速道路の総延長はわずか8,515マイルにまで縮まった。



ロシア初期の蒸気船の一つが見える、ペテルスブルクの島々とネヴァ川の眺め。
画家：T. A. ヴァシリエフ

ニコライ1世の治世下で鉄道建設が始まった。1834年、農奴領主のE. A. チェレパノフ父子とM. E. チェレパノフ親子が、ニジニ・タギルの工場でロシア初の鉄道と、自ら設計した蒸気機関車を建設した。

1837年、A. A. ボ布林スキー伯爵の私営企業が、ロシア初の公共利用鉄道を建設した。この鉄道は、サンクトペテルブルクとツァールスコエ・セローを結んだ。

1844年、サンクトペテルブルクのアレクサンドロフスキー工場で蒸気機関車と蒸気船の生産が開始された。

1843年から1848年にかけて、ワルシャワからオーストリア国境まで鉄道が建設され、オーストリアの鉄道網に接続された。

1843年から1851年にかけて、ニコラエフスカヤ鉄道が国費で建設され、サンクトペテルブルクとモスクワを結んだ。この作業には、農奴と国有農民から雇われた4万人の労働者が従事した。米国で購入した4台の蒸気掘削機が使用された。



1. ロシアにおける最初の鉄道建設の方向性をどのように説明できるか？
2. ロシア帝国の財務大臣E. F. カンクリンは、ロシアにおける鉄道建設を抑制しようとした。彼の見解を裏付ける2つか3つの論拠を挙げよ。

質問とタスク

1. 19世紀前半のロシアの社会経済発展の要因を列挙し、具体的な例を挙げて説明せよ。
2. 19世紀前半のロシアにおける農奴制経済の危機の理由を2つか3つ挙げ、具体的な例を挙げて説明せよ。
3. 19世紀前半のロシアで資本主義が発展したことを示す事実を3つか4つ挙げよ。
4. 19世紀前半のロシアとヨーロッパ諸国の社会経済的発展を、あなたが独自に定義した基準に基づいて比較せよ。この比較からどのような結論を導き出せるだろうか？
5. 19世紀前半、ロシアの都市はどのように変化しただろうか？ 3つの例を挙げること。
6. ロシアでは、織物を生産する工場や織物そのものが長い間「マニファクトリー」と呼ばれていたのはなぜだと思うか？

セクションの主な質問に対する答えをまとめること。



19世紀前半のロシアの社会経済的発展において、どのような新たな特徴が現れ、その原因は何だったか？

§ 10

ニコライ1世の外交政策



政治ビリヤード。19世紀イギリスの風刺画



ニコライ1世の治世下、ロシアはどのような外交政策上の課題に直面し、それらはどれほど効果的に解決されたのか？



東方問題・ジュズ



A.S. グリボエードフ・I.I. ディビチ・I.F. パスケヴィチ



1830年 - フランス七月革命

1831-1833年、1839-1841年 - トルコ・エジプト戦争

1830年 - ギリシャ独立

1826-1828年 - 露イラン戦争

1828年 - トルクマンチャイ条約

1828年 - 1829年 - 露土戦争

1840-1842年 - イギリスと中国間の最初の「アヘン戦争」

1841年 - 黒海海峡に関するロンドン条約

1848-1849年 - ヨーロッパ革命

1827年10月8日（20日） - ナヴァリノの海戦

1829年 - アドリアノーブル講和条約

1833年 - ウンキアル＝イスケレシ露土条約

1849年 - ハンガリー動乱鎮圧、ハンガリー動乱鎮圧

1850年代 - カザフスタンのロシア加盟手続き完了

1. ニコライ1世治世初期におけるロシアの外交政策目標。ニコライ1世が帝位に就いた当時、ロシアは外交政策の絶頂期にあった。その国境はポーランドからアラスカまで、白海からカスピ海まで広がっていた。そのため、帝国の外交政策は複雑かつ多様で、いくつかの方向性を持っていた。最も重要なのはヨーロッパ方面だった。ヨーロッパにおけるロシアの主要課題は、その指導力を維持し、大陸におけるあらゆる重要なプロセスに影響を与え続けることだった。この影響力の主な手段は、アレクサンドル1世の時代と同様に、神聖同盟だった。

二つ目の方向性は東方方面だった。ロシアはここで、南方国境の安全を確保し、黒海海峡（ボスポラス海峡とダーダネルス海峡）において自国に有利な体制を築き、トルコの支配下にある正教徒を保護し、後援し、コーカサス地方における勢力を確立しようとした。ニコライ1世の治世下、いわゆる東方問題が大きな重要性を帯びた。外交文書や歴史文献は、オスマン帝国の弱体化とバルカン諸民族のトルコ支配からの解放闘争の始まりに関わる一連の国際的矛盾を、このように描写している。この点において、ニコライ1世は、バルカン半島（ギリシャ、セルビア、ブルガリア、ワラキア、モルドバ）に独立した正教国家を創設し、ロシアの保護下に置くことを外交政策の目標とした。これらの計画の実行は、ロシアの影響力の大幅な増大をもたらした。そのため、他の列強（とりわけイギリス）は、ロシアの影響力拡大を阻止しようとした。

19世紀の第2四半期には、外交政策において中央アジアへの方向性が大きな重要性を帯びた。発展しつつあったロシアの繊維産業は綿花を必要としており、中央アジアはこの原材料の最も近い供給源であった。さらに、領土的にインドに近い中央アジアを併合することは、イギリスがオスマン帝国とコーカサスにおけるロシアへの対抗から目を逸らすことを目的としていた。

ニコライ1世の治世下、日本との外交関係が樹立され、極東方面への外交政策が議題に含まれた。これについては、後のセクションで考察する。



1. ロシアの地理的位置は、その外交政策の性質にどのような影響を与えたか？
2. ニコライ1世の外交政策の方向性のうち、課された課題を解決する上で最も困難だったのはどれだと思うか？2つの論拠を挙げて自分の意見を正当化すること。

2. 1826年から1828年にかけての露イラン戦争。1826年7月、イラン軍は宣戦布告することなくロシアのザコーカサス領土に侵攻した。シャー・ファト・アリーは、1804年から1813年の戦争での敗北の復讐を試みた。1827年、I.F.パスケヴィチ将軍の指揮下にあるロシア軍は、敵に数回にわたる大敗をもたらした。1828年のトルクマンチャイ条約により、東アルメニアのエリヴァン・ハン国とナヒチェヴァン・ハン国はロシアの領土となった。イランはロシアに銀2000万ルーブルの分担金を支払う義務があった。ロシア商人はイラン全土で自由に貿易を行う権利を得た。ロシア国民は治外法権を獲得した（つまり、犯罪を犯した場合、地方当局ではなくロシアの裁判所の管轄下に置かれた）。



トルクマンチャイで平和条約に調印するI.F. パスケヴィチ歩兵将軍とアッパース・ミルザ公爵。画家V.I. モシュコフ



この図のどの部分から、条約がロシアの条件で調印されたと結論付けられるか？

歴史上の人物。トルクマンチャイ平和条約の調印に参加した人物の一人に、喜劇『知恵の悲哀』の作者であるアレクサンドル・セルゲーヴィチ・グリボエードフ（1795-1829）がいる。グリボエードフは駐イラン・ロシア大使であり、平和条約条項の履行を監視する役割を担っていた。彼は、イランに捕らわれていたアルメニア人とロシア人の祖国への帰還を支援した。彼らは大使館に避難したが、地元の狂信者たちはこれに憤慨し、ロシア大使館を襲撃した。グリボエードフと彼の部下全員（1人を除く）は死亡した。ニコライ1世の怒りを和らげるため、シャーは有名なインドのダイヤモンド「シャー」を贈呈した。現在、このダイヤモンドはモスクワ・クレムリンのダイヤモンド基金に収蔵されている。



A. S. グリボエードフ。
B. 画家：I. N. クラムスコイ



喜劇『知恵の悲しみ』の主人公チャツキーはこう言う。「喜んで仕えるが、卑屈になるのはうんざりだ」。この発言はどういう意味だと思うか？劇作家はこの原則に従ったのでだろうか？自分の意見の根拠を示すこと。



ドイツの哲学者であり政治家でもあるF・エンゲルスは、「トルクマンチャイ条約はイランをロシアの属国にした」と述べている。これに賛成か？自分の意見を2つの論拠で裏付けること。

3. ロシアとトルコの関係。イランとの戦争と並行して、ロシアはオスマン帝国との戦争を余儀なくされた。1821年、オスマン帝国の支配に対するギリシャの反乱が勃発した。反乱軍は手痛い敗北を喫し、トルコ軍は容赦なく民間人を虐殺した。ロシア皇帝は曖昧な状況に陥っていた。一方では、信仰の兄弟たちを助ける必要があることは明らかだった。一方、ロシアは神聖同盟の主要メンバーであり、その目的は正当な君主に対する反乱と戦うことだった。アレクサンドル1世は反乱軍に熱烈的な同情を示していたが、あえて支援することはなかった。一方、ニコライ1世はすぐにギリシャの支持者であることを表明した。1827年7月、ロシア、フランス、イギリスは、オスマン帝国内でのギリシャの自治を宣言するロンドン条約に署名した。この条約では、トルコがヨーロッパ列強の決定を承認しない場合、トルコに対する軍事作戦を開始する可能性が規定されていた。

スルタンはこの最後通牒を拒否した。その後、ロシア、イギリス、フランスの連合艦隊が地中海に入り、1827年10月8日（20日）、ナヴァリノ湾でトルコ艦隊を壊滅させた。この後、イギリスとフランスはトルコの最終的な敗北を恐れ、敵対行為の終結を宣言した。しかしロシアはギリシャの反乱軍を支援し続け、1828年にオスマン帝国に宣戦布告した。



ナヴァリノ海戦、1827年。画家：I. K. アイヴァゾフスキー

戦闘はバルカン半島とコーカサスの二正面で行われ、トルコ軍は両戦線で敗北した。バルカン半島ではロシア軍の指揮官はI. I. ディビチ将軍、コーカサスではI. F. パスケヴィチ将軍が指揮を執った。

1829年9月2日、アドリアノーブル条約が調印された。条約に基づき、ロシアはドナウ川デルタ、アナパからポティまでのコーカサスの黒海沿岸、そしてトランスコーカサスのアハルツィへとアハルカラキを獲得した。ギリシャは1827年のロンドン条約に基づき広範な自治権を保証された（1830年、ギリシャは完全に独立した）。セルビアとドナウ川流域の公国、ワラキア、モルドバの自治が承認され、黒海海峡における貿易航行の自由が回復された。

アドリアノーブル条約の締結後、ロシアとトルコの関係は平穏を取り戻した。しかし、ロシア政府は依然として非常に重要な課題に直面していた。それは、海峡にとって最も有利な体制を確保することであった。ロシアは、黒海への航行をロシアとトルコの船舶のみに限定するという目標を設定した（ロシアの商船は地中海に自由に入港できる）。この目標については、まずトルコ（海峡の支配者）から同意を得る必要があった。トルコが自発的にこのような条件に同意しないことは明らかだった。サンクトペテルブルクで開催された東方問題特別委員会の会合で、オスマン帝国は軍事的に弱体であり、ロシア南部国境への脅威とはならないため、都合の良い隣国である、との決定がなされた。したがって、オスマン帝国と良好な関係を築き、必要であれば防衛することが必要である。この政策の一環として、ロシアはドナウ川流域の諸公国から予定より早く軍隊を撤退させ、アドリアノーブル条約に基づいて支払われる分担金の額を削減した。

1832年、当時オスマン帝国の領土であったエジプトで反乱が勃発した。ロシアはスルタンへの支持を表明し、3万人のロシア軍団がボスポラス海峡沿岸に派遣された。イギリスとフランスも反乱軍への圧力に加わった。エジプトは再びオスマン帝国政府に服従した。スルタンはニコライ1世の支援に感謝し、友好相互援助条約の締結を提案した。ロシア政府はこれに同意し、1833年にロシア・トルコ条約（ウンキアル・スケレッシ条約）が締結された。条約の条項によると、エジプトとの新たな紛争が発生した場合、ロシアはスルタンに軍隊を提供する義務があり、その見返りとして海峡における最も有利な統治権を得ることになった。特に、条約の秘密条項によれば、オスマン帝国はサンクトペテルブルクからの要請があれば、第三国の軍艦に対して海峡を閉鎖する義務があった。

オスマン帝国におけるロシアの影響力が強まることは、ロシア皇帝の影響力を弱めようとしたイギリス、フランス、オーストリア、プロイセンといった他の列強の目に留まった。1841年には、黒海海峡の運用を規定するロンドン条約が調印された。条約の条項によれば、平時にはいかなる国の軍艦も黒海海峡の通航を禁じられた。これはロシアの防衛力とイスタンブールにおける影響力の両方に深刻な打撃を与えた。



1. ニコライ1世はなぜアレクサンドル1世よりもギリシャを強く支持したと思うか？ 2つの説明を挙げること。
2. イギリス、フランス、オーストリア、プロイセンがロシアとオスマン帝国の和解に反対した理由を2つか3つ挙げよ。

4. ヨーロッパの外交政策の方向性。 1830年7月、フランスで革命が勃発した。貴族の利益を擁護していたブルボン家のシャルル10世は打倒され、反乱軍は「ブルジョア王」ルイ・フィリップ・ド・オルレアンを即位させた。1830年8月、ネーデルラント南部のカトリック諸州で革命が勃発した。地元住民はプロテスタントの北部から分離し、独自の国家を樹立しようとした。神聖同盟の原則に忠実なニコライ1世は、両革命を鎮圧するために軍隊を派遣する用意があった。しかし、1830年11月、ポーランド王国で蜂起が勃発した。ロシア軍はポーランドに派遣された。一方、イギリスとプロイセンは反乱を起こした南部ネーデルラントを擁護した。フランスへの内政介入の提案を支持する国はなかった。1839年、ロンドン会議において、ロシアはネーデルラントからの南部諸州の分離を承認せざるを得なくなり、ベルギー王国が成立した。

1848年2月、フランスで新たな革命が勃発し、共和国が樹立された。これらの出来事はヨーロッパ全土に広がる革命蜂起の原動力となり、プロイセンとオーストリアもその影響を受けた。ニコライ1世は神聖同盟の原則に従い、オーストリア皇帝を積極的に支援した。1849年、彼は反乱を起こしたハンガリーに対し軍を派遣した。さらに、軍の一部は新設されたワルシャワ鉄道で輸送された。ハンガリー革命は鎮圧され、オーストリア帝国は崩壊を免れた。

1848年から1849年にかけての革命の間、プロイセンはドイツ語圏のシュレースヴィヒ公国とホルシュタイン公国を奪取するため、デンマークを攻撃した。ニコライ1世は他の列強諸国と共に、この戦争においてデンマークを支援し、二度にわたりデンマーク沿岸に軍艦を派遣した。プロイセンは領有権を放棄せざるを得なかった。



1. ニコライ1世の治世末期、イギリスとフランスの新聞は彼に「ヨーロッパの憲兵」というあだ名をつけていた。彼はどれほどそのあだ名に値したのだろうか？ 2つか3つの事実を挙げて、自分の意見を正当化すること。
2. フランス革命を知ったニコライ1世は、ポーランドの要塞の整理を命じた。それはなぜだったと思うか？

5. ロシアの中央アジア政策。 アンナ・イオアンノヴナ皇后の治世下にも、カザフの部族連合であるズーズ（諸部族）がロシア帝国に自発的に加盟し始めた。彼らは中央アジア諸国や中国と困難な戦争を繰り広げたため、ロシアとの同盟を模索した。1731年から1732年にかけて、小ズーズと中ズーズはロシア国籍を取得した。アレクサンドル1世の治世下には、大ジュスのいくつかの部族がロシア国籍を取得した。その後、他の部族もそれに倣った。ニコライ1世の治世末期には、カザフスタン併合のプロセスは完了した。カザフの貴族は徐々にロシア貴族の一部となり、ロシア式の教育を受け、ロシア軍に従軍した。同時に、ロシアの農民やコサックがカザフスタン領土に移住した。要塞が築かれ、その周囲に都市が形成された。ロシアは中央アジア諸国と緊密な関係を築いた。この地域から綿花を輸入し、その見返りに砂糖、金属製品、織物を供給した。しかし、関係は不均衡で、貿易は常に軍事紛争に取って代わられた。それでもなお、中央アジアにおけるロシアの影響力は着実に拡大していった。



19世紀初頭のカザフ人。E.ヴェルニエによる版画



1. ロシアはカザフスタンのジュズ族の加盟要請を拒否できたと思うか？ 2～3つの論拠を挙げて、自分の意見を正当化すること。
2. 中央アジアがロシアに併合される可能性について、考えられる理由を2つ挙げよ。

質問とタスク

1. 一連の出来事を整理せよ。カザフスタン併合プロセスの完了、トルクマンチャイ平和条約、ロシア軍によるハンガリー革命の鎮圧、ウンキアル・スケレシ友好相互援助条約。
2. ニコライ1世治世下、神聖同盟はロシアの外交政策においてどのような役割を果たしたか？
3. ニコライ1世治世下、ロシアの主要な外交政策目標を列挙し、それぞれの解決策と結果の例を挙げよ。
4. ニコライ1世治世下、どの地域がロシアの一部となったか？これはどのような意味を持っていたか？
5. ニコライ1世の外交政策は、ロシアの社会経済発展の目標とどのように関連していたのだろうか。具体的な例を挙げて説明すること。
6. ニコライ1世は舞踏会で1848年のフランス二月革命について知ったという伝説がある。皇帝は舞踏会を中断し、「諸君、フランスは共和国だ！馬に鞍をつけろ！」と言った。その後、舞踏会を続けるよう命じ、自らも踊った。この伝説の起源をどのように説明できるか？皇帝のこの言葉と行動は何を意味していたのだろうか？

セクションの主な質問に対する答えをまとめること。



ニコライ1世の治世中、ロシアはどのような外交政策上の課題に直面し、それらはどれほど効果的に解決されただろうか？

§ 11 19世紀第2四半期の社会運動



ベリンスキーのペテルスブルク・サークル。画家 B.I. レベデフ



19世紀第2四半期のロシアの社会運動における主導的な潮流は何だったか？
その理由は？



西欧派・「知恵の社会」・スラヴ派・
「農民社会主義」理論・「公式民族」理論



I.S. アクサーコフ・K.S. アクサーコフ・A.I. ゲルツェン・V.G. ベリンスキー・
T.N. グラノフスキー・I.V. キレエフスキー・N.V. スタンケヴィチ・
S.S. ウヴァーロフ・A.S. ホミャコフ・P. ヤーチャアダエフ



1820年代 - 社会主義運動の勃興（A. サン＝シモン、Ch. フーリエ、R. オーウェン）

1831-1839年 - N. V. スタンケヴィチのサークル活動

1830年 - フランス七月革命

1836-1848年 - イギリスにおける
チャーティズム運動

1848年 - K. マルクスとF. エンゲル
スによる共産党宣言

1848-1849年 - ヨーロッパ革命

1833年 - 「公式民族」理論

1836年 - P. Ya. による『哲学書簡』チャアダエフ

1830年代から1840年代への転換期 - スラヴ派と
西欧派の台頭

1845-1849年 - ペトラシェヴィスト派の活動

1840年代末 - A. I. ゲルツェンによる「農民社会主
義」理論

1. 政治・哲学界。 デカブリストの敗北後、ロシアの社会運動は停滞と空虚に支配されるかに見えた。貴族の有力な代表者たちは首都から追放されたり、シベリアに流刑に処されたりした。しかし、デカブリストへの報復によっても、ロシアの運命を憂慮する人々が姿を消すことはなかった。1820年代から1840年代にかけてロシアの哲学・政治思想が発展した主要な中心地は、ニコライ1世の政策に反対する志を持つ人々のサークルであった。

最初に現れたサークルの一つが、1826年から1827年まで存在したクリツキー兄弟のモスクワ・サークルであった。クリツキー派とその同志たち（モスクワ大学の学生や若い官僚たち）は、デカブリストの自由主義思想を完全に共有していた。彼らはロシアに憲法を導入することを夢見、自由を愛する詩を朗読・配布し、国王殺害の可能性や布告による民衆への訴えを議論した。しかし、このサークルの活動は憲兵によって速やかに鎮圧された。投獄された後、メンバーは一般兵士として軍隊に送られた。

1820年代後半から1830年代初頭にかけて出現した新しいサークルは、既に異なる焦点を持っていた。彼らは政治思想から哲学的探求へと移行したのだ。A.I. ゲルツェン（著名なロシアの作家であり革命家）は後にこの頃を回想している。「1825年の幼稚な自由主義は...我々にとって...その魅力を失いつつあった。当時、若者の一部はロシア史の深く真剣な研究に没頭し、他の者はドイツ哲学の研究に没頭した。」ドイツ観念論哲学者、I. カント、I. フィヒテ、F. シェリング、G. ヘーゲルの著作において、進歩的な若者たちは、古いものと新しいものの絶え間ない闘争の結果として、世界と人間が低次の存在形態から高次の存在形態へと着実に発展していくという教えに魅了された。ロシアにおける最初の哲学サークルは「知恵の会」

（1823-1825年）とみなされ、V.F. オドエフスキー、D.V. ヴェネヴィチノフ、I.V. キレエフスキー、S.P. シェヴィレフらが参加していた。この会はデカブリストの反乱後に解散したが、かつての「知恵の探求者」たちは、M.P. ポゴージンが編集長を務めた雑誌「モスコフスキー・ヴェストニク」を通じて、自らの思想を広め続けた。

N.V. スタンケヴィチ（1831-1839）のサークルは、1830年代半ばのロシアの公的生活において重要な位置を占めていた。このサークルの創設者は、並外れた魅力と卓越した知性を備え、モスクワの有力者を磁石のように惹きつけた。このサークルには、V.G. ベリンスキー、M.A. バクーニン、K.S. アクサーコフ、T.N. グラノフスキー、M.N. カトコフ、Yu.F. サマリンなど、後に有名になる人々が数多く参加していた。



1. ロシアの社会運動が政治闘争から哲学サークルへと移行した2つの理由を挙げよ
2. 1820年代から1830年代にかけて、ロシアではどのようなドイツ哲学者の思想が人気を博したか？ それは、なぜか？



2. 「公式の国民性」理論。ニコライ1世の政府は、しばらくの間、哲学サークルの活動に干渉しなかった。ドイツ哲学は複雑なテーマであり、第3部の職員たちはその探求を急ぐことはなかった。1830年のフランス革命と1830年から1831年にかけてのポーランド蜂起の後、状況は一変した。ニコライ1世は新たな革命的激動を強く懸念し、ヨーロッパから伝わる「革命の伝染」に対抗できるイデオロギーを必要としていた。そのようなイデオロギーは、1833年に文部大臣S. S. ウヴァーロフによって生み出された。

彼は、ヨーロッパの人々は現世の生活を整えたいという欲望に駆られていると考えていた。だからこそ彼らは絶えず反乱を起こし、革命を組織するのだ。一方、ロシア人はヨーロッパ人とは異なり、政治に無関心である。彼らは正教という信仰のもと、謙遜と隣人愛というキリスト教の戒律に基づいて生活を整えようと努める。

A. S.S. ウヴァーロフ。

B. 画家 V.A. ゴリケ

だからこそ彼らは、父性的な態度で彼らを見守る独裁政権の手に、自らの運命を委ねたのである。これは、実はウヴァーロフが提唱した「公式民族」理論だった。皇帝の正教臣民の独創性、すなわち民族性は、彼らが自らの伝統を堅持し、外国の影響を拒絶する点にあった。ウヴァーロフの理論は皇帝を大いに喜ばせ、あらゆる大学と新聞に広めるよう命じた。最も熱心に説いたのは、モスクワ大学教授のM. P. ポゴージンとS. P. シェヴィレフだった、



「公式民族」理論が生まれた2、3の理由を挙げよ。「公式民族」理論はどのようにしてロシア帝国を革命的動乱から守るとされていたのだろうか？ なぜ一部の「賢人」がそれを支持したのだろうか。2つの説明を挙げること。

3. P.ヤ・チャアダーエフの演説。1836年、モスクワの雑誌『テレスコープ』は、P.ヤ・チャアダーエフの「哲学書簡」を掲載した。彼はナポレオン戦争に参加し、A.S.プーシキンと親交を深め、ドイツ哲学を深く研究していた。ウヴァーロフとは異なり、チャアダーエフは「ロシアはヨーロッパではない」という定式は、ロシアの不遇な運命を物語るだけだと考えていた。西側諸国に加わらなければ、ロシア国民はアジアとヨーロッパの間に宙ぶらりんになり、偉大な伝統も確固たる宗教的基盤も持たない。そのため、ロシアの現在では灰色で、未来は暗い。

チャアダーエフは「哲学書簡」の中で特にこう記している。「我々が生きてきた幾世紀にもわたる歴史、我々が占めてきたあらゆる場所を振り返ってみても、心に残る記憶、尊ぶべき記念碑など一つも見つからないだろう。（中略）我々は、過去も未来もなく、平坦な停滞の真っ只中、極めて限定された現在に生きているに過ぎない。」

チャアダーエフは、ピョートル1世とアレクサンドル1世がロシアをヨーロッパ文明に導こうとした試みは失敗に終わったと考えていた。「我々の血の中には、真の進歩を拒絶する何かがある」と彼は記した。チャアダーエフによれば、ロシアはヨーロッパ文明の成果に加わるためには、カトリックに改宗する必要があった。

ニコライ1世は「哲学書簡」を読み、その著者を精神異常者と宣告するよう命じた。チャアダーエフは自宅軟禁となり、医師まで任命されたが、医師は後に、これほど正気な人物を見たことがないと認めた。雑誌「テレスコープ」は廃刊となった、



P.Ya.チャアダーエフ。
画家 Ch. コジナ



1. 「公式国民性」理論の出現とチャアダーエフの「哲学書簡」の出版との間には関連性があると思うか？ 2つか3つの論拠を挙げて、自分の意見を正当化すること。
2. 「哲学書簡」出版の結果をどのように説明できるか？ 2つの説明を述べること。

4. スラヴ派と西欧派の論争。チャアダーエフの「哲学書簡」は、ロシアの思想家たちの間で論争を引き起こした。その多くはスタンケヴィチの仲間だった。チャアダーエフによるロシアの歴史、人類史への貢献、そして将来の可能性に関する評価は、彼らを支持派と反対派に分けたのではなく、別の観点からスラヴ崇拝者と西欧主義者に分けた。

最初に結成されたのはスラヴ崇拝者サークルで、1838年から1839年の冬に結成された。「スラヴ派」とは「スラヴの崇拝者、愛好者」を意味する。サークルには、I.V. キレエフスキー、K.S. アクサーコフ兄弟とI.S. アクサーコフ兄弟、Yu. F. サマリニンらが参加していた。サークルの指導者は詩人で哲学者のA.S. ホミャコフであった。スラヴ派たちは、ロシアは西側ではないと信じていた。



40年代のモスクワの応接室にて。画家B. M. クストディエフ

ロシアには「真の」社会構造の起源、すなわち正教があるのに対し、西側社会は「偽りの」合理主義、すなわち利益主義に基づいている。そのため、西側では利己主義、革命、無政府主義が蔓延しているのに対し、ロシアでは調和と協調（個人の利益が社会の利益に従属する）の社会が支配している。協調はすべてのスラヴ民族と正教民族の特徴である。したがって、彼らはいつかロシアと一つの国家に統合されるはずだ。しかし、ロシアには問題がある。かつてルーシでは、国家と「土地」（つまり社会）の間には平和と調和が保たれていた。専制政治は「土地」の問題に干渉するのではなく、それを保護していた。そして「土地」は権力を主張するのではなく、思想と言論の自由を有していた。国家と社会のこうした関係は、まずヴェーチェの活動に、次いでゼムスキー・ソボルの活動に体现された。しかし、ピョートル1世がロシアを西方発展の道へと導いたため、この調和は崩れ、修復する必要に迫られた。スラヴ主義者たちは、M. P. ポゴージンが主宰する機関誌「モスクヴィチャン」を通じて自らの思想を広めた。

西欧派のサークルは1840年頃に形成された。モスクワ派のリーダーはモスクワ大学のT.N. グラノフスキー教授、サンクトペテルブルク派のリーダーは著名な批評家V.G. ベリンスキーであった。メンバーにはA.I. ゲルツェン、I.S. ツルゲーネフなど多数がいた。




A.S.ホミャコフ。自画像


T.N.グラノフスキー。
画家 P.Z. ザハロフ＝チェ
チェネッツV.G.ベリンスキー。
画家 K.A. ゴルブノフ

西欧派の思想は、スラヴ人は長らく歴史の外にあり、ピョートル1世だけが「巨大なロシアに生ける魂を吹き込んだ」ものの「死の眠りに落ちた」という主張に集約される。ヨーロッパの道を辿ることで、ロシアは進歩に加わり、共通の発展の道を歩み始めた。ロシアには世俗的な科学、教育、芸術、文学が生まれた。しかし、選挙で選ばれた議会と憲法による専制君主制の制約はなかった。西洋派は、まず雑誌『オテチェストヴェニエ・ザピスキ』を通じて、次いで『ソヴレメンニク』を通じて自らの思想を広め、V.G. ベリンスキーが両誌で中心的な役割を果たした。

興味深い詳細。偉大なロシアの作家であり、西洋派の一員であったI.S. ツルゲーネフは、1840年代のロシアの自由主義者を次のように定義した。「『自由主義者』という言葉は、あらゆる暗黒で抑圧的なものへの抗議、科学と教育への敬意、詩と芸術への愛、そして何よりも、依然として農奴制の軛に縛られ、幸福な息子たちの積極的な援助を必要とする民衆への愛を意味していた。」

 1840年代のロシアの自由主義者とヨーロッパの自由主義者を比較し、2つの類似点と2つの相違点を見つけ、その相違点を説明せよ。

スラヴ派と西洋派はどちらも自らを自由主義者とみなしていた。彼らは皆、農奴制に反対し、当局に市民権と自由を与えるよう要求した。

 ロシアの自由主義者はなぜ西欧派とスラヴ派に分裂したのだろうか？ 2つか3つの理由を挙げる。検閲にもかかわらず、なぜ彼らは自らの思想を広めることができたのだろうか？ 2つか3つの説明を挙げる。

5. 最初のロシア社会主義者。1831年から1834年にかけて、モスクワ大学にはA.I. ゲルツェンとN.P. オガリョフを指導者とするサークルが存在した。このサークルのメンバーは、ドイツ哲学の研究からフランスの社会主義者A. サン＝シモンの著作の研究へと転向した。しかし、これらの思想を広めようとした際に逮捕され、サークルのメンバーの中には投獄された者もいた。ゲルツェンはペルミに、オガリョフはペンザに流刑された。



A.I. ゲルツェン。
画家 A.A. スブルエフ

歴史上の人物。アレクサンドル・イワノヴィチ・ゲルツェン（1812-1870） - 作家、哲学者、出版者、革命家。彼はロマノフ王朝と共通の祖先を持つ裕福な地主の私生児だった。13歳の時、ゲルツェンはデカブリスト蜂起の影響下、友人ニコライ・オガリョフと共にモスクワの雀が丘で自由のための闘争に身を捧げると誓った。亡命からモスクワに戻ると、西欧派に加わった。1847年、ゲルツェンはロシアから亡命し、まずパリ、次いでロンドンに定住し、自由ロシア印刷所を設立した。ここで彼は新聞（コロコルなど）や暦『北極星』を発行し、それらは後にロシアに違法に輸入された。ゲルツェンは、人類は資本主義から救われる必要があり、社会主義が勝利すればロシアが救われると信じていた。



ゲルツェンが独裁政治と闘う道を選んだのはなぜだと思うか？ 2つか3つの説明を述べること。

1840年代後半。社会主義のプロパガンダにおいて重要な役割を果たしたのは、創設者である外務省高官M.V. ブタシェヴィチ＝ペトラシェフスキーにちなんで名付けられたペトラシェフスキー・サークルだった。サークルの会合はサンクトペテルブルクにある彼のアパートで開かれ、M.E. サルトゥイコフ＝シチェドリン、F.M. ドストエフスキー、M.I. グリンカなど、多くの著名人が出席した。時が経つにつれ、サークルのメンバーはロシア革命の可能性について議論するようになった。その結果、サークルは憲兵によって壊滅させられた。メンバー（ドストエフスキーを含む）は死刑判決を受けたが、最後の瞬間に重労働に置き換えられた。

ヨーロッパに亡命中のA.I. ゲルツェンは、1848年にパリで起きた7月労働者蜂起の血なまぐさい鎮圧に衝撃を受けた。彼はヨーロッパはロシアの手本にはならないと結論づけ、独自の「ロシア的」あるいは「農民社会主義」理論を展開した。ゲルツェンは、ロシアの人口の90%が農民であり、彼らは共同体で暮らしていると指摘した。農民たちは土地を共同で利用し、困難な時期には互いに助け合い、選出された長老によって統治されている。つまり、農民の生活様式は社会主義に近いが、農奴制と専制政治によって抑圧されている。

これらを破壊しなければならない一方で、共同体は維持されなければならない。そして、それが将来の社会主義体制の細胞となるのだ。ゲルツェンはこう記した。

「我々が迎えようとしている新たな時代の課題は、科学に基づき、西洋の発展を必然的にもたらした中間形態を迂回し、個人の完全な自由へと向かう共同体の自治の要素を意識的に発展させることである。我々の新たな生活は、これら二つの遺産を一つの織物に織り込み、自由な個人が足元に基盤を持ち、共同体の一員が完全に自由な人間となるようにしなければならない。」



M. V. プタシェヴィチ＝ペトラシェフスキー。作者不明



1. ペトラシェヴィツ派の処罰の残酷さをどのように説明できるか？ 2～3つの立場を挙げること。
2. 「農民社会主義」理論が出現した2～3つの理由を挙げよ。ゲルツェンの「農民社会主義」とスラヴ主義者の思想との間に関連性はあるだろうか？

質問とタスク

1. ペトラシェヴィスキ派の敗北、フランス七月革命、ヨーロッパにおける革命、「公式民族主義」理論の創出、ロシアにおけるドイツ哲学への関心という一連の出来事を整理せよ。
2. 19世紀第2四半期のロシアにおける社会運動が、なぜ主にサークルや雑誌の形で発展したのだろうか？ 2～3つの説明を挙げること。
3. 19世紀第2四半期のロシアにおける社会運動の主な潮流を列挙せよ。それぞれの目標と活動方法を示し、指導者の名前を挙げること。
4. ニコライ1世の治世下、ヨーロッパの哲学とヨーロッパにおける出来事は、ロシアの社会運動にどのような影響を与えた？ 2～3つの事実を挙げること。
5. 社会運動の参加者の中で、その発展に最も大きな影響を与えたのは誰だと思いか？ 2～3つの論拠を挙げて自分の意見を裏付けること。
6. 19世紀第2四半期におけるロシア社会運動の発展の主な成果は何だったか？
7. 「農民社会主義」理論は、「公式民族主義」理論や西洋主義と何か共通点があるか？ 自分の意見を裏付けること。

セクションの主な質問に対する答えをまとめること。



19世紀第2四半期におけるロシアの社会運動において、どのような潮流が主導的なものだっただろうか？ その理由は何か。

§ 12 19世紀前半のロシア帝国の諸民族



1859年8月25日、総司令官A.I.バリャチンスキー公爵の前のイマーム・シャミル。
画家A.D.キフシェンコ



帝政ロシアは、ロシア帝国を統治する上で、国民の民族的・宗教的構成の特殊性をどのように考慮したのだろうか？



イマームカハル・ラントタグ・ミュリディズム・セイム・居住地の境界・ヤサク



A.I. バリャチンスキー・A.P. エルモロフ・N.I. コストマロフ・
T.G. シェフチェンコ・シャミル



1814年 - スウェーデン・ノルウェー連合

1817-1818, 1835-1842年 - アメリカとセミノール族の戦争

1817-1864年 - コーカサス戦争

1822年 - 外国人統治憲章

1824-1826, 1846-1853年 - 英緬戦争
 1830-1847年 - フランスによるアルジェリア征服
 1845-1846, 1848-1849年 - インドにおける
 英シク教徒戦争
 1846-1848年 - テキサスのアメリカ合衆国への
 併合、米墨戦争

1825年 - 北アメリカ領土の境界画定
 に関する露英協定
 1830-1831年 - ポーランド蜂起
 1832年 - ポーランド王国憲法の廃止

1. フィンランド、ポーランド、ベッサラビア、トランスコーカサス、アラスカ。 19世紀の最初の3分の1に、フィンランド、ベッサラビア、ポーランド、トランスコーカサス、アラスカという新たな領土がロシア帝国の一部となった。それぞれの領土は独自の特徴を持っていた。

フィンランドは大公国の地位を獲得し、皇帝の名代として総督が統治した。公国は自治権を有し、独自の法律、市民権、慣習、軍隊、郵便制度、そして通貨制度を有していた（1840年まで）。一部が選出されたセイム（下院）は正式には権力の代表機関とみなされていたが、実際には開催されなかった。公国の収入は国内の必要にのみ充てられた。人口の大部分はフィンランド人で、少数はスウェーデン人だった。両者ともルター派（プロテスタント）を信仰していたが、フィンランドの貴族、町民、そして聖職者の大部分はスウェーデン人だった。スウェーデン語は、政府、裁判所、軍隊、そして学校の言語だった。

ベッサラビアの住民の大部分（その半数はモルダヴィア人）は正教を信仰していた。1818年、アレクサンドル1世はベッサラビア地方設立に関する憲章に署名した。憲章によれば、民政長官が地方の統治者となり、主要な統治機関は地方最高評議会であり、評議会には任命された役人に加えて、貴族から選出された6人の議員が含まれていた。ベッサラビアの住民は徴兵を免除された。

1815年、アレクサンドル1世はポーランドに憲法を授け、これによりポーランドは広範な自治権を獲得した。独自の通貨制度、税関、軍隊、そして部分的に選出された代表機関であるセイム（下院）が与えられた。裁判所、事務、教育はポーランド語で行われた。しかし、ポーランド人は依然としてこの状況に不満を抱いていた。彼らは、1772年の国境内でロシアから独立したポーランド・リトアニア共和国の復活を望み、1830年11月にその試みを実行した。パリ革命に触発されたこの蜂起は、1831年にI.F.パスケヴィチ元帥率いるロシア軍によって鎮圧された。蜂起参加者の多くは国外へ亡命し、一部はシベリアへ流刑となった。1832年、ニコライ1世は憲法に代わるポーランド王国組織法を公布した。これに基づき、ポーランド王国はロシア帝国の一部となった。セイム（下院）、軍隊、そして独自の通貨制度は廃止されたが、独立した政府、裁判所、そして地方自治は維持された。



19世紀前半にロシアに含まれていた領土の地理的位置のどのような特徴が、それらの地域の自治の維持に貢献したのだろうか？



トランスコーカサスの人々はそれぞれ異なる宗教を信仰していた。グルジア人、ミングレリア人、アブハジア人、オセチア人は正教を信仰し、アルメニア人もキリスト教を信仰していたが、アルメニア使徒教会の特別な儀式に従っていた。アゼルバイジャン人、レズギ人、アジャリア人はイスラム教を信仰していた。ロシアに編入されてから最初の数十年間、トランスコーカサスにおける最高権力はロシア軍司令官が握っていた。主要な国家機関と裁判所はロシア人官僚が率いていた。しかし、その副官や補佐官は常に地元の貴族の代表者であった。法的手続きは通常、現地語で行われ、現地の法律が考慮された。

アラスカでは独自の統治システムが発達した。早くも1799年、パーヴェル1世は露米会社の設立を承認し、同社はアメリカの富を独占的に開発する権利を得た。同社の経営者は、ロシア植民地の主要な統治者でもあった。ロシア領アメリカの領土は、1825年に露英条約（北アメリカ領有権画定に関する条約）が調印された時点でほぼ形成された。1840年代までに、ロシアはユーコン川下流域と中流域にまでその支配権を拡大した。しかし、そこにロシア人入植者はほとんどいなかった、アラスカの主要住民は、地元のインディアン、エスキモー、アリュート人で構成されていた。



1. ロシア当局はフィンランド語普及運動には干渉しなかったが、1850年には宗教と農業に関するものを除き、フィンランド語の書籍の印刷を禁止した。これはなぜだと思うか？
2. 1828年、ニコライ1世はベッサラビア地方最高評議会から選出議員を排除した。どのような理由でそうすることができたのだろうか？
3. ニコライ1世が1840年に「トランスコーカサス地方統治に関する勅令」を發布し、ロシアの法律と司法制度をトランスコーカサス地方にまで拡大したのはなぜだと思うか？ 2つの説明を述べること。

2. バルト地域。バルト地域は、リヴォニア、エストニア、クールラントの3つの州から構成されていた。バルト地方の貴族、聖職者の大部分、そして町民の大部分はドイツ人だった。先住民であるエストニア人とラトビア人は、ほとんどが農民だった。

バルト地域の住民の大多数はルター派（プロテスタント）を信仰していたが、カトリック教徒、正教会、ユダヤ教徒もいた。多くのエストニア人とラトビア人は、ドイツの地主による抑圧から逃れようと、正教会に改宗した。ロシア当局はこの運動を奨励した。

バルト三国には独自の法律、裁判所、そして貴族が中心的役割を果たす選挙で選ばれた代表機関（ラントターク）があった。ドイツ語は教育、裁判所、そして政府の主要言語であり続けた。リヴォニアのドルパト大学では、授業は主にドイツ語で行われた。



グルジア人。
画家 G.-T. パウリ



ベラルーシ人。
画家 G.-T. パウリ



エストニア人。
画家 G.-T. パウリ

ロシア当局は、先住民の権利を拡大することでドイツの影響力を相殺しようとした。エストニア語とラトビア語による教育と出版の発展が奨励された。

? ロシア帝国において特別な地位を占めていたにもかかわらず、ロシア当局がバルト海地域における貴族の影響力を制限することを決定した理由を2つか3つ挙げよ。

3. リトアニア、ベラルーシ、ウクライナ。 リトアニア、ベラルーシ、ウクライナの各州は、全ロシア法によって統治され、農奴制が支配していた。しかし、ヴィリニウス市には主にポーランド語で教育が行われていた大学があった。1830年から1831年のポーランド蜂起後、この大学は閉鎖された。いくつかの学部はキエフに移され、1834年にはその学部を基盤として新たな大学が設立された。

1846年、キエフ大学の歴史学者N.I. コストマロフ教授の主導により、秘密結社「キリル・メトディオス同胞団」がキエフで結成された。この結社では、ウクライナの著名な詩人であり芸術家であったT.G. シェフチェンコが重要な役割を果たした。同胞団の目標は、ウクライナの民族的解放、農奴制の廃止、そしてすべてのスラヴ民族の連邦制への統合（ウクライナはこれに平等に参加することになっていた）だった。1847年、同胞団は当局によって摘発され、メンバーは逮捕された。罰として、シェフチェンコは10年間、遠く離れたロシアの駐屯地で兵卒として服役した。

? 「キリル・メトディオス同胞団」という名称について、どのように説明できるか？ ヴィリニウス大学の閉鎖と、当局によるキリル・メトディオス協会（同胞団）の破壊との間に関連はあるだろうか？ 自分の意見の根拠を説明すること。



ユダヤ人。
画家 G.-T. パウリ

4. ユダヤ人住民。多くのユダヤ人はロシア帝国領土、主に西部諸州に居住していた。彼らの主な生業は、工芸、小規模な貿易、そして高利貸しだった。

1846年密集居住地では、ユダヤ人コミュニティは選挙で選ばれた自治政府、カハル（ユダヤ人自治政府）を有していた。ユダヤ人は個人として自由だったが、2倍の人頭税を納めていた。彼らの権利は正統派ユダヤ人に比べて大幅に制限されていた。そのため、ユダヤ人は政府機関や公立教育機関への参加が認められなかった。彼らの居住地は居住地境界線によって制限され、ベラルーシ、ベッサラビア、リトアニア、ポーランド、ウクライナの特別に指定された都市に居住する必要があった。しかし、キリスト教に改宗した者は全ての制限から免除された。、キエフ大学の歴史

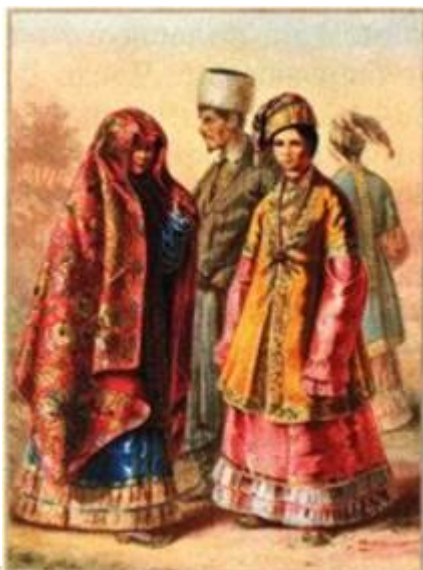
ニコライ1世の治世下、ユダヤ人の徴兵が始まりまった。政府はユダヤ人専用の学校網を整備した。

? ユダヤ人への徴兵と公立学校の設立について、どのように説明できるか？ ロシア当局のこれらの行動には統一された政策があるだろうか？その理由を説明すること。

5. ヴォルガ川、ウラル川、シベリア地方の諸民族。ヴォルガ川とウラル川流域では、ロシア人はモルドヴィン人、マリ人、ウドムルト人、コミ人、バシキール人、タタール人、チュヴァシ人などと混在して暮らしていた。バシキール人とタタール人はイスラム教を信仰していた。この地域における行政と法的手続きは、ロシア法に基づいて行われた。



カルムイク人。
画家 G.-T. パウリ



タタール人。
画家 G.-T. パウリ



バシキール人。
画家 G.-T. パウリ

1798年以降、バシキール人とメシェリャク・タタール人は、コサック軍と同等の地位を持つバシキール・メシェリャク軍を組織した。彼らは人頭税を納めず、国境で活動していた。

19世紀前半、シベリアの住民の大部分はロシア人（多くのコサックと古儀式派を含む）だった。彼らはロシア帝国の法律に従って統治されていた。1822年には、シベリアの先住民であるブリヤート人、ヤクート人、ハンティ人、マンシ人、ネネツ人、エヴェンキ人、チュクチ人などを対象に、非ロシア人統治のための特別憲章が制定された。帝政ロシア政府はシベリアの人々の内政に干渉しようとはしなかった。「非ロシア人」の主な義務は、ヤサク（毛皮税）の支払いだった。



1. ヴォルガ川とウラル地方の一部の民族がロシア帝国において特別な地位を有していたのはなぜだと思うか？
2. ロシア当局がシベリアの人々の内政に干渉しようとしなかった2つの理由を挙げよ。

6. 北コーカサスのロシアへの併合。19世紀前半の北コーカサスの住民は非常に多様で、100以上の民族がここに住んでいた。そのほとんどはイスラム教徒だった。地元住民はしばしば隣人を襲撃した。グルジアと北アゼルバイジャンの併合後、ロシアはこれに終止符を打とうとし、コーカサスの山岳地帯への勢力拡大を積極的に開始した。高地住民は激しく抵抗した。1817年から1864年まで続いたコーカサス戦争が勃発した。

1816年から1827年にかけて、コーカサスにおけるロシア軍の総司令官はA.P.エルモロフ将軍であり、高地住民に対する積極的な攻勢を指揮した。彼の命令により、グロズナヤ、ブルナヤ、ヴネザプナヤなどの要塞が建設され、山岳民が隠れていた森林は伐採された。ロシア当局に服従した山岳民は、伝統的な生活様式を営み、自由に宗教を実践することができ、人頭税や徴兵の対象にはならなかった。しかし、襲撃や奴隷貿易は禁止されていた。一部の山岳民（イングーシ人、カバルダ人、オセチア人）はこれらの条件でロシアへの参加に同意したが、他の者は闘争を続けた。



A.P.エルモロフ将軍
画家 P.Z. ザハロフ＝チェ
チェン

1820年代後半、チェチェンとダゲスタンではミュリディズムという宗教運動が広まった。その信奉者であるミュリディズム派はコーランを学び、イスラム法（シャリーア）を厳格に遵守し、容赦のない宗教戦争（ジハード）を行うことを誓った。彼らは、異教徒との戦いで命を落としたミュリディズム派は直ちに天国に行けると信じていた。ミュリディズム派はアヴァール人とチェチェン人の領土に独自の国家、イマーム（イスラム教指導者）を形成した。この国家の首長であるイマームは、宗教指導者でもあった。最も有名なイマームは1834年から1859年まで統治したシャミルである。彼は2万人の正規軍を編成し、武器と弾薬の生産を確立した。トルコとイギリスは彼に多大な援助を提供した。



北コーカサスのどのような地理的特徴が、ロシアによる併合に影響を与えたのだろうか？

シャミルは20年間にわたりロシア軍から自国を守り抜いた。しかし、イマームが課したシャリーア（イスラム法）は、高地の人々の伝統であるアダット（慣習）と矛盾していた。村々がシャミルを見捨て、ロシア国籍を受け入れるようになった。1856年、A・I・バリャチンスキー将軍率いるロシア軍は、弱体化するイマーム制圧者への攻撃を開始した。1859年、彼らはシャミルの最後の拠点であったグニブ村を襲撃した。シャミル自身は降伏した（彼は晩年の9年間にカルーガで過ごし、3階建ての大きな家を与えられていた。1869年、皇帝はシャミルにメッカへのハッジ（巡礼）を許可したが、その帰途、イマームは亡くなった）。しかし、戦争はシャミルの捕虜となっても終結しなかった。アディゲ人の頑強な抵抗は1864年によりややく打ち破られ、その後、彼らの多くは平原へ移住するか、オスマン帝国へ移住するかという選択を迫られた。



コーカサス戦争の理由を2つか3つ挙げよ。



グニブ近郊のロシア軍陣地。画家：I. F. アレクサンドロフスキー

質問とタスク

1. ゲルジアのロシア併合、ポーランド独立蜂起、イマーム・シャミルの治世、キュリロス・メトディオス協会（同胞団）の活動、外国人統治憲章の公布という一連の出来事を正しく記述せよ。
2. 19世紀前半におけるロシアの領土拡大は、ロシア国民の民族的・宗教的構成にどのような影響を与えたか？
3. 19世紀前半におけるロシアの領土拡大は、当時のロシア人作家の作品にどのように反映されているか？ 2～3つの例を挙げること。
4. 19世紀前半、ロシアのどの地域と民族が内部自治権を有していたか。その理由は何か？
5. 追加資料を用いて、ニコライ1世治世下のロシアとその近隣諸国における民族のおよび宗教的少数派の状況を比較せよ。この比較からどのような結論を導き出せるだろうか？

セクションの主な質問に対する答えをまとめること。



帝政ロシアは、ロシア帝国を統治する上で、国民の民族のおよび宗教的構成の特殊性をどのように考慮したのだろうか？

§ 13 クリミア戦争



セヴァストポリ防衛線。パノラマ絵画の断片。画家：F・A・ルボー



クリミア戦争はロシアの国際的立場にどのような影響を与えたか？ロシア帝国にとってどのような問題を明らかにしたか？



クリミア戦争



V.I. イストミン・P.S. ナヒーモフ・V.A. コルニーロフ・A.S. メンシコフ・E.I. トトレベン



1850-1864年 - 中国における太平天国の乱
1852/12/2 - フランス大統領ルイ・ボナパルトがナポレオン3世としてフランス皇帝に即位。第二帝政の始まり

1853/10/20-1856/3/18 - クリミア（東部）戦争
1853/11/18 - シノプの戦い

1854年4月 - オーストリアとプロイセンの間でロシアに対する防衛協定が締結

1854/9/2 - 英仏トルコ軍がクリミア半島のエウパトリア近郊に上陸

1854/10/5-1855/8/28 - セヴァストポリ防衛
1856/3/18 - パリ条約調印

1.戦争の原因と聖地をめぐる争い。 クリミア（東部）戦争は、ニコライ1世の治世のみならず、19世紀半ばのヨーロッパ史全体においても画期的な出来事であった。その直接的な原因は、一見すると大きな政治とは無関係に思える聖地をめぐる争いだった。1850年代初頭、パレスチナのカトリック教会と正教会の聖職者の間で、ベツレヘムのキリスト生誕教会とエルサレムの聖墳墓教会の鍵を誰が持つべきかをめぐる意見の相違から紛争が勃発した。直前に皇帝に即位したナポレオン3世は、この争いにおいてカトリック教会を支持し、ニコライ1世は正教会を支持した。当時キリスト教の聖地を領有していたスルタンはフランス側に付いた。1852年12月、キリスト生誕教会と聖墳墓教会の鍵はカトリック教会に引き渡された。

ニコライ1世は、ロシアはオスマン帝国による侮辱を容認しないと宣言し、戦争の準備を開始した。1853年1月、ニコライはイギリスを味方につけようと、オスマン帝国の領土を単純に分割することを提案した。イギリス大使G・シーモアとの会談で、ニコライはオスマン帝国を「病人」と呼び、滅亡の運命にあると非難した。ニコライは、モルドバ、ワラキア、セルビア、ブルガリアをロシアの保護領下の独立国家とすることを望み、クレタ島とエジプトをイギリスに譲ることを提案した。大使は、事態を急ぐ必要はないと返答した。ロシアの提案は却下された。イギリス政府はナポレオン3世とスルタンの側に立った。

2月、陸軍参謀総長A・S・メンシコフ公爵（ピョートル1世の有名な側近の曾孫）がロシア特命全権大使としてイスタンブールを訪れた。彼はスルタンに対し、正教会の聖地の管理権を返還し、オスマン帝国におけるすべてのキリスト教徒に対するロシアの保護権を正式に承認するよう要求した。最初の要求は満たされたが、二番目の要求は拒否された。その後、ニコライ1世はロシア軍に対し、スルタンの従属下にあるドナウ川沿岸諸公国、すなわちモルダヴィアとワラキアを「トルコがロシアの正当な要求を満たすまでの担保として」占領するよう命じた。これに対し、1853年10月4日、スルタンはロシアに宣戦布告した。10月20日、ニコライ1世は「オスマン帝国との戦争について」という宣言に署名した。



シノプの戦い 画家 A. P. ボゴリェボフ

ヨーロッパで始まったこの戦争は東方戦争と呼ばれ、ロシアの歴史学ではクリミア戦争と呼ばれていた。この戦争は2つの段階に分けられる。第1段階（1853年10月から1854年9月）では、主に敵国領土で軍事行動が行われた。第2段階（1854年9月から1856年3月）では、ロシア領土でも軍事行動が展開された。

? クリミア戦争の理由を2、3つ挙げよ。イギリスはなぜオスマン帝国の分割に参加しなかったのか。

P. S. ナヒーモフ提督
画家：E. リリエ

2. 1853年10月-1854年9月の軍事作戦の経過。当初、事態はロシアにとって有利に展開した。1853年11月18日、シノプの海戦において、トルコ艦隊はP.S. ナヒーモフ中將率いるロシア艦隊によって壊滅させられた。

興味深い点。シノプの海戦は、歴史上最後の帆船同士の大規模海戦であった。ロシア艦隊の勝利の日（現在の暦では12月1日）は、ロシア軍事栄光の日として祝われている。

トルコの敗北は、ヨーロッパ列強の参戦を加速させた。1853年12月末、英仏連合艦隊は「オスマン帝国領土を守るため」黒海海峡に進入した。1854年1月、ナポレオン3世はロシア軍に対し、ドナウ諸侯国の領土からの撤退を要求した。

クリミア戦争 (1853-1856)
黒海周辺の軍事動向



この最後通牒はニコライ1世によって拒否された。2月9日（同21日）、ロシアはイギリスとフランスに宣戦布告した。ヨーロッパ軍の侵攻を予期し、皇帝はドナウ川を渡ってブルガリアに入り、シリストリア要塞を占領するよう軍に命じた。しかし、指揮官であるI.F.パスケヴィチ元帥の遅さにより、この計画は実行に移されなかった。

3月15日（同27日）、イギリスとフランスはロシアに宣戦布告した。1854年4月には、英仏連合艦隊がオデッサを砲撃していた。7月初旬、イギリス軍は白海のソロヴェツキー修道院を砲撃した。7月下旬には、1万5000人の英仏連合軍上陸部隊がバルト海のオーランド諸島に上陸し、ボマルスンド要塞を包囲した。8月中旬、6日間にわたる強力な砲撃の後、守備隊は要塞を放棄した（9月初旬に始まったコレラの流行により、勝利した軍は島から追放された）。8月には、イギリス軍の砲撃により、コラ半島のコラ市がほぼ完全に焼失した。同時に、イギリス軍はカムチャッカ半島のペトロパブロフスクに上陸を試みたが、ロシア軍の小規模な守備隊に撃退された。

皇帝は最後まで、少なくとも神聖同盟の加盟国は、勃発した紛争において自身を支持してくれると信じていたが、その期待はひどく裏切られた。1854年4月、オーストリアとプロイセンはロシアに対する防衛同盟を締結した。間もなく他のドイツ諸国もこれに加わった。ロシアは孤立し、ウィーン会議以来積極的に推進してきた「干渉」政策の代償を払うことになった。ギリシャを除くすべてのヨーロッパ諸国は敵対的だった。1854年6月、オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフは、ロシア軍をブルガリアとドナウ川諸侯国から撤退させるよう要求した。撤退しなければ、オーストリアはイギリスとフランスに味方して参戦すると脅した。ニコライ1世はバルカン半島からの軍の撤退を命じたが、オーストリアの侵攻の可能性に備えて、西側の国境に大規模な軍勢を駐留させざるをえなかった。



1. 東方戦争において、ヨーロッパ列強がオスマン帝国側についたのはなぜか？ 2つか3つの説明を挙げる。
2. 英仏艦隊がロシアの沿岸都市や要塞を攻撃した目的は何だったか？ 2つか3つの説明にまとめる。

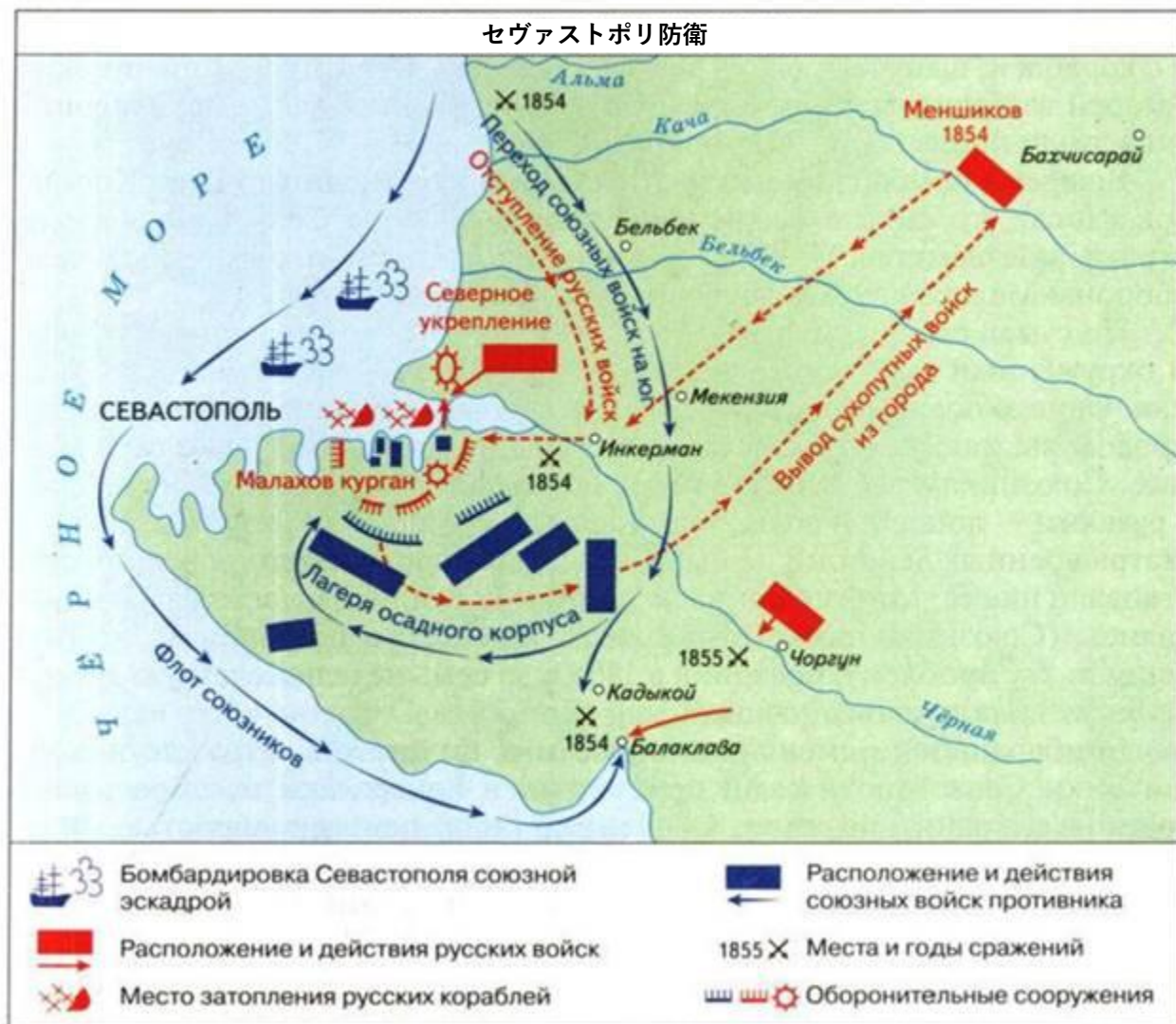
3. セヴァストポリの防衛。ロシアの敵はクリミア半島における主戦場、すなわちロシア艦隊の主要拠点であるセヴァストポリに攻撃を仕掛けることを決意した。1854年9月2日、イギリス、フランス、トルコの兵士からなる6万人の軍勢がエフパトリア近郊に上陸した。ロシア軍司令部はこれを阻止することができなかった。黒海艦隊は優勢な敵軍によってセヴァストポリで封鎖され、陸軍は海軍の砲撃を恐れて海岸に近づく危険を冒さなかった。

英仏トルコ連合軍との最初の大規模な戦闘は9月8日、アルマ川で行われた。A.S.メンシコフ將軍率いるロシア軍は、敵軍（3万5千対5万5千）に劣勢で、陣地を維持できず、バフチサライへ撤退した。セヴァストポリへの道は開かれた。当時、黒海艦隊の基地はわずか7千人ほどの小規模な守備隊によって守られていた。

興味深い点。アルマにおけるロシア軍の敗北は、メンシコフ率いる兵士たちが射程距離最大120メートルの滑腔砲を主に装備していたのに対し、イギリス軍とフランス軍は射程距離最大400メートルの施条砲を装備していたという事実によっても促進された。

1854年9月9日、セヴァストポリの軍事会議で、敵の海からの攻撃を防ぐため、黒海艦隊の最も古い帆船7隻を湾の入り口で沈めることが決定された。これらの船の砲兵と乗組員は、セヴァストポリ守備隊の強化に充てられた。1854年10月初旬、英仏トルコ連合軍はセヴァストポリを陸側から完全封鎖し、包囲戦が始まった。

セヴァストポリ防衛



なぜセヴァストポリ防衛がクリミア戦争の中心的な出来事となったのか？ 2つか3つの説明を挙げること。

都市の防衛は、黒海艦隊参謀長V. A. コルニーロフ中将が指揮した。包囲戦開始時には、セヴァストポリは優秀な軍事技術者E. I. トトレベンの尽力により、既に堅固な要塞化が図られていた。

最も激しい戦闘は、セヴァストポリを見下ろす高地、マラーホフ・クルガンをめぐる繰り広げられた。ここはロシア軍全体の防衛の要だった。クルガンを制するものが街を制するという明白な事実があった。セヴァストポリへの最初の砲撃は1854年10月5日に行われた。敵は陸地と艦船から約5万発の砲弾を発射した。ロシア軍の砲台からの反撃により、敵艦隊は撤退を余儀なくされた。その後も、このような砲撃戦が幾度となく繰り返された。



V.A. コルニーロフ。
画家: A.F. ペルシャコフ

マラーホフ・クルガンへの砲撃の最中、V.A. コルニーロフが亡くなった。彼の死後、セヴァストポリ防衛における最も重要な役割は、P.S. ナヒーモフ中将与、マラーホフ・クルガン防衛の直接指揮官であったV.I. イストミン少将によって担われるようになった。

都市を即座に占領できなかった連合軍は、戦力の増強を開始した。敵に包囲されたセヴァストポリにも増援部隊が輸送された。しかし、包囲側は包囲された側よりもはるかに迅速かつ大量の増援、武器、弾薬、食料を受け取った。連合軍は必要なものすべてを高速蒸気船で調達したが、ロシア軍は通行不能な道路を馬や牛に荷車を引かせていた。作戦地域の近くには鉄道はなく、幹線道路もほとんどなかった。多くの物資が途中で損壊し、しばしば盗難に遭った。（連合軍もクリミア半島の通行不能に悩まされたが、1855年にバラクラヴァから自陣地まで7週間で鉄道を建設することでこの問題を解決した。）

砲撃と攻撃、そして突撃が交互に行われた。セヴァストポリの守備隊は砲撃を撃退する一方で、自らも反撃を開始し、敵を元の陣地まで押し戻した。水兵ピョートル・コシュカ、イグナティ・シェフチェンコ、イヴァン・デムチェンコは、特に創意工夫と勇敢さで際立っていた。10歳のニコライ・ピシュチェンコ、12歳のマクシム・ルィバルチェンコ、そして14歳のクジマ・ゴルバチョフは、父親たちと共に勇敢に戦った。



1855年、マラーホフ・クルガンにて。撮影：D・ロバートソン



この写真には、クリミア戦争のどのような軍事技術的特徴が反映されているか？



防衛の英雄：A・エリセーエフ、A・ルィバコフ、P・コシュカ、I・ディムチェンコ、F・ザイカ。画家：V・F・ティム

セヴァストポリ防衛軍の一員として、砲兵将校であり作家でもあったL・N・トルストイがいた。彼は防衛戦中に『セヴァストポリ物語』の出版を始めた。

セヴァストポリの女性たちは、砲火で負傷した人々に包帯を巻き、水を運び、衣服を繕った。ダーシャ・セヴァストポリスカヤ、プラスコーヴィヤ・グラフォヴァ、そして他の慈悲の姉妹たちの名前が、防衛記録に名を残した。

優れたロシア人外科医N.I. ピロゴフと、彼と共に到着した看護師の派遣隊は、セヴァストポリの防衛軍に多大な支援をした。ピロゴフはギプスや麻酔といった革新的な医療技術を広く活用し、多くのロシア軍兵士、水兵、将校の命を救った、



1. 敵がセヴァストポリを封鎖できた理由を2つか3つ挙げよ。
2. クリミア戦争と1812年の祖国戦争には共通点があると思うか？ 少なくとも3つの事実を挙げて、自分の意見を裏付けること。
3. クリミア戦争は、ロシア帝国のどのような問題を露呈させたか？

4. 戦争の終結とパリ講和条約。1854年10月、A. S. メンシコフはセヴァストポリの封鎖解除を2度試みた。しかし、バラクラヴァ近郊での最初の戦闘ではロシア軍は目的を達成できず、インケルマン近郊での二度目の戦闘でも敗北を喫した。

皇帝はロシア軍の失策に深く心を痛めた。2月、閲兵式の最中に風邪をひき、体調を崩した。間もなく容態は絶望的となった。死の直前、ニコライ1世は皇太子アレクサンドルを召集し、長時間にわたり会談し、最後の指示を与えた。その中で彼はこう告げた。「私はあなたに指揮権を委ねるが、残念ながら、私の望んだ順序ではない。あなたには多くの仕事と苦労が残されることになる」。1855年2月18日、ニコライ1世は死去した。

その間も戦争は続いた。1855年3月、マラーホフ・クルガン防衛軍の指揮官、V.I. イストミンが死去した。5月、英仏艦隊はロシア・バルチック艦隊の主要拠点であるクロンシュタットに接近したが、ロシア人技師B. S. ヤコビの潜水機雷により攻撃を阻止された。同年6月末、P.S. ナヒーモフがマラーホフ・クルガンで戦死した。セヴァストポリは、その軍司令官の中で最も決断力があり、活動的な指揮官を失った。

ロシア軍は包囲された都市を救おうと再び試みたが、1855年8月初旬の黒河の戦いで再び敗北した。一方、連合軍は17万人以上の兵士をセヴァストポリ近郊に集結させ（サルデーニャ王国も反ロシア連合軍に加わった）、決戦の準備を開始した。その前に、800門の大砲による3日間にわたる激しい砲撃が行われた。1855年8月27日、包囲軍は強襲を開始し、多大な損害を被りながらもマラーホフ・クルガンを占領した。それ以上の抵抗は無駄だった。夜、ロシア軍と一部の民間人は、セヴァストポリ湾の南岸から北岸にかけての橋を渡った。敵は、この時既に煙を上げる廃墟と化していた都市に侵入した。

セヴァストポリ陥落後、反ロシア連合軍内で意見の相違が生じた。イギリス首相パーマストンとスルタン・アブドゥルメジト1世は戦争継続を望んでいた。1855年9月、トルコ軍はアブハジアに上陸し、西ジョージアへの攻勢を開始したが、大きな成果は得られなかった。一方、ロシア軍はトランスコーカサスで重要な勝利を収めた。1855年9月、N・N・ムラヴィヨフ将軍はトルコのカルス要塞の守備隊を降伏させた。ロシアは最小限の損失で戦争を終結させるチャンスを得たかに見えたが、12月中旬、オーストリアとプロイセンは反ロシア連合軍として参戦する用意があると表明した。アレクサンドル2世は和平交渉に同意し、列強の条件を受け入れざるを得なかった。

1856年3月18日、パリ講和条約が調印された。この条約に基づき、ロシアとオスマン帝国は黒海に艦隊、要塞、兵器庫を持つことを禁じられた（これは「黒海の中立化」と呼ばれた）。ロシアはドナウ川河口に隣接するベッサラビア南部の一部を割譲した。外国軍はロシア領から撤退した。ロシア軍はオスマン帝国の領土から撤退した。セヴァストポリはトルコから奪取したカルス要塞と交換された。



1. ロシア軍はなぜセヴァストポリから撤退しなかったのか？ 2つか3つの説明を述べること。
2. ロシアはなぜ敵の条件で和平を結ばなかったのか？ 2つか3つの説明を述べること。
3. クリミア（東方）戦争後、ロシア帝国の国際的立場はどのように特徴づけらるか？ それは同じままだったか、それとも変化したか？ 2つか3つの論拠を挙げて、自分の意見を正当化すること。

質問とタスク

1. セヴァストポリ防衛、聖地をめぐる争い、パリ条約の調印、シノップの戦い、カルス陥落という出来事を時系列で整理せよ。
2. クリミア（東部）戦争の原因を列举せよ。
3. クリミア（東部）戦争ではどのような軍事技術革新が用いられたか？
4. クリミア戦争で最も重要な出来事は何か？ その理由は？ 3つの説明を述べること。
5. クリミア（東部）戦争の結果はどうだったか？ この戦争はロシア帝国の完全な敗北に終わったと言えるだろうか？ 事実に基づいて、自分の意見を裏付けること。
6. ロシアで最初に撮影された長編映画の一つは、V. M. ゴンチャロフとA. A. ハンジョンコフ監督による映画『セヴァストポリ防衛』である。1911年に公開された。なぜこのプロットが選ばれたのだろうか？
7. クリミア戦争中、電信は初めて広く利用され、軍隊の統制や、ジャーナリストが戦場から新聞社にニュースを伝える手段として利用された。この点で、歴史家たちはクリミア（東方）戦争を最初の近代戦争と呼んでいる。なぜそう思うのだろうか？ 2つか3つの説明を述べること。

セクションの主な質問に対する答えをまとめること。



クリミア（東方）戦争はロシアの国際的地位にどのような影響を与えたか？ ロシア帝国にとってどのような問題を明らかにしたか？

章のまとめ

ニコライ1世は、ロシアの社会経済発展における諸問題の解決と外交政策上の利益確保に真剣に取り組んだが、専制政治の抑制については考えもしなかった。農奴制の弊害を認識していた彼は、敢えて廃止しようとはせず、農民の境遇を緩和し、貴族階級の強化を図った。彼の治世下、ロシアでは産業革命と鉄道建設が始まった。帝国の領土は拡大を続けた。神聖同盟の原則に忠実なニコライ1世は、1848年から1849年の革命においてオーストリア帝国を崩壊から救った。同時に、進歩的な人々がロシアの発展の道筋について少なくとも意見を表明しようとする試みは、容赦なく弾圧された。ニコライ1世の政策にとって深刻な試練となったのは、クリミア（東方）戦争だった。ロシアはヨーロッパ列強の連合軍に対して孤立無援となり、黒海における主権を犠牲にせざるを得なかった。

質問とタスク

1. ニコライ1世の治世における主要な出来事を、公的生活と国家政策の主要な分野において年表にまとめよ。
2. ニコライ1世の治世中、どの地域がどのような状況下でロシアの一部となったのか。これらの地域の中には、帝国の一部としてどのような政治的・法的地位を得たものがあり、その理由は何か？それらの政治的・法的地位はどのように、そしてなぜ変化したのか？
3. ニコライ1世時代の歴史上の人物を1人選び、「歴史は私を正当化した」というテーマで、その人物の演説（ミニエッセイ）を書く。その人物が何をしようとしたか（そしてその理由）、何を成し遂げたか（そしてその理由）、そして何を成し遂げられなかったか（そしてその理由）を書き留めること。
4. 歴史学には、様々な、しばしば矛盾する見解が表明される論争の的となる問題が存在する。その一つは、次のようにまとめられる。「ニコライ1世の外交政策はロシアの利益にかなっていた。」歴史的知識を用いて、この見解を裏付ける論拠を3つ、反証できる論拠を3つ挙げよ。それぞれの論拠を提示する際には、必ず歴史的事実を用いること。
5. 「ニコライ1世の変容」というテーマでレポートを作成することが課題として与えられた。レポート作成のための綿密な計画を立てること。

章の主な質問に対する答えをまとめること。



ニコライ1世は、その治世中、デカブリストが策定したロシア改革計画を実行しようとしたと言えるだろうか？

プロジェクトのトピック



1. 小さなことの中にある偉大さ：ニコライ1世時代の私の故郷（どのように暮らし、何に喜び、何に悲しみを感じたか）。
2. あらゆる時代の英雄：私の同胞、ニコライ1世時代の戦争参加者たち。
3. 時代の接触：私の小さな故郷における19世紀第2四半期の建築。
4. 抗しがたい魅力：小説、映画、コンピュータゲームにおけるニコライ1世時代。
5. 「彼らにとって、この血塗られた日の記憶は...」：コーカサス戦争参加者の和解を記念する記念碑のスケッチコンクール。
6. 音楽でイメージを描く：ニコライ1世の時代を題材にした詩（ラップ）のコンクール（サウンドトラックには19世紀第2四半期の音楽からの引用を含めること）。
7. 時代を捉える：ニコライ1世の時代の出来事をテーマにした絵で物語を描くコンクール。
8. クリミア戦争は第二次祖国戦争だったのか？
9. ニコライ1世は帝位に就いた軍事技術者だったのか？
10. ニコライ1世の時代は停滞だったのか？

章のリソース

1. 1810年から1811年にかけて、当時『ロシア国家史』を執筆していた著名な作家、N.M. カラムジン は、皇帝アレクサンドル1世のために「古代および近代ロシアに関する覚書」を執筆した。その抜粋を読んで課題を完了せよ。

これまで、体系的な立法について述べてきた。もしそれを実行できる人材がないのであれば、要求を抑えるべきである。そうすれば、ロシアにとって大きな利益となるだろう。...司法に関するあらゆる分野において、ロシアの法律または法令を網羅した完全な書籍を出版し、矛盾を整理し、不要なものを必要なものに置き換える。そうすれば、裁判官は、ある事件で皇帝アレクセイ・ミハイロヴィチの法典、海軍規則、そして20の法令（中には上院自体で見つけるのが難しいものもある）を参照する必要がなくなる。この要約書は、多大な努力や天才、あるいは優れた科学者の知識を必要としない...

ニコライ1世はこの文書の内容を知っていたと思うか？ 2つか3つの事実を挙げて、自分の意見を裏付けること。

2. 1847年、フランスで『ロシアとロシア人』という本が出版された。著者のニコライ・イワノビッチ・ツルゲーネフ（1789-1871）は、かつてロシア帝国の高官であり、同時に後のデカブリストの秘密結社のメンバーでもあった。彼はデカブリストの反乱には参加しなかったが、裁判にかけられた。ツルゲーネフはイギリス滞在中にこのことを知り、帰国を拒否した。裁判所はツルゲーネフに死刑判決を下した。彼の著書から抜粋を読んで、課題を完了せよ。

法律を公布するだけでは十分ではなく、執行されなければならないことは周知の事実である。無制限の権力を持つ場合、法の執行を保証するのは、その権力自身の監視のみである。したがって、法は幻想である。政府がいかに注意を払い、いかに努力しようとも、すべてを監督することは決してできない。そして、国が大きくなればなるほど、監督は難しくなる...。独裁者の権力は立憲君主の権力とは異なり無制限であるが、現実には独裁者は立憲君主よりも権力が小さい。そして、これは決して逆説ではない。絶対君主は、しばしばその最も小さな臣民よりもさらに大きな程度で奴隷であることが判明する...。ロシアの廷臣たちは、君主から真実を隠したり、歪曲したりするために、どんな策略にも訴えるだろう。例えば外務省には、皇帝に提出するために外国の新聞から必要な記事を抜粋する任務を負う部署がある。さて、これらの抜粋の編集者は、原本の内容が独裁者の気に入らないという理由だけで、原本との類似性を完全に失うような形で資料を提示することがある...

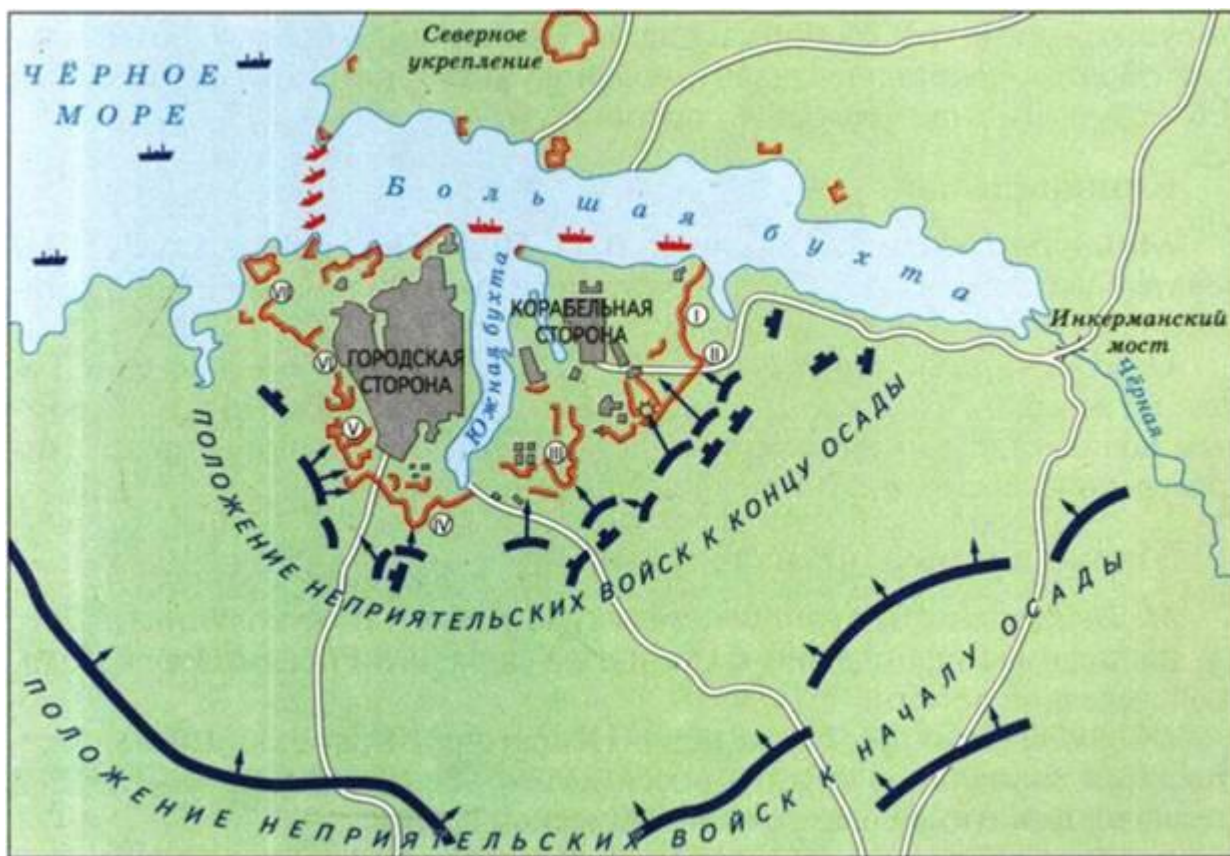
著者は、絶対権力の特徴としてどのような欠陥があると考えているか？ ニコライ1世の治世中にそれらは現れたか？ 事実に基づいて自分の意見を裏付けること。

3. 皇帝直属官房第3部の「1847年道德政治報告書」の抜粋を読み、課題を完了せよ。

西部諸州で関税を均等化し、税負担を軽減するために目録を作成したことで、農民たちは、自分たちは至高の存在によって自由を与えられたのに、地主たちはそれを秘密裏に隠そうとしているという誤った考えを植え付けられた...その後まもなく、ヴィテブスク州で騒乱が発生した。モスクワ鉄道で3年間働いた農民たちが自由を与えられるという噂が広まったのだ。食糧不足で疲弊した農民たちは、これらの噂を簡単に信じ、財産を売り払い、農具を破壊し、村を去っていった...ヴォロネジ県では、この県の逃亡住民からトランスクバン移住者によって、あたかも地主の農民がコーカサスへの移住を許可され、そこで利益を与えられるかのような偽の噂が広められた...昨年、すべての社会で議論の主な話題となったのは、陛下が農奴に完全な自由を与えたいと確実に思っているという、理解しがたい確信であった。この自信は、既存の秩序の突然の変化が農民の不服従、不安、さらには暴動につながるのではないかという恐怖をあらゆる階級に植え付けた...国民の大多数は、ヨーロッパ諸国における農民の自由は、自由から期待されるべき幸福な生活をもたらしておらず、むしろ自由が増すほど混乱も増すと主張している...抵当権が設定された土地が競売にかけられた場合に農民に自由を買い取る権利を与えるという法令は、地主に悲観的な印象を与えた。農民は地主を窮地に追い込むために滞納地代金を増額し、彼らの破産に乗じて自由を買い取ろうとするだろうと指摘する者もいる...

1) この文書では、農奴に関するどのような改革が論じられているか？農民と地主の反応を説明すること。2) この文書では、ロシア経済におけるどのような新しい現象が論じられているか？この現象の理由を説明し、ロシアの社会経済発展への影響を列挙すること。3) この文書が出版された当時、コーカサスではどのような出来事が起こっていたか？これらの出来事が、「地主の農民がコーカサスへの移住を許可され、そこで恩恵を与えられるという噂」を引き起こした可能性はあるか？4) この文書の著者は、「過去1年間、あらゆる社会における議論の主題は、陛下が農奴に完全な自由を与えたいと確実に考えているという、理解しがたい確信であった」と主張している。著者がこの主張を裏付けるために用いている立場を本文から探すこと。この文書の著者は実際にはこの確信を理解していないと言えるだろうか？本文中の事実を用いて、自分たの意見を裏付けること。

4. この図にはどのような出来事が反映されているか？その始まりと終わりの日付を明記すること。この出来事が我が国の歴史にとってどのような意義を持つのかを説明せよ。





推奨図書・映画・音楽

ポピュラーサイエンス

L. M. リャシェンコ『ニコライ1世 偶然の皇帝』。作者の視点から見ると、偶然、そして血なまぐさい悲劇的な状況下で皇帝となったニコライ・パーヴロヴィチは、国政だけでなく、国民の心と魂の秩序回復にも熱心に取り組み始めた。そして、その結果はこうなった。「かつて貴族の名誉と市民の義務感、すなわち公道の規範であったものが、突如として『上からの』命令と化したのだ。」M.-P. レイ「恐ろしい悲劇 1812年の新たな視点」フランスの歴史家が、膨大な歴史資料を使って、ロシア軍とフランス軍の日常生活を魅力的で印象的な詳細で描写している。

フィクション

Yu. N. トゥイニャーノフ『ヴァジール＝ムフタルの死』。A. S. グリゴエードフの晩年を描いた小説。

L. N. トルストイ『ハジ・ムーラト』。物語の主人公は、コーカサス戦争に参加した実在の歴史上の人物である。著者は主人公の内面のドラマを描き出し、民族的憎悪を超えた素朴な人間関係を描き、戦争の悲劇的な無意味さを論じている。

A. I. ゲルツェン『過去と思索』。人物や出来事の描写の広範さ、率直さの深さ、そして魅力的な表現において比類のない回想録である。

ザハール・プリレーピン『小隊 ロシア文学の将校と民兵』。デルジャーヴィンからプーシキンまで、ロシア文化の黄金時代を代表する11人の傑出した人物たちの伝記。彼らは才能、自由な思考、愛国心、軍人としての勇気、そして行政能力を驚くほど融合させていた。

映画

『アドミラル・ナヒーモフ』（V. I. プドフキン監督、1946年、ソ連）。ソ連の歴史映画の傑出した例であり、細部まで正確に描写され、戦争の雰囲気を与えている。

『賭博者たち』（R. G. ヴィクチュク監督、1978年、ソ連）。ニコラエフのロシアにおける日常生活の興味深いエピソードを数多く盛り込んだ、N. V. ゴーゴリの「泥棒が盗んだ棍棒」という不朽の名作喜劇を、ヴィクチュク監督は悲劇へと昇華させた。

音楽作品

M. I. グリンカ「過ぎ去りし歌」（N. V. クコーリニク作詞）。ロシア初のツァールスコエ・セロー鉄道開通のために特別に作曲された歌。

「行商人たち」（N・A・ネクラソフ作詞）。19世紀半ばのロシア社会において、経済活動において重要な役割を果たした社会階層の代表者を鮮やかに描いた作品。



III

19世紀前半の社会の精神生活



プーシキンとベンケンドルフ。画家 A. V. キターエフ

「ある急使が、私を不本意な孤独から突然引きずり出し、郵便でモスクワ、そしてクレムリンへと直行させ、埃まみれの私を皇帝の執務室へと連れて行った。皇帝は私にこう言った。『やあ、こんにちは、プーシキン。お帰りになってよかったか?』私は、こういう場合の礼儀としてそうだと答えた。皇帝は長い間私と話し、こう尋ねた。『プーシキン、もしあなたがペテルブルグにいたら、12月14日の事件に参加したかどうか?』—『当然のことながら、閣下、私の友人は皆陰謀に加担しており、彼らを一人にしておくことは不可能だった。私が不在だったことが私を救った。そのことに天に感謝する。』『お前は実に悪さをしたな』と皇帝は反論した。「これで正気に戻り、今後は意見の相違が生じないように願う。書くものはすべて私に送ってくれ。これからは私が君の検閲官となる。?」

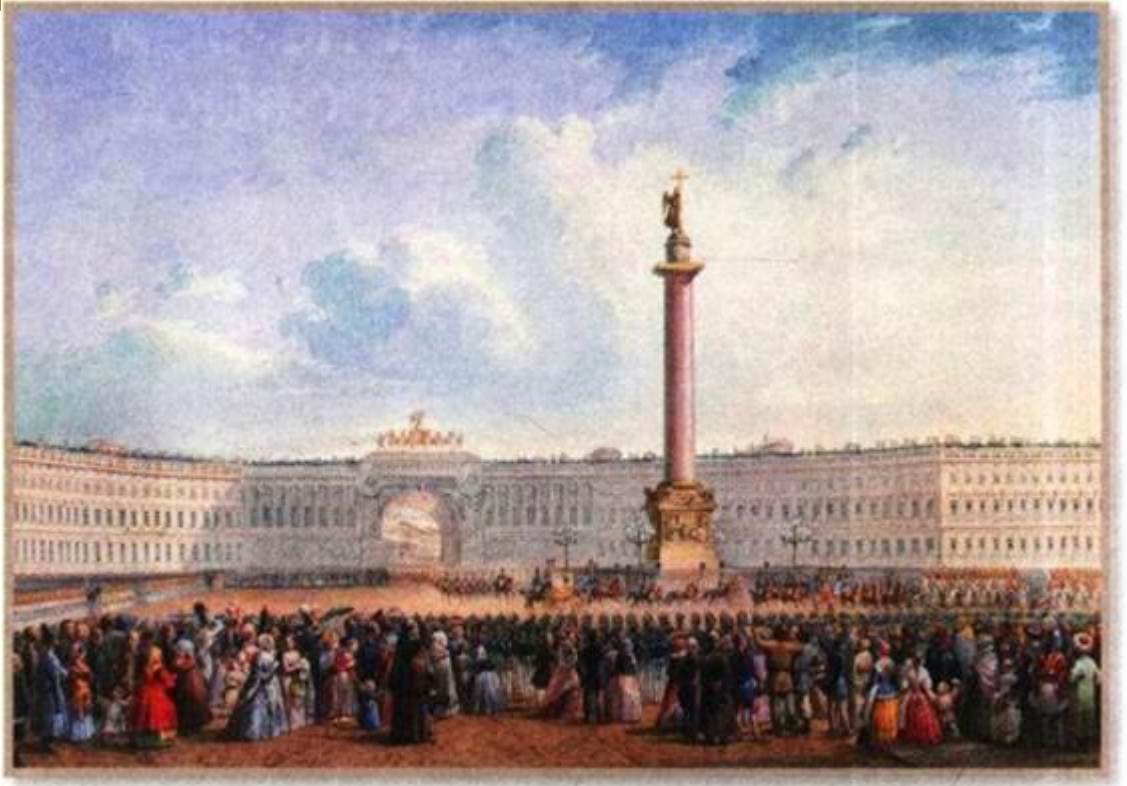
A. S. プーシキンが引用したA. G. ホムトヴァの回想録より



19世紀前半、ロシア文化はどのような状況下で発展し、それがその成果にどのような影響を与えたのか?

§ 14

19世紀前半のロシア帝国の文化空間



サンクトペテルブルクの宮殿広場と参謀本部ビルの眺め。画家V. S. サドヴニコフ



19世紀前半のロシア帝国の文化空間の特徴はどのようなもので、人々の日常生活にどのように反映されていたのだろうか？



インテリゲンツィア・文化空間



サロフのセラフィム

1. 19世紀前半のロシア帝国の文化空間の特徴。文化とは、あらゆる人間の活動とその成果である。文化空間とは、こうした活動が行われる国と社会である。19世紀前半のロシア帝国の文化空間を特徴づけるものとして、以下の特徴が挙げられる。

- 広大な国土
- ロシア正教徒が多数を占める、民族的にも宗教的にも多様な大規模人口
- 文化と社会の発展を厳しく統制しようとした独裁的な国家権力
- 社会の階級構造
- 政治、経済、文化面でヨーロッパ諸国との緊密な交流
- 都市の発展、教育、科学の発展を加速させた産業革命

ロシア文化の重要な特徴は、その開放性、柔軟性、そして他の文化、とりわけヨーロッパ文化の要素を借用する能力であった。ヨーロッパからロシアにもたらされた新しい様式や流行は、ロシアの作家、芸術家、彫刻家によって見事に吸収され、作品においてさらなる発展を遂げた。文学と絵画におけるロマン主義、建築における古典主義は、ヨーロッパ諸国とほぼ同時に、自国独自の要素を取り入れながら、我が国で確立された。

19世紀初頭のロシア文化の発展は、前時代、すなわち啓蒙思想と密接に結びついていた。しかし、当時の主要な起点は1812年の祖国戦争だった。V.G. ベリンスキーが1812年から「ロシアに新たな生命が始まった」と書いたのも、当然のことだった。さらに、彼の見解では、それは「外的な壮麗さや輝き」ではなく、社会における「市民意識と教育」の内的発展であり、「この時代の成果」であったとされていた。

デカブリスト、すなわち「12歳児」たちは、社会政治思想と文化全体の発展に多くの新しい貢献をした。彼らの運動は、ロシアの運命に責任があると自認した「教養ある少数派」（A.I. ゲルツェンの言葉）であるロシアインテリゲンツィアの形成の始まりを示した。デカブリストの敗北は、精神的・知的環境の発展を阻むものではなかった。

政府は西側からのあらゆる文化的潮流を警戒し、それらを潜在的な「反乱」と見なしていた。民族性、すなわち真にロシア的な伝統への訴えかけが重視された。しかし、ニコライ1世の政府はロシア文化を西洋の影響から完全に守ることに失敗した。



19世紀前半のロシアの文化空間がどのように発展したかを示す具体的な例を挙げよ。

2. 農民文化。 研究対象期間のロシア文化の重要な特徴は、その階級構造だった。貴族文化と民衆文化の交差点はほとんどなかった。

農民文化の特徴は、その伝統主義だった。あらゆるもの（日常生活、土地の耕作、創造性、信仰）における継続性が、農民の生活様式の基盤となっている。自然との親密さ、自然への依存は、ロシアの農民を無意識のうちに保守化し、実績のある方法や慣習の支持者にした。同時に、（都市からの）革新は農村にも現れたが、ゆっくりと根付いていった。bb

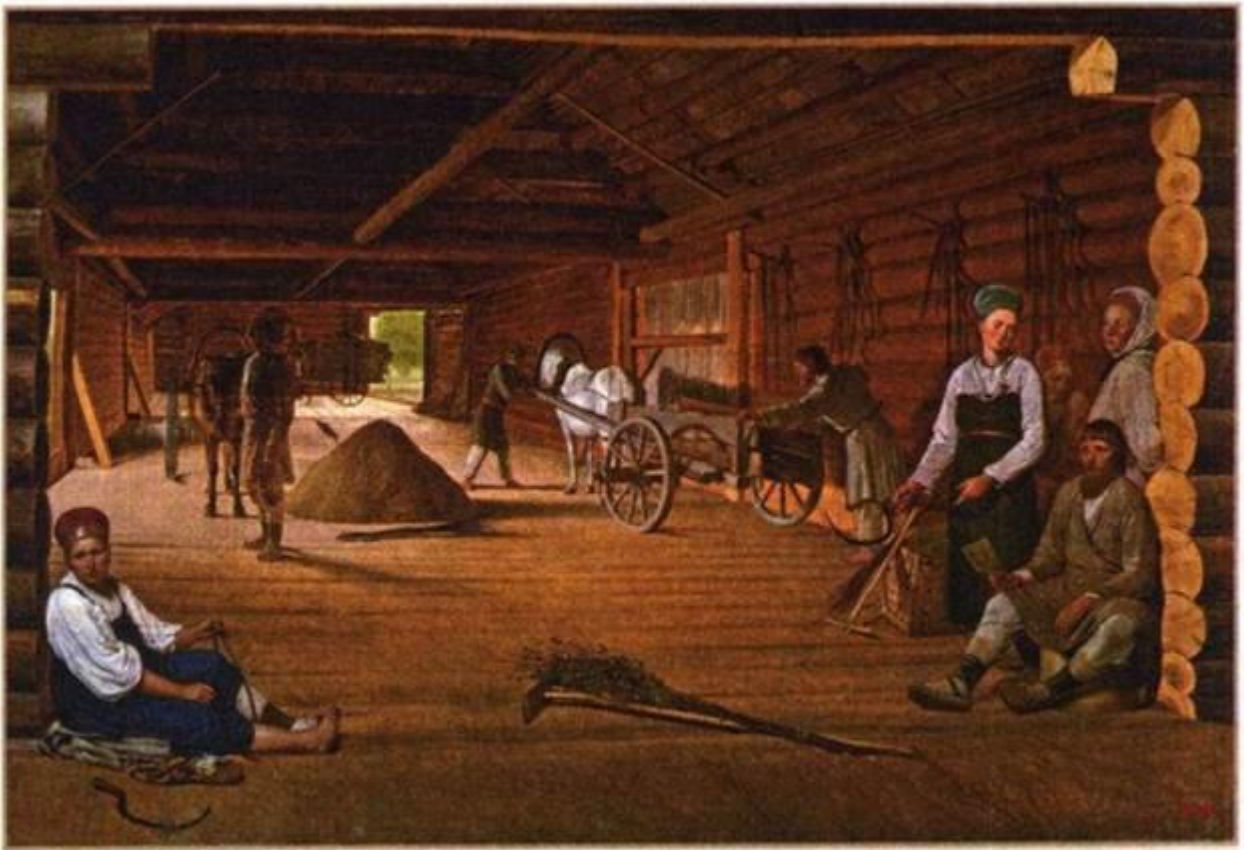
農民の生活は、何世紀にもわたって実質的に変化しなかった。ロシアの村の労働リズム、平日と休日の交替は、自然の周期の変化と農作業の性質（播種、収穫、脱穀）によって決定された。

農民の生活において、二つの制度が大きな役割を果たした。それは、共同体（世界）と家族である。共同体は慣習法によって厳密に規制されていた。つまり、ロシアの農民の心の中には、常に慣習に基づく法秩序の概念があった。

プロイセンの旅行家でロシア探検家であったアウグスト・フォン・ハクストハウゼンはこう記している「ロシアの共同体には...他のどの国にも見られないほど強い社会力と秩序がある...人は貧しくなっても...そのことで子孫が傷つくことはない。彼らは依然として...共同体法によって土地を受け取る...父親の相続人としてではなく、共同体の一員として...」

家族は、農民の困難な生活における主な支えだった。19世紀半ばの農民一家の平均人数は9～10人だった。結婚した息子たちは父親の畑を急いで離れず、父親も彼らを急いで手放すことはなかった。

農民の家庭では、幼い頃から労働技術が教え込まれ、9歳になると男女ともに既に両親を力一杯手伝っていた。



脱穀場。画家 A. G. ヴェネツィアノフ



農民の間で主流だった活動形態は何だったか？

農民の家族は小屋に住み、その周囲には穀物を貯蔵する納屋、牛小屋、小屋などの離れ家が並んでいた。主な建築材料は木材だった。小屋の屋根は主に藁で覆われ、不作の年には牛の飼料として使われた。薪は照明として使われた。ストーブは家の面積のほぼ4分の1を占めていた。暖まるまでには数時間かかったが、一度暖まると熱を保ち、24時間部屋を暖めた。

農民の日常の食事は、パン、お粥、キャベツ、牛乳だった。魚はあまり食べられず、肉は祝日にしか食卓に並ばなかった。彼らは通常、水だけを飲んでいて、祝日には、クワス、ビールなどの飲み物が作られた。

農民の精神生活は、迷信と奇妙に混ざり合った宗教によって規定されていた。ロシアの農民は小屋の入り口にあるイコンに十字を切って、ブラウニーに「餌」を与えによく出かけ、家事を手伝わせた。18世紀、ロシア社会全体で宗教心の衰退が見られた。多くの修道院が空っぽになった。しかし、19世紀初頭になると、状況は変わり始めた。その証しの一つが、偉大なロシアの禁欲主義者、サロフの聖セラフィムの生涯である。

歴史上の人物。後に聖なる長老サロフのセラフィムとなるプロホル・モシュニン（1759-1833）は、名門商人の出身だった。彼は生涯商売に携わることを運命づけられていたが、27歳の時、タンボフ県の有名なサロフ庵で修道誓願を立て、セラフィムという新しい名前を授かった。彼は約15年間、深い森の中で孤独に暮らし、自ら築いた菜園と養蜂場で食料を蓄えていた。その後、修道院に戻ったが、そこでも長年沈黙の誓いを守り続けた。隠遁生活、つまり絶えず祈りに明け暮れ、誰とも口をきかなかった。1825年になってようやくセラフィムは隠遁生活から解放された。その頃には、彼の功績はロシア全土に知れ渡っていた。あらゆる年齢、あらゆる身分の人々が彼に惹かれ、サロフの長老のもとには1000人もの人々が押し寄せた日もあった。彼は誰の声にも耳を傾け、決して疲れを見せず、特に多くの庶民が長老のもとを訪れ、教えだけでなく、日々の助けや癒しを求めた。聖セラフィムの洞察力と人間性への造詣は驚くべきものだった。彼はしばしば、ほんの数語、あるいは一度の姿からでも、相手の心を瞬時に理解し、まさに魂の奥底に触れる言葉で語りかけた。

農民の生活における主要な出来事は、教会の祝日（クリスマス、イースター、聖三位一体祭）と家族行事（結婚式、子供の誕生、洗礼式など）だった。



農民文化の最も重要な価値観を挙げよ。

3. 貴族文化。貴族はロシア人口のわずか数パーセントを占めるに過ぎなかったが、君主制の主要な支えだった。農民とは異なり、貴族は日常生活においてヨーロッパの流行を取り入れようとした。これは都市の邸宅でも貴族階級の領地でも顕著だった。一般的に、快適さを求めることは、この時代の貴族文化の特徴の一つとなった。貴族は、絨毯、絵画、金箔の額縁に入った鏡、高価なマホガニー製の家具で家を飾った。夏になると、彼らは蒸し暑い都市を離れ、領地へ移った。田舎の屋敷は、通常、正面玄関に3本または4本の柱があり、その上に三角形のペディメントがある木造建築だった。冬、たいていはクリスマス前に、地主たちは街に戻ってきた。



上流社会のサロン。作者不明



貴族が「遊民階級」と呼ばれたのはなぜだと思うか？

上流階級の人々は、その富に見合った余暇を楽しむ余裕があった。豪華な舞踏会の後には陽気な仮面舞踏会が続き、さらに家庭での祝賀会やその他の娯楽が続いた。劇場は貴族のもう一つの余暇であり、会合やデートに人気の場所だった。療養、治療、そして勉学のための長期海外旅行も、ロシア貴族の生活に欠かせないものだった。これらすべてには多額の費用がかかり、しばしば領地からの収入を上回った。そのため、19世紀前半を通じて貴族の負債は着実に増加した。「収入と支出の調整」という願望が顕著になったのは、1830年代半ばになってからでだった。



貴族文化の最も重要な価値観を挙げよ。

4. 都市生活。都市、特に小規模な都市の生活は、村落生活に似ていた。ヤギや牛が通りを歩き、ブルジョワジーの家の横には広大な菜園が設けられ、貴族の邸宅は果樹園の中に埋もれていた。しかし、産業の発展と工場の出現により、この牧歌的な風景は変化し始め、都市は徐々に工業的な様相を呈するようになった。

都市人口の大部分は小ブルジョア階級だった。加えて、貴族、商人、聖職者、軍人も都市に住んでいた。19世紀の第2四半期には、都市住民の中に、収入を得るために都市へ出向く役人や農民の数が増加した。

都市の様相は徐々に変化した。木造住宅は石造りに変わり、納屋、小屋、浴場、干し草乾燥小屋は街路から姿を消した。何らかの理由で自宅で食事を取れない人々のために、居酒屋やビュッフェが数多く開店した。

市議会は都市の改良に着手し、道路や広場は舗装され、石油やアルコールを使った街灯が設置され、水道管が敷設された（モスクワでは1805年、カールスルーゲでは1807年、ニジニ・ノヴゴロドでは1847年）。確かに、これらの変化は主に大都市に関係していた。なぜなら、小都市には資金がなく、地方自治体は事実上存在していなかったからだ。

首都での生活は、ロシアの他の地域の都市生活とは大きく異なっていた。19世紀を通して、両者の間には密かな競争があった。サンクトペテルブルクは公式文化の中心地であり、ヨーロッパの思想や流行がより容易かつ迅速に取り入れられたのに対し、モスクワは文化においても公共意識においても伝統を重視していた。冷たく堅苦しいサンクトペテルブルクは、汚く怠惰でありながらも明るく親切なモスクワを、当惑と非難の眼差しで見つめていた。



地方都市の広場（断片）。画家 E. F. クレンドフスキー



この絵画のプロットには、都市文化のどのような特徴が反映されているのだろう？



ミヤスニツカヤ通りの郵便局。S. A. ミュラーによるリトグラフ。F. ディーツの原画を基に1840年代に制作。



19世紀前半の都市生活において、何が新しくなったのだろうか？

質問とタスク

1. 「文化空間」と「知識人」という言葉の意味を説明せよ。
2. 貴族はなぜ農民の生活様式や慣習を恐れたのだろうか？ 2～3つの説明を述べること。
3. 貴族文化と農民文化の主な矛盾は何だったと思うか？ その理由を説明すること。
4. 都市住民はなぜ貴族の生活様式を模倣しようとしたのだろうか？ 2～3つの説明を述べること。
5. 19世紀前半のロシア帝国の文化空間の要素が、現代ロシアの文化空間に残っているのはなぜだろうか？ 2～3つの説明を述べること。
6. 19世紀前半のロシアの文化空間の特徴を、当時ロシアと隣接していたヨーロッパ諸国とアジアの文化空間の特異性と比較せよ。この比較からどのような結論を導き出せるか？

セクションの主な質問に対する答えをまとめること。



19世紀前半のロシア帝国の文化空間の特異性はどのようなもので、人々の日常生活にどのように反映されていたか？

§ 15

教育と科学



南極大陸沖合のスループ帆船「ボストーク」号と「ミールヌイ」号。

画家：M.M. セミョーノフ



19世紀前半のロシア科学の発展には、ロシア教育のどのような発展の特徴が貢献したのだろうか？



学問の自由・聖書協会・学科制学校・ギムナジウム・デミドフ賞・リセウム・教区学校・地区学校・大学自治



P.P.アノソフ・F.F.ベリングスハウゼン・A.N.ゴリツィン・P.N.デミドフ・P.V.ザヴァドフスキー・N.N.ジーニン・ヤーキンフ

(N.ヤーキンフ・ビチューリン)・

N.M.カラムジン・I.F.クルゼンシュテルン・M.P.ラザレフ・E.K.H.レンツ・

Yu.F.リシアンスキー・N.I.ロバチェフスキー・G.I.ネヴェルスコイ・V

.V.ペトロフ・N.I.ピロゴフ・V.Ya.シュトルーベ・フィラレット

(V.M.ドロズドフ)・B.S.ヤコビ



1794年 - プロイセンで初等教育が義務化（無償）

1803-1804年 - J. ドルトンの原子質量表

1820年1月18日（同年30日） - イギリスの船長E. ブランスフィールドが南極半島（南極大陸最大の半島）を発見

1826年 - G. オームの電流の基本法則

1830年 - イギリス議会が初めて学校維持費を計上

1831年 - M. ファラデーが電磁誘導現象を発見

1839年 - T. シュワンの細胞理論、L. ダゲールが写真術を発明

1841年 - C. ホイートストンの同期交流モーター

1842年 - J. R. フォン・マイヤーが熱力学第一法則（エネルギー保存の法則）を発見

1802年 - V. V. ペトロフが電弧現象を発見

1804年 - アレクサンドル1世の大学憲章

1811年 - ツァールスコエ・セロー高等学校設立

1820年1月16日（28日） - F. F. ベリングスハウゼンとM. P. ラザレフの探検隊による南極大陸発見

1826年 - N. I. ロバチェフスキー著『幾何学原理の簡潔解説』非ユークリッド幾何学の起源

1832年 - デミドフ賞の創設

1834年 - B. S. ヤコビの直流モーター、E. H. レンツの電磁誘導の法則

1835年 - ニコライ1世の大学憲章

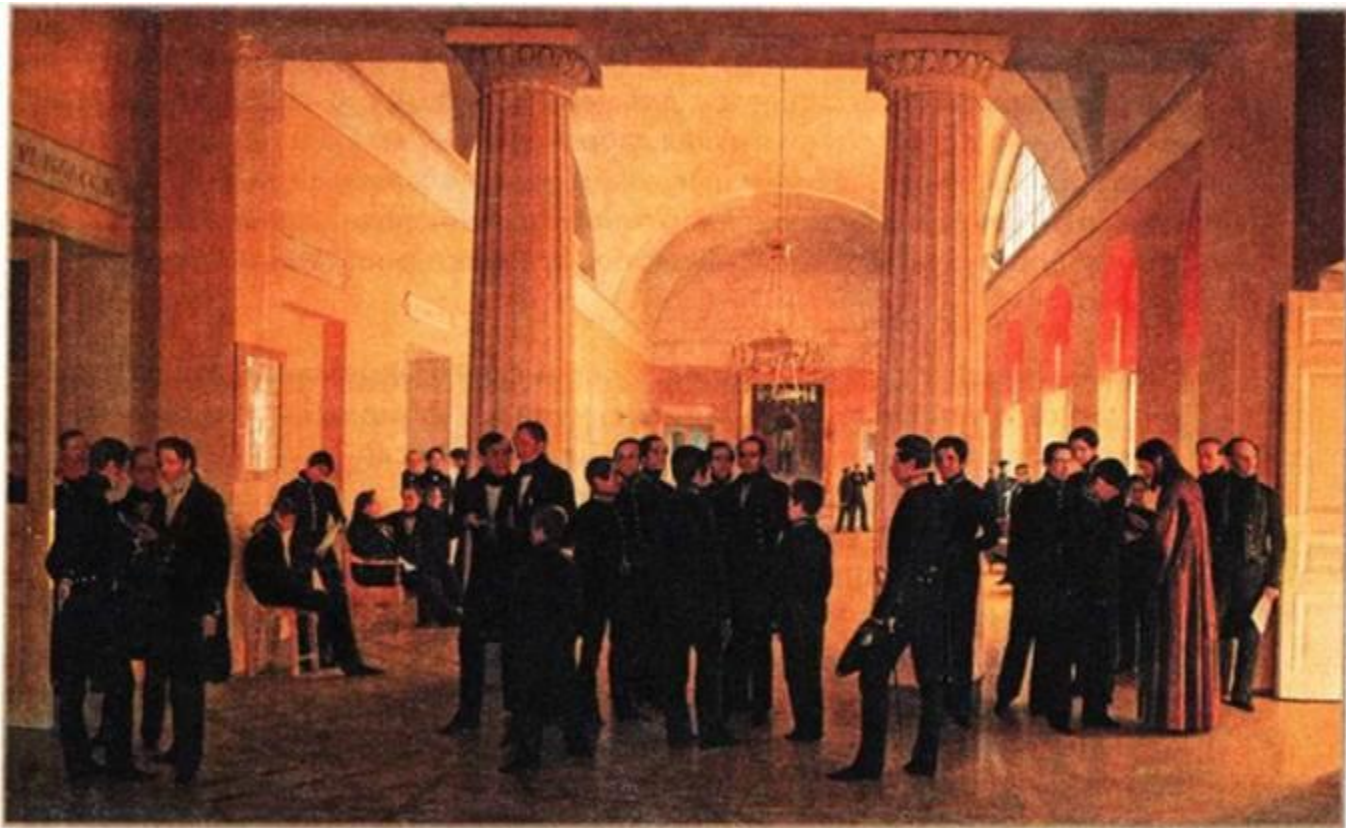
1838年 - B. S. ヤコビによる電気めっき技術の開発

1842年 - ジュール・レンツの法則

1845年 - ロシア地理学会の設立

1847年 - N. I. ピロゴフによるエーテル麻酔下での初の手術

1. 教育の発展。1800年頃、ロシアには人口4000万人に対し約300の教育機関があり、約2万人の学生がそこで教育を受けていた。しかし、これは明らかに不十分だった。1802年、P.V. ザヴィドフスキー伯爵を長官とする新設の公教育省が教育改革に着手した。主要な公立学校は4クラス制のギムナジウムに、小規模な学校は3クラス制の地方学校に改組された。地方学校はギムナジウム入学の準備のための学校だった。ギムナジウムを卒業すると、大学に入学するか、地方学校の教師になることができた。大学の修業年限は当時3年から4年だった。また、3クラス制の教区学校も設立され、「性別や年齢」を問わず「あらゆる身分の」児童を受け入れることになった。教区学校を卒業した後は、地方学校に入学することができた。地主農民は、校長の許可なしに地方学校に通えなかった。



教師と学生が集まっている法学院のホール。画家S. K. ザリャンコ

1804年には、モスクワに加え、カザン、ハリコフ、ヴィリノ、ドルパトに新しい大学が開校した（サンクトペテルブルクの大学は1819年に設立された）。これらの大学は、国家、学生の授業料、そして後援者からの寄付によって運営されていた。同年、ロシア史上初の大学憲章が承認された。大学の最高統治機関は、学長と教授で構成される大学評議会であった。評議会は教授を選出し、教育課程の組織と内容を決定した。こうして、大学は自治権と学問の自由を獲得した。ロシア全土は教育区に分割され、大学評議会と評議員が主導した。大学評議会は、その区内のすべての教育機関の活動を監督した。評議員はサンクトペテルブルクに常駐し、担当区の利益を代表し、視察のために訪問することもあった。

アレクサンドル1世の治世下では、大学に加えて他の高等教育機関も設立された。1809年には、サンクトペテルブルクに鉄道技師団研究所が開校された。翌年には、高等工科学校が開校した。1816年には、教師養成のための中央教育学院がサンクトペテルブルクに開設された。これらの教育機関は国費で維持された。

興味深い点。ロシアの教育制度において特別な位置を占めていたのは、1811年にツァールスコエ・セローにM.M. スペランスキーの主導で開校したリツェだった。スペランスキーは自らリツェのプログラムを策定した。リツェは、一流貴族の10歳から14歳までの男子を受け入れた。修業年限は6年で、リツェの卒業生は大学卒業生と同等とされていた。リツェの優秀な卒業生は1期生だった。その中には、詩人のA.S. プーシキンや、後に外務大臣兼ロシア連邦首相となるA. M. ゴルチャコフ公爵などがいた。



リツェのプログラムを策定する際、スペランスキーはアレクサンドル1世の弟であるニコライとミハイルがそこで学ぶことを想定していた。なぜ皇帝はこれに同意しなかったのだろうか？

1828年、ニコライ1世は地方学校とギムナジウムに関する新しい勅許状を承認した。郡立学校は、第三ギルド商人、ブルジョワ階級、および類似の階級の子女を対象として設立された。学校卒業後にギムナジウムに進学する道は閉ざされた。ギムナジウムは貴族と官吏の子女のみを対象とし、修業年限は7年に延長された。主な科目は数学と古典語（ラテン語とギリシア語）だった。

1830年代には、ロシアに部門制学校（財務省、国有財産省、陸軍省など）が設立された。1850年代までに、国有農民の子女を対象とした国有財産省の学校は全国に3000校にまで増加した。

1835年、新たな大学憲章が承認された。ウヴァーロフ公教育大臣によれば、その主な任務は「我が国の大学をロシア統治の根本的かつ普遍的な原則に近づけること」と、大学における「兵役の秩序、そして一般的に定められた形式、階層構造、そして些細な規則の執行における正確さの厳格化」の導入だった。公教育大臣は、大学評議会によって選出された教授を承認せず、自ら候補者を任命する権限を与えられた。大学は小中学校の運営から外され、今後は教育区の理事によって運営されることになった。ニコライ1世時代の理事のほとんどは将軍から任命された。

大学の修業年限は4年に延長された。大学卒業生は直ちに階級表に基づき10番目の階級を授与された。さらに、大学卒業生への次の階級の授与は、通常の1.5倍の速さで行われた。

ニコライ1世の治世下、サンクトペテルブルクには新たな高等技術教育機関が開設された。1828年には工場経営の専門家を養成する技術大学、1834年には鉱山技師団研究所が設立された。

19世紀前半のロシア当局による教育分野への尽力の結果、1856年には人口約7000万人のロシアには約1万の教育機関があり、約70万人の学生が在籍していた。当時のロシアの識字率に関する信頼できる統計データは存在しないが、人口の圧倒的多数が依然として非識字であったことは明らかである。

- ?** 1. 大学の自治と学問の自由とは何か？
 2. 「公式の国民性」理論と1835年の大学憲章の目的との間に関連性はあるか？
 2つの論拠を挙げて、自分の意見を正当化すること。

2. 聖書協会の活動。フィラレート大司教。1812年の祖国戦争後、A.N.ゴリツィン公爵を会長とする聖書協会（活動の第一段階は1813年から1826年）は、精神教育の普及において重要な役割を果たした。協会は聖書を現代ロシア語に翻訳し始めた。12年間で、旧約聖書と新約聖書をロシア帝国の41の言語で50万部以上出版した。

歴史上の人物。ニコライ1世の治世中、モスクワ大主教座は、19世紀ロシア正教最大の神学者であり、帝国科学アカデミー会員、アカデミー会員（1841年以来）であったフィラレート（V. M. ドロズドフ、1782-1867）が務めた（1826年まで大主教）。フィラレートは神学書、説教、そして特に聖書を現代ロシア語に翻訳したことで知られている（それ以前は、ロシアでは聖書は教会スラヴ語で読まれていたが、これは既に多くの人々にとって理解不能な言語だった）。聖フィラレートはいくつかの書物を自ら翻訳し、他の書物の翻訳も編集した。聖書のロシア語全文は、フィラレートの死後、1876年に出版された。この翻訳（シノドスと呼ばれる）は、若干の修正を加えて現代版聖書に収録されている。



フィラレート（ドロズドフ）、モスクワ大主教およびコロムナ大主教。画家V.I.ガウ

- ?** 聖書協会の主な目的は何だったと思うか？ニコライ1世はなぜその活動を中断したのか？

3. 科学技術。19世紀前半のロシアは、いくつかの重要な発見と成果に彩られていた。芸術の後援者もまた、ロシア科学の成功に一役買っていた。そのため、科学研究を奨励するため、1832年に科学アカデミーでデミドフ賞が授与されるようになった。この賞は、ウラル鉄工所の所有者であり、ロシア最大の実業家であったP.N.デミドフによって設立された。年間賞金は2万ルーブルで、全額賞金（5000ルーブル）と半額賞金（2500ルーブル）に分かれていた。この賞金を受け取ることで、科学者は日々の生活のことを考えずに、科学研究に専念できた。



N.I. ロバチェフスキー。
画家L.D. クリュコフ

1802年、サンクトペテルブルク医学外科アカデミーのV.V. ペトロフ教授は、大型のガルバニ電池を用いた実験で、世界で初めて電気アーク現象を発見した。彼はまた、この現象を金属の溶接や溶融に実用化するというアイデアも提唱した。

1820年代後半から、カザン大学学長N.I. ロバチェフスキーは非ユークリッド幾何学の体系を発展させ、数学に真の革命をもたらし、我々の周りの世界に関する既成概念を覆した。

興味深い点。 ロバチェフスキー幾何学は、学校で学ぶユークリッド幾何学とは多くの点で異なる。例えば、ここでは与えられた点を通る直線を無限に描ける。三角形の内角の和は一定ではなく、常に2本線より小さくなる。四角形の中に長方形は全く存在しない、など。ロバチェフスキーは、彼の幾何学とユークリッド幾何学の違いは、空間そのものの性質、つまり曲面にあると主張した。我々の地球上の限られた範囲内では、この曲率は無視できる。しかし、無限の宇宙距離を測定する場合、空間の曲率を無視すると重大な誤差が生じる可能性がある。

同時代の傑出した電気技師にB. S. ヤコビがいた。1834年、彼は世界初の直流電気モーターの一つを開発・製造した。

興味深い点。 ヤコビのエンジンは当時、最も先進的な電気装置だった。その動作原理に関する詳細な報告書がパリ科学アカデミーに提出された。1839年、ヤコビは自身の電気モーターを改良し、手漕ぎボートに搭載した。14人の仲間と共に、時速4.5kmでネヴァ川を逆流しながら短距離航海した。強力なガルバニ電池が電流源として機能した。

1838年、ヤコビは複雑な形状の金属製品の製造を可能にする電気鑄造技術を開発した。この発明により、ヤコビは1840年にデミドフ賞を受賞した。

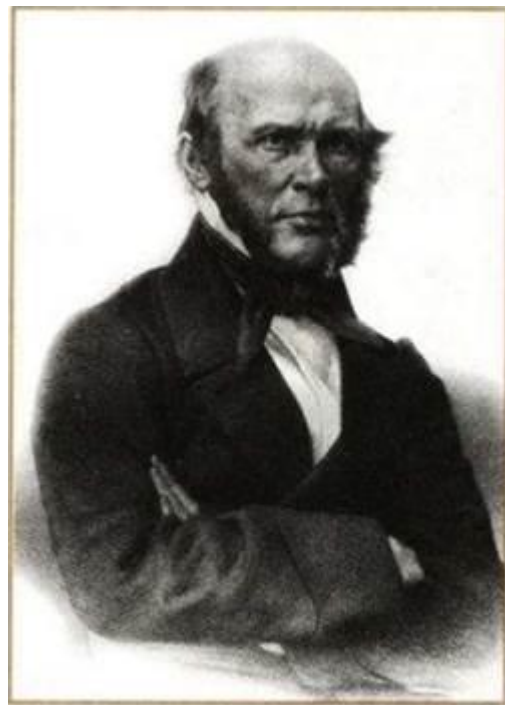
1839年、ロシア帝国の主要な天文台であるプルコヴォ天文台がサンクトペテルブルク近郊に開設された。初代所長は、サンクトペテルブルク帝国科学アカデミーの会員だったV.Ya. ストルーヴェだった。彼の指導の下、天文定数の体系が決定され、それは一時期世界中で認められ、50年間使用された。

電気学への多大な貢献は、サンクトペテルブルク帝国科学アカデミー会員のE.H. レンツによって成し遂げられた。彼の発見の中には、電磁誘導の法則（1834年）（レンツの法則）と、導体中の電流によって発生する熱量を計算できるジュール・レンツの法則（1842年）がある。

冶金学における重要な発見は、鉱山技師のP. P. アノソフによってなされた。特に、彼は中世に失われた、信じられないほど強固なダマスク鋼の鑄造の秘密を再発見した。アノソフの高品質な製品は国内外の産業博覧会で繰り返し披露され、世界中から称賛を浴びた。

1842年、カザン大学教授のN. N. ジーニン、アニリンの工業的合成法を開発した。（この物質は現在でも染料や除草剤の製造に広く用いられている。）後にジーニンは（V. F. ペトルシェフスキーと共に）、最も強力な爆発性物質であるニトログリセリンの製造法と使用法を発見した。

サンクトペテルブルク医学外科アカデミーのN. I. ピロゴフ教授は、野戦軍事外科の創始者の一人とされ、その科学研究はヨーロッパで高い評価を得た。ピロゴフ教授は、エーテル麻酔下で負傷者を手術した最初の医師の一人だった。コーカサス戦争とクリミア戦争の間、彼は野戦で数千件もの麻酔手術を行った。ピロゴフ教授は、包囲されたセヴァストポリで主任外科医を務めた。ここで彼は石膏包帯を広く使用し、そのおかげで多くの負傷者を四肢切断から救った。ピロゴフ教授の研究は、異なる年に4度にわたりデミドフ賞を受賞した。



N.I. ピロゴフ。作者不明

- ?
1. ロシアの科学者が成功を収めた科学分野と科学活動の分野を挙げよ。19世紀前半のロシアの好奇心旺盛な人々がこれらの科学に興味を持ったのはなぜだと思うか？
 2. 優れた科学者が教育の成功につながる傾向があるのはなぜだと思うか？



I. F. クルゼンシュテルン。作者不明

M. P. ラザレフ。
画家：I. K. アイヴァゾフスキー

4. 地理探検。 ロシア人船員による最初の世界一周航海は、1803年から1806年にかけて、スループ船ナジェージダ号とネヴァ号によって行われた。ナジェージダ号はI. F. クルゼンシュテルンが、ネヴァ号はYu. F. リシャンスキーが指揮した。この探検には、露米会社の発展、サハリンと千島列島の探検、中国および日本との海上貿易の確立など、様々な目的があった。この航海の結果、中国、日本、千島列島、アラスカ、アリューシャン列島、ハワイ諸島、マルケサス諸島の人々に関する貴重な地理・民族誌資料が収集された。

興味深い点。 1809年から1813年にかけてクルゼンシュテルンが出版した3巻からなる航海記録は、すぐに8つのヨーロッパ言語に翻訳された。後にクルゼンシュテルンは『南洋地図帳』でデミドフ賞を受賞した。

デミドフ賞は、修道士ヤーキンフ（N. Ya. Bichurin）の業績に対して4回授与された。ヤーキンフは1808年から1821年までの13年間、北京でロシア教会宣教団を率い、中国語を深く学び、貴重な文献を収集した。そのおかげで、帰国後、中国での生活の様々な側面に関する12冊以上の研究論文を出版することができた。ヤーキンフの著作の多くは、今日に至るまで学術的な価値を失っていない。彼はロシア中国学の創始者とみなされている。

特に注目すべきは、1819年から1821年にかけて行われた、スループ帆船「ポストーク」号と輸送船「ミールヌイ」号による探検である。南極大陸の存在を証明あるいは否定することを目的としていた。ポストーク号の船長はF. F. ベリングスハウゼン、ミールヌイ号の船長はM. P. ラザレフだった。1820年から1821年にかけて、探検隊は南極海域で世界一周の短期航海を行い、遠くに未知の大陸の海岸線を何度も目撃した（最初の目撃は1820年1月16日（28日））。しかし、厚い氷のために到達できなかった。

ロシア科学にとって重要な出来事の一つは、ロシア地理学会の設立だった。同学会は1845年に設立された。

1849年、G.I. ネヴェリスコイの探検隊は、アムール川河口と、本土とサハリン島の間の海峡を発見した。1850年、ネヴェリスコイはアムール川河口（現在のニコラエフスク・ナ・アムール市）にニコラエフスキー前哨基地を設立し、そこにロシア国旗を掲げた。

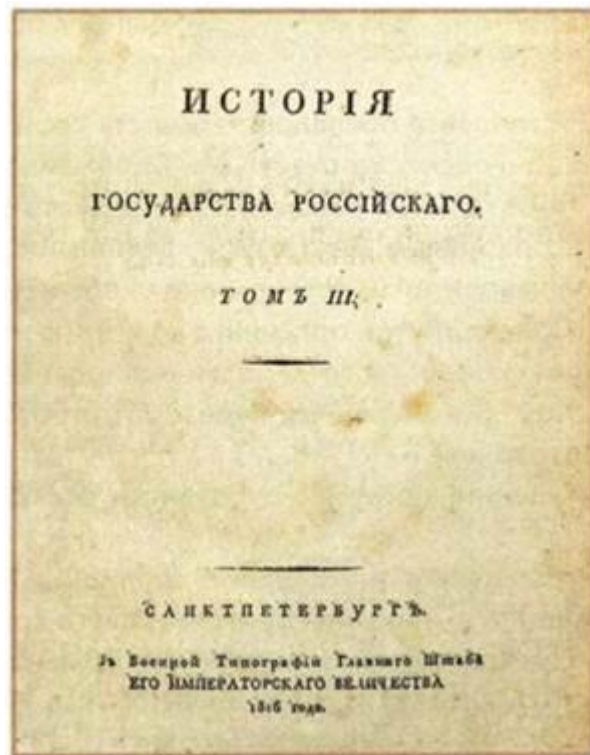


19世紀前半のロシア地理学の成果が、当時と現代においてどのような意義を持つのかを説明せよ。

5. 歴史科学。 19世紀最初の四半世紀において、歴史学だけでなく、ロシアの社会文化生活全体にとって大きな出来事となったのは、N.M. カラムジンによる全12巻の『ロシア国家史』の出版だった。最初の8巻は1818年に出版され、空前の反響を巻き起こした。プーシキンが回想する。「誰もが、世俗の女性でさえ、これまで知らなかった祖国の歴史を読みたがった。それは彼女たちにとって新たな発見だった。まるでカラムジンによって古代ロシアが発見されたかのようなだった。コロンブスがアメリカを発見したように。しばらくの間、人々はそれ以外のことについては何も語らなかった...」。カラムジンは著作の中で、ロシアが専制政治の下で繁栄し、専制政治が弱まると衰退したことを一貫して証明した。彼はロシア保守主義の先駆的な思想家の一人となった。



N.M. カラムジン。
画家 A. G. ヴェネツィアノフ



N.M. カラムジン著
『ロシア国家史』初版の扉ページ



カラムジンの『ロシア国家史』は、「公式民族」理論の出現に影響を与えただろうか？ 自分の意見の根拠を説明すること。



V.A. コルニーロフ。
画家: A.F. ペルシャコフ

1830年代から1850年代にかけて、歴史への関心が高まり、ロシアの社会運動において歴史家が重要な役割を果たした。中世ヨーロッパ史の専門家であるT. N. グラノフスキーは西洋化派の指導者の一人だった。古代ロシア史の専門家であるM. P. ポゴージンは、当初はスラヴ派として活動していたが、後に「公式民族」理論の支持者となった。彼は歴史研究でデミドフ賞を受賞した。



歴史家が社会運動の指導者となったのはなぜだと思うか？ 2つか3つの説明を述べる。

質問とタスク

1. N.M. カラムジンによる『ロシア国家史』の出版開始、レンツの帰納法則、N.I. ロバチェフスキーによる非ユークリッド幾何学の創始、F.F. ベリングスハウゼンとM.P. ラザレフによる南極大陸の発見、聖書協会の活動、大学への自治と学問の自由の付与という一連の出来事を整理せよ。
2. ニコライ1世の政策はロシアの教育の発展に貢献したという主張について、賛成論と反対論をそれぞれ3つずつ挙げよ。
3. 産業革命はロシアの高等教育の発展にどのような影響を与えたか？
4. 19世紀前半のロシアにおける教育の発展の進展を評価せよ。
5. 表「19世紀前半のロシア科学の成果と現代における意義」を作成し、記入せよ。
6. ロシアとヨーロッパ諸国間の科学交流の例を挙げよ。

セクションの主な質問に対する答えをまとめること。



19世紀前半のロシア科学の成果に貢献したロシアの教育の発展のどのような特徴が挙げられるか？

§ 16

19世紀前半の文学と芸術



1815年1月8日、リセウムの式典で詩『ツァールスコエ・セローの思い出』を朗読するA.S. プーシキン。画家はI. E. レーピン。



19世紀前半のロシア帝国における文化空間の発展条件は、芸術と文学の発展にどのような影響を与えたのだろうか？



帝政様式・ロシア文化の古典主義の黄金時代・オペラ・リアリズム・ロマンス・ロマン主義・ロシアビザンチン様式



I.K. アイヴァゾフスキー・E.A. バラチンスキー・K.P. ブリュロフ・
A.G. ベネチアノフ・A.N. ボロニーキン・M.I. グリンカ・N.V. ゴーゴリ・
A.S. グリボエドフ・A.S. ダルゴミシスキー・G.R. デルザビン・A.D. ザハロフ・
G. クアレンギ・O.A. キプレンスキー・P.K. クロット・I.A. クリロフ・
M. ユウレールモントフ・O. モンフェラン・A.S. プーシキン・K.I. ロッシ・
K.A. トン・V.A. トロピニン・I.S. ツルゲーネフ・F.I. チュッチェフ・
P.A. フェドトフ・A.A. フェット・M.S. シェプキン



1808年 - ベートーヴェンの交響曲第5番、J.W.ゲーテの悲劇『ファウスト』第1部
1810-1820年 - F.ゴヤの詩劇『戦争の恐怖』
1812年 - J.バイロンの詩『チャイルド・ハロルドの巡礼』第1歌と第2歌
1816年 - D.ロッシーニのオペラ『セビリアの理髪師』
1819年 - W.スコットの小説『アイヴァンホー』
1826年 - F.クーパーの小説『モヒカン族の最後』
1827年 - V.ユーゴーの戯曲『クロムウェル』
1829年 - P.メリメの小説『シャルル9世の時代年代記』
1830年 - スタンダールの小説『赤と黒』、P.メリメの小説『ゴブゼック』 O. ド・バルザック
1831年 - V. ユゴーの小説『ノートルダム・ド・パリ』、E. ドラクロワの絵画『民衆を導く自由の女神』
1834年 - O.ド.バルザックの小説『ゴリオ爺さん』
1840-1868年 - 建築家C. バリーによるロンドン国会議事堂（ニュー・ウェストミンスター宮殿）
1845年 - P.メリメの短編『カルメン』、E. ポーの詩『大鴉』、E. ポーの小説『物語』（『黄金虫』『モルグ街の殺人』などを含む）
1846年 - A.デュマの小説『モンテ・クリスト伯』
1848年 - R.ワーグナーのオペラ『ローエングリン』、W. サッカレーの小説『虚栄の市』、チャールズ・ディケンズ
1852年 - 小説『アンクル・トムの小屋』 G. ビーチャー・ストウ著
1853年 - オペラ『椿姫』 G. ヴェルディ著

1804-1818年 - I.P.マルトシュ作、モスクワのミーニンとポジャルスキーの記念碑
 1818-1858年 - 建築家O. モンフェラン作、サンクトペテルブルクの聖イサアク大聖堂
1820年 - A.S.プーシキン作、詩『ルスランとリュドミラ』
1823-1830年 - A.S.プーシキン作、小説『エフゲニー・オネーギン』
1824年 - A.S.グリボエードフ作、喜劇『知恵の悲しみ』、モスクワのマールイ劇場開館
1825年 - モスクワのボリショイ劇場開館
1826年 - A.S.プーシキン作、最初の詩集と悲劇『ボリス・ゴドゥノフ』
1829年 - A.S.プーシキン作、詩『ポルタヴァ』
1830年 - A.S.プーシキン作、詩『ベルキン物語』プーシキン
1830-1833年 - K.P.ブリューロフ作「ボンペイ最後の日」
1831-1832年 - N.V.ゴーゴリ作「ディカンカ近郊の農場の夕べ」
1833年 - A.S.プーシキン作「青銅の騎士」と物語「スペードの女王」
1834年 - N.V.ゴーゴリ作「アラバスク」と「ミルゴロド」の2つの物語連作
1836年 - A.S.プーシキン作「大尉の娘」、N. V. ゴーゴリ作「検察官」、M. I. グリンカ作「皇帝に捧げる人生」
1837-1857年 - A.A.イワノフ作「民衆の前に現れるキリスト」
1840年 - 小説「現代の英雄」 M. Yu. レールモントフ著
1842年 - N.V.ゴーゴリ著 詩『死せる魂』および物語『外套』
1852年 - I.S.ツルゲーネフ著 随筆集『狩人のスケッチ』

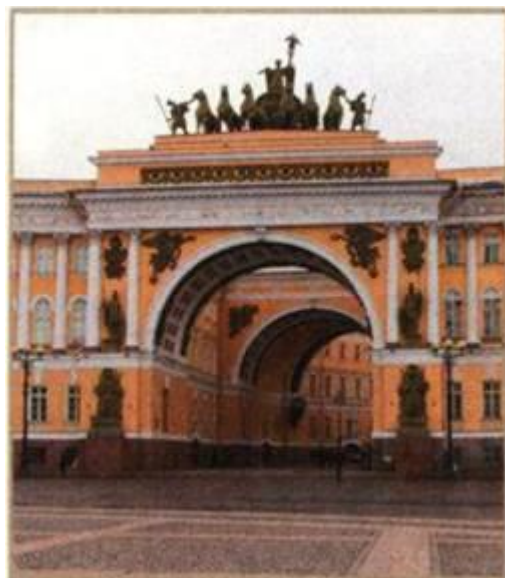
1. 様式と傾向。19世紀前半、文学、演劇、絵画（そして一部は音楽）において、二つの様式が一貫して支配的だった。最初の30年間はロマン主義、そして1830年代以降は徐々にリアリズムに取って代わられた。

ロマン主義（その確立主にイギリスの詩人J・バイロンの作品によって促進された）は、憎しみに満ちた現実から逃避し、英雄主義と偉大な愛の居場所がある理想の世界へと向かう欲求を特徴としている。この様式（絵画と文学においては、建築においてはそうではなかった）は、18世紀を通して君臨した古典主義に取って代わられた。古典主義は、古代芸術の規範への憧憬、人生に対する「合理的な」態度、公務と市民奉仕の理想化、そして合理的で明確な世界観を特徴としていた。しかし、1810年代の人々にとって、世界はもはや単純で明確なものではなくなっていた。1812年の出来事は、ロシア文化に甚大な影響を与えた。兵士や将校たちの英雄的行為、ロシア国民の不屈の精神、将軍たちの功績、そして最後に、ナポレオンとの戦争を終結させようとする皇帝アレクサンドル1世の揺るぎない願い——これらすべては、ロマン主義芸術によって鮮やかに表現された。しかし、1825年のデカブリストの失敗をきっかけに、ロマン主義の流行は徐々に衰退し始めた。

ロマン主義に取って代わったリアリズムは、文学と芸術の人間に対する姿勢を再定義した。古典主義の芸術家が古代に英雄を求め、ロマン主義者が例外的な状況で活躍する聡明で非凡な人物を選んだのに対し、リアリストは日常の出来事に追われる同時代人を芸術の主題とした。ロシア文化の深いヒューマニズム、しばしば困難な状況に生きる「小さな人間」を理解し、正当化しようとする欲求は、我が国の文化の特徴となった。農奴や下級役人、町民や下級役人、村の僧侶や教師など、彼らは皆、書物や絵画の主人公となった。読者や鑑賞者は、しばしばそこに自分自身を見出そうとした。



19世紀前半における芸術様式の変化をどのように説明できるか？ 2、3点を述べること。



参謀本部のアーチ。
建築家：K. I. ロッシ



聖イサアク大聖堂。
建築家：O.モンフェラン

2. 建築。 ナポレオン戦争の時代は、建築における古典主義の隆盛を、特別で荘厳な形態で促した。この潮流はアンピール（フランス語の「empire」に由来）と呼ばれ、フランスから流行した。アンピール様式（帝政様式）の主な特徴は古代ローマ建築に遡る。荘厳さ、壮麗さ、そして自国（帝国）の力と栄光、そしてその勝利への憧憬が特徴的である。サンクトペテルブルクでこの様式で建てられた傑出した建築物には、G.クアレンギ設計のスモリーヌイ貴婦人学院、ナポレオンに対する勝利の記念碑となったA.N.ヴォロニキン設計のカザン大聖堂、サンクトペテルブルクの建築的シンボルであるA.D.ザハロフ設計の海軍省、首都の主要な正教会であるO.モンフェラン設計の聖イサアク大聖堂、そしてロシアの国家権力の象徴であるK.I.ロッシ設計の宮殿広場にある参謀本部などがある。

サンクトペテルブルクでは人々は主に国家に奉仕していたが、モスクワでは人々は自らの楽しみのために生きていた。そのため、モスクワ・帝政様式はより柔らかく、より快適なものだった。第二の首都の帝政様式の建築物としては、O.I.ボヴェ設計の劇場広場とマネージのアンサンブル、D.I.ギラルディ設計のモスクワ大学消防棟などがある。さらに、モスクワには多くの貴族の邸宅が建てられており、そのペディメントには古代史の場面が描かれており、主なモチーフは軍事的または民衆の武勇である。



カザン大聖堂の眺め。L.-J.アーノルド作のリトグラフ



大クレムリン宮殿。建築家：K. A. トン

1840年代に近づくと、ロシアビザンチン様式が流行し、建築における「公式民族」理論の体現となった。救世主ハリストス大聖堂、大クレムリン宮殿、クレムリン武器庫を設計したK. A. トンはこの様式で活動した。



1. 19世紀前半のロシアで帝政様式が人気を博した理由を2つか3つ挙げよ。
2. ロシアビザンチン様式は「公式民族」理論の影響の現れと言えるだろうか？その理由を説明すること。



アレクサンドルの円柱。
建築家：O. モンフェラン



馬を調教する。
彫刻家：P. K. クロット

3. 絵画と彫刻。19世紀前半のロシア絵画は、古典主義からロマン主義、そして写実主義へと緩やかな移行期を迎えた。しかし、この様式の変化は、ある意味では条件付きである。文化において明確な境界線を引くことは不可能であり、芸術様式は常に共存し、混ざり合い、互いに豊かにし合っているからだ。偉大な作家や芸術家の作品を厳格な枠組みに当てはめることは困難である。彼らは常に枠組みを超え、独自のスタイルを生み出してきた。

肖像画における古典主義の伝統は、O.A.キプレンスキー（A.S.プーシキンの肖像画、V.A.ジュコーフスキーの肖像画、絵画『貧しいリーザ』）、V.A.トロピーニン（N.M.カラムジンの肖像画、V.A.カラトイギンの肖像画、絵画『レース編み』）、A.G.ヴェネツィアノフ（『アコーディオンを持つ少女』）によって継承された。しかし、後期にはヴェネツィアノフは写実主義的な絵画を制作した（「脱穀場」「耕された畑で。春」）。K.P.ブリュエロフは、古典主義とロマン主義の要素を絵画に融合させた（「ポンペイ最後の日」「女馬乗り」）。A.A.イワノフは、古典主義、ロマン主義、そして写実主義の要素を用いて、傑作「民衆の前に現れるキリスト」を制作した。ロマン主義と悲劇的リアリズムの融合は、I.K.アイヴァゾフスキーの作品（「第九の波濤」）に見られる。P.A.フェドートフは、写実主義のみを貫き（「貴族の朝食」「少佐の求愛」）、様々な階級の人々の日常生活を絵画に捉えた。



民衆の前に現れるキリスト。画家 A. A. イワノフ



19世紀前半のロシア美術は、なぜ古典主義からロマン主義、そして写実主義へと発展したのだろうか？ 2つの説明をまとめること。

彫刻においては、古典主義は依然としてその地位を維持していた。サンクトペテルブルクのアレクサンドル1世記念碑（O. モンフェラン作）、モスクワの赤の広場にあるミーニンとポジャルスキーの記念碑（I.P. マルトス作）、キエフの洗礼者ウラジーミルの記念碑（V.I. デムト＝マリノフスキー作、P.K. クロット作）などは、この様式で制作された。リアリズムへの移行は、例えば彫刻「馬の調教」やI.A. クルィロフの記念碑（彫刻家クロット作）においてのみ、その輪郭が示された。

? なぜ古典主義は絵画とは異なり、彫刻においてその地位を維持したのだろうか？

4. 音楽。 19世紀前半のロシア音楽で最も重要なジャンルは、オペラとロマン派だった。オペラは、言葉、舞台演出、そして音楽が融合した音楽的・劇的な作品である。オペラはしばしば偉大な歴史的出来事を描き、強い感情を持つ強く美しい人々を描いている。イタリアのオペラは長い間ロシアの劇場で上演され、ドイツやフランスの劇場ではそれほど頻繁に上演されることはなかった。世界的に高い評価を得た最初のロシア・オペラの作者はM.I. グリンカだった。彼はロシア史における伝説のイヴァン・スサーニンの物語を基にオペラ『皇帝に捧げられた人生』を、A.S. プーシキンのロマン詩を基にオペラ『ルスランとリュドミラ』を作曲した。グリンカは多くの音楽的遺産を残し、A.S. プーシキンの詩「私は素晴らしい瞬間を思い出す…」をはじめ、歌曲やロマンス曲を作曲した。ロマンスとは、記憶に残るメロディーとドラマチックなプロットを持つ歌曲で、ギターやピアノで演奏される。作曲家は様々な民族の民話にインスピレーションを求めた。ロシア民謡を基に、グリンカは交響的幻想曲『カマリンスカヤ』を作曲した。プーシキンの別のロマン詩を基に、A.S. ダルゴムイシュスキーはオペラ『人魚姫』を作曲した。この作曲家はロマンス小説の作者でもあった。

? 19世紀前半のロシアでオペラとロマンス小説が人気を博した理由を2、3挙げよ。



フレッシュ・キャヴァリエ。
画家 P.A. フェドトフ



M.I. グリンカ。作者不明



V.A. ジュコフスキー。
画家 K.P. ブリュロフ



A.S. プーシキン。
画家 O.A. キプレンスキー



H.V. ゴーゴリ。
画家 F.A. モラー

5. 文学と演劇。19世紀前半のロシア文化の主要な成果は文学だった。この時期に文学は最初の全盛期を迎えた。それは詩から始まった。1863年、文芸評論家のM. A. アントノヴィチはこう記した。「...それは我が国の文学の黄金時代、純粋さと至福の時代であった！」その後、この黄金時代という特徴は19世紀前半のロシア文化全体に浸透した。

18世紀に広く名声を得た作家の中で、G.R.デルジャールヴィン、N.M.カラムジン、I.A.クルィロフは新世紀にも活躍を続けた。後者は寓話という新しいジャンルを開拓し、後世に並ぶ者はいなかった。

ロシアの主要なロマン派詩人の一人は、もちろんV.A. ジュコフスキーである。V.G.ベリンスキーによれば、彼のバラードは「社会の道徳的発展の時代全体を形作った」ものであり、ロシア文学に「魂と心」を与えた。黄金時代の偉大な詩人たち——A.S.プーシキン、E.A.バラトィンスキー、M.Yu.レールモントフ、F.I.チュッチェフ、A.A.フェト——は皆、それぞれ独自の方法でロマン主義への情熱を表現していた。

1820年代後半、ロシア文学においてリアリズムが確立し始めた。リアリズムは、典型的な人物を典型的な状況で再現することにおいて、真実味を帯びた表現を前提としていた。A.S.プーシキンの作品が開花したのはこの時代であり、同時代の人々は既に彼を国民感情の代表者と見なしていた。「プーシキンの名を聞くと、すぐにロシアの国民詩人の姿が思い浮かぶ...」とN.V.ゴーゴリは記している。「プーシキンという名を聞くと、すぐにロシアの国民詩人の姿が浮かび上がってくる...プーシキンは並外れた現象であり、おそらくロシア精神の唯一の現象である...」。プーシキンは、他の誰にも劣らず、作品を通して当時の時代の雰囲気と生活を表現することができた。V.G.ベリンスキーが自身の韻文小説『エフゲニー・オネーギン』を「ロシア生活の百科事典」と呼んだのも、決して無理からぬことである。

プーシキンの悲劇的な死後、M.Y.レールモントフの作品は開花した。彼の詩作と小説『現代の英雄』には、ニコライ2世のロシアという状況下で職を見つけることのできなかった、当時の優れた人々の苦悩が、驚くべき力で表現されていた。

N.V.ゴーゴリの多くの作品には、ロシア、その慣習、秩序に関する正確な観察と深い考察が見受けられる。1840年代に活躍したゴーゴリは、既存の国家体制の「歯車」である「小さな人間」を研究し、理解しようとした（『外套』）。ゴーゴリの模範は、I.S.ツルゲーネフ、N.A.ネクラソフ、F.M.ドストエフスキーといった若い同時代の作家たちにも受け継がれた。

19世紀前半には、文学と並んでロシア国立劇場も隆盛を極めた。V・G・ベリンスキーによれば、ベリンスキーこそが「民衆教育と時代精神」の象徴となった。最大の劇場はモスクワにあった。ボリショイ劇場（オペラとバレエのみ上演）、マールイ劇場（演劇公演）、そしてサンクトペテルブルクにはマリインスキー劇場とアレクサンドリンスキー劇場があった。帝国の他の大都市（ヤロスラヴリ、ニジニ・ノヴゴロドなど）にも、それぞれ独自の劇場が誕生した。当時の傑出した俳優には、P・S・モチャロフ（『ハムレット』で有名）とM・S・シェプキン（ゲルツェンによれば、「ロシアの舞台に真実を創造し、劇場において非演劇的な姿勢を初めて示した人物」）がいた。当時の最高の劇作家たちが劇場のために作品を書いた。A.S.グリボエードフ、N.V.ゴーゴリ、A.N.オストロフスキーなどである。徐々にロシア演劇学校が形成され、演出と舞台設計の技術が確立された。



M.Y.レールモントフ。
画家：P.E.ザボロツキー



F.I.チュッチェフ。
画家：I.レクベリ



1. この段落のこの点で言及されている作家の作品の例を挙げよ。
2. 19世紀前半のロシアの作家によるどのような戯曲を知っているか？



モスクワ。劇場広場とボリショイ劇場の眺め。1856年

質問とタスク

1. 19世紀前半のロシア帝国における芸術様式の変遷を正しく順序づけよ。リアリズム、古典主義、ロマン主義。
2. 帝政様式、ロシアビザンチン様式、ロマン主義、リアリズム、オペラ、ロマンス、ロシア文化の黄金時代。これらの概念の意味を説明せよ。
3. 1840年代に帝政様式がロシアビザンチン様式に取って代わられたのはなぜか？ 2つの説明を立てること。
4. ロシア文学、音楽、または美術作品から1つを選び、それが特定の芸術様式（複数可）に属するかどうかという観点から分析せよ。
5. 19世紀前半のロシア文学と詩の発展は、同時代のヨーロッパ文学と芸術の発展とどのように関連していたのだろうか。2つか3つの事実を挙げること。

セクションの主な質問に対する答えをまとめること。



19世紀前半のロシア帝国の文化空間の発展状況は、芸術と文学の発展にどのような影響を与えたのだろうか？

章のまとめ

ロシア当局と社会の活動的で裕福な層は、教育、科学、芸術、文学が国家にとっていかに重要であるかを深く理解していた。しかし同時に、特にニコライ1世の治世下において、当局は文化の発展が専制国家の強化に主眼を置き、階級制度や宗教に悪影響を与えないよう配慮した。そのため、科学の発展は奨励されたものの、教育の普及と創作の自由に関する公的活動は抑制された。その結果、19世紀半ばまでに、ロシアは科学と偉大な文学において世界に名高い成果を収めたが、圧倒的多数の国民は読み書きができなかったため、そのことを知らなかった。そして、以前と同様に、貴族と農民の間には文化的な分裂が存在し、彼らは互いにほとんど寛容ではなかった。

質問とタスク

1. 19世紀前半のロシア文化において、自分が考える最も重要な成果を年表にまとめ、その選択理由を表の中で説明せよ。
2. ロシア帝国の地図上で、19世紀前半の教育、科学、芸術、文学の発展の中心地を見つける。
3. 19世紀前半の最も重要なロシアの地理探検のルートを地図上でを見つける。
4. 19世紀前半のロシア文化の人物を一人選び、「私は自分の記念碑を建てた...」というテーマで、その人のスピーチ（ミニエッセイ）を書く。自分の主人公が何をしていたのか（そしてなぜ）、何を成し遂げたのか（そしてなぜ）、何を成し遂げられなかったのか（そしてなぜ）、そして彼の活動が子孫にとってどのように価値があるのかを書き留めること。
5. 歴史学には、様々な、しばしば矛盾する見解が表明される論争の的となる問題がある。その一つは、次のようにまとめられる。「19世紀前半のロシアにおける教育の発展は、国の必要を満たしていた。」歴史的知識を用いて、この見解を裏付ける論拠を3つ、反証できる論拠を3つ挙げよ。それぞれの論拠を提示する際には、必ず歴史的事実を用いること。
6. 「19世紀前半におけるロシア文化の発展」というテーマでレポートを作成することが課題となっている。レポート作成のための綿密な計画を立てること。

章の主な質問に対する答えをまとめること。



19世紀前半のロシア文化はどのような状況下で発展し、それがロシアの成果にどのような影響を与えたのだろうか？

プロジェクトのトピック



1. 小さなものの中にある偉大さ：我が同胞よ — 19世紀前半の科学、文学、芸術、教育界の人物たち
2. 祖国と世界の発見：19世紀前半のロシア人旅行者たち
3. 「フランスの田舎で、異国の地で、私は大学で学ばなければならない...」：19世紀前半、海外の教育機関で学び、インターンシップをするロシアの児童、学生、教師たち
4. 19世紀前半のロシアの児童、学生、教師たちの日常生活
5. 「芸術への既成の道はない...」：19世紀前半のロシア文化の傑出した人物たち（我が同胞よ）の記念碑のスケッチ・コンクール
6. 音楽のイメージを描く：19世紀前半のロシア文化の功績と人物についての詩（ラップ）コンクール19世紀前半
7. 時代を捉える：19世紀前半のロシア文化の成果を描いたデッサン・コンクール
8. 19世紀前半のロシアの科学者の日常生活
9. 19世紀前半のロシアの作家、ジャーナリスト、芸術家の日常生活
10. 19世紀前半のロシアの階級の日常生活
11. 19世紀前半のロシア帝国の文化空間の特徴が、同時期のロシアSF作品に反映されている。
12. .なぜ19世紀前半はロシア文化の黄金時代と考えられているのか？

章のリソース

1. 本文を読み、課題を完了せよ。

「9月10日付けの陛下からの、ガルバニ電気による地雷の点火方法全般の改善に関するご指示を受け、私は直ちに鉱山技師団のソボレフスキー大佐、ドルパト大学ヤコビ教授、そしてこの分野に精通するレンツ学術院評議員（ヤコビ氏は電磁気学を専門としている）に、ガルバニ電気弾と導体の構成方法の改善に関する詳細な指示書の作成に協力を依頼した。...私の提案に対し、ソボレフスキー大佐、ヤコビ教授、そしてレンツ学術院評議員は、可能であればガルバニ電気弾の改良に協力する意向を示した。」

近衛軍団技師長K. A. シルダーが工学総監ミハイル・パーヴロヴィチ大公に宛てた1838年9月14日付報告書より

1) この文書の内容は、19世紀前半のロシア当局の科学発展政策のどのような方向性を反映しているか？ 本文からの引用を用いて、自分の意見を裏付けること。2) この文書にはどのようなロシアの科学者が言及されているか？ 他にどのような業績を知っているか？ 3) この文書で議論されている科学研究の意義はどのようなものだったか？

2. 本文を読み、課題を完了せよ。

リケイオンは4階建ての小さな建物である。1階には監察官と知事が住んでおり、経済管理局もある。2階には食堂、病院、事務所、そして有名な会議室がある（プーシキンがデルジャーヴィンに詩を朗読したのはここだった）。3階は学問のフロアである。教室、物理室、新聞・雑誌室、図書館、「レクリエーションホール」、つまり休息と娯楽の場...地球儀、ナイル川の源流である南極大陸がまだ含まれていない地図、サハリンが「まだ島になっていない」場所...朝6時の鐘で起床。着替えて礼拝に行った。7時から9時までは授業、つまり授業。9時には白いパンとお茶...お茶の後すぐに10時まで最初の散歩...教室を出ると、野外で遊び、勇敢なレスリングで楽しんだ...10時から12時までは授業。12時から1時までは2回目の散歩。1時から3品の昼食...クワスと水で流し込んだ。2時から3時までは習字か絵。3時から5時までは授業。5時からお茶。6時までは3回目の散歩。どんな天候でも必ず散歩に出かけ、その後は授業の繰り返し、あるいは「補習」、つまり遅れをとる生徒のための追加授業があった。当初は、特に悪い生徒のための懲罰房はなく（後に登場した）、体罰もなかった...しかし、ほとんどの教育機関では殴打が行われ、マリア・フョードロヴナ皇后でさえ、幼い子供たちのニコライとミハイルを教える際には、教師が必要に応じて暴力を振るうことを推奨していた...リケイオンでは、ごくまれに生徒を自室に「監禁」し、ドアに叔父を警備員として配置することもあった...水曜日と土曜日には、夕方に「ダンスまたはフェンシング」があった。毎週土曜日は浴場だった...8時半には夕食のベルが鳴った。夕食後、10時までは休憩と娯楽があった。プーシキンによれば、この時間帯のホールでは「舞踏会と走り回り」が行われていた...10時には夕方の祈り、そして就寝だった...授業はたくさんあったが、楽しい時間もたくさんあった。日の出を詩で描写するという課題を受け、愚鈍なミャソエドフは最初の一行で皆を驚かせる。「西の空に、赤みがかった自然の王がひらめいた...」プーシキンは結末をこう付け加える。「西の空に、赤みがかった自然の王がひらめいた。人々は驚いた。何を話せばいいのか、寝ればいいのか、起きればいいのか、分からなかった...」外国語コンテスト。うっかりロシア語を話し始めたら罰金が科せられる...チリコフ知事のアパートでは文学集会が開かれ、参加者は順番に物語を語る。一人が物語を始め、もう一人が続き、三人目が続き、それぞれの意欲と想像力次第で...

N.Ya. アイデルマン著『我らの連合は美しい』に基づく

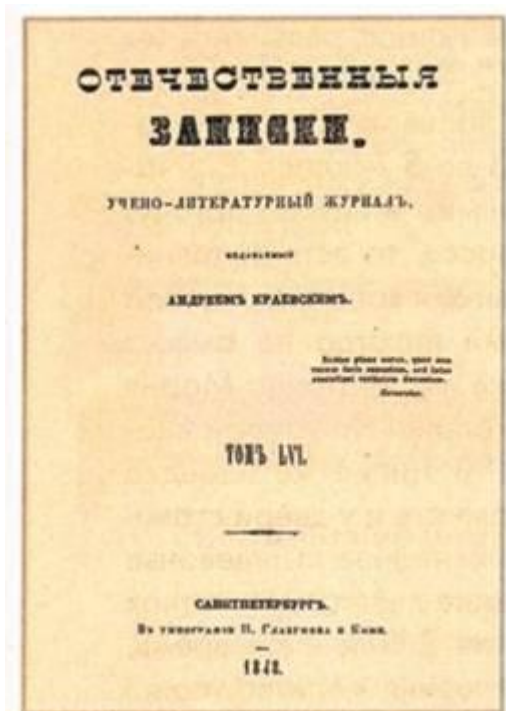
1) 本文中で言及されている教育機関はどれか？なぜそう判断したのか説明すること。2) 本文を用いて、この教育機関で教えられていた科目を挙げよ。その理由を説明すること。3) この教育機関の学生が学んだ地理地図から「空白地帯」を消し去る上で、ロシア人旅行者はどのような役割を果たしたのだろうか？4) この教育機関で用いられたどのような教授法は、ロシア文学の黄金時代の到来に貢献したのだろうか？5) ニコライ1世がこの教育機関で学んでいたら、どのようにロシアを統治したかを想像してみよう。

3. 本文を読み、課題を完了せよ。

『オテチェストヴェニエ・ザピスキ』の創刊号は大きな反響を呼んだ。『オテチェストヴェニエ・ザピスキ』は8つのセクションに分かれていた。1) ロシア現代年表、2) 科学、3) 美術、4) 芸術、5) 家政学、農業、工業全般、6) 批評、7) 現代書誌年表、そして8) 雑学...。この新雑誌のその後の号も注目を集めた。『オテチェストヴェニエ・ザピスキ』は文壇に旋風を巻き起こした。それもそのはず、これらの号にはレールモントフの『ベーラ』と数編の詩、コルツォフの『歌曲集』、ソログブ伯爵の『長靴』、オドエフスキー公爵の『ジジィ公女』などが掲載されていた。ところで、「オテチェストヴェニエ・ザピスキ」は復活した... より実践的な方向性を持ち、作家と読者をより尊重する新しい雑誌の必要性は、誰もが感じていた。そして、まさにこの好機にクラエフスキー氏が「オテチェストヴェニエ・ザピスキ」を創刊した...

1.1. パナエフ著『文学の思い出』より

1) この文章では、どのような文学の存在形態が論じられているか？ なぜそれが人気を博したと思う？ 2つか3つの説明を述べること。2) この文章では、どのような著名な作家が言及されているか？ 彼らは19世紀前半のロシア文学の発展においてどのような役割を果たしたか？ 現在、彼らはどのような意義を持っているか？



雑誌「オテチェストヴェニエ・ザピスキ」の表紙

4. 本文を読み、課題を完了せよ。

1842年末、皇帝は宮殿の堤防沿いを歩いていると、目の前に男が歩いているのを目にした。上着から判断すると、きちんとした身なりの男だったが、歩き続けるうちに、男はすすり泣いているように見えた。皇帝は追いつくと、確かに男の顔全体が涙で濡れているのを見た。

「何を泣いているのですか？」と皇帝は同情を込めて尋ねた。

尋問された男は、皇帝が尾行していることに気づかず、ましてや会話の相手をされるとは思ってもいなかったため、最初は気後れした様子だったが、その後の質問に勇気づけられ、自分は元老院の官吏で、給料はわずか500ルーブルしかもらっていないと答えた。4人の子供がいる妹が1500ルーブルの借金を抱えており、投獄すると脅されているのだ。妹を助けることができないという絶望感から、彼は絶望した。

「わかった」と皇帝は言った。「私のところへ行き、私に話したことをすべてそこに書き留めて、私が来るまで待っている。」

「しかし、陛下、誰が私をそこに入れるというのですか？ どこに行けばいいのかわかりません。」

そこで皇帝は憲兵を呼び、自分の名義で役人を宮殿まで護衛するよう命じた。戻ってきて、すでにメモが書き込まれているのを確認すると、皇帝は寛大な励ましと共に請願者を釈放し、直ちにそのメモを法務大臣に送り、内容を確認するよう命じた。すると、役人は真実のみを語り、書き記しており、上司との信頼関係も良好だったことが判明した。皇帝は彼に1500ルーブルを与えるよう命じた。

M. A. コルフの「覚書」より

1) この文書ではどのような社会集団の状況が論じられているか？ それはどのように特徴づけられるか？ この社会集団は19世紀前半にどのように発展したか？ 本文に基づいて自分の意見を正当化すること。 2) 19世紀前半のロシア帝国の文化空間における皇帝の役割をどのように特徴づけることができるか？ 3) ニコライ1世の寵愛を受けていた人物が属していた社会集団は、ロシア帝国の文化空間においてどのような役割を果たしたか？ 4) ニコライ1世が一人で行動できたのはなぜだと思うか？



推奨図書・映画・音楽

ポピュラーサイエンス

Yu.M. ロトマン著『A.S. プーシキンの小説『エフゲニー・オネーギン』解説』。本書には、ロシア貴族の生活や習慣を鮮明に想像するのに役立つ膨大な解説が掲載されている。

N. Ya. アイデルマン著『私たちの絆は美しい』。リツェの最初の卒業生たち、A. S. プーシキンとそのクラスメートたちについての物語。彼らがどのように学び、どのように悪ふざけをし、どのように成長したかを描いている。

フィクション

A.V. コルツォフ『詩集』。文芸評論家Yu.アイヘンヴァルドは彼の作品についてこう記している。「コルツォフの詩は、私たちの文学の村である。都会、洗練された文化の住処から、彼女は私たちを広大な野原、緑と野の花の王国へと導いてくれる。そして、ライ麦畑に咲く、誰かが蒔いたわけでも、誰かが育てたわけでもない、色とりどりのヤグルマギクに、私たちの目は開かれる。ここにあるものはすべて、率直で、誠実で、自然であり、その原始性と単純さの中に生命が宿っている。」

V.F. オドエフスキー『西暦4438年。ペテルブルグ書簡集』。19世紀前半のロシア人作家による未完の小説で、遠い未来を描いている。人々の未来観は、常に現在に対する彼らの態度を興味深く反映している。

A.S. プーシキンの『日記』。プーシキンは人生の些細なことに非常に注意を払っている。なぜなら、人生は些細なことから成り立っているからだ。その結果、読者は魅力的な時代への没入感を得られる。

映画

『オールド・ヴォードヴィル』(I. A. サフチェンコ監督、1946年、ソ連)。ミュージカル・コメディ。火災後のモスクワの日常生活。軍服はあらゆる女性の心を掴む。軍人は非常に人気がある。

『レフ・グルイチ・シニチキン』(A. A. ベリンスキー監督、1974年、ソ連)。19世紀前半のロシア演劇を描いたミュージカル・コメディ。

『バルザミノフの結婚』(K. N. ヴォイノフ監督、1964年、ソ連)。コメディ。19世紀半ばの都市の様々な階級の人々の生活を描いた、興味深いエピソードが数多く描かれている。

音楽作品

グリンカ、ダルゴムイシスキー、ヴァルラーモフ、グリリョフ、アリアビエフによるロマンスと歌曲は、メロディーと歌詞を通して、19世紀前半の庶民の感情、経験、そして希望といった複雑で興味深い世界に浸れる。

演劇作品

作曲家A. L. リブニコフ、台本A. A. ヴォズネセンスキーによるロックオペラ「ユーノーとアヴォシ」。物語は19世紀初頭のロシア人による北アメリカ探検に関連して。



IV

大改革時代のロシア



サンクトペテルブルクの元老院広場で1861年の宣言を読み上げるアレクサンドル2世。
画家家 A. D. キフシェンコ

「アレクサンドル2世の治世における素晴らしい改革、その温厚で寛大な性格は、国民の熱烈な愛を保証していたはずだった。しかし、彼は真の意味で民衆に愛された君主ではなかった。国民感情や国民的感情が全く欠如していたため、人々は彼に魅力を感じなかった。彼がロシアにもたらしたあらゆる恩恵への感謝、そして彼の記憶に捧げられた荘厳な追悼の念には、民衆の自発的な衝動というよりも、むしろ理性の影響が感じられる。人間の本质は、人々をその行いよりもむしろ自分自身で評価することである。故皇帝の性格と精神は、彼が成し遂げた行いに比べて劣っていた。彼は尽きる事のない優しさと寛大さにおいて真に高潔であったが、この優しさは、彼が失った性格と精神の強さを補うことはできなかった。」

A. F. チュッチェフ「二人の皇帝の宮廷にて」より



アレクサンドル2世の改革期に、ロシアはどのように変化し、なぜそのように変化したのだろうか？

§ 17

アレクサンドル2世の治世の始まり。
農奴制の廃止

共同統治者。画家：N.D. クズネツォフ



ロシアにおいて農奴制は誰の利益のために廃止されたのか？

一時義務農民・償還事業・調停官・オトレツキ・
地主と農民の憲章・チェレスポロシツァアレクサンドル2世・コンスタンチン ニコラエヴィチ大公・
N.A. ミリューチン・Ya.I. ロストフツェフ・A.P. シドロフ（アントン・ペトロフ）

1861-1865年 - アメリカ南北戦争
1863年 - アメリカ合衆国の奴隷制廃止
1864年 - ルーマニアの農奴制廃止

1855年2月19日 - アレクサンドル2世即位
1857-1861年 - 改革の準備
1861年2月19日 - 農奴制廃止

1. アレクサンドル2世の人物像と治世の始まり。後の皇帝アレクサンドル2世は1818年に生まれた。他の皇族と同様に、彼は家庭で教育を受けた。詩人V.A. ジュコフスキーが彼の教育と育成を監督した。後継者の家庭教師には、ニコライ1世治世時代の著名人、E.F. カンクリンやM.M. スペランスキーなどがいた。16歳の頃から、父アレクサンドルは皇太子を国政に関与させ始めた。アレクサンドルは、農民問題に関する秘密委員会の委員長を含む、多くの文民および軍の要職を歴任した。

1855年2月18日、ニコライ1世は崩御した。2月19日、新皇帝アレクサンドル2世がロシアの帝位に就いた。彼は、クリミア戦争におけるロシアの敗北が誰の目にも明らかであった非常に困難な時期に権力を握った。社会は驚き、憤り、苦痛、怒り、そして苛立ちに支配された。誰もが例外なく過去30年間に批判し、ニコライ1世の治世こそがロシアを破滅に導いたと主張した。



アレクサンドル2世。
画家A.A. ハルラモフ

高官たちでさえ改革の必要性を唱え始めた。そこでクールラント総督P.A. ワルフェは、皇帝の弟であるコンスタンチン・ニコラエヴィチ大公に「ロシア・ドゥーマ」と題する覚書を送った。この覚書では、ニコライ1世の治世下で発展した官僚主義的な統治体制が厳しく批判された。

状況の重圧を受け、アレクサンドル2世は旧体制にそぐわない新たな決定を下し始めた。1855年12月、最高検閲委員会は閉鎖された。1856年夏、新皇帝は戴冠式に際し、デカブリスト、ペトラシェフスキー派、そして1830年から1831年のポーランド蜂起の参加者に恩赦を与えた。1857年には軍事居住地が解体された。国の社会政治生活に「雪解け」が訪れた。

? アレクサンドル2世の治世に向けた準備のレベルを評価せよ。その根拠を示すこと。

なぜアレクサンドル2世はデカブリストと1830年から1831年のポーランド蜂起の参加者の解放、そして軍事居住地の解体から改革を開始したのか？ 2つか3つの説明を述べること。

2. 農奴制廃止の前提条件。「君主と祖国に仕える」よう育てられた貴族たちは、悪徳領主であった。19世紀半ばまでに、多くの地主は領地や農奴を担保とした融資によって生活していた。地主たちが破産しなかったのは、当局が債務を回収せず、新たな融資を行ったからに他ならない。その結果、1860年までに地主の領地の3分の2が国家に対して負債を抱えることになった。

地主たちは収入を増やすため、農民税を増額した。これに伴い、農奴の反乱が増加した。アレクサンドル1世（1801～1825年）の治世には、651件の農奴反乱が記録されている。ニコライ1世（1825～1855年）の治世には、この数字は1,089件にまで増加した。一方、アレクサンドル2世の治世の最初の5年間（1855～1860年）だけでも、1,952件の農民反乱が発生した。皇帝は、農民の「奴隷制」廃止の必要性を訴える書簡を受け取るようになり、その多くはリストにまとめられて全国に配布された。歴史家K.D. カヴェリンによる「農民解放に関する覚書」は最も大きな反響を呼んだ。彼はその中で次のように述べている。「我々の貧困には多くの理由がある...しかし...帝国の農村人口の半分を縛り付けている農奴制ほど、ロシアにおける道徳的・物質的成功を阻害するものはない。



アレクサンドル2世治世初期に農奴制廃止の支持者たちが用いた論拠を2、3挙げよ。

3. 改革の準備。1856年3月、モスクワ滞在中の皇帝は、地方貴族の指導者と地区代表者らを接見し、こう述べた。「諸君、私が農奴制を廃止するつもりだという噂が諸君の間で広まっていることを承知した。...今、そうするつもりはないことを諸君に告げる必要があると考える。しかし、もちろん、諸君自身も、魂の所有という既存の秩序が変わることはないことは理解しているだろう。農奴制が下から廃止され始めるのを待つよりも、上から廃止に着手する方がよいのだ。」

1857年1月、A.F. オルロフ公爵を委員長として、地主農民の生活改善策を議論する秘密委員会が設立された。この委員会には、かつてニコライ1世の側近だったロシアの最高幹部らが参加していた。彼らのほとんどは農奴解放に反対していた。委員会は初会合から、問題の本質を長引く不毛な議論の中に埋もれさせようとする姿勢を示していたが、皇帝の意志によって着実に解決へと向かっていった。同年、内務大臣の名において、各州の長と地方貴族の指導者に回状が送られ、地方の地主からなる地方委員会と、彼らが「農民問題」の解決に向けた提案をまとめるための共同委員会を設置するよう指示された。

1858年2月、秘密委員会は農民問題中央委員会と改名され、改革準備の中心機関となった。間もなく、A.F. オルロフは自由主義で知られるコンスタンチン・ニコラエヴィチ大公に委員長の座を明け渡した。この委員会で最も活動的なメンバーはYa.I. ロストフツェフ将軍であった。1859年3月、彼は中央委員会の管轄下にある編集委員会の委員長に就任した。彼らは、地方から提出された提案に基づき、農奴制廃止のための全ロシア的計画を策定することになっていた。

地主農民の生活に関する地方規則が、まもなくサンクトペテルブルクに届き始めた。それに加えて、100以上の「私的」計画が編集委員会に提出された。ステップ・ヴォルガ地方の地主の利益を代表するユー・F・サマリノ（肥沃な土地は豊富だが労働力は不足していた）は、農民を段階的に解放し、10～12年の「移行期」を設けて、一定額の賦役を継続することを提案した。

黒土地方の地主の利益を擁護するM.P. ポゼン（彼らは可能な限り多くの土地を自らの所有としようとしていた）は、農民に最低限の土地割り当てを与え、不足した土地を地主から借りるか、労働者として雇われるようにすることを提案した。A.M. ウンコフスキーは、非黒土地域の地主（主に農民の地代金で生活していた）の利益を代弁し、彼らが耕作していた土地を農民に完全に残すが、同時に地主が被ったすべての損失を補償する身代金を彼らから受け取ることを提案した。

著名な文芸評論家で評論家のN. G. チェルヌイシェフスキーは、雑誌『ソヴレメンニク』の中で、農奴の自由な解放と、彼らが所有する土地の完全な所有権の付与を主張した。

? 農奴制廃止の議論における主要な参加者の立場を想像してみよう。それぞれの立場について、賛成と反対の論拠を2つずつ提示すること。

4. 農奴制廃止。1860年10月初旬までに、編集委員会は農奴制廃止の草案作成作業を完了した。草案は農民問題中央委員会に審議のために提出され、そこで補足と修正が行われた。その後、中央委員会は草案を国家評議会に提出し、審議を求めた。草案はそこで激しい反対に遭った。1861年2月16日、アレクサンドル1世は評議会の大多数の意見に反して、「農民の農奴制離脱に関する規則」草案を承認した。1861年2月19日、農民生活の解放と整備に関する法律の最終条文と、農奴制の廃止を宣言する皇帝の宣言文が調印された（宣言文はモスクワ大主教フィラレートが編集した）。同日、「規則」の実施のため、「農村状況整備に関する」主要委員会が設立された。委員長はコンスタンチン・ニコラエヴィチ大公で、上院議員N. A. ミリューチンが委員会の活動に大きな役割を果たした。宣言文は大量に印刷され、1ヶ月間、教会やその他の大勢の人が集まる場所で朗読された。



N.A. ミリューチン。
画家 I.P. ポジャロスティン



宣言（農民解放）を読む。画家B. V. クストディエフ



農民は農奴制廃止の知らせにどう反応したのだろうか？

1861年2月19日の「規則」により、地主による農民への農奴制は廃止された。約2500万人の農奴は、移動、取引の締結、結婚、起業、雇用、他の階層への転籍など、個人的な自由を獲得した。同時に、農民が居住し、労働していた土地は地主の財産とみなされ、農民は地主との合意に基づき、割り当てられた土地を買い取らなければならなかった。買い戻し額は土地の収益性に応じて決定された。土地が買い戻されない間、農民は地主に対して従前の義務を負わなければならなかったが、地主はそれを増額することはできなかった。この農民の状態は、一時的義務農民と呼ばれた。

もちろん、農民には土地を買い取るだけの資金がなかった。そのため、国家は地主に身代金の80%を支払い、残りの20%は農民から受け取るようになった（この農民の取り分は、分割払いまたは労働によって支払われることができた）。国家が地主に支払った金額は、農民への貸付金とみなされ、償還金という形で49年間の利息を付けて返済しなければならなかった。地主は身代金全額を受け取ることができなかった。当局は過去の債務を差し引いたため、その額はかなりの額だった（1859年までに、抵当地に関する貴族の国家への負債総額は、4億2500万ルーブルという天文学的な額に達したことが知られている）。

地主と旧農奴との間の相互請求を解決するため、調停官の職が設けられ、地主と農民が憲章（農民割当地の規模と農民の義務を規定した文書）を作成するのを支援した。農民割当地の規模の決定にあたっては、地域の状況が考慮された。非黒土地帯、黒土地帯、ステップ地帯の3つの地域が定められた。最初の2つの地域では、国家が割当地の最大規模と最小規模を規制していた。ステップ地帯では、単一の「法令」による割当基準が適用されていた。法律は、改革前の農民割当地の規模が「最大」または「法令」基準を超えた場合、地主の利益となるように割当地を減額し、基準に達しない場合は割当地を増額することを規定していた。実際には、この規定により、土地の切り上げが原則となり、増額は例外となった。その結果、一部の州では、農民は改革前の土地の30～40%を失い、細長い土地が形成された。つまり、地主の土地が農民の土地に細長く割り込まれていったのである。この土地の切り下げと細長い土地の分割により、農民は地主の定めた条件で地主の土地を借りざるを得なくなった。

また、農民は土地を私有財産として受け取ったわけではないことにも注目すべきである。解放後、彼らはニコライ1世の治世中にキセリョフ伯爵が国有農民に導入した共同体をモデルに、農村共同体に組織された。これらの共同体では、耕作地の共同利用が確立され、農民「ミール」が農民間で土地を再分配した。



農奴制廃止後、ロシアの農村生活にはどのような新しい現象が現れたか？農民の利益という観点から、それらをどのように評価できるか？




土地をめぐる争い。画家 P.P.ソコロフ



地図上で、最も大規模な農民反乱の場所を見つける。区画の大きさとこれらの反乱の間には関連性があると思うか？

5. 農民と地主の改革に対する態度。農奴制廃止宣言は、地主が自発的に農民を解放し、「自分たちの」土地を彼らと共有することを強調した。しかし、現実には、この改革は多くの失望を招いた。農民たちは、解放のために身代金が必要であること、一部の地域では土地の割り当てが農奴制下にあった当時よりもはるかに少ないこと、賦役と僭越金がさらに数年間維持されることに気づき、動乱と当局との衝突が始まった。「2月19日の法令」は地主によって偽造されたと多くの人が信じていた。カザン州ベズドナ村の農民、アントン・ペトロフ（実名はアントン・ペトロヴィチ・シドロフ）は、皇帝のために「本物の」宣言文を作成し、皇帝に代わって村人たちに読み上げた。ペトロフによれば、すべての土地は即座に無償で農民に与えられた。村人たちはペトロフの言うことを信じて反乱を起こしたが、軍によって鎮圧された。多くの者が殺害された。アントン・ペトロフは裁判所の命令により逮捕され、処刑された。1861年には合計1,859件の暴動が発生した。多くの地主たちもこの改革に不満を抱いた。

-  1. アントン・ペトロフが「真の王の宣言」を作曲し、村人たちに読み上げた際、彼は何を期待していたと思うか？ 2つの説明を述べること。
2. 詩人N. A. ネクラースフは、どのような根拠（2つか3つ）で次の詩を書いたのだろうか？「大いなる鎖は崩れ落ちた／崩れ落ちた——散らばった——／一方の端は主人のために／もう一方の端は農民のために」

質問とタスク

- アレクサンドル2世の人格形成におけるどのような特徴が、彼が改革者となることに貢献したのだろうか？
- ロシアにおける農奴制廃止の理由を、公的生活の様々な分野に関して3つか4つ述べよ。
- 当局は農奴制廃止の準備にあたり、世論を考慮したと言えるだろうか？ 2つか3つの事実を挙げて、自分の見解を正当化すること。
- 1861年の改革における主要な条項を4つか5つ挙げよ。
- 農奴制廃止はどのような直接的な影響を及ぼしたか？
- ロシアにおける農奴制廃止は、アメリカ合衆国における奴隷制廃止と比較できるか？ 自分の見解を正当化すること。

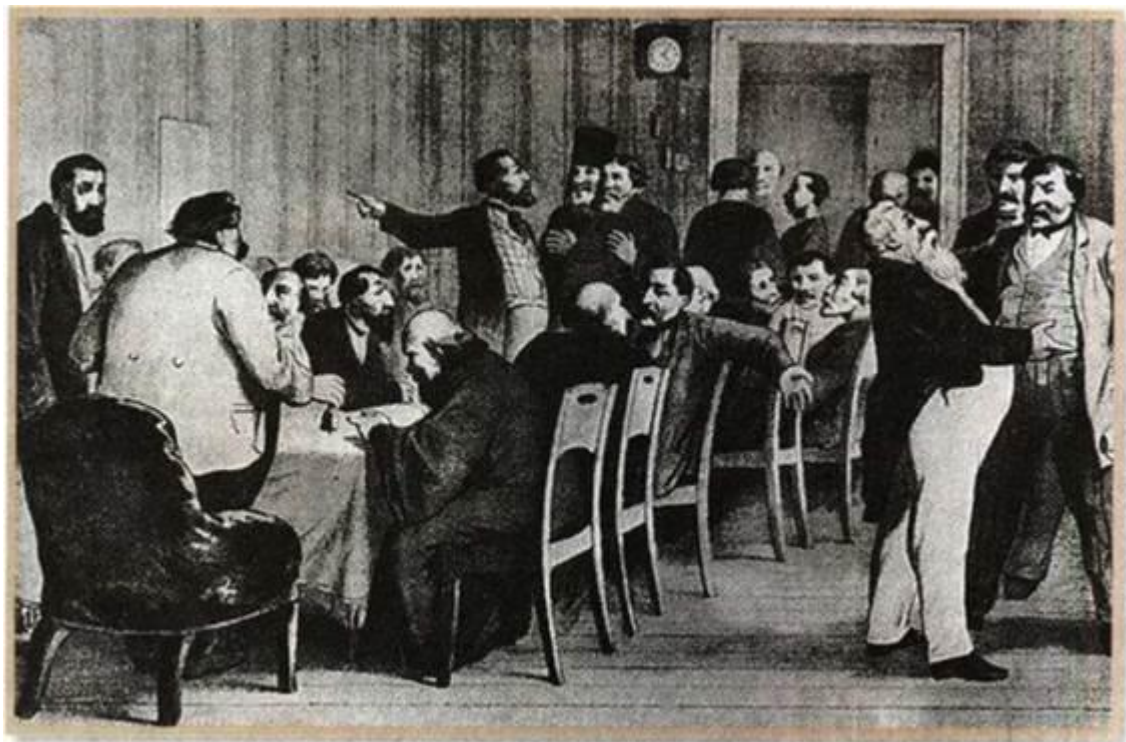
セクションの主な質問に対する答えをまとめること。



ロシアにおける農奴制廃止は、誰の利益のために行われたのだろうか？

§ 18

アレクサンドル2世の改革



地方におけるゼムストヴォ。画家：K.A. トルトフスキー



ロシアにおいて農奴制は誰の利益のために廃止されたのか？



一時義務農民・償還事業・調停官・オトレツキ・
地主と農民の憲章・チェレスポロシツァ



アレクサンドル2世・コンスタンチン ニコラエヴィチ大公・
N.A.ミリューチン・Ya.I.ロストフツェフ・A.P.シドロフ（アントン・ペトロフ）



1865-1877年 — アメリカ合衆国における南部の復興

1867年 - イギリスにおける第二次議会改革

1868年 — 日本における「明治維新」、国の近代化の始まり

1861年 — 農民自治の改革

1864年 — ゼムストヴォ改革と司法改革


1865年 — 検閲改革

1864-1874年 — 軍事改革

1870年 — 都市改革

1. 農民自治の改革。農奴解放は、ロシアの国家と社会生活のあらゆる基盤を大きく変えた。貴族と市町村による自治を確立した旧エカテリーナ制度は、もはや新しい社会体制には適合しなかった。新たな地方行政と裁判所の創設が必要だった。これらを契機に、アレクサンドル2世の下で国家の近代化、すなわち国家経済、軍隊、大学教育、そして統治体制の効率化を目的とした改革が実施され始めた。

農奴制から脱した農民のために、1861年にキセリョフ改革の際に国有農民に導入されたものをモデルに、選挙自治が導入された。単一の地主の領地、あるいは近隣の複数の領地から農民が農村共同体を形成した。俗に「共同体」と呼ばれていた。共同体の主要な統治機関は集会であり、農民の戸主で構成され、それぞれが1票を有していた。村の集会は、長老（コミュニティの長）、村の書記、徴税人、畑と森林の警備員などの役人を選出した。集会は、共同体の（共通の必要のための）金銭の徴収、税金と償還金の分配に関する問題を多数決で決定した。社会は相互責任の原則に従って税金と関税を徴収する責任があり、すべてのメンバーがそれぞれの義務に責任を負っていた。村の長老は、自分の領土内の治安を監視する義務があった。300人から2000人の男性で構成される近隣の農村コミュニティは、郷に統合された。郷集会は郷自治の主要機関と見なされていた。それは10世帯ごとに選出された代表者で構成されていた。郷集会は郷の長老、徴税人、郷の裁判官などを選出した。彼らは村の長老とともに郷政府を構成していた。郷集会の最も重要な議題は、税金や関税の分配と徴収だった。ここでの意思決定手続きは村集会と同じだった。郷長老は治安を監視し、村長老の職務遂行を監督した。郷裁判官は、100ルーブルまでの農民間の財産紛争を審理し、軽微な刑事犯罪を裁いた。郷は学校、避難所、病院を設立することができた。

 農民自治の導入は、社会における国家への信頼の高まりの兆候と見なせるだろうか？ その理由を説明すること。



野外にて。画家 S. A. コローヴィン

この絵画のプロットには、農民自治のどのような特徴が反映されているだろうか？

2. ゼムストヴォ改革。ゼムストヴォ改革の準備と実施は、内務大臣P. A. ワルーエフの指導の下で行われた。1864年1月、アレクサンドル2世は「州および地区ゼムストヴォ機関に関する規則」を承認した。後者は簡略化のためゼムストヴォと呼ばれた。これらは州および地区の自治の選挙機関であり、あらゆる階層の代表者が含まれていた。ゼムストヴォは、行政機関と執行機関で構成されていた。行政機関は、選挙で選ばれた地区および州のゼムストヴォ議会であり、その議員はグラスニエと呼ばれていた。

地区ゼムストヴォの選挙は、地主（地主）、都市有権者、農民団体（コミュン）からなる3つのキュリア（有権者グループ）によって行われた。農業キュリアと都市キュリアでは直接選挙が行われた。農民キュリアでは、選挙は3段階に分かれていた。まず、村議会が郷議会の代表者を選出し、郷議会で選挙人が選出される。次に、地区選挙人会議が地区ゼムストヴォ議会の議員を選出する。

地区ゼムストヴォ議会は、原則として年に1回、地方貴族の指導者の議長の下、開催された。議会は、その構成員の中から地区ゼムストヴォ評議会を選出した。地区ゼムストヴォ評議会は、評議会議長（後に知事が承認）と2人から6人の委員、および地方ゼムストヴォの構成員から構成される執行機関であり、地方ゼムストヴォ議会を構成し、地方貴族の指導者の議長の下で議席を得た。

州ゼムストヴォ議会は、州ゼムストヴォ委員会（委員長は内務大臣の承認が必要）と6名の委員を選出した。両ゼムストヴォ議会の委員は年次会議を開き、会議は公開され、誰でも出席できた。ゼムストヴォ議会の委員は、恒久的に活動し年俵を受け取るゼムストヴォ委員会の委員とは異なり、活動に対する報酬を受けなかった。

ゼムストヴォには政治的権利がなかったため、地区や州の住民の生活を規制する法令や法律を制定することはできなかった。彼らは主に経済問題を扱い、学校や病院の設立・維持、道路建設の促進、産業貿易の発展の監視を行った。また、ゼムストヴォの医師、教師、獣医、農学者、その他の職員を支援した。ゼムストヴォの活動資金は、土地や不動産に対するゼムストヴォ税と、企業家精神に対する特許発行によって賄われていた。

212

3



農民選挙が三段階制であったのに対し、地主や町民がゼムストヴォ議員を直接選出したのはなぜだと思うか？

3. 司法改革。旧裁判所は秘密主義で、階級に基づいていた。訴訟は長期化し、無法や横暴が蔓延する危険性が大いにあった。1861年、皇帝は司法制度改革の主要原則を策定するため、官房に特別会議を設置した。司法大臣D. N. ザミャトニンが司法改革の実施責任者だった。

農奴制から脱した農民のために、1864年11月、アレクサンドル2世によって承認された新しい司法法典が公布された。これらはロシアの44州に適用された。この法律は、裁判所の無階級性、すなわち法の下におけるすべての階級の平等、対審制による公開裁判を規定した。民事訴訟における裁判所の対立的性格は、原告と被告、あるいはその代理人が裁判官の前に出廷する点にあった。刑事訴訟においては、一方に告発者（検察官）が、他方に被告の弁護人（弁護士）が立会い、弁護士の出廷は義務付けられていた。被告が弁護士費用を負担できない場合、裁判所は無償で弁護人を選任した。司法調査官制度が導入された。これは、刑事事件の予備捜査を行う特別職員である。裁判所の公開性は、希望する者は誰でも法廷に傍聴できることを意味し、ジャーナリストは新聞でこれらの出来事を自由に報道できた。

同じ憲章により司法制度も改革された。治安判事と刑事裁判所が導入され、それぞれ複数の郡を管轄する地方裁判所と、複数の司法管区を統合する司法部という2つの審理機関から構成された。元老院は依然として最高司法機関だった。治安判事は、500ルーブル以下の民事訴訟と、懲役1年以下の刑事事件を審理した。彼らはゼムストヴォ（地方判事）によって3年の任期で選出された。地方判事と法廷の構成員は皇帝によって任命された。「あらゆる階層の地域住民」からくじ引きで選出され、特別名簿に登録された12人の陪審員は、刑事事件に関する地方裁判所の審理に参加することができた。審理において、陪審員は被告の有罪か無罪かを判定し、裁判官は刑罰を決定した。



無罪判決。画家V. E. マコフスキー

司法改革は、最も一貫性があり、成功を収めた改革の一つとなった。アレクサンドルが「これらの法令は、司法権を高め、司法権に正当な独立性を与え、そして一般的に国民に法の尊重を確立するという我々の願いに完全に合致していると考えている。法の尊重なくしては公共の福祉はあり得ない」と述べたのも当然のことだった。



司法手続きにおいて、広報はどのような役割を果たすと思うか？

4. 検閲改革。1865年4月、検閲改革が実施された。予備検閲は、パンフレットと短編作品にのみ適用された。原書・翻訳を問わず、分厚い書籍は検閲なしで出版できたが、違法な内容が含まれている場合は、出版社が裁判所に対して責任を負った。雑誌や新聞は、当局の特別な許可があれば検閲なしで出版できたが、違法な内容が含まれている場合は、出版社に「警告」が与えられた。3回目の警告の後、発行は停止された。言論と報道の自由は導入されなかったものの、検閲の緩和はロシアの独立系報道機関の急速な発展につながり、それ以降、世論形成において重要な要素となった。



行政の有効性にとって、世論はどのような意義を持つのだろうか？

5. 都市改革。1870年6月、アレクサンドル2世は「都市規則」を承認した。新内務大臣A.E.ティマシェフがその実施責任を負った。この新規則に基づき、各都市には選挙による自治が確立された。これは、都市選挙議会、都市ドゥーマ、そして都市行政から構成される。25歳以上の都市の男性で、不動産税を納税しているか、事業に従事している者はすべて、都市選挙議会の議員となることができた。選挙議会は、都市の財政に納税した税額に応じて3つの議会に分かれていた。各議会は、同数の議員を都市ドゥーマに選出した。都市選挙議会は全部で3つあった。第1議会には最富裕層の有権者が含まれ、彼らは合計で都市税の3分の1を納税していた。第2議会には平均所得の有権者が含まれ、第3議会にはそれ以外のすべての有権者が含まれていた。各議会の議員数は同数ではなかったが、各議会は都市ドゥーマ議員の3分の1を選出した。市議会は、その議員の中から4年間の任期で市議会を選出した。市議会は市長と少なくとも2名の議員で構成されていた。市議会は市政の行政機関であり、市議会は執行機関だった（市議会はドゥーマに命令の執行状況を報告した）。市政府は、公共サービス、ごみ収集、水道供給、困窮者への社会保障、医療、教育、商工業の組織化などに責任を負っていた。市政府は、その活動を円滑に進めるために、職員を雇用していた。市政府の活動資金は、民間の不動産、交通機関、酒場などから徴収した手数料によって賄われていた。

? 市政において最も重要な役割を果たしたのは、どのような市民層であり、その理由は？



市議会と市立銀行。エカテリンブルク。19世紀後半の写真。

? この写真は、ロシア帝国における市政のどのような特徴を反映しているか？

6. 軍事改革。クリミア戦争は、ロシア陸軍と海軍の組織、訓練、そして軍備における欠陥を露呈させた。これらの欠陥を解消するため、陸軍大臣D. A. ミリューチン將軍は数々の改革を実施した。

1864年、陸軍大臣直属の指揮官が率いる15の軍管区が設立された。士官候補生部隊の代わりに将校を養成するため、軍事学校と士官候補生学校の設立が開始された。上級将校を養成するための既存の3つの軍事アカデミー（参謀本部、砲兵隊、工兵隊）のカリキュラムとプログラムが改訂された。1867年には、新たに軍事法学アカデミーが開校した。1877年には、ニコラエフ海軍兵学校が設立された。

滑腔砲はより射程の長いライフル砲に置き換えられ、砲兵隊は更新され、蒸気機関車による装甲艦隊の建造が始まった。1874年1月、アレクサンドル2世は「兵役に関する憲章」を承認した。この法律に基づき、階級に関わらず20歳に達したすべての男子は徴兵の対象となった。兵役の一般的な期間は15年と定められ、そのうち現役期間は6年、予備役期間は9年であった。海軍については、現役期間7年、予備役期間は3年と定められた。教育を受けた者には優遇措置が導入され、初等学校修了者は4年、市立学校修了者は3年、ギムナジウム修了者は1年半、高等教育修了者は6ヶ月に制限された。一家の唯一の稼ぎ手である一人息子、そして兄が現役兵役に就いている、または既に現役兵役に就いている者は徴兵が免除された。現役兵役に召集された者の数は、徴兵された者の総数を大幅に下回った。兵役に適した徴兵者は抽選で選ばれ、残りの者は15年間予備役に、その後は民兵に入隊した。中央アジア、カザフスタン、コーカサスでは国民皆兵制度は導入されなかった。コサックは特別な理由により兵役を継続した。



徴兵制度と比較して、国民皆兵制度は、軍隊の訓練された予備役の創設に多かれ少なかれ貢献したと思うか？ その理由を説明すること。

D.A. ミリューチン。
作者不明

質問とタスク

1. このセクションで述べられている改革の理由を3つか4つ挙げよ。
2. 農民自治の確立は、民主化と市民社会の形成の一例とみなせるだろうか？ その理由を説明すること。
3. 「ゼムストヴォ・ドクター」と「ゼムストヴォ・ティーチャー」という概念は、ロシアで広く知られるようになった。これらは、医師や教師を優れた専門家として特徴づける際に用いられる。この点において、ゼムストヴォ改革の成果をどのように評価できると思うか？
4. 司法改革後、ロシアでは弁護士という職業が非常に人気を博した。中にはロシア全土で有名な弁護士もいた。有名な弁護士は巨額の報酬を受け取っていた。彼らの講演は新聞に掲載され、新聞の需要も非常に高かった。これらの事実について、2つか3つの説明を述べよ。
5. 軍事改革の主な条項を列挙せよ。
6. 同様の近代化改革が行われたアジアの国はどこか？ ロシアの改革と比較せよ。この比較からどのような結論を導き出せるだろうか？

セクションの主な質問に対する答えをまとめること。



アレクサンドル2世の改革には、「大改革」と「自由主義改革」という2つの最も一般的な特徴がある。どちらがより正確だろうか？あるいは、これらを一つにまとめることは可能だろうか？

§ 19

アレクサンドル2世治世下における
ロシアの外交政策

ベルリン条約・サンステファノ
条約・三皇帝合同

シプカ＝シェイノヴォ。シプカ近郊のスコベレフ。画家：V.V. ヴェレシチャーギン



アレクサンドル2世治世下、ロシアはどのような外交政策上の課題に直面し、それらはどれほど効果的に解決されたか？



ベルリン条約・サンステファノ条約・三皇帝合同



A.M.ゴルチャコフ・K.P.カウフマン・F.F.ラデツキー・M.G.チェルニャエフ・
I.V.グルコ・N.P.イグナチエフ・N.N.ムラヴィヨフ・E.V.プチャーチン・
M.D.スコベレフ・N.G.ストレトフ



1856-1860年 - 第二次アヘン戦争
1862年 - フランス、南ベトナムを占領

1855年 - 日本と下田条約調印

1863年 - カンボジアに対するフランスの保護領樹立

1864年 - 普墺・デンマーク戦争

1866年 - 普伊戦争

1870-1871年 - 普仏戦争

1874-1876年 - イギリスマレー諸侯国（ペラ州など）を保護領とする

1878-1880年 - 第二次アフガン戦争

1879-1883年 - チリとペルー間の太平洋戦争

1881年 - フランスがチュニジアを保護領化

1858年 - 清国とのアイグン条約および天津条約の調印。アムール川流域の併合

1860年 - 清国との北京条約の調印。ウスリー川流域の併合

1864-1881年 - 中央アジア併合

1867年 - アラスカ売却

1870年 - ロシアによるパリ講和条約条項の一方的破棄に関するゴルチャコフの回状

1873年 - 三帝連合の成立

1875年 - サントペテルブルクで日本との条約調印。サハリン併合

1877-1878年 - 露土（バルカン）戦争

1878年2月19日 - サン・ステファノ条約調印

1878年7月1日 - ベルリン条約調印

1. パリ条約破棄をめぐるロシアの闘争。 クリミア戦争は、ウィーン会議後に確立された国際関係システムに終止符を打ち、神聖同盟は最終的に消滅した。ロシアはヨーロッパ政治における主導的役割を失った。代わりに、ロシアに対抗する英仏同盟に基づくクリミア体制が形成された。ロシア外交と外務大臣A.M.ゴルチャコフ公爵が直面した主要課題は、国際問題におけるロシアの主導的地位と、パリ条約条項によって制限されていた黒海における主権を回復することだった。この課題の好機は、ヨーロッパで数々の戦争が勃発し、オーストリア、プロイセン、フランスの関係が悪化した1860年代後半から1870年代初頭に訪れた。



A.M.ゴルチャコフ。
画家N.T.ボガツキー

212

3

プロイセン首相オットー・ビスマルクが「鉄血」でドイツを統一する間、ロシアは中立を維持した。1866年、ロシアの伝統的な支援を失ったオーストリアは普墺戦争で敗北を喫した。これは（サンクトペテルブルクでは信じられていたように）クリミア戦争中のオーストリア政府の「裏切り」政策に対する相応しい報復となった。続いてフランスの番が来た。1870年の普仏戦争では、アレクサンドル2世はナポレオン3世からの援助と仲裁を求める訴えを一切無視した。フランス軍が降伏した後、アレクサンドルはゴルチャコフに指示し、ロシアはもはや黒海における権利を制限する義務に縛られていないことをヨーロッパ列強に伝えさせた。ビスマルクはこの問題を議論するための会議の招集を提案した。それは1871年1月から3月にかけてロンドンで起きた。当時、プロイセンはドイツ帝国の首脳にまで上り詰め、ロシアを支援していた。イギリスをはじめとする列強は、ロシアが黒海に海軍を維持する権利を認めざるを得なかった。黒海海峡に関する新たな体制が確立され、スルタンは平時において友好国の軍艦のために海峡を開く権利を与えられた。

フランスの敗北とドイツ帝国の成立は、ロシアとオーストリア（1867年からはオーストリア＝ハンガリー帝国）、そしてドイツとの和解を再び促した。1873年10月、三皇帝連合が結成された。その目的は、ヨーロッパにおける既存の国境を維持することだった。こうしてロシアは国際的な孤立から脱却し、ヨーロッパ政治への影響力を取り戻した。



アレクサンドル2世治世初期におけるロシアの主要な外交政策目標を列挙せよ。フランスの敗北とドイツ帝国の成立が三皇帝連合の形成につながったのはなぜか？2つの説明を述べること。

2. 中央アジアの征服。 カザフスタン併合後、ロシアは中央アジアの諸国、すなわちコーカンド・ハン国、ヒヴァ・ハン国、そしてブハラ・ハーン国と緊密な関係を築くようになった。ニコライ1世の時代以来、ロシア・コーカンド国境では軍事衝突が絶えず発生していた。ロシア・コーカンド戦争の転機となったのは、M・G・チェルニャエフ将軍率いる小部隊（約1,500名、大砲10門）の作戦であった。彼らは1864年、難攻不落とされていたチムケントを占領し、1865年にはタシケント（人口10万人、1万5,000人の守備隊で守られていた）を占領した。ブハラ・ハーン国王はコーカンド・ハーン国を救援したが、1866年にはブハラ人も敗北した。1867年、征服地にはタシケントを拠点とするトルキスタン総督府が設立された。初代総督K.P.カウフマンは1868年にサマルカンドを占領し、ブハラの首長にロシアの保護領を承認させた。1873年、カウフマンは事実上戦闘することなくヒヴァを占領した。和平条約に基づき、ヒヴァ・ハンもロシア皇帝の権威を承認した。1875年から1876年にかけて、コーカンド・ハン国の領土で数回の反乱が発生した。そして1876年、コーカンドはM.D.スコベレフ将軍によってついに征服された。コーカンド・ハン国は廃止され、その領土はロシア軍総督の支配下にあるフェルガナ地方の一部となった。上記の出来事の結果、ロシアの勢力はカラカルパク人、キルギス人、タジク人、ウズベク人が住む広大な領土にまで拡大した。



奇襲攻撃。画家 V.V. ヴェレシチャーギン



この絵画の構図には、中央アジア諸国の軍隊に対するロシア軍のどのような軍事的・技術的優位性が反映されているのだろうか。

好戦的なトルクメン族は、他の部族よりも長く独立を維持した。彼らの征服は、1869年にカスピ海沿岸にクラスノヴォツク要塞が築かれたことから始まった。1881年1月、スコベレフ将軍率いるロシア軍は、困難な作戦と包囲戦を経て、アハルテケ・オアシスのゲオク・テペ要塞を占領した。トルクメニスタンの他の地域は、自発的にロシアに編入された。

ロシアに編入された後、中央アジアでは奴隷貿易と奴隷制が禁止された。鉄道の建設が始まり、近代的な学校、病院、図書館が開設された。中央ロシアへ輸出された綿花の生産は飛躍的に増加した。



中央アジアがロシアに併合された3つの理由と3つの結果を挙げよ。



夏服を着たトルキスタン兵。
画家V.V. ヴェレシチャーギン。
1873年



3. 日本および中国との条約。1850年代、ヨーロッパ列強とアメリカ合衆国の間で日本における覇権争いが繰り広げられた。これはロシア政府を不安にさせた。1852年、E.V. プチャーチン中将率いる遠征隊が日本に向けて出発した（秘書は著名な作家I.A. ゴンチャロフだった）。1855年1月、プチャーチンは下田条約に署名し、ロシアと日本の間に外交および貿易関係を確立した。この条約により、千島列島も分割された。日本は南方の3島（宜留島、国後島、色丹島）を受け取り、その他の島はロシアに留まった。サハリン島は分割不可の領土と宣言された。

アレクサンドル2世は即位後、中国（清帝国）との国境紛争の解決に尽力した。東シベリア総督N. N. ムラヴィヨフが主要な役割を果たした。1858年、アイグン条約により、アルグン川から河口までのアムール川左岸（1689年に事実上失っていた）がロシアに割譲された。同年、E. V. プチャーチンは天津条約に署名し、ロシア商人は中国の海港における貿易権を獲得した。1860年、N. P. イグナティエフ伯爵は北京条約に署名し、この条約に基づきウスリー川流域がロシアに割譲された。

極東における新たな領土の併合により、サハリンの戦略的重要性は飛躍的に高まり、ロシア人入植者たちは急速にサハリンの発展に着手した。その後、日本側は下田条約の見直しを提起した。1875年にサンクトペテルブルク条約が締結され、サハリン全土がロシア領と認められ、日本は見返りに千島列島全土を獲得した（ただし、ロシアは18世紀に既に開発を開始していた）。



ロシアの極東における外交政策の目標は何だったか？ それは達成されたか？ 自分の意見を事実に基づいて裏付けること。



4. ロシアとアメリカ合衆国。アラスカ売却。 19世紀半ばの毛皮貿易の衰退は、露米会社の財政状況を深刻に損ない、国庫に収入よりも損失をもたらすようになった。東シベリア総督のN. N. ムラヴィヨフは、その領土をアメリカ合衆国に売却するという問題を最初に提起した。

アラスカ売却条約は1867年3月にワシントンで調印された。それによると、ロシアは北米の領土すべてを720万ドル（当時の為替レートで1130万ルーブル）でアメリカ合衆国に譲渡した。この資金はロシアの鉄道建設に充てられた。



アラスカとアリューシャン列島がアメリカ合衆国に売却された2つの理由を述べよ。

5. 露土（バルカン）戦争 1877-1878年。1875年7月、ボスニア・ヘルツェゴビナでオスマン帝国の支配に対する強力な反乱が勃発した。1876年4月にはブルガリアでも反乱が起きた。6月には、オスマン帝国の属国であるセルビアとモンテネグロが反乱軍に味方した。ロシアの将軍M. G. チェルニャエフがセルビア軍の指揮を執ったが、兵力は互角ではなかった。

バルカン半島のスラヴ人の苦難と彼らの無私の闘争は、ロシア社会に大きな興奮をもたらした。特別な「スラヴ委員会」が反乱軍への寄付金を集めた。様々な都市で義勇兵部隊が組織され、チェルニャエフ軍のセルビア人救援に駆けつけた。アレクサンドル2世は極めて困難な立場に立たされた。一方で、セルビア人とブルガリア人への即時軍事援助を求める世論の強い圧力を考慮に入れなければならなかった。しかし他方では、主要閣僚全員が中立維持の必要性を彼に納得させた。

1877年初頭、イスタンブールで開催された国際会議は、征服されたキリスト教徒に対するスルタンの厳しい政策を緩和するよう促す試みだった。トルコはこの圧力を内政干渉とみなした。アレクサンドル1世には要求を実現する唯一の道があった。

1877年4月12日に宣戦布告した。

戦闘はバルカン半島、トランスコーカサス、そして黒海で行われた。ルーマニア、セルビア、モンテネグロはロシア側として参戦し、ロシアの将軍N. G. ストレトフが指揮するブルガリア義勇軍も派遣された。軍事作戦の主戦場はバルカン半島だった。7月、ロシア軍とルーマニア軍はブルガリアにおけるトルコ軍の最も重要な要塞であるプレヴナを包囲した。トルコ軍は並外れた粘り強さで自軍を守り、大胆な出撃で包囲軍に多大な損害を与えた。同時に、ロシア軍とブルガリア民兵はイスタンブールへの直通道路となるシプカ峠を占領した。トルコ軍司令部は峠の奪還を目指して大軍を集結させたが、敵の努力はすべて徒労に終わった。数の優位性も、冬の山岳地帯に降り注ぐ厳しい寒さも、守備隊の勇気を揺るがすことはなかった。これは、多大な努力を費やして戦われた戦争の最も重要な局面だった。

213

4



シプカ峠の戦い3日目、1877年8月11日。画家A. D. キフシェンコ





M. D. スコベレフ。
画家 I. P. ポジャロスティン

ついに転機が訪れた。11月6日、M. T. ロリス＝メリコフ將軍はトランスコーカサスのカルスを占領し、11月28日にはプレヴナが陥落した。ロシア軍は攻勢に転じた。12月、I. V. グルコ將軍はブルガリアの首都ソフィアを解放し、F. F. ラデツキー將軍はシェイノヴォの戦いでトルコ軍を壊滅させ、シプカ峠から撃退した。M. D. スコベレフ將軍はプレヴナ陥落とシプカにおけるトルコ軍の敗北の両方で重要な役割を果たした。彼はロシア軍前衛の指揮も任された。1月初旬、スコベレフの分遣隊はイスタンブール郊外のサン・ステファノを占領した。



1. 露土戦争の主な原因を挙げよ。
2. ロシアの勝利の3つの理由を挙げよ。

6. サン・ステファノ平和条約とベルリン条約。11853年から1856年の状況の再現を恐れたアレクサンドル2世は、1878年2月19日にトルコとのサン・ステファノ平和条約を急いで締結した。この条約に基づき、オスマン帝国はセルビア、モンテネグロ、ルーマニアの独立を認めた。

これらの国の領土は拡大し、トルコから独立した新たな州、ボスニア・ヘルツェゴビナが誕生した。ブルガリアには、トラキアとマケドニアを含むブルガリア人が居住するすべての地域が含まれていた。この大国は2年間ロシアの支配下に置かれ、その後はトルコへの従属は象徴的な貢物の支払いのみとなった。さらに、ロシアは南ベッサラビアを返還し、トランスコーカサスではバトゥム、アルダハン、カルス、バヤゼットの各都市を含む領土を獲得した。

しかし、イギリスとオーストリア＝ハンガリー帝国はサン・ステファノ平和条約の条項を断固として承認しなかった。両国とロシアの関係は緊張を極め、ヨーロッパ戦争はいつ勃発してもおかしくなかった。ドイツの仲介によりベルリンで和平会議が開かれた。ヨーロッパ各国の外交官からの圧力を受け、A. M. ルチャコフ公は譲歩せざるを得なくなった。セルビアとモンテネグロの領有地は縮小され、統一ブルガリアの代わりにブルガリア公国と東ルメリア自治州という2つのブルガリア地域が設立され、いずれもトルコの指導下に置かれることになった。セルビア、モンテネグロ、ルーマニアは独立国家として承認された。ボスニア・ヘルツェゴビナはオーストリア＝ハンガリー帝国の支配下に入った。ロシアの領土獲得は、バヤゼット要塞を除き、サン・ステファノ条約に基づくものと同じままであった。これらの条件に基づき、1878年7月1日にベルリン条約が調印された。この条約はロシア社会全体に深い不満を引き起こし、ロシアとイギリス、オーストリア＝ハンガリー帝国だけでなく、ドイツとの関係も冷え込んだ。三皇帝の同盟は一時的に崩壊した。bb



ロシアはバルカン戦争を開始した際に目指した目標を達成したか？ 自分の意見を事実に基づいて裏付けること。

質問とタスク

1. ベルリン条約の調印、下田条約の締結、パリ条約終了に関するゴルチャコフの回状発行、コーカンド・ハン国のロシアへの併合、ウスリー川流域のロシアへの併合という一連の出来事を整理せよ。
2. ゴルチャコフは、クリミア戦争直後のロシア外交官への最初のメッセージの一つで、次のように記している。「ロシアは孤立し、法にも正義にも反する事実を前に沈黙を守っているとして非難されている。彼らはロシアが怒っていると言うが、ロシアは怒っているのではなく、集中しているのだ。」この記述をどのように理解するか？
3. アレクサンドル2世の治世中にロシアの一部となった領土はどれか？ また、残された領土はどれか？
4. 1853年春、東シベリア総督N.N.ムラヴィヨフはニコライ1世に覚書を提出し、その中で「鉄道の発明と発展により、アメリカ合衆国は必然的に北米全土に進出するであろう。そして、遅かれ早かれ、我々の北米の領土を彼らに譲らざるを得なくなることを心に留めておかなければならない。しかし、このことを考慮すると、もう一つのことを心に留めずにはいられなかった。それは、ロシアが東アジア全域を領有することはできなくても、東洋のアジア沿岸全域を支配することは当然のことである。諸事情により、我々はイギリスによるアジア地域への侵攻を許したが...この問題は、北米諸国との緊密な関係によって依然として改善される可能性がある」と記した。この覚書は、極東におけるロシアの外交政策、そしてアメリカ合衆国との関係において、どのような意味を持っていたのだろうか？ 3つの説明を述べること。
5. 19世紀半ば、アメリカ合衆国は世界最大の綿花生産国であった。この事実と中央アジアのロシア併合との間に関連はあるだろうか？ 自分の意見の根拠を示すこと。

セクションの主な質問に対する答えをまとめること。



アレクサンドル2世の治世中、ロシアはどのような外交政策上の課題に直面し、それらはどの程度効果的に解決されただろうか？

§ 20-21 社会政治運動



3月1日の抗議活動参加者の裁判。画家：I. F. キリロフ



アレクサンドル2世治世下、ロシアの権力に最も大きな影響を与えた社会運動の潮流はどれか？その理由は？



アナーキズム・「大宣伝社会」・最高行政委員会・「土地と自由」・保守主義・「人民の意志」・ポピュリズム・ニヒリスト・急進主義者・ラズノチンツィ・「人民の手に」・「黒人の再分配」



I.S.アクサーコフ・M.A.バクーニン・I.I.グリネヴィツキー・
F.M.ドストエフスキー・A.I.ジェリャーボフ・V.I.ザスーリチ・K.D.カヴェリン・
M.N.カトコフ・P.L.ラブロフ・M.T.ロリス＝メリコフ・S.G.ネチャーエフ・
S.L.ペロフスカヤ・P.N.トカチェフ・N.G.チェルヌイシェフスキー・
B.N.チチェリン



1864 - 1872年 - 第一インターナショナルの活動

1867年 - オーストリア＝ハンガリー帝国における自由主義憲法制定

1868-1874年 - スペイン革命

1869年 - ドイツ社会民主党結成

1870年9月3日-4日 - フランス革命、ナポレオン3世の打倒

1871年3月18日-5月28日 - パリ・コミュン

1875年 - フランス第三共和政憲法制定

1876-1877年 - オスマン帝国における違憲の改革

1878年 - ドイツにおける「社会主義者に対する法律」の制定

1861-1864年 - 最初の「土地と自由」運動の活動

1863年 - 小説『何を為すべきか』の出版N. G. チェルヌイシェフスキー

1869年 - 「人民正義」組織の結成

1871-1874年 - 「大宣伝協会」

1873-1874, 1876年 - 「人民への道」

1876-1879年 - 第二次「土地と自由」の活動

1878年 - V. I. ザスーリチ事件

1879年 - 「土地と自由」が「人民の意志」と「黒人再分配」に分裂

1880-1881年 - 最高行政委員会の活動

1881年1月 - ロリス＝メリコフによる「憲法」制定

1881年3月1日 - ナロードナヤ・ヴォリアによるアレクサンドル2世暗殺

1. 1850年代後半から1880年代初頭にかけてのロシア社会運動の特異性。 アレクサンドル2世はしばしば厳しい批判にさらされた。中には、特に農民に対する改革に悪と不正義しか見出せない者もいた。彼らはそれを是正するために、革命的な闘争手段に訴えようとした。こうした人々は社会運動において急進的な潮流を形成した。一方で、アレクサンドルの改革は中途半端で不十分だと考えながらも、政府に憲法と選挙による議会を導入するよう説得しようとした者たちもいた。彼らは自由主義者と呼ばれた。さらに、改革はロシアを誤った方向に導き、西欧の欠点や悪徳を無意識に模倣していると考える者たちもいた。彼らはスラヴ主義者と呼ばれた。「ポチヴェニク」は、ロシアの独創性とヨーロッパ文明を融合させることに可能性を見出した。保守主義者は、アレクサンドルの改革が急進的すぎて、ロシアにとって破滅的な道を歩み始めたと確信していた。検閲の緩和、教育へのアクセスの拡大、そして印刷メディアの影響により、これらの思想は広く普及した。

1861年の改革後、聖職者、商人、ブルジョアジー、農民、そして下級官吏から構成されていたラズノチンツィが、貴族階級と共に社会運動においてますます重要な役割を果たすようになったことは注目すべき点である。彼らは通常、最も急進的で革命的な思想の代弁者だった。そして、彼らの中からいわゆるニヒリスト（この言葉はI. S. ツルゲーネフの小説『父と子』によって広く知られるようになった）が生まれた。当時、ニヒリストとは、宗教を拒絶し、唯物論を唱え、当時の道徳基準を認めない若者たちのことだった。当時の科学・哲学理論、とりわけダーウィニズム（自然選択説）と実証主義（経験を唯一の知識源とする説）は、ニヒリストの世界観の形成に大きな影響を与えた。



アレクサンドル2世の改革は、ロシアの社会運動の発展にどのような影響を与えたか？ 2つか3つの説明を述べること。



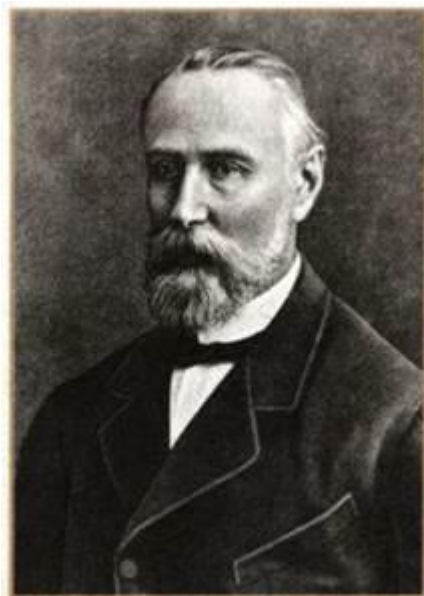
B.N. チチェリン。
画家 V.O. シャーウッド

2. 自由主義運動。19世紀半ばのロシア自由主義の最も著名な理論家は、ロシアの大学学問における国家（歴史法学）学派の代表者であるK.D. カヴェリンとB.N. チチェリンであった。彼らは、ロシアはまだ憲法と議会を樹立する準備が整っていないと考えていた。独立した公的裁判所、教育、そして発達した地方自治が必要だった。改革によって、自由主義者たちはゼムストヴォ、つまり弁論、教育、ジャーナリズムといった分野で活動する機会を得た。彼らの主要機関紙は機関紙『ヴェストニク・エヴロピー』であった。多くのゼムストヴォに自由主義グループが結成された。彼らの立場は、様々な請願書やアレクサンドル2世宛ての嘆願書の形で表明され、その中で彼らは全ロシアの「ゼムスキー・ソボル」の招集を求め、国家評議会を選出されたゼムストヴォ代表者で補充することなどを提案した。しかし、当局は彼らに応じず、請願者はしばしば逮捕された。

3. スラヴ派、「ポチヴェニキ」、保守主義者。19世紀後半の社会政治運動において、スラヴ派は、I.S. アクサーコフが編集した出版物「デン」「モスクワ」「ルーシ」を中心に、引き続き重要な役割を果たした。スラヴ派は、ゼムストヴォ自由主義運動の思想に近い政治体制を主張した。それは「権力は皇帝に、世論は人民に帰属すべきである」という定式に合致していた。

スラヴ派がロシアのアイデンティティを守り発展させる必要性をあらゆる方法で主張したのに対し、「ポチヴェニキ」はそれだけでは不十分だと考えていた。この運動の創始者の一人、作家F・M・ドストエフスキー（大衆雑誌『ヴレミヤ』と『ドネヴニク・ピサテル』の発行人）は次のように主張した。「我々の使命は、我々自身の、我々の土地から生まれた、我々自身のための新しい形態を創造することである...ロシアの理念は、おそらく、ヨーロッパが粘り強く発展させてきたあらゆる理念の総合となるだろう...」

保守派の主な願望は、既存のシステムの安定性を維持し、自由主義改革の実施中にその崩壊を防ぐことだった。ここでの基調を決定づけたのは、才能ある広報家で新聞『モスコフスキエ・ヴェドモスチ』の編集者であったM・N・カトコフであった。彼は自由主義思想に対する自身の態度を次のように表明した。「ロシアは政治的自由を奪われていると言われている。ロシア国民は法的自由を与えられても政治的権利を持たないと言われている。しかし、ロシア国民は政治的権利以上のものを持っている。それは政治的義務である。すべてのロシア人は最高権力の権利を守り、国家の利益を守る義務がある。...これが我々の憲法である。」カトコフは、独裁権力の基盤に影響を与えることなくロシアを改革できると確信していた。彼の考えでは、独裁権力はロシアをヨーロッパの主要国に仲間入りさせるはずだった。この点で彼は、貴族の役割を軽視すべきではなく、新たな状況下においても貴族は帝位の支えであり、皇帝と国民をつなぐ存在であり続けるべきだと強調した。



M・N・カトコフ。写真

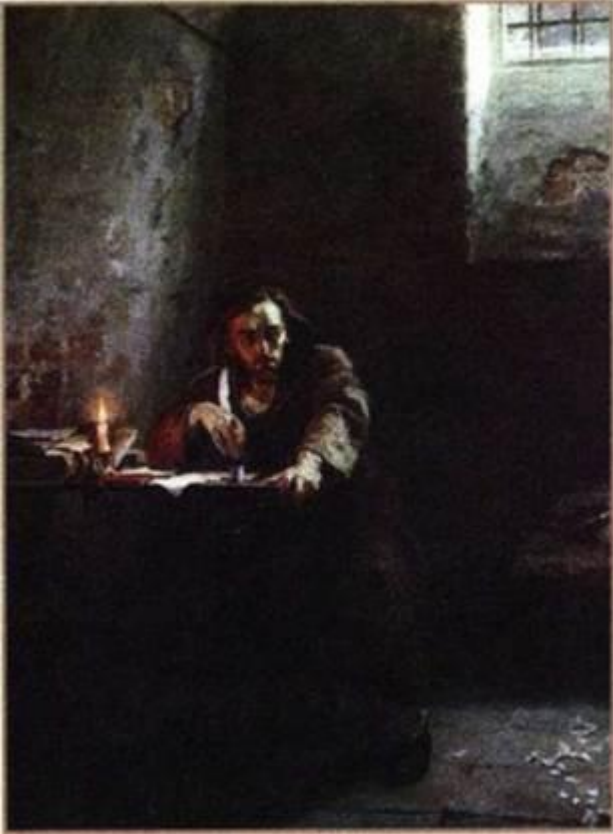
興味深い点。アレクサンドル2世を一貫して批判していたのは、モスクワ大学のK.P.ポベドノスチェフ教授だった。彼は1861年から皇帝の息子たちに法律を教えていた。ポベドノスチェフは、アレクサンドルの改革がロシアを本来あるべき方向とは全く異なる方向に導いたと確信していた。ポベドノスチェフは、改革後のロシアにおけるあらゆる問題の根源、そして国民の調和を破壊した主因は、改革の基盤となった原理、すなわち「人間性」（西洋的な意味でのヒューマニズム）の崇拝にあり、それがロシア本来の理想、すなわち専制政治、民族主義、そして正教に取って代わったと信じていた。彼の見解では、ロシア国民にとって極めて異質な西洋の思想は、彼らをあらゆる道徳的障壁から解放し、暴力と専制政治へと導いた。

スラヴ派、「ポチヴェニク」、そして保守主義者の思想は、アレクサンドル2世の息子であり後継者である皇太子アレクサンドル・アレクサンドロヴィチの世界観の形成に非常に大きな影響を与えた。

? スラヴ派、ポチヴェニク、そして保守主義者のどのような見解が、帝位継承者アレクサンドル・アレクサンドロヴィチの心を捉えたのだろうか？

4. 1860年代の急進的な潮流。当時の急進的な若者の最も著名な指導者は、雑誌『ソヴレメンニク』に協力していた文芸評論家のN.G. チェルヌイシェフスキーとN.I. ドブロリュボフ、そして雑誌『ルースコエ・スローヴォ』のD.I. ピサレフだった。彼らは自らの呼びかけを直接表現することはできなかったものの、文学作品を分析することで、読者により良い未来のために闘う時が来たことを理解させようとした。そして彼らは、A.I. ゲルツェンが提唱した農民社会主義こそがロシアにとって最良の未来であると見ていた。学生たちはこれらの呼びかけを行動の指針と捉えた。学生たちは革命を呼びかけるビラを作成し、配布した。また、政府の行動について議論し、批判する集会も組織した。

カザン大学の学生たちは、ベズドナ村で処刑された農民たちを追悼する葬列を行ったが、その最も積極的な参加者は大学から追放された。



ペトロパヴロフスク要塞の独房で小説『何をなすべきか』を執筆するチェルヌィシェフスキー。

画家：E.D. ゴロヴィフ

歴史上の人物。ニコライ・ガヴリーロ

ヴィチ・チェルヌィシェフスキー（1828-1889）はサラトフの司祭の家に生まれた。神学校で学び、サンクトペテルブルク大学の歴史・文献学科を卒業し、教師を務めた。1853年、チェルヌィシェフスキーは雑誌や新聞に作品を発表し始め、すぐにロシアで最も人気のある文芸評論家・ジャーナリストの一人となった。1862年、彼は「高貴なる農民へ、彼らの支援者より」という布告を作成し配布した容疑で逮捕された。ペトロパヴロフスク要塞の独房で裁判を待つ間、小説『何をなすべきか』を執筆した。1863年、この小説は雑誌『ソヴレメンニク』に掲載され、たちまち人気を博した。「新しい人々」、彼らの間の「新しい」関係、そして彼らが築き上げる素晴らしい未来を描いていた。しかし、この小説は発禁処分となった。チェルヌィシェフスキーは、罪が証明されることはなかったものの、重労働と終身シベリア流刑を宣告された。一方、『何をなすべきか』はヨーロッパの主要言語に翻訳された。発禁処分にもかかわらず、この小説は数世代にわたるロシアの若者たちの愛読書であり続けた。



19世紀後半から20世紀初頭にかけてのロシアの急進派は、チェルヌィシェフスキーを彼らの最大の英雄であり、師とみなしていた。なぜだと思う？ 2つか3つの説明を述べること。

1861年末、サンクトペテルブルクで秘密革命組織「土地と自由」が結成された。その思想的触発者は、A.I. ゲルツェン、N.P. オガリョフ、N.G. チェルヌィシェフスキー、D.I. ピサレフだった。この組織の綱領は、N.P. オガリョフがコロコル紙に掲載した論文「人民は何を必要としているか？」だった。論文の題名に示された問いに対し、オガリョフは「人民は土地と自由を必要としている」と答えた。「土地と自由」運動の活動は、1863年に計画されていた農民蜂起の準備を目的としていた。しかし、メンバーの希望が叶わなかったため、組織は1864年に解散した。

1863年から1866年にかけて、モスクワでは、モスクワ大学の監査役N.A. イシュチンを指導者とするサークルが活動していた。彼らは小説「何をなすべきか？」の主人公を模倣し、学校やアルテリ工房を開設した。中には、より断固たる行動を求める者もいた。1866年4月4日、サンクトペテルブルクで、このサークルのメンバーの一人である元学生D.V. カラコーゾフが、夏の庭園を散策していた皇帝アレクサンドル2世を銃撃したが、命中しなかった。カラコーゾフは絞首刑に処された。サークルは壊滅させられ、メンバーは様々な刑期の重労働と流刑を宣告された。この暗殺未遂事件は、改革の一部の縮小につながった。雑誌『ソヴレメンニク』と『ルースコエ・スローヴォ』は廃刊となった。

1860年代後半、教育機関に対する警察の監視強化は、サンクトペテルブルクで学生の暴動を引き起こした。これらの騒乱の間、P.N. トカチェフとS.G. ネチャーエフが台頭した。ネチャーエフは「革命の始まり」と題する小冊子の中で、次のように主張した。「カラコーゾフが開始した行動は...集団的大衆の行動へと変貌し、絶えず頻度と規模を増していかなければならない...厳しく、冷酷で、容赦のない一貫性をもって...この世代は真の革命を始めなければならない...存在するものすべてを、ただ「より速く、より多く」という一点のみを念頭に、無差別に、一度に破壊しなければならない。破壊の形態は多様である。毒、ナイフ、絞首縄など!...いずれにせよ、革命はこの闘争において神聖化されるのだ...」。1869年、ネチャーエフはモスクワに秘密組織「人民報復」を結成した。メンバーの一人が脱退を希望した際、ネチャーエフはその殺害を企てた。警察の捜査により、この組織は摘発された。ネチャーエフは国外に逃亡したが、犯罪者としてロシア当局に引き渡され、ペトロパヴロフスキー要塞で死亡した。

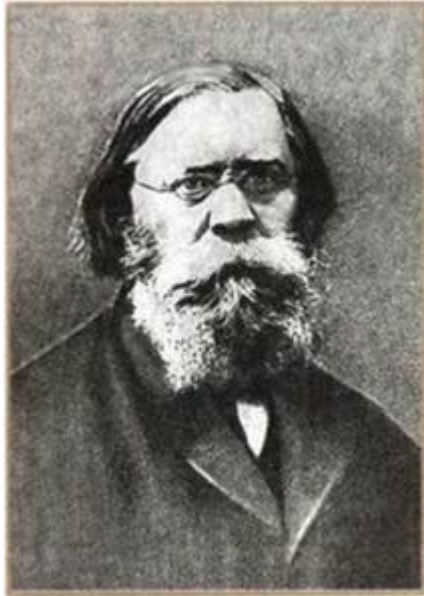
興味深い点。ネチャーエフの犯罪は、ロシア文学および世界文学における最も重要な作品の一つF.M. ドストエフスキーの小説『悪霊』の筋書きの基礎となった。



1. なぜ学生たちは過激なプロパガンダの影響を受けやすかったのか？2つの説明を述べること。
2. ドストエフスキーがネチャーエフの物語に興味を持ったのはなぜだと思うか？そこに重要なパターンはあったのか？

5. ポピュリズムの始まり。1870年代、過激な運動は反抗的、プロパガンダ的、そして陰謀的な3つの方向に分裂した。

スラヴ派がロシアのなるだろう...」反抗的方向の指導者は、アナキズムの主要なイデオログの一人であるM.A. バクーニンであった。アナキストは、どんな国家権力も、たとえ最も民主的な国家権力であっても、悪であると信じていた。バクーニンは、将来の人民革命の本質について次のように記している。「それは、教会、議会、裁判所、行政機関、軍隊、銀行、大学など、国家そのものの重要な要素を構成するあらゆる組織と制度の破壊から始まる。国家は根底から破壊されなければならない...」。これは、大規模な「盗賊」反乱の結果として起こらなければならない。バクーニンはこう書いている。「強盗は、ロシア人の生活における最も名誉ある形態の一つである...強盗は英雄であり、人民の守護者であり、復讐者であり、国家の執拗な敵である...」。バクーニンは、ロシア農民は生まれながらの強盗であり反逆者であると信じていた。彼らはいつでも立ち上がる準備ができているのだ。



P.L. ラブロフ。写真

宣伝指導の指導者はP.L. ラブロフだった。彼はバクーニンの考えに共感していたが、革命は村で勃発するだろうとした。しかし、農民がそれを受け入れる準備ができていたとは考えなかった。この点において、革命家の任務は、民衆の間で組織的な宣伝活動を行い、農民に彼らの困難な状況の原因と、それを改善するための方法を説明することになる。

P.N. トカチョフは陰謀指導の指導者となった。彼は、ロシアの独裁政権は大衆の支持を得ておらず、「土足の巨人」であり、陰謀とテロ戦術によって容易に打倒されると考えていた。「革命を準備するのではなく、革命を起こす」というのが彼の主張だった。これらの目標を達成するには、緊密で、よく組織化された陰謀組織が必要だった。



M.A. バクーニン。写真

歴史上の人物。 ミハイル・アレクサンドロヴィチ・バクーニン（1814-1876）は貴族の家に生まれ、サンクトペテルブルク砲兵学校を卒業した。1835年に引退し、モスクワに定住した。若い頃、バクーニンはN.V. スタンケヴィチの仲間であった。1840年にロシアを離れ、ベルリン大学で学んだ後、1848年から1849年にかけてのヨーロッパ革命に積極的に参加し、逮捕され、死刑判決を受けた。1851年、オーストリア当局はバクーニンを帝政ロシア政府に引き渡した。彼はペトロパヴロフスキー要塞とシュリッセリブルク要塞で6年間独房監禁された。1857年、シベリアに流刑となり、そこから日本とアメリカ合衆国を経由してロンドンへ逃れた。彼は第一インターナショナルのメンバーであり、1869年にはK. マルクスとF. エンゲルスによる共産党宣言をロシア語に翻訳した。1871年、バクーニンはフランスのリヨンで反乱を起こした労働者の隊列に加わった。彼はスイスのベルンで亡くなり、そこに埋葬されています。彼は世界におけるアナキズムの主要なイデオログの一人とされている。



この絵画の構図には、中央アジア諸国の軍隊に対するロシア軍のどのような軍事的・技術的優位性が反映されているのだろうか？

バクーニン、ラブロフ、トカチョフの思想は、革命家の間で広く議論された。1870年代初頭の革命組織の中で最も重要で数が多かったのは、チャイコフスキー・サークル、あるいは大宣伝協会であり、ラブロフの思想に深く影響を受けていた。この協会には、P.A. クロポトキン、M.A. ナタンソン、N.V. チャイコフスキー、S.L. ペロフスカヤ、N.A. モロゾフ、S.M. クラフチンスキー、A.I. ジェリヤーボフ、A.D. ミハイロフなどが所属していた。協会の中心はサンクトペテルブルクにあり、モスクワ、キエフ、オデッサなどに支部があった。協会のメンバーは、労働者階級への革命的宣伝活動の先駆者であった。

1873年から1874年にかけて、ラブロフとバクーニンの呼びかけの影響を受けて、「人民の元へ」と呼ばれる革命的な若者の大衆運動が勃興した。数百人の若い男女、主に急進派（とりわけ「チャイコフスキー派」）のメンバーが、教師、医師、労働者などとして村に赴いた。彼らの目的は、民衆の中で生活し、自らの理想を広めることだった。民衆を扇動して反乱を起こそうとする者もいれば、平和的に社会主義の理想を広める者もいた。この運動に参加した人々はポピュリストと呼ばれた。しかし、彼らの衝動は実を結ばず、失望をもたらすだけだった。農民たちは「訪問紳士」たちに疑念を抱いた。まもなく、宣伝活動家の大量逮捕が始まった。



党（断片）。画家V.E. マコフスキー



この絵のプロットから、急進派が「人民の元へ」向かった理由のいくつかを推測できるだろうか？



プロパガンダ活動家の逮捕。画家：I.E. レーピン



この絵画の筋書きは、ロシアにおける社会運動の発展におけるどのようなエピソードを反映しているだろうか？

1876年、ポピュリスト集団が結集し、革命組織「土地と自由」を再建した。その活動家には、A.D. ミハイロフ、A.I. ジェリヤーボフ、G.V. プレハーノフ、S.L. ペロフスカヤ、M.A. ナタンソンなどがいた。同組織は非合法の新聞「土地と自由」と「リストク『土地と自由』」を発行していた。

この新しい組織は、1876年12月6日、サンクトペテルブルクのカザン大聖堂近くの広場で行われた政治デモで初めてその存在を知らしめた。G.V. プレハーノフは、専制政治と闘う必要性について熱烈な演説を行った。デモの最中、革命の象徴としてロシアで初めて赤旗が掲げられた。ゼムレヴォのメンバーは、農民の間に革命思想を宣伝することを自らの主な任務としていた。メンバーは村落に定住し、医師、救急救命士、事務員、教師、鍛冶屋、木こりなどになった（この運動は「第二の人民への道」として知られている）。

しかし、民衆を闘争へと駆り立てる試みはどれも大きな成果をもたらさず、政府はナロードニキの革命的宣伝に目を向け、弾圧を開始した。193人の宣伝活動家が1877年から1878年にかけて法廷に出廷した99人が重労働、投獄、流刑を宣告された。



「民衆の訴え」が失敗した理由を2つか3つ挙げよ。

6. 労働運動の誕生。「大宣伝協会」

（「チャイコフスキー」）をはじめとするいくつかのポピュリスト集団のメンバーが労働者の間で革命的な煽動を開始した。彼らのおかげで、最初の労働者組織が誕生した。1875年から1876年にかけて、オデッサには南ロシア労働者組合（E.O. ザスラフスキーが率いた）が存在した。1878年から1880年にかけて、サンクトペテルブルクには北ロシア労働者組合（P.A. モイセエンコ、V.P. オブノルスキー、S.N. ハルトゥリンが指導者）が存在した。どちらの組合も警察によって壊滅させられた。「チャイコフスキー」の織工の影響を受けて、P.A. アレクセーエフは革命闘争の道を歩み始めた。1875年、彼は逮捕され、「50人裁判」で裁かれた。



法廷のピョートル・アレクセーエフ
画家 G.V. イワノフスキー

1877年の裁判で、アレクセーエフは来たるべき革命について有名な演説を行った。演説には次のような言葉が含まれていた。「...何百万もの労働者の力強い手が立ち上がり、兵士の銃剣に守られた専制政治の軛は粉々に碎けるだろう...」

? なぜ労働者は農民よりもポピュリストのプロパガンダに屈したのだろうか？

7. テロへの移行。「人民の意志」。「人民の意志」。1878年までに、「人民の意思」は何も生み出さなかったことが明らかになった。農民は社会主義のプロパガンダに耳を貸さなかった。「ゼムレヴォルストヴォ」の間では、新たな闘争方法をめぐる論争が起きた。組織の指導部はますますテロに傾倒していった。これに関連して、「ヴェラ・ザスーリチ事件」は革命家だけでなく、ロシア社会全体に大きな反響を呼んだ。1878年1月24日、V.I. スーリチは、サンクトペテルブルク市長F.F. トレポフ（逮捕された民衆主義者たちを辱めた人物）に向けて拳銃を発砲した。トレポフは負傷したものの、一命を取り留めた。ザスーリチは暗殺未遂現場で逮捕されたが、陪審は彼女を無罪とし、釈放した。革命家たちは社会が自分たちを支持していると判断した。テロ行為は次々と起こり始めた。1878年8月4日、サンクトペテルブルクで、S.M. クラフチンスキーが憲兵隊長N.V. メゼンツォフを短剣で刺し、行方不明になった。1879年4月2日、A.K. ソロヴィヨフが宮殿広場でアレクサンドル2世に向けて発砲したが、命中せず、逮捕され絞首刑に処された。



M.T. ロリス＝メリコフ。
画家 I.K. アイヴァゾフスキー

G.V. プレハーノフ率いる「ゼムレヴォロツィ」の一部はソロヴィヨフを非難した。彼らはソロヴィヨフの銃撃は革命運動に害をもたらすだけだと信じていた。一方、A.D. ミハイロフ率いる別のグループは、ソロヴィヨフの行動を歓迎し、国王暗殺こそが組織全体の目的となるべきだと信じていた。1879年6月、ヴォロネジで開催された会議で分裂が起こった。G.V. プレハーノフ率いるテロ反対派は独自の組織「黒の再分配」を結成した。残りのグループは「人民の意志」に結集し、その主目的はアレクサンドル2世の暗殺であった。その指導者たちの中には、A.D. ミハイロフに加え、A.I. ジェリャーボフ、V.N. フィグネル、N.A. モロゾフ、S.L. ペロフスカヤ、S.N. ハルトゥリンらが目立っていた。

皇帝は死刑判決を受け、本格的な追及が始まった。1879年11月、テロリストたちは皇帝の列車の進路上で爆発を仕掛けたが、誤って皇帝の随員が乗る列車の真下に爆弾を仕掛けてしまった。1880年2月5日、冬宮殿で強烈な爆発が轟いた。数ポンドのダイナマイトが中央衛兵室の下で爆発し、数十人の兵士が死傷した。テロリストたちは、爆発によって1階上の皇帝の食堂を破壊しようと考えていた。皇帝はそこで食事をするようになっていた。革命家たちの怒りを買ったのは、皇帝が遅刻したことだった。この大胆な暗殺未遂は、労働者S.N. ハルトゥリンによって実行された。彼は宮殿で大工として働き、皇帝の食堂の地下室の一つに住み込んだ。そして、何度か試み、ダイナマイトを自分の部屋に持ち込むことに成功した。



ナロードニキの一部がテロリズムへと移行した2つの理由を挙げよ。

8. ロリス＝メリコフの「憲法」と1881年3月1日の暗殺未遂事件。 宮殿爆破事件後、テロリスト対策として最高行政委員会が設立され、露土戦争の英雄、M.T. ロリス＝メリコフ将軍が委員長を務めた。彼は革命家への対抗策として厳しい措置を講じる一方で、「善意の」社会階層と協力し、「反乱を引き起こし、それを助長した原因を癒す方法を見つけた。」リベラルな報道機関は、ロリス＝メリコフ政権を「心の独裁」と呼んだ。ロリス＝メリコフは、ゼムストヴォと都市の選出代表者をロシアに必要な改革の議論に参加させるプロジェクトを立ち上げた（このプロジェクトは憲法と呼ばれることもある）。アレクサンドルはロリス＝メリコフの提案を承認し、最終決定を下すために閣僚会議の招集を命じた。しかし、これは実現しなかった。

革命家たちはアレクサンドル2世暗殺計画を熱心に準備していた。しかし、首謀者の逮捕により、暗殺はほぼ失敗に終わった。A.D. ミハイロフは投獄され、計画されたテロ攻撃の2日前にA.I. ジェリヤーボフは逮捕された。S.L. ペロフスカヤは自ら暗殺計画を実行した。1881年3月1日、アレクサンドル2世はサンクトペテルブルクのエカテリーナ運河の土手沿いを車で走っていた。そこでは、ナロードナヤ・ヴォリアのメンバーたちが彼を待ち構えていた。N.I. リサコフが投げた最初の爆弾の爆発で、皇帝の馬車が損傷し、数人の衛兵と通行人が負傷したが、アレクサンドル2世は生き延びた。その後、もう一人の爆弾投下犯、I.I. グリネヴィツキーが皇帝に近づき、足元に爆弾を投げつけ、爆発で二人は致命傷を負った。



裁判中のS.L. ペロフスカヤとA.I. ジェリヤーボフ。画家P.Ya. ピャセツキー

しかし、「解放者皇帝」の死は、ナロードナヤ・ヴォリア党員が期待したように、革命の始まりにはつながらなかった。暗殺の首謀者全員が間もなく逮捕された。「3月1日」党員の事件については裁判が開かれ、判決により、S.L. ペロフスカヤ、A.I. ジェリヤーボフ、N.I. キバルチチ、N.I. リサコフ、M.T. ミハイロフの5人が死刑判決を受け、絞首刑に処された。

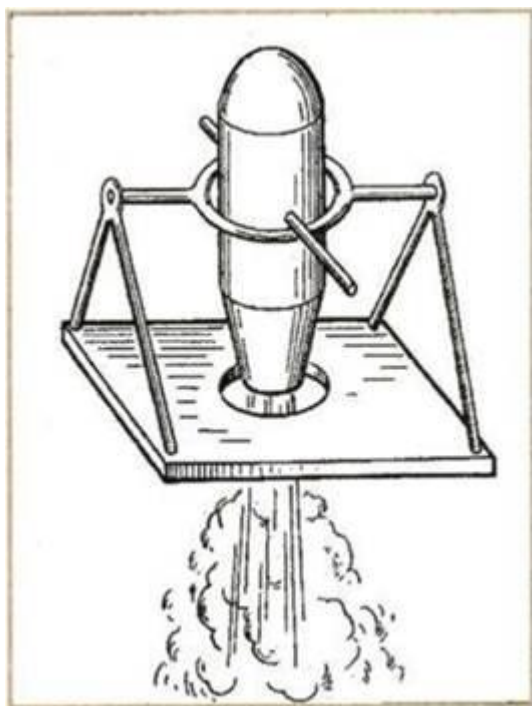


アレクサンドル2世暗殺未遂。1881年3月1日、エカテリーナ運河で砲弾が爆発。木版画。1881



ナロードナヤ・ヴォリア党員による皇帝アレクサンドル2世の暗殺は、ロシアの社会運動にとってどのような意味を持っていたと思うか

歴史上の人物。ソフィア・リヴォヴナ・ペロフスカヤ（1853-1881）は、ロシア貴族の上流階級に属する家庭に生まれた。ソフィアの父L.N. ペロフスキーは、エリザヴェータ・ペトロヴナ皇后の寵臣であったK.A. ラズモフスキー伯爵の子孫だった。16歳でソフィアはサンクトペテルブルクのアルチンスキー女子学院に入学し、そこで革命思想に関心を持つようになった。父は学院を去るよう命じたが、ソフィアは家を出ることを選び、N.G. チェルヌイシェフスキーの小説『何をなすべきか』に登場する「新しい人々」のイメージを体現する生活を送り始めた。彼女は人民教師と救急救命士の資格を取得し、サンクトペテルブルクの労働者学校で教鞭を執りながら、「大宣伝協会」の活動にも参加した。1874年、ペロフスカヤは初めて逮捕された。その後、父親が彼女を保釈した。ソフィアはシンフェロポリ・ゼムストヴォ病院で働いた。1877年から1878年にかけて、彼女は「193人裁判」の被告人の一人となったが、無罪となった。1878年に再び逮捕され、オロネツク州への流刑を宣告された。その後、彼女は潜伏し、「土地と自由」組織の活動家となった。分裂後、ペロフスカヤは「国家の秩序」に身を投じた。彼女はアレクサンドル2世暗殺未遂事件の組織化に直接関与した。彼女はA.I. ジェリャーボフの内縁の妻であり、ジェリャーボフは「国家の秩序」の執行委員会を実際に率いていた。ジェリャーボフの逮捕後、彼女は1881年3月1日に皇帝暗殺未遂事件を主導した。裁判の主任検事は、彼女の幼なじみであるN.V. ムラヴィヨフだった。



N.I. キバルチチの航空機

歴史上の人物。ニコライ・イワノヴィチ・キバルチチ（1853-1881）は、チェルニゴフ州の司祭の家庭に生まれた。サンクトペテルブルクの鉄道技師大学と外科医学アカデミーで学んだ。キバルチチは「民衆の元へ」運動に参加し、3年間投獄された。アレクサンドル2世を暗殺した爆弾を開発したのも彼である。死刑執行を待つ間、キバルチチはジェット機の開発計画に取り組み、宇宙ロケット設計の一般原理を予見していた。裁判で彼は、この計画の科学的検証を求めた。しかし、この計画は警察の記録保管所に引き渡され、1918年になってようやく明らかになった。



キバルチチはなぜ独裁政治との戦いのために科学的才能を犠牲にしたのだろうか？



1. ポピュリスト運動の指導者たちの思想は、具体的にどのように反映されていたのか？
2. 人民戦線によるアレクサンドル2世皇帝の暗殺は、ロシアの社会運動にとってどのような意味を持っていたと思うか？

質問とタスク

1. 一連の出来事を整理しなさい。「民衆への訴え」、最高行政委員会の活動、小説『何をなすべきか』の出版、アレクサンドル2世の暗殺、農奴制の廃止。
2. アレクサンドル2世の治世中に社会運動が活発化した理由を挙げよ。
3. 1862年、I.S.ツルゲーネフの小説『父と子』が出版された。主人公のエフゲニー・バザーロフは、この小説の中で「ニヒリスト（ラテン語のnihil（無）に由来）」... いかなる権威にも屈せず、どんなに尊重される原理であっても、いかなる原理も信仰として受け入れない人物」と描写されている。なぜ急進派はニヒリストと呼ばれたのだと思うか？
4. 著名なロシアの自由主義・法学者B.N. チチェリンは、著書『人民代表論』（1866年）の中で、「自由は、その完全な勝利が人民精神のゆっくりとした発展にかかっており、その精神は天才自身では変えることができないことを理解している穏健な崇拜者によって、はるかによく実現される」と述べている。この意見に賛成か？ 1850年代後半から1880年代初頭にかけてのロシア社会運動の歴史的事実に基づき、自分の意見を正当化すること。
5. 自分自身が定義した基準を用いて、「アレクサンドル2世治世下のロシアにおける社会運動」という表を作成し、記入せよ。
6. アレクサンドル2世治世下のロシアにおける社会運動と、同時代のヨーロッパ諸国における社会運動を比較することは可能だろうか？ 自分の意見を正当化すること。

セクションの主な質問に対する答えをまとめること。



アレクサンドル2世治世下、ロシアの権力に最も大きな影響を与えた社会運動の潮流はどれか？ その理由を提示すること。

章のまとめ

クリミア戦争の失敗は、ロシアが抱える諸問題を悪化させた。農奴制、軍事・技術の遅れ、交通の未発達、教育水準の低さ、国家と社会の相互不信といった諸問題である。アレクサンドル2世による改革——農民、軍事、ゼムストヴォ、司法、都市——はこれらの問題の解決を目指したもので、多くの成果が達成された。農奴制は廃止されたが、農民が受け取る土地は予想よりもはるかに少なく、新たな負担——償還金——が課された。軍事改革の有効性は、1877年から1878年にかけてのオスマン帝国との戦争における勝利によって試練にさらされた。

地方自治改革により、社会は日常的な諸問題の解決により広く参加することが可能になったが、地主と裕福な都市住民が依然として主要な役割を担っていた。司法改革は、国家と法、そして裁判官や弁護士全般に対する国民の信頼を高め、これが大改革の主要な成果であった。裁判所は真に独立しており、「ヴェラ・ザスーリチ事件」が証明したように。改革の矛盾した性質、その明白でない利点と明白な欠点は、社会運動の急速な発展をもたらした。運動は前政権よりもはるかに大規模になり、同時により多様で急進的なものとなった。急進派は目標達成に粘り強く取り組んだが、彼らの活動の結果が示すように、彼らの目標は間違っていた。アレクサンドル2世の暗殺は、ナロードナヤ・ヴォリアの期待に反し、社会に革命的な変化をもたらすことはなかった。

質問とタスク

1. アレクサンドル2世の治世下における主要な出来事を、公的生活と国家政策の主要な分野において年表にまとめよ。
2. アレクサンドル2世の治世下、どの地域がどのような状況下でロシアの一部となったか？これらの地域の一部は、帝国の一部としてどのような政治的・法的地位を獲得したか？その理由は何か？ロシア帝国はどの地域を放棄したか？その理由は何か？
3. アレクサンドル2世時代の歴史上の人物を1人選び、「歴史は私を正当化した」というテーマで、その人物の演説（ミニエッセイ）を書く。主人公が何をしようとしたか（そしてその理由）、何を成し遂げたか（そしてその理由）、そして何を成し遂げられなかったか（そしてその理由）を書き留めること。
4. 歴史学には、様々な、しばしば矛盾する見解が表明される論争の的となる問題が存在する。その一つは、次のようにまとめられる。「アレクサンドル2世の改革は、ロシアの社会経済的および政治的發展に貢献した。」歴史的知識を用いて、この見解を裏付ける論拠を3つ、反証できる論拠を3つ挙げよ。それぞれの論拠を提示する際には、必ず歴史的事実を用いること。
5. 「1850年代後半から1881年初頭にかけてのロシアにおける社会運動」というテーマでレポートを作成することが課題となっている。レポート作成のための綿密な計画を立てること。
6. M.A. ゴルチャコフは、1878年のベルリン会議の結果に関する皇帝への覚書の中で、「ベルリン会議は私の生涯で最も暗いページである」と認めている。アレクサンドル2世は、「そして私にとっても」と付け加えている。これらの発言の意味をどのように理解するか？

章の主な質問に対する答えをまとめること。



アレクサンドル2世の改革の間、ロシアはどのように、そしてなぜ変化したのだろうか？

プロジェクトのトピック



1. 小さなことの偉大さ：アレクサンドル2世の改革期における私の故郷（どのように暮らし、何を喜び、何を悲しんだか）。
2. 永遠の英雄：アレクサンドル2世時代の戦争で戦った私の同胞。
3. なぜ文芸評論家はロシア急進派の指導者になったのか？
4. 抗しがたい魅力：小説、映画、コンピュータゲームにおけるアレクサンドル2世時代。
5. 「生きる自由、死ぬ自由...」：ポピュリストと独裁政治の和解を象徴する記念碑のスケッチコンクール。
6. 音楽イメージを描く：アレクサンドル2世時代についての詩（ラップ）コンクール（サウンドトラックには19世紀第3四半期の音楽からの引用を含めること）。
7. 時代を捉える：アレクサンドル2世時代の出来事をテーマにした物語を描くコンクール。
8. ブルガリア、ルーマニア、セルビア、モンテネグロでは、1877年から1878年にかけての露土戦争の記憶はどのように保存されているのだろうか？
9. 農民を治療し教育する代わりに、教育を受けた若者が反乱を扇動しようとしたのはなぜだろうか？
10. 外国人作家の目を通して見たロシアの急進派（アルフォンス・ドーデの小説『アルプスのタルタリン タラスコンの英雄の新たな冒険』に基づく）。
11. アレクサンドル2世は実際にはロシアを何から解放したのだろうか？

章のリソース

1. K. D. カヴェリン著『農民解放に関する覚書』の抜粋を読み、課題を完了してください。

「我が国では、2550万人の住民が、市民的自由の最も基本的な要素、つまり自らの判断で何らかの職業に従事し、居住地を任意に離れる権利さえも奪われている。道徳的な意味では、農奴制の影響は、農奴制と同じくらい、あるいはそれ以上に有害である。農奴制のおかげで、地主は不必要な心配や煩わしさに悩まされることなく、農場や財産を管理人や長老に託し、自らは首都や外国で楽しみ、暮らすことができる。農奴もまた、主人と同じように考える。パンが足りず、牛が死に、小屋が焼け落ちた場合、主人は農奴にこれらすべてを与える義務がある。『農奴制は、暴力、不道德、無知、怠惰、寄生、そしてそこから生じるあらゆる悪徳や犯罪の尽きることのない源泉である。』」

本文の主題を含む文と、それを支持する議論を含む2つの文を見つける。

2. N. Ya の本の抜粋を読み、アイデルマン著「ロシアにおける『上からの革命』」を読み、質問に答えよ。

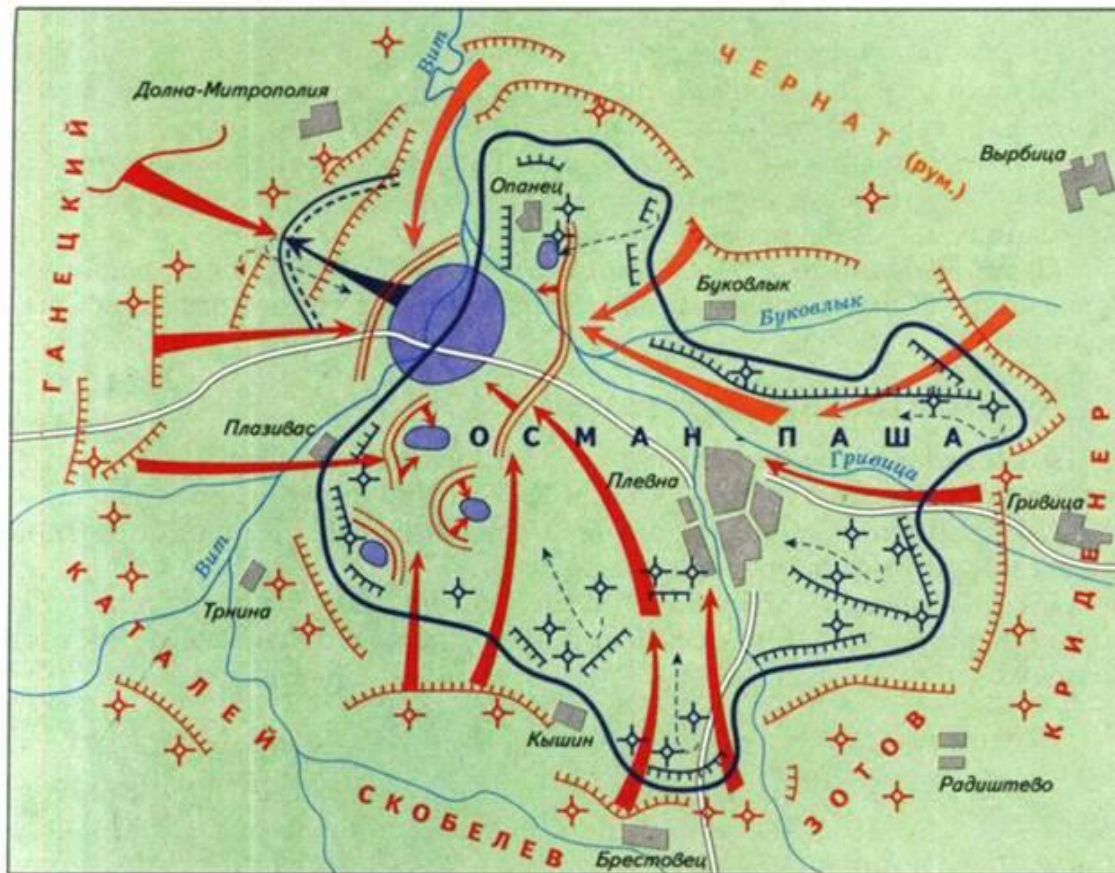
「...まさにゼムストヴォ制度が各県や州に導入されつつあった時、最も重要な問題が決定された。全ロシア・ゼムストヴォは存在すべきか？もし存在していたなら、たとえ弱体で、主に諮問機関であったとしても、議会が誕生し、スペランスキーの夢は半世紀遅れて実現していただろう。独裁政治は少なくとも立法機関によっていくらか制限されていただろう。...穏健なスラヴ主義者から民主主義者ゲルツェンに至るまで、様々な社会集団の代表者が無階級制を擁護した。著名な改革者A.I. コシエレフは、強力な公的自治こそが官僚制に対する唯一の解毒剤であると皇帝をほぼ確信させた。『官僚制は、ロシアにとって過去、現在、そして（願わくば長くは続かないであろうが）将来の災厄の源泉を自らの中に抱えている』と彼は予言した。イヴァン・アクサーコフは『貴族階級が、ロシア全土の前で、自らの身分を滅ぼすという大行為を厳粛に行うのを許す』という主張は、もちろん通用しなかった。しかし、純粋に貴族階級が政治的影響力を強化しようとする主張も通用しなかった。アレクサンドル2世は議会を貴族階級だけに与えたくはなかったが、すべての身分階級に与えることを恐れていた。」

1) 「アレクサンドル2世は議会を貴族階級だけに与えたくはなかったが、すべての身分階級に与えることを恐れていた」となぜ考えるのか？2つか3つの論拠を挙げて意見を正当化すること。2) アレクサンドル2世の改革を「上からの革命」と定義した歴史家に同意するか？

3. F.I. チュッチェフの詩「ああ、あなたは約束を守った...」のテキストと歴史的知識を用いて、作者が誰に、そしてどのような場面で語りかけているのかを判断せよ。

然り、君は約を果たせり：
一砲も放たず、一ルールも費やさず、
我がロシアの故土は、
再びその権利を取り戻す。我々に遺されし大海は、
自由なる波と共にもう一度、
短き恥辱を忘れ、
愛しき故郷の岸を吻す。我が時代に幸あらん、
勝利を血に非ず、知恵にて
得たる者にこそ、祝福あれ...

4. この地図には、ロシア軍史におけるどのような出来事が反映されているか？どのように判断したか説明すること。



5. K. D. カヴェリンがアレクサンドル2世に宛てた覚書「ニヒリズムとその対策について」（1866年）の抜粋を読み、課題を完了せよ。

「...事実は、ニヒリズムがロシアに根付き、若い世代に感染したのは、1849年から1855年にかけての最も厳しい監視と抑圧の時代だったことを証明している。ゲルツェンと彼の『コロコル』が、現政権の初期にロシア全土に及ぼした巨大な社会的影響と、現在の取るに足らない影響を比較してみよう。それほど遠くない昔、我々の社会を取り巻いていたニヒリズムの教義の代表者たちの魅力を思い出してみよう。警察当局も、第3部による検閲も、民間の検閲も、小説『何をなすべきか？』の出版を敢えて阻止できなかった時代を思い出してみよう。チェルヌイシェフスキーが要塞で執筆し、ニヒリストたちの愛読書となった...当時と現在を比較してみよう。ロシアにおける自由の拡大は、ニヒリズムの発展を招かなかったばかりか、逆にその意義と力をますます弱めてきたことがわかる...」

- 1) 著者は、ロシアにおけるニヒリズムの蔓延の主な理由を何だと考えているか？
- 2) 著者は、ニヒリズムと戦うためにどのような方法を提案しているか？
- 3) ロシア当局は著者の勧告に従ったのだろうか？ 自分の意見を事実に基づいて裏付けること。



推奨図書・映画・音楽

ポピュラーサイエンス

L.M. リャシェンコ『アレクサンドル2世、あるいは三つの孤独の歴史』。国家と社会がなぜ「解放者皇帝」をテロリストから守らなかったのかという問いに答えようとする試み。

N.A. トロイツキー『ソフィア・リヴォーヴナ・ペロフスカヤ。人生、人格、運命』。本書は、ロシア貴族出身の少女がいかにして革命家となったかを描いている。

N.Ya. アイデルマン『ロシアにおける「上からの革命」』。アレクサンドル2世の改革が「上からの革命」だとしたら、ポピュリストたちは一体何をしていたのか？

フィクション

B. アクーニン『トルコの賭け』。1877年から1878年にかけての露土戦争を背景にした、アクション満載の探偵小説。

H.S. レスコフ『ニヒリストとの旅』。ナロードナヤ・ヴォリア（人民解放軍）のテロリズム時代のユーモラスな物語。

N.A. ネクラースフ『ルーシで裕福に暮らす人々』。農奴制廃止後のロシア帝国における様々な階級の生活を俯瞰的に描いた作品。

映画

『何をなすべきか』（N.P. マルサロフ、P.R. レズニコフ監督、1971年、ソ連）。N.G. チェルヌイシェフスキーの同名小説を映画化した、三部作のテレビ映画。

『シプカの英雄たち』（S.D. ヴァシリエフ監督、1954年、ソ連・ブルガリア）。1877年から1878年にかけての露土戦争の主要な出来事と主要な参加者が、鮮やかに描かれた劇的な場面で鮮やかに描かれている。1955年カンヌ国際映画祭監督賞

『トルコの賭け』（D.K. ファイジエフ監督、2005年、ロシア）。B. アクーニンの同名小説の映画化。

『ソフィア・ペロフスカヤ』（L.O. アルンシュタム監督、1967年、ソ連）。ロシアで最も有名な革命家の伝記。

『ある約束の物語』（A.A. スミルノフ監督、2018年、ロシア）。L・N・トルストイが軍規に違反した兵士を死刑から救おうと奮闘する物語。

音楽作品

『こんな修道院を見せてくれ』。N.A. ネクラースフの詩に基づく歌。

『我らがスコベレフ将軍』。ドン・コサックの歌：M.D. スコベレフと1877年から1878年の露土戦争について



V

19世紀80年代～90年代のロシア



サンクトペテルブルクにあるアレクサンドル3世の記念碑。彫刻家：P. P. トルベツコイ
「もしアレクサンドル3世が、これほど長く統治を続ける運命にあったならば、その治世はロシア帝国における最も偉大な治世の一つとなったであろうと私は確信している。」

S.Yu. ウィッテ



アレクサンドル3世の治世は反改革の時代だったのか？

§ 22

アレクサンドル3世の内政・外交政策



アレクサンドル3世による郷の長老たちの歓待。画家：I.E. レーピン



アレクサンドル3世の内政・外交政策の目標と成果は何だったか？



「再保障条約」・ゼムストヴォ地区長・対抗改革・関税戦争・
「料理人の子弟」に関する回状



アレクサンドル3世・I.D.デリヤノフ・K.P.ポベドノスツェフ・N.K.ギルス



1879-1882年 - オーストリア＝ハンガリー帝国、ドイツ、イタリアによる軍事政治同盟（三国同盟）の成立

1884-1885年 - イギリスにおける第三次選挙改革、有権者数の増加

1881-1894年 - アレクサンドル3世の治世

1881年4月29日 - アレクサンドル3世の宣言「専制政治の不可侵性について」の発表

1884-1885年 - ベルリン会議：アフリカの植民地分割、北ベトナムをめぐる仏清戦争

1885-1886年 - 東ルメリとブルガリアの再統一。コンスタンティノーブル会議

1888年 - ブラジルにおける奴隷制の廃止と王政の崩壊、共和国の宣言

1889年 - 日本国憲法の採択

1881年8月14日 - 「国家秩序及び公共の平和の維持に関する措置に関する規則」の公布

1885年 - 中央アジアにおける露英紛争

1885-1887年 - ブルガリア危機

1887年 - 三帝連合の解消

1887年6月5日 - 文部大臣I. D. デリヤノフによる「料理人の子弟」に関する回状

1887-1888年 - 露独「再保障条約」

1889年7月12日 - 「ゼムストヴォ地区長に関する規則」の公布

1891-1893年 - 露仏連合の成立軍事・政治同盟

1891-1895年 - パミール高原のロシアへの併合

1. アレクサンドル3世の個性と彼の統治の始まり。 1881年3月1日、アレクサンドル3世はロシア皇帝に即位した。父アレクサンドル2世は死去前に、ロシアにおける代表機関の設立に同意した。この改革は非常に穏健なものであったが、それでも次の改革への道を開いた。1881年4月21日、ロシア改革を続行するか、それとも専制政治の不可侵性を守るかという問題を議論するため、閣僚会議が開催された。改革に反対する者は少数派であった。内務大臣ロリス＝メリコフ伯爵、陸軍大臣ミリューチン伯爵、財務大臣アバザをはじめとする多くの大臣は、いかなる困難があってもアレクサンドル2世が示した道を歩むべきだと確信していた。

「ロリス、ミリューチン、アバザは確かに同じ政策を継続しており、何らかの方法で我々を代表制政府へと導こうとしている」と、アレクサンドルはシノドの首席検事であり、かつての師であるK. P. ポベドノスツェフに手紙を書いた。「...私はますます、これらの大臣たちから良いことは何も期待できないと確信しつつある...」



皇帝アレクサンドル3世。
画家I. N. クラムスコイ

ポベドノスツェフは、若き皇帝が自由主義者の圧力に抵抗できないのではないかと非常に懸念していた。この手紙を受け取ると、彼は直ちに声明文を書き始めた。それは、ツァーリが「この瞬間に人々の心を落ち着かせる」ために民衆に宛てた声明文だった。4月29日、宣言文が発表された。そこには、「大いなる悲しみの只中、神の声は我々に、神の摂理を信じ、独裁権力の力と真実を信じ、勇気をもって統治の任務に就くよう命じている。我々は、人民の利益のために、独裁権力をいかなる侵害からも擁護し、肯定するよう求められている」と記されていた。この宣言文の発表後、ロシアにおける改革は終結し、新たな統治は防衛的な性格を持つであろうことに疑いの余地はなかった。自由主義派の大臣たちは辞任し、これは直ちに承認された。その後、ポベドノスツェフはアレクサンドル3世の生涯を通じて最も親しい顧問であり続けた。



K. P. ポベドノスツェフ
画家 A. V. マコフスキー

歴史上の人物。コンスタンチン・ペトロヴィチ・ポベドノスツェフ（1827-1907）は、モスクワ大学ロシア文学教授の家庭に生まれた。彼は帝立法学校で学び、モスクワ大学で民法の教授を務めた。ポベドノスツェフが講義用に編纂した、明快で簡潔、かつ正確で、かつ教育的な民法の講義録（1868年から1880年にかけて出版）は、その後数十年にわたり多くのロシアの法律家にとって参考書となった。彼は後の皇帝アレクサンドル3世とニコライ2世に法を教えた。1880年から1905年にかけては、聖シノドの主任検事を務めた。ポベドノスツェフは、ロシアの自由主義者にとって、断固とした、そして紛れもなく非常に有能な対抗者だった。ポベドノスツェフは多くの著作の中で、「民主主義」をロシアのあらゆる病の万能薬と考える人々がいかに大きな誤りを犯しているかを示そうとした。

彼は西洋民主主義を批判した。ブルジョア議会の舞台裏の策略、証券取引所の陰謀、議員の腐敗、慣習的な雄弁の虚偽、市民の無関心、そしてプロの政治屋のエネルギーを嘲笑した。陪審員、人民裁判官の無作為性と準備不足、弁護士の無節操さを嘲笑し、大学の自治を痛烈に批判した。選挙原理は権力を群衆に委ねると彼は書いた。群衆は複雑な政治綱領を理解できず、キャッチーなスローガンに盲目的に従う。そして直接民主主義は不可能であるため、人々は自らの権利を、自らの利己的な利益のみを考える選出された代表者に委譲するのだ。




歴史家G・V・フロロフスキーはポベドノスツェフについて、「彼は...独自のやり方でポピュリスト、あるいはポチヴェニクであった...ポベドノスツェフは家父長制的な生活様式の強さ、民衆の持つ植物的な知恵を信じ、個人の主導権を信用しなかった」と記しているが、その意見に賛成だろうか？ 事実に基づいて自分の意見を裏付けること。

アレクサンドル3世は、容姿、性格、習慣、そして精神性に至るまで、父とほとんど似ていなかった。皇帝は長身で、その巨体からは力強さが滲み出ていた。若い頃は並外れた腕力の持ち主で、指で硬貨を曲げたり蹄鉄を折ったりすることができた。皇帝をよく知っていたS.Yu. ウィッテは、彼について次のように記している。

「アレクサンドル3世は、知能も能力も教育も平均以下とでも言うべき、ごく普通の人物だった。容姿は、中央地方出身の大柄なロシア農民のようだった...しかし、その容姿は、生まれ持った性格、美しい心、温厚な性格、公平さ、そして同時に毅然とした態度を反映しており、周囲の人々に強い印象を与えたに違いない。たとえ彼が皇帝であることを知らなくても、どんな服装で部屋に入ってきてても、誰もが彼に注目したに違いない。」

アレクサンドルは儉約家として際立っていた。彼の服装にも、どこか故意に飾らないところがあった。例えば、彼はしばしば兵士のブーツを履き、ズボンをシンプルにインしていた。アレクサンドル3世の治世下では、宮廷の礼儀作法や儀式ははるかに簡素化され、舞踏会の数は年間4回に制限された。同時に、莫大な資金が美術品の収集に費やされた。皇帝は熱心なコレクターであり、その点ではエカチェリーナ2世に次ぐ存在だった。アレクサンドルは模範的な家庭人であり、愛情深い夫であり、良き父親だった。彼は正教会の規範を厳格に守り、礼拝には必ず最後まで立ち尽くし、熱心に祈り、聖歌を歌った。アレクサンドルの趣味もまた質素で飾らないものだった。狩猟と釣りに熱中していた。同時に、彼は非常に勤勉な君主でもあった。アレクサンドルは毎朝7時に起床し、冷水で体を洗い、コーヒーを淹れて机に向かった。彼の勤務は夜遅くまで続くこともよくあった。

 なぜアレクサンドル3世は保守的な政治路線を選んだのだろうか？ 2つか3つの説明をまとめること。

2. 国内政策。対抗改革。 1881年8月、皇帝は「国家秩序と公共の平和を維持するための措置に関する規則」（当時1917年2月まで有効）を承認した。この規則は、総督に「信頼できない」人物や革命家とのつながりが疑われる人物の事件を軍事法廷に移送する権限を与えた。当局はまた、「望ましくない人物」を追放し、企業、教育機関、雑誌、新聞を閉鎖し、不動産を差し押さえることもできた。これらの緊急措置はすべて、事実上、ロシアの現実の規範となった。

1882年8月に発布され、1905年まで有効だった「出版臨時規則」は、定期刊行物と書籍に対する厳格な行政統制を確立した。1883年から1884年にかけて、すべての急進派と多くの自由主義派の新聞と雑誌、特に「大衆新聞」が廃刊となった。

アレクサンドル2世の治世末期には、政府は大学をニヒリズムと革命的感染の温床として疑いの目で見えるようになっていた。1884年に制定された新しい大学憲章は、一方で大学の自治権を大幅に制限したが、他方では教育過程を民主化した。大学の長に理事が置かれ、理事が学部長を任命した。学長と学部教授は文部大臣によって任命されるようになった。学生の学習と行動を監視するための特別な監察機関が導入された。学生団体の活動は禁止された。しかし、学生にはカリキュラムと講義を受講したい教授を選択する機会が与えられた。

1887年6月、文部大臣I.D.デリヤノフは「ギムナジウム教育の縮小について」という回状を發布した。これは非公式に「『料理人の子弟』に関する回状」と呼ばれていた。この文書は、ギムナジウムへの入学を「適切な家庭的監督と学習に必要な設備の提供を十分に保証できる者のみ」に限定することを提案した。また、ギムナジウムは「御者、召使、料理人、洗濯女、小商人、その他これらに類する者の子女の入学を免除される。これらの者の子女は、特別な才能を持つ者を除き、彼らが属する環境から決して引き離されるべきではない」とされた。同じ目的で、授業料も引き上げられた。

1889年の「ゼムストヴォ地区長に関する規則」は、農民自治を貴族の統制下に置いた。ゼムストヴォ地区長は、州および地区の推薦に基づき、内務大臣によって貴族の中から任命された。貴族の元帥。彼らは農民自治のあらゆる決定を停止し、郷裁判官を任命し、課税階級に属する者を体罰、逮捕、罰金に処する権利を有した。

1890年、新たな「ゼムストヴォ機関に関する規則」が公布された。この規則は、ゼムストヴォ構成員を3つの教皇庁に分割し、貴族を優位に立たせる新たな制度を導入した。農民構成員は知事によって任命されるようになった。知事は地方自治機関の決定の「正確性または妥当性」を監視するよう命じられた。

1892年の「市規則」により、市議会議員は公務員となった。選挙制度は、住民の最富裕層に有利になるように変更された。これ以降、都市の有権者数は5分の1から10分の1に減少した。知事は、市政の決定が「国家全体の利益と必要に合致しない、あるいは明らかに地域住民の利益を侵害する」と判断した場合、その執行を停止することができた。市長、市長補佐官、市書記官、市議会議員など、市政執行部全体は行政によって承認され、モスクワ市長とサンクトペテルブルク市長の候補者は皇帝自身によって承認された。



1. アレクサンドル3世の検閲と教育の分野における政策の目的は何だったか？ 2つか3つの説明を述べること。
2. 地方自治の分野における変更は、どのような社会階層の利益のために行われたのか？ 事実に基づいて自分の意見を述べること。



ゼムストヴォの長老たちを前にしたヴォロストの長老たち。1891年から1892年にかけて撮影された写真。

3. ドイツおよびオーストリア＝ハンガリー帝国との関係。ブルガリア危機。アレクサンドル3世が外交政策において平和推進者としての名声を得たのは、決して偶然ではなかった。彼の治世中、ロシアは一度も戦争をしなかった。アレクサンドル3世の治世中、ロシアの外務大臣を務めていたN.K.ギルスは、ドイツおよびオーストリア＝ハンガリー帝国との友好関係を維持することが重要だと考えていた。1881年6月、オーストリア＝ハンガリー帝国、ドイツ、ロシアの三皇帝同盟が更新され、いずれかの国が攻撃を受けた場合、他の2国が援助を行うことになった。しかし、1879年にはオーストリア＝ハンガリー帝国とドイツの間で秘密協定が締結され、ロシアまたはフランスとの戦争が発生した場合には相互に援助を行うことになっていた。1882年、イタリアがこの協定に秘密裏に加盟し、三国同盟が成立した。

ロシアとブルガリアの関係は容易ではなかった。1879年、プロイセンの将校アレクサンドル・フォン・バッテンベルクがブルガリア公に選出された。アレクサンドル3世の治世下、両君主の関係は冷え込んだ。1885年9月、東ルメリでの蜂起の結果、ブルガリアはブルガリアに併合された。セルビアはこれに抗議したが、1885年11月の軍事行動で、ブルガリア軍はセルビア軍を破った。1886年8月、ロシアと結託した陰謀を企む将校たちがアレクサンドル・フォン・バッテンベルクを倒し、国外追放した。親ロシア派の臨時政府がタルノヴォで樹立されたが、広範な支持を得られなかった。このような状況の中、ブルガリアの強固で独立した政策を支持する議会議長S.スタンプロフが最高権力を掌握した。臨時政府は解散され、ロシアとブルガリアの間には完全な断絶が生じた。ブルガリア政府は外交政策において、オーストリア＝ハンガリー帝国とドイツに傾倒し始めた。

1887年、アレクサンドル3世は三帝同盟を更新しなかった。代わりに、ロシアとドイツは秘密の「再保険条約」を締結した。両国は、どちらかが第三国（ドイツの場合はフランス、ロシアの場合はトルコ）と戦争を起こした場合、中立を維持することを約束した。しかし、1890年に条約が失効すると、ドイツ皇帝ヴィルヘルム2世は更新を拒否した。1893年から1894年にかけての関税戦争によって、露独関係はさらに悪化し、両国間の貿易は急激に減少した。



ロシア、ドイツ、オーストリア＝ハンガリー帝国の同盟はなぜ失敗したか？ 2つか3つの説明を述べること。

4. 中央アジアにおける新たな併合。1885年、トルクメン人のオアシスであるメルヴの住民は、自発的にロシア帝国の市民となった。メルヴ併合後、この新たなロシア領と、イギリスの保護領下にあったアフガニスタンとの国境をめぐって紛争が発生した。クシュカ川で、イギリス軍将校が指揮するアフガニスタン軍との戦闘が起こり、アフガニスタン軍は敗走した。ロシアとイギリスは戦争寸前だったが、両国政府は平和的に解決した。1890年、ロシアが占領していた土地に、帝国最南端の集落であるクシュカ要塞が築かれた。


1890年代までに、地球上で最も高い山脈の一つであるパミール高原は、中央アジアにおいて、アフガニスタン、イギリス領インド、中国、そしてロシアの国境が交わる地点となっていた。1891年から1894年にかけて、ロシア当局はパミール高原への複数回の軍事遠征を組織し、アフガニスタン軍と中国軍を駆逐した。1895年、アレクサンドル3世の死後、ロシアとイギリスはパミール高原の分割に合意した。パミール高原の大部分（北部）はロシアに、一部（南部）はイギリス領インドに帰属することになった。



アレクサンドル3世の治世下、どのような状況下で、どのような領土がロシアの一部となったのだろうか？




クシュカの戦い。画家 F.A. ルーボー

 中央アジアにおけるロシアの領土拡大は、なぜイギリスとの紛争につながったのだろうか？

5. 露仏同盟。 フランスは1870年から1871年の戦争での敗北により、ドイツと緊張関係にあった。フランスはアフリカ分割をめぐってイギリスと対立し、イタリアとは関税戦争を繰り広げた。一方、ロシアはドイツと関税戦争を繰り広げ、さらに中央アジアにおける勢力圏分割をめぐってイギリスとも対立した。国際舞台における共通のライバルの存在は、ロシアとフランスの和解の基盤を築いた。

1891年の夏、フランス艦隊が友好訪問のためクロンシュタットに到着した。フランス水兵を称える晩餐会で、アレクサンドル3世は起立し、フランス国歌「ラ・マルセイエーズ」に耳を傾けた。1893年10月、ロシア軍の艦隊がフランスへの帰途を訪れた。

露仏同盟は最終的に1893年12月に正式化された。その主な内容は、ドイツとイタリアがフランスを攻撃した場合、あるいはドイツとオーストリア＝ハンガリー帝国がロシアを攻撃した場合、ロシアはフランスを、フランスはロシアを援助することであった。

-  1. ロシアとフランスの間で軍事・政治同盟が結成された理由を列举せよ。
2. 1893年のロシア海軍水兵のフランス訪問を記念して作られた記念バッジに記されていた「1+1=3」という表現は、どういう意味だと思うか？



パリのアレクサンドル3世橋。1900年の写真。

質問とタスク

1. 一連の出来事を整理せよ。パミール高原のロシア併合、「料理人の子供たち」に関する回状発行、ブルガリア危機、「国家秩序と公共の平和を維持するための措置に関する規則」の発行、「ゼムストヴォ首長に関する規則」の発行。
2. 自ら定義した基準に従って、「アレクサンドル3世の対抗改革」表を作成し、記入せよ。この表の分析からどのような結論を導き出せるか？
3. S.Yu. ウィッテがアレクサンドル3世について述べた「彼は海外で...冒険など起こさないだろうという信頼を植え付ける術を知っていた...」という発言をどのように理解するか？ 事実に基づいて自分の意見を裏付けること。
4. アレクサンドル3世治世下におけるロシアの外交政策の主要目標をまとめよ。これらの目標はどの程度効果的に達成されたか？
5. アレクサンドル3世は、「全世界で我々の忠実な同盟国は陸軍と海軍の二つだけだ」と述べたとされている。同時に、彼は「平和主義者の皇帝」と呼ばれていた。アレクサンドル3世の判断力と彼の人物評には関連性があると思うか？ 事実に基づいて自分の意見を裏付けること。

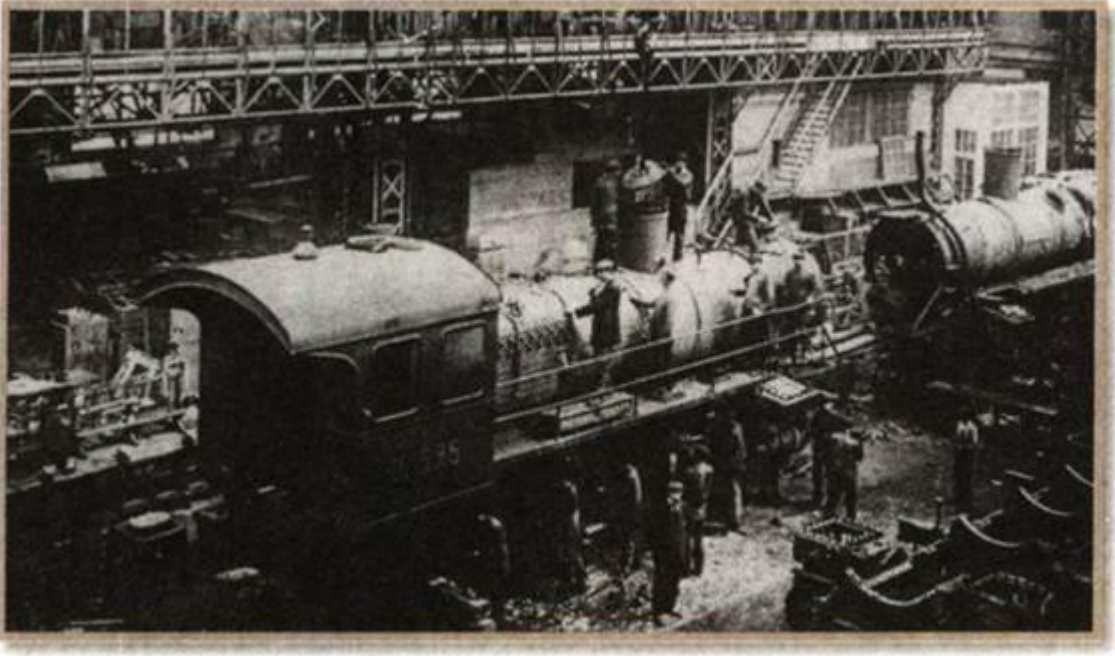
セクションの主な質問に対する答えをまとめること。



アレクサンドル3世の内政と外交政策の目標と成果は何だったか？

§ 23

改革後ロシアの社会経済発展



プチロフ工場の機関車修理工場。写真



ロシア当局は改革後ロシアの社会経済発展における問題をどのように解決し、どのような成果をもたらしたか？



国立銀行・貴族銀行・株式保有・株式保有・農民銀行・ストライキ・労働法制・工場検査



N.H.ブンゲ・I.A.ヴィシュネグラツキー・L.E.ノーベルとR. E. ノーベル・P.A.モイセエンコ・N.I.プチロフ・M.H.ロイテルン・D.ヒューズ



1860年 - スエズ運河開通
1866年 - ヨーロッパと北米間の電信通信開始

1860年 - 国立銀行設立
1882年 - 農民銀行設立

1873-1875年 - 世界経済恐慌
1883-1891年 - ドイツ労働者への医療保険と年金制度導入
1886年 - アメリカ労働総同盟設立
1886年5月1日 - シカゴで8時間労働を求めるストライキ
1888年 - オリент急行がロンドンとシカゴ間で運行開始
1890年 - シャーマン法 - アメリカ合衆国初の反トラスト法

1882-1886年 - ロシアにおける労働法制の整備開始
1883年1月1日 - 一時的義務的地位の終了
1885年1月 - モロゾフ・ストライキ
1885年 - 貴族銀行設立
1887年1月1日 - 人頭税廃止
1880年代 - ロシアにおける産業革命の終結

1. 産業の発展。 クリミア戦争は、鉄道輸送、砲兵、小火器、そして海軍の分野におけるロシアの遅れを露呈させた。これらの分野における遅れの克服は、アレクサンドル2世治世下において最重要課題となった。彼の治世下、帝国の経済政策は財務大臣M.K.H.ライターンが主導した。彼は民間企業の奨励と自由貿易政策の支持者であった。しかし、彼のあらゆる努力にもかかわらず、アレクサンドル2世治世下を通じて国の経済状況は非常に厳しいものであった。ロシアの産業は生産量の減少に見舞われた。農奴制の廃止は、かつての農奴労働者がウラル地方の冶金工場から撤退することにつながった。また、内戦の影響で、アメリカ合衆国はロシアの繊維産業の主要原料である綿花の輸出を停止した。

急速に発展した唯一の産業は鉄道輸送であった。アレクサンドル2世治世下、ロシアの鉄道の総延長は1,600キロメートルから2万3,000キロメートルに増加した。しかし、この成果は、国家補助金を得るために人為的に経費を膨らませた民間企業への支援に巨額の予算を投じることで達成された。この慣行は後に廃止された。

興味深い点。 鉄道建設を促進するため、M・H・ライターンの提案により、既に国費で建設された鉄道は民間企業（当時は鉄道協会と呼ばれていた）に売却された。また、民間協会によって新規鉄道が建設・運営された。ロシア政府は株主に年間3～5%の利回りを保証した。これにより、ロシアの民間鉄道協会は債券を発行することができた。これは、例えばドイツなど他の国々で需要のある債券であった。



鉄道の補修作業。画家：K. A. サヴィツキー

興味深い点。時が経つにつれ、ロシアの自然条件はより高品質の金属を必要とすることが明らかになった（輸入レールは霜で破裂した）。ロシアの冶金学者であり起業家でもあったN.I. プチーロフは、そのような金属の生産に成功した。彼は生産のために民間企業を設立し、ロシア政府から注文を受けた。こうして、ロシア最大の重工業企業であるプチーロフ工場がサンクトペテルブルクに誕生した。レールに加え、武器生産と高品質の鋼の製錬もこの工場で行われた。

M.H. ライターンが推進した自由貿易政策、特に輸入関税の引き下げは、輸入の急増を招き、国内生産の成長を阻害した。予算は常に赤字に陥り、資金不足は不利な条件と高金利の対外融資によって補填された。その結果（アレクサンドル1世の時代と同様に）、紙幣のルーブルレートは下落し始めた。

アレクサンドル3世の権力掌握に伴い、状況は徐々に好転した。1880年代初頭から輸入関税が引き上げられ、鑄鉄、鋼鉄、石油、石炭の生産が記録的なペースで増加し始めた。

鉄道の新規建設は主に国家によって行われるようになり、国庫にとって不採算ではなくなり、利益をもたらすようになった。こうした措置とその他の措置（アルコール飲料販売の国家独占の導入、間接税の引き上げなど）により、国家財政は大幅に改善された。鉄道建設と運行の必要性は、金属鉱石、石油、石炭の採掘、枕木用木材の調達、金属、蒸気機関車、客車の生産の増加につながり、ロシア産業全体の急速な発展につながった。1890年代には、ロシアは産業成長率で世界一の座に就いた。ロシアの産業分野は10年間で7倍に成長した（ドイツの産業は5倍、フランスの産業は2.5倍）。

ЭКОНОМИЧЕСКОЕ РАЗВИТИЕ РОССИИ ВО ВТОРОЙ ПОЛОВИНЕ XIX в. (европейская часть)



ЭКОНОМИЧЕСКОЕ РАЗВИТИЕ РОССИИ ВО ВТОРОЙ ПОЛОВИНЕ XIX в. (азиатская часть)



Районы с преобладанием в помещичьих хозяйствах системы труда:

вольнонаёмной

отработочной

смешанной

Районы, где помещичье хозяйство играло незначительную роль или отсутствовало

Основные хлопководческие районы

Основные центры промышленности:

металлургической, машиностроительной и металлообрабатывающей

текстильной

хлопкоочистки

пищевой

других отраслей

Ковров Пункты, в которых промышленность возникла в 1861—1900 гг.

Добыча:

каменного угля

нефти

железной руды

золота

Железные дороги, построенные:

до 1861 г.

с 1861 по 1900 г.

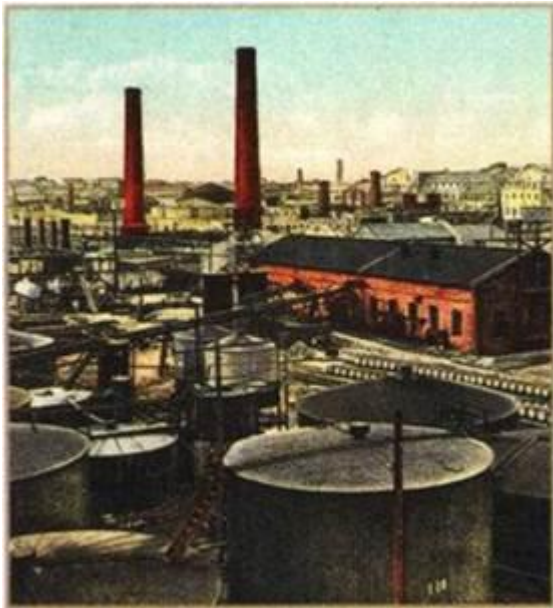
строившиеся в 1900 г.

Границы государств на 1900 г.

アメリカ南北戦争の終結と、綿花の産地であった中央アジアのロシア併合により、繊維産業は復興し、織物生産が拡大し始めた。

歴史上の人物。 ティモフェイ・サヴィチ・モロゾフ（1823-1889）は、株式会社「サヴァ・モロゾフ・サン・アンド・カンパニー・ニコリスカヤ製作所合名会社」の創設者であるS.V. モロゾフの末息子だった。彼の主力事業はズエフスカヤ工場で、T.S. モロゾフはそこにイギリス製の機械を全面的に導入した。最新設備、高品質のアメリカ綿（後にヒヴァとブハラ産）綿、輸入染料を用いて、彼は世界の高い水準を満たす生産体制を確立した。この工場はロシアで最も収益性の高い企業の一つであり、年間数百万ルーブルの純利益を生み出した。ティモフェイ・サヴィチは、従業員や職人にとって恐ろしくも厳しい上司だった。彼は、定められた規則に対するわずかな違反や逸脱に対して罰金を科すというイエズス会の制度を導入した。1885年にズエヴォ工場ではロシア初の組織的な労働者ストライキが発生したのは、決して偶然ではなかった。

急速に成長するロシア市場は、外国人起業家の関心を集めた。彼らは安価な労働力と政府の支援に惹かれた。外国人起業家たちは喜んでロシアに事業を設立し、ロシア産業の発展に大きく貢献した。例えば、イギリスの起業家ジョン・ヒューズは、ロシアにおける新たな経済地域、ドネツク＝クリヴォイ・ログの創設に重要な役割を果たした。この地域は、石炭採掘、鉄鉱石、そして鉄鋼（鑄鉄と鋼）の生産を専門としていた。スウェーデンの起業家、L.E.ノーベルとR.E.ノーベル兄弟は、バクー（アゼルバイジャン）で石油の生産と精製を開発した。1900年までに、ロシアはアメリカ合衆国さえも凌駕し、世界最大の石油生産国となった。



バクー。黒の街と石油精製工場。
絵葉書



1. S.Yu. イッテは「ロシアの鉄道はドイツの料理人たちの資金で建設された」と述べた。この発言をどのように理解するか？
2. 1880年代、ロシアの産業はどのようにして衰退から成長へと移行したのか？3つの説明を述べること。

2. 労働者階級。19世紀の60年代から90年代にかけて、工業と交通の発達により、労働者階級の数 は70万6千人から143万2千人に増加した。労働者階級の補充において主要な役割を担ったのは農民だった。世襲制プロレタリアの数は徐々に増加した。

工場やプラントの所有者は、利益の増加に努め、労働者の労働を規制する法律が当初存在しなかったこともあり、労働者の立場にはほとんど関心を払わなかった。労働時間は1日11時間から14時間だった。児童労働と女性労働が広く利用されていた。賃金は現金ではなく、バウチャーで支払われることが多かった。バウチャーとは、工場の売店で食料や日用品と交換できるクーポンで、これも所有者の所有物だった。労働者は些細な違反でも罰金を科せられた。彼らはバラックに住み、一部屋に数人が住み、二段ベッドで寝ていた。

労働者はストライキを組織することで権利獲得を目指したが、警察によって鎮圧された。1880年代のロシアにおける労働運動における最大の出来事は、1885年1月にオレホヴォ＝ズエヴォにある製造業者T.S. モロゾフのニコリスカヤ工場で発生したストライキ（ワークストップ）である。このストライキを主導したのは、かつて北ロシア労働組合の指導者の一人であった労働者P. A. モイセエンコであった。このストライキは軍隊によって鎮圧された。33人の労働者が裁判にかけられ、工場で蔓延していた不正行為の鮮明な実態が明らかになった。陪審員は被告人を無罪とした。



モロゾフ・ストライキ。画家 A.M. クロフ、A.N. シャポシニコフ



ストライキ運動と労働法の成立との間に関連性はあるか？その理由を説明すること。



ロシアにおけるプロレタリア階級の世襲化は、労働者の権利獲得闘争の激化に寄与したか？

3. 農業の発展。農業は依然としてロシア経済の最も重要な部門であり、帝国人口の85%、国内総生産の70%、そして輸出の80%の主要な生活手段を担っていた。穀物、羊毛、亜麻、油糧種子、そしてラードがロシアから輸出されていた。

農奴制の廃止は地主にとって大きな困難をもたらした。彼らは自由労働力を失い、労働者を雇ったり、在庫を供給したり、家畜を使役したりする資金がなかった。地主は、一時的に農民に土地を貸し出すことを好んだ。しかし、税金や償還金の負担を強いられる農民もまた、資金がなかった。彼らは地主の土地で働いたり、貸し出した土地から得た収穫の一部を寄付したりすることで、地代を支払っていた。こうした土地関係は小作制と呼ばれていた。地主は小作農に土地だけでなく、種子、道具、あるいは役畜も提供することがあった。収穫物は半分ずつ分けられた。このような関係は小作制度と呼ばれていた。

290

21

農民には十分な資金がなく、地主にはより高度な道具、高収量の種子、そして生産性の高い家畜を購入する必要性がなかった。土地は鋤よりも木製の鋤で耕作されることが多く、肥料はほとんど使用されなかった。その結果、ロシア農業の生産性は人口増加よりも緩やかに成長した。1840年代の一人当たり穀物生産量は年間625kgだったが、1870年代には年間わずか505kgにまで減少した。こうして、ロシア人口の圧倒的多数を占める農民の栄養状態、ひいては生活の質は低下していった。1890年代になってようやく、一人当たりの穀物生産量は535kgにまで増加した。



1891年から1892年の飢饉の際、ある村の共同食堂。写真

この写真はロシア農業のどのような問題を映し出しているだろうか？



興味深い点。一部の地主は農業において起業を試みた。例えば、著名な科学者、弁護士、そして自由主義者であったK.D. カヴェリンは、トゥーラ県の農地を成功裏に経営した。彼は労働者を雇用し、九圃輪作を導入した。彼は肥料、牧草の播種、干草刈り機、干草乾燥機、馬に引かせる熊手、そして当時としては最新鋭のその他の農業機械を使用した。カヴェリンの小さな農地の収益性は、広大な土地を所有する近隣の農地よりも高かった。



カヴェリンの自由主義的信念と彼の起業的成功の間には関連性があると思うか？



改革後のロシア農業の発展における主な問題点を挙げよ。

4. H.H. ブンゲとI.A. ヴィシネグラツキーによる改革。アレクサンドル3世治世下の1882年から1886年にかけて、H.H. ブンゲはロシアの財務大臣を務めた。彼はロシアの社会経済問題の一部を解決することを目的とした数々の改革を実施した。1881年12月28日の法律により、一時的義務農民（解放農民の5分の1を占めていた）は1883年1月から償還対象となった。農民にとって大きな救済策となったのは、1887年1月の人頭税の廃止だった。償還金は減額された。

1882年には、12歳未満の児童の工場労働と、12歳から15歳までの児童の夜間労働を禁止する法令が発布された。児童労働は8時間に制限された。法令の遵守を監視するために工場監督局が設立された。1886年、政府は経営者が労働者の規律違反に対して徴収できる罰金の基準を定めた。罰金は特別基金に積み立てられ、労働者は職場で受けた傷病手当や障害手当をそこから受け取ることができた。また、雇用条件を記載した給与台帳が導入された。こうして、ロシアにおける労働法制の整備が始まった。

254

2

1887年、ブンゲに代わり、I.A. ヴィシネグラツキーが財務大臣に就任した。彼は保護主義政策を推進した。これにより工業生産が増加し、1880年代後半から1890年代初頭にかけて産業革命が完成した。大企業では、主要な生産が機械によって行われるようになった。同時に、ヴィシネグラツキーは穀物の輸出を奨励した。その結果、1886年から1890年にかけて穀物輸出はほぼ倍増した。ロシアは世界最大の穀物輸出国となった。しかし、これは国内市場で穀物が過剰になったことを意味するものではなかった。これは、旱魃の影響で収穫量が例年より30%減少した1891年の飢饉によって実証された。




1. ブンゲとヴィシネグラツキーによる改革の肯定的な成果を挙げよ。
2. ヴィシネグラツキーは「我々は十分には食べられないが、輸出する」と述べたと言われている。この事実をどのように説明できるか？

5. 銀行。1860年、ロシアでは国立銀行が設立された。その機能は、政府活動への融資、産業と貿易の発展、そして農奴制廃止に伴う地方の変化への財政支援などだった。

1861年まで、民間銀行は国の経済において重要な役割を担っていなかった。改革後、多くの地主が余剰資金を抱えるようになり、彼らはそれをどこに投資するかを模索していた。財務大臣ライテルンは民間銀行の増加に貢献した。1860年代と1870年代には、数十の民間銀行が設立された。

興味深い点。預金金利が4%だった国立銀行とは異なり、民間銀行は5～6%だった。民間銀行の預金者数は毎年30～40%増加した。銀行は、海外を含む鉄道会社の最も収益性の高い株式に資金を投資した。しかし、鉄道が十分な収益を生み出していないことがすぐに明らかになった。鉄道会社が次々と倒産し、融資していた銀行もそれに追随した。1875年、モスクワ商業貸付銀行が破綻した。これはロシア史上初の大規模民間銀行の倒産だった。調査の結果、経営陣による数々の不正行為と不法行為が明らかになった。この世間の注目を集めた倒産は、民間銀行への信頼を失墜させた。それ以降、ロシア国民は国営金融機関に資金を預けるようになった。

1882年には農民銀行が設立され、農民に対し、土地購入資金として年利7.5～8.5%、期間13～55.5年の融資を行った。1915年までに、総額約13億5000万ルーブルの融資が行われた。1885年には、地主を支援するために貴族銀行が設立された。地主は年利4.5～5.5%、期間11～66.5年の融資を受けた。1915年までに、地主は総額約9億ルーブルの融資を受けていた。これらの金融機関の設立により、農民と地主は農場開発のための資金を調達できるようになった。

 875年、ロシア当局はモスクワ商業貸付銀行の預金者に預金の75%を返還したが、それ以降、銀行業務の免許発行を制限した。これらの事実について、2つか3つの説明を述べよ。



銀行破綻。画家：V. E. マコフスキー

質問とタスク

1. モロゾフ・ストライキ、国立銀行の設立、臨時義務的地位の廃止、人頭税の徴収停止、労働法制の制定開始という一連の出来事を整理せよ。
2. 改革後期におけるロシアの社会経済発展に影響を与えた主要因を列举せよ。
3. 改革後期におけるロシアの社会経済発展の主な課題をまとめよ。
4. 改革後期におけるロシアの社会経済発展が直面した問題を列举しなさい。ロシア政府はどのように対処したか。
5. S.Yu..ウィッテはアレクサンドル3世についてこう回想している。「彼は模範的な経営者であり、模範的な所有者だった。...利己心ではなく、義務感からだった。...私は...皇帝が抱いていたような国家ルールへの敬意に出会ったことは一度もない...」。この判断に同意するか？ 自分の意見を2つか3つの論拠で正当化すること。
6. 19世紀後半のロシアの社会経済発展は、主要な世界的潮流と一致していたか？ 自分の意見をいくつかの事実で正当化すること。

セクションの主な質問に対する答えをまとめること。



改革後のロシアにおいて、ロシア当局は社会経済発展の問題をどのように解決し、どのような結果をもたらしたか？

§ 24

1880年代-1890年代の社会運動



1891年の第1回ミーティング。画家 B.E. ウラジーミルスキー



1880年代-1890年代のロシア社会運動において、どのような新しい現象が現れたか？また、その理由は何か？



「労働解放」グループ・法的マルクス主義者・リベラルポピュリスト・マルクス主義・「聖なる分隊」・「労働者階級解放闘争同盟」・「小さな行為」理論



エリザヴェータ フョードロヴナ大公女・KN.レオンチェフ・G.V.プレハーノフ・M.I.トゥガン=バラノフスキー



1884年 - ロンドンで「ファビアン協会」設立

1881-1882年 - 「聖なる分隊」の活動

1889年 - 第二インターナショナル設立
1890年 - E. バースタイン著『社会主義の問題』
1896年 - ロンドンで国際社会主義者会議開催

1883年 - 「労働解放」グループ設立
1895年 - サンクトペテルブルクで「労働者解放闘争同盟」設立クラス
1898年 - ロシア社会民主労働党第1回大会

1. 1860年代から1890年代の社会生活。 19世紀後半、ロシアの社会生活は活性化した。この時期には、様々な志向（教育、慈善、宗教、科学、プロパガンダなど）を持つ数多くの公的組織や運動が生まれた。以下にその一部を挙げる。**1867年**、サンクトペテルブルクで最初の全ロシア企業家協会であるロシア産業貿易振興協会が設立された。その目的は、国内産業の様々な分野の発展とロシアの対外貿易の拡大を促進することだった。同年、皇帝アレクサンドル2世はモスクワ建築協会の設立を認可し、その憲章を承認した。ロシア航空協会（**1880年**）やロシア天文学協会（**1891年**）などの組織は、教育的な目的を持っていた。宗教的な目的のために設立された協会も数多くあった（例えば、**1882年**に設立され、聖地への正教会の巡礼を支援することを目的とした帝国正教会パレスチナ協会など）。

慈善活動は公共生活において重要な位置を占めていた。こうした組織の多くは、専門的な活動に特化しており、例えば、困窮作家・科学者支援協会（**1859年**）、モスクワ・アレクサンダー傷病兵・老兵シェルター（**1878年**）、軍務中に健康を害した兵士の困窮家族支援協会（**1881年**）、ホームレス児童支援協会（**1898年**）などである。これらの団体はすべて、篤志家からの資金援助によって運営されていた。中には、教育機関や訓練機関の設立に多額の寄付をする団体もあった。例えば、**1864年**、冶金企業と金鉱山の所有者であったK.V.ルカビシニコフは、モスクワに犯罪で有罪判決を受けた**10代**の若者のためのシェルターを開設した。ここで若者たちは教育を受け、職業訓練を受けた。ルカビシニコフのシェルターに倣い、後にロシアには約**20**の教育機関が開設された。

ロマノフ家の人々は、広範な慈善活動にも携わった。特に、セルゲイ・アレクサンドロヴィチ大公（**1891年**以降モスクワ総督）の妻、エリザヴェータ・フョードロヴナ大公女の役割は大きく、**1892年**に彼女は「エリザヴェータ慈善協会」を設立した。その目的は、困窮している子供たちのための保育所とシェルターの設立だった。この協会は国家からの補助金を一切受けず、慈善基金のみで運営されていた。エリザヴェータ・フョードロヴナは、この協会に加え、多くの慈善団体や機関のパトロンであり、理事でもあった（赤十字社第一婦人委員会の委員長も務めた）。



エリザヴェータ・フョードロ
ヴナ大公女。写真



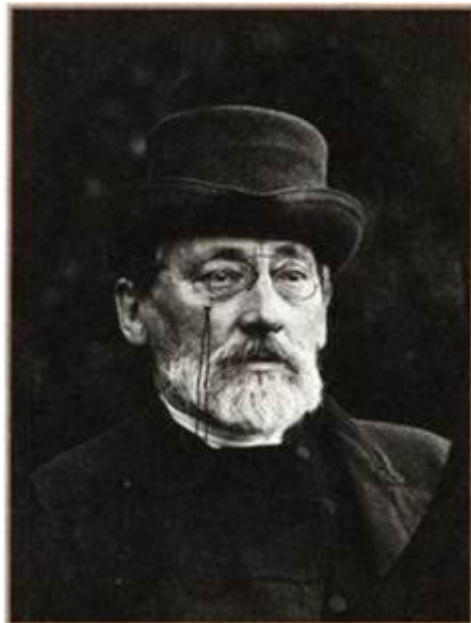
学生。
画家A. A. ヤロシェンコ

大改革の時代、ロシアでは女性運動が勃興した。この過程で重要な役割を果たしたのは、N.G. チェルヌイシェフスキーの小説『何をなすべきか』だった。1860年代の若者にとって、この小説の主人公たちはしばしば模範的な存在だった。こうして1863年、女性出版協同組合が組織された。その指導者は、デカブリストV.P. イヴァシェフの娘であるM.V. トルブニコワで、彼女は「ロシア初のフェミニスト」と称されることが多い。トルブニコワと志を同じくする女性たちが掲げた当面の目標は、ロシアにおける女性のための高等教育制度の創設だった。彼女たちは、女性に大学への扉を開くために積極的に闘い、このテーマは新聞紙上で頻繁に取り上げられた。そしてついに1878年、彼女たちの粘り強さのおかげで、大学課程に匹敵する内容のベストウージェフ女子講座が開講された。その後、女性が「男性」の職業に就く権利を求める闘争が始まった。1880年代には、初の女性医師と女性弁護士が登場した。ロシア初の女性数学教授であるS.V. コヴァレフスカヤの名は、ロシアおよび世界の科学史に名を残している。しかし、これらは依然として散発的な事例に過ぎなかった。世紀末には、教育を求める闘争は、平等な政治的権利を求める闘争へと移行した。ロシアで最初的女性団体は「ロシア女性相互慈善協会」（1895年）だった。

改革後のロシアの社会生活を学生運動なしに想像することは不可能である。1861年秋、大学の新規則導入に関連して、すべての高等教育機関で学生の暴動が発生した。1879年秋は、選出された教授懲戒裁判所の機能が大学理事会によって任命された裁判所に移管されたことに対する学生の抗議運動が顕著だった。1887年秋には、学生の抗議運動により、国内のほぼすべての高等教育機関が閉鎖された。1887年12月4日、カザン大学の学生集会が開催され、若きV.I. ウリヤーノフ（レーニン）が積極的な役割を果たした。

2. 保守的な方向性。アレクサンドル2世暗殺後、帝政の積極的な支持者たちは秘密組織「聖なる部隊」を結成した。その指導者は、ツァーリの高官であるP.P.シュヴァロフ伯爵、S.Yu.ウィッテ伯爵らであった。この組織は約1,500人のメンバーで構成されていた。主な活動は、アレクサンドル3世の国内旅行中の警護、革命家へのスパイ活動、そして実在しない革命組織を名乗って新聞や雑誌を発行し、真の革命家の信用を失墜させる記事を掲載することだった。「聖なる部隊」のメンバーの一部が、革命運動に対抗するためロシア憲法の制定を提案し始めたため、この組織はアレクサンドル3世の命令により解散された。

当時の保守主義を代表する人物として、哲学者で評論家のK.N.レオンチェフがいた。レオンチェフは、ロシアと他の正教諸国にとって、日常生活の「ブルジョア化」につながる自由主義こそが最大の脅威だと考えていた。ロシア文化は全く異なる価値観、すなわち教会主義と君主制を持っているとレオンチェフは記している。彼は、西洋イデオロギーの破壊的な影響に対する均衡は、ロシア君主の指導による汎スラヴ「帝国」の再構築（ビザンチン帝国をモデルに）にあると考えた。この方法によってのみ、ロシアは革命的な激動を回避できるだろう。



K.N. レオンチェフ。写真

? 保守的な社会運動に対する当局の態度をどのように特徴づけることができるか？
2つの条件を提示すること。

3. 自由主義運動。19世紀後半、ロシアの社会生活は活性化した。この時期には、様々な志向（教育、慈善、宗教、天文学協会（1891年）などの組織は、教育的な目的を持っていた。宗教的な目的のために設立された協会も数多くあった（例えば、1882年に設立され、聖地への正教会の巡礼を支援することを目的とした帝国正教会パレスチナ協会など）。

1880年代、多くの自由主義者は全ロシアを代表する権力機関の招集への期待を捨て去った。著名な自由主義者V.M. マクラコフは次のように記している。「一般大衆はあらゆる政治への関心を失っていた。彼らは自分の問題に追われ、個人的な成功を追求することに躍起になり、国家権力との闘争など考えていなかった。...1860年代の改革、すなわち個人と労働の解放は成果を上げていた。農民は階層化し、都市は豊かになり、産業は成長し、生存競争はより複雑になっていった。...一般社会は自分自身のこと、自らの安楽のことばかり考えていた。」同時に、新しい世代の自由主義者が台頭していた。1880年代前半、サンクトペテルブルクには「同胞団」と呼ばれる学生サークルが存在していた。そこには、S.F. オルデンブルクとF.F. オルデンブルク、V.I. ヴェルナツキー、D.I. シャホフスコイ、A.A. コルニーロフ、I.M. グレーヴェが含まれていた。彼らは後に著名な科学者や政治家になったが、当時は慈善活動に携わり、安価な書籍を出版したり、無料の読書室を開設したりしていた。



田舎の学校での日曜読書。画家N.P. ボグダーノフ＝ベルスキー



1880年代における自由主義活動の衰退について説明し、2つの条文を定めよ。

4. ナロードニキ。バラバラだったポピュリスト勢力を統合しようとしたG.N. ロパーチンは、「ナロードナヤ・ヴォリア」の活動に新たな弾みをつけようとした。1884年、彼はドルパトに非合法的な印刷所を設立し、「ナロードナヤ・ヴォリア」のビラ第10号を出版した。しかし、彼はすぐに逮捕され、所持していた手帳によって革命組織全体がついに摘発された。ロパーチン自身も死刑判決を受けたが、後に終身刑に減刑された。

1884年までに、「ナロードナヤ・ヴォリア」の組織は完全に壊滅したが、個々の分派は依然として活動を続け、名を上げようと必死に試みていた。こうして1887年3月1日、アレクサンドル3世暗殺未遂事件が起こり、これが闘争の最後の幕となった。「第二の3月1日」事件もまた5人の絞首刑で幕を閉じ、処刑された者の中にはV.I. ウリヤノフ＝レーニンの兄であるA.I. ウリヤノフも含まれていた。

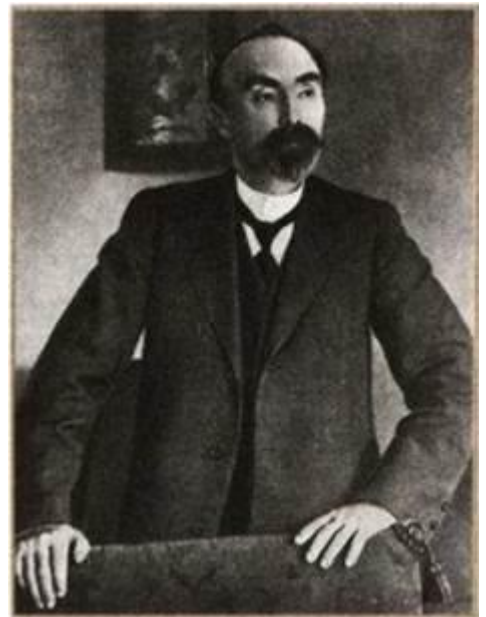
1882年以降、プレハーノフの組織「黒の再分配」もいくつかのサークルに分裂した。これは「効果的」なポピュリズムの時代の終焉を告げるものであった。

多くのポピュリストは革命的イデオロギーを拒否し、「小さな行為」の理論を支持した。彼らはリベラル・ポピュリストと呼ばれるようになった。彼らの指導者の一人であるジャーナリストのヤ・V・アブラモフは、ロシア知識人の主要な任務は農民が貧困と無知を克服するのを助けることだと信じていた。したがって、再び「民衆のもとへ」行く必要があったが、民衆を反乱に駆り立てるためではなく、農民組合（ゼムストヴォ）で農学者、医師、教師などとして働くことが必要だった。この呼びかけは広く受け入れられた。ゼムストヴォには、教育を受け責任感のある専門家が多数集まり、例えば1891年から1892年の飢饉の克服において重要な役割を果たした。自由主義ポピュリストの主要な報道機関は、サンクトペテルブルクの雑誌「ロシアの富」で、文芸評論家のN.K. ミハイロフスキーと作家のV.G. コロレンコが編集長を務めていた。

- ?** 1. A.I. ウリヤーノフとその同志たちは、なぜアレクサンドル3世暗殺未遂事件の日を3月1日と設定したのだろうか？
 2. 革命的ポピュリストと自由主義的ポピュリストを比較することで、どのような結論を導き出せるだろうか？

5. マルクス主義の普及の始まり。1872年、K・マルクスの主著『資本論』第1巻がサンクトペテルブルクでロシア語で正式に出版された（翻訳の大部分は、マルクスと親交の深かったG.N. ロパーチンが担当した）。マルクスは革命理論において、農民ではなくプロレタリアートに依拠した。マルクスは彼らに「ブルジョアジーの墓掘り人」の役割を与えた。近代資本主義的生産を研究したマルクスは、その重要な傾向、すなわち大衆の漸進的かつ継続的なプロレタリア化、すなわち漸進的な貧困化に注目した。その結果、マルクスは将来の社会主義革命を、社会発展における資本主義段階の必然的な終焉とみなした。

「人民の意志」の敗北後、一部のポピュリストは新たな革命的イデオロギーを求めてマルクス主義へと転向した。1883年、「黒の再分配」の同志たち、G.V. プレハーノフ、V.I. ザスーリチ、P.B. アクセルロッド、L.G. ダイヒ、V.N. イグナトフは、ジュネーブ（スイス）にロシア初のマルクス主義組織「労働解放」を結成した。このグループは、K. マルクス、F. エンゲルス、そして彼らの仲間たちの重要著作のロシア語への翻訳と出版に携わった。グループのメンバー自身も、ロシアの発展と社会運動をマルクス主義の立場から考察した著作を出版した。G.V. プレハーノフの著作『社会主義と政治闘争』と『我々の相違』は大きな反響を呼んだ。彼らは、ロシアも世界の他の国々と同様に、農奴制廃止後、資本主義の道を歩み始めたことを証明した。農民共同体は富農（クラーク）と貧農に分裂した。貧農はクラークや地主の農場労働者（雇われ労働者）となるか、都市に出向いて工場労働者として雇われる。



G.V.プレハーノフ写真



M.I. トゥガン＝バラノフスキー。
写真

プレハーノフの思想の影響を受けて、1880年代半ばにロシアで最初のマルクス主義サークルが出現した。サンクトペテルブルクではD. ブラゴエフ、P. V. トチスキー、M. I. ブルスネフ、カザンではN. E. フェドセーエフが活動した。これらのサークルは学生と労働者で構成されていた。メンバーはマルクス主義を学び、宣伝したが、そのせいで警察の弾圧を受けた。カザン大学の元学生であるV. I. ウリヤーノフ（レーニン）は、フェドセーエフのサークルでマルクス主義を学んだ。

非合法的なマルクス主義に加え、合法的なマルクス主義もあった。その代表者であるP. B. ストルーヴェ、N. A. ベルジャーエフ、M. I. トゥガン＝バラノフスキーは、検閲を受けた出版社から出版された論文や書籍の中で、資本主義の進歩性を証明した。彼らは、科学技術の進歩と工業化を伴う資本主義の発展が、ロシアの繁栄を保証すると信じていた。

史上の人物。 ミハイル・イワノビッチ・トゥガン＝バラノフスキー（1865-1919）は、リトアニア・タタール人の貴族の出身である。彼はサンクトペテルブルク大学で学び、A. I. ウリヤーノフと同級生だった。1894年、トゥガン＝バラノフスキーは『近代イギリスにおける産業恐慌、その原因と国民生活への影響』を出版した。この本の中で、彼は経済恐慌の到来を予測する方法を実証した。トゥガン＝バラノフスキーは、世界の科学界から権威として認められた最初のロシア人経済学者となった。



M. I. トゥガン＝バラノフスキーの思想の意義は何か？



1. 1880年代から1890年代にかけてロシアでマルクス主義が人気を博した理由を2つか3つ挙げよ。2. マルクス主義の宣伝家の中には、合法的に書籍や論文を出版できた者もいれば、そのために投獄された者もいたという事実をどのように説明できるか？

6. 労働運動。1883年、サンクトペテルブルク大学に通うブルガリア人学生、D.ブラゴエフは、学生からなる小さなマルクス主義グループを設立した。このグループのメンバーは労働者階級の中で活発な活動を開始し、新聞「ラボチイ」を2号発行した。1885年、このグループは警察によって解散させられ、ブラゴエフ自身もブルガリアに流刑された。1891年、ブルスネフのグループのメンバー、つまりサンクトペテルブルクのプチロフ工場の労働者たちは、ロシアで初めて5月1日、「権利のための闘争における労働者連帯の国際デー」を祝った。1892年、M.I.ブルスネフが逮捕された。

マルクス主義と労働者運動を融合させようとする新たな試みが、V.I.ウリヤノフ（レーニン）とYu.O.ツェデルバウム（マルトフ）によって行われた。彼らの影響下で、サンクトペテルブルクの非合法マルクス主義者サークルは労働者の間で扇動活動を拡大し始めた。1894年初頭には、首都の労働者郊外で秘密の労働者サークルが組織され始め、そこでマルクス主義が研究された。1895年11月、首都の個々のマルクス主義サークルは「労働者階級解放闘争同盟」という組織に統合された。その先頭には指導的中心（V.I.レーニン、Yu.O.マルトフ、その他3名）が立った。革命家たちは独自の新聞発行の準備を進めていたが、この計画は未遂に終わった。1895年12月、レーニンと「同盟」の他の3名の指導者が逮捕された。彼は1年以上獄中生活を送り、1897年2月にシベリアのシュシェンスコエ村に流刑となった。

1898年3月、複数の労働組合（サンクトペテルブルク、キエフ、モスクワ、エカテリノスラフ、リトアニア）の代表者がミンスクで非合法的な大会を開催し、ロシア社会民主労働党（RSDLP）の結成を宣言した。

質問とタスク

1. 「聖なる部隊」の活動、A.I.ウリヤノフとその同志たちの処刑、「労働解放」グループの設立、K.マルクスの『資本論』のロシア語翻訳という一連の出来事を正しく順序立てて記述せよ。
2. 1880年代から1890年代にかけてのロシアと外国の社会思想の相互影響の例を挙げよ。
3. 1880年代から1890年代にかけてのロシアにおける社会運動において、最も活発だったのはどのような潮流だったか？ 3つの説明を述べること。
4. ロシア当局は、何らかの社会運動に共感していたと言えるだろうか？ 2つか3つの論拠を挙げて、自分の意見を正当化すること。
5. マルクス主義者は、独裁政権崩壊後、リベラル・ポピュリストを主な敵とみなしていたことが知られている。なぜそう思うのか？ 2つの説明を述べること。
6. セクションの1と6について、自分自身で質問を組み立てよ。

セクションの主な質問に対する答えをまとめること。



1880年代から1890年代にかけてのロシアの社会運動において、どのような新しい現象が現れたか？ それはなぜか？

§ 25

1880年代-1890年代のロシア帝国の諸民族



ヘルシンキのアレクサンドル2世記念碑（フィンランド、ヘルシンキ）。
彫刻家：V. ルーネベリ、I. タカネン



1880年代-1890年代のロシア社会運動において、どのような新しい現象が現れたか？また、その理由は何か？



バルト海地域・ヴィスワ地方・ロシア化・トルキスタン地域・
再定住管理局・正教宣教協会



インノケティウス（ヴェニアミノフ）・日本のニコライ



1867年 - オーストリア帝国がオーストリア＝ハンガリー二重帝国へ移行

1867年 - カナダにイギリス帝国内の自治領の地位を付与

1869年 - アイルランドにおける自治運動（イギリス国内での自治を求める）の開始

1862年 - リガ工科大学開校

1863-1864年 - ポーランド独立蜂起

1869年 - ワルシャワ大学開校

1. 1863-1864年のポーランド蜂起。ニコライ1世によって確立されたポーランド王国の秩序がアレクサンドル2世によって幾分緩和された後、ポーランド独立を求める強力な愛国運動が勃発した。この運動はすぐに、主にポーランド系の地主が土地を所有していたロシア西部諸州、すなわちリトアニア・ベラルーシおよびウクライナ地方へと広がった。反対派の最も控えめな要求を満たす妥協案を見出そうとするあらゆる試みは、成果を生まなかった。1863年1月、地下運動は武装蜂起へと発展し、反乱軍による複数の駐屯地の兵士への攻撃が始まった。反乱軍の目標は、1772年の領土内でポーランド・リトアニア共和国を復活させることだった。

アレクサンドル2世はあらゆる交渉の可能性を尽くし、厳しい措置に踏み切った。しかし、この決断は容易ではなかった。彼は穏健な政策を好み、ヨーロッパにおける自身の評判を気にしていたからだ。1864年10月、N.N. ムラヴィヨフ将軍率いるロシア軍はポーランドに向けて進軍した。正規軍の投入、ロシアに同情的なロシア兵や民間人の殺害に関与した者への死刑判決、そしてヨーロッパ列強への強硬姿勢により、ロシア西部郊外の情勢は比較的速やかに安定化した。蜂起に参加した7,000人が国外へ逃亡し、12,500人が様々な処罰を受けた。主にロシア帝国の辺境地への流刑（流刑者は領地を正教会に売却することを義務付けられた）が科された。蜂起に参加した約400人が死刑判決を受け、処刑された。ポーランドの地主は、収入の10%をロシア当局への納税として納めなければならなくなった。



様々な地方のポーランド人。画家G.-T. パウリ

同時に、ポーランド王国とその周辺地域では、大ロシア諸州よりも農民にとって有利な条件で農地改革が実施された。ポーランド農民への土地償還金は20%、リトアニア農民とベラルーシ農民への土地償還金は30%削減された。農民は土地とともに解放され、土地の償還は地主との一時的な義務関係なしに即座に行われた。



1863-1864年のポーランド独立蜂起の敗北の主因は、参加者の民族主義にあったと言えるだろうか？2、3の論拠を挙げて自分たの意見を正当化すること。

2. 西部地域のロシア化政策。1867年、西部地域（リトアニア、ベラルーシ、ポーランド王国）のロシア帝国への最大限の統合を目指した改革が始まった。その主な手段はロシア化、すなわちロシア語とロシア法の押し付けだった。ポーランド人はリトアニアとベラルーシで公職に就くこと、教師として働くことさえ禁じられた。教育、裁判所、地方自治体、商業書類作成においてポーランド語を使用することも禁じられた。リトアニア語もポーランド語と同様に苦しめられた。書籍の印刷と学校教育は禁止された。ベラルーシ語の書籍の出版は事実上停止し、ウクライナ語の書籍の出版は小説に限定された。ロシア語はリトアニア、ベラルーシ、ウクライナにおける唯一の教育言語となった。ポーランド国内では、ポーランド語による教育は小学校でのみ維持された。

ポーランド王国はヴィスワ地方と改名された。徐々に、すべての特別統治機関が廃止された。ヴィスワ地方はロシア法によって統治されるようになり、裁判所と行政における書類作成はロシア語に移行した。書籍、新聞、雑誌の印刷は制限された。同時に、1869年にはワルシャワに大学が開設された。ロシア文化と国民文化の交流が緊密になり、相互の発展に貢献した。多くのポーランド人はロシア国家に忠実かつ誠実に仕え、ロシアのエリート層において重要な地位を占めた。クリミア戦争とコーカサス戦争では、何千人ものポーランド人がロシアのために血を流した。ポーランド領とロシアの他の地域との間の関税国境の廃止は、ポーランドの産業にとって巨大な市場を開拓した。19世紀末までに、ヴィスワ地方はロシア帝国全体の人口のわずか8%しか住んでいなかったにもかかわらず、全工業生産の25%を占めていた。ポーランドの主要産業は繊維産業と炭鉱だった。この地域の住民の平均的な幸福度は、ロシアの他の地域よりも高かった。



リトアニア語、ベラルーシ語、ウクライナ語の教育と印刷に関するロシア当局の政策をどのように説明できるか？2つの点を述べること。

3. バルト地域のロシア化。ドイツ帝国の成立により、ロシア社会と政府は、ドイツ人とドイツ文化が支配していたバルト地域がロシアに奪われるのではないかと懸念を抱くようになった。スラヴ派と「ポチヴェニク」は、自らの雑誌や新聞で、バルト地域の自治権剥奪を要求した。1877年、アレクサンドル2世は1870年の「都市規則」をバルト地域にまで拡大適用した。その結果、ドイツ人は都市自治に対する統制力を失った。ロシア当局は先住民文化の発展を奨励した。これらすべてが、国語の発展と、エストニア人とラトビア人の文化を強いドイツの影響から解放することに貢献した。

政、商業事務、教育は、ドイツ語および現地語からロシア語へと移行し始めた。大学が所在していたドルパト市は、かつてのスラヴ語名であるユーリエフ（ロシアの年代記ではこの名で知られていた）を取り戻した。オスト湖地方はバルト海地方として知られるようになった。ドイツ商人や貴族の特権が剥奪されたことで、外国およびロシアからの資本投資が流入した。ナルヴァ、レヴァル、リガの各都市はロシアの大規模な工業中心地となった。造船、機械工学、化学、繊維産業が特に急速に発展した。1862年には、技術者養成のためにリガ工科大学が開設された。

? 西部地域とバルト海地域のロシア化政策を比較せよ。この比較からどのような結論を導き出せるか？

4. ロシア帝国の一部としてのフィンランド。アレクサンドル2世の即位とともに、フィンランド大公国の自治権拡大と発展のプロセスが始まった。1860年以来、フィンランドは独自の通貨であるフィンランド・マルクを保有していた。アレクサンドル2世は、1809年以来開催されていなかったフィンランド議会を復活させ、1863年10月にボルゴで自ら開会し、フランス語で演説を行った。同年、フィンランド語が政府機関で使用された。1877年にはフィンランド軍が創設されたが、大公国の防衛のみに使用された。1886年、アレクサンドル3世はフィンランド議会に立法発議権を与えた。フィンランドは独自の税関と関税導入権を有し、これはフィンランド産業の発展に貢献した。主な輸出品は木材とバターだった。

その結果、フィンランド国民の福祉は向上し、文化も発展した。

? なぜフィンランドの自治権は拡大したのに対し、ポーランドとバルト海地域の自治権は縮小したのか？ 2つか3つの説明を述べること。

5. ユダヤ人問題。ユダヤ人問題。改革後の時代には、ユダヤ人コミュニティに対する制限的な規則は幾分緩和された。第一ギルドの商人、ギルドに10年間所属した者、高等教育を受けた者、中級医療従事者、ギルドの職人、そして退職した新兵は、居住地の外で居住することが認められた。しかし、1870年の「市規則」では、市政におけるユダヤ人の割合は、これらの組織の総数の3分の1に制限されていた。さらに、ユダヤ人は土地を購入することが禁じられていた。

ユダヤ人実業家はロシア経済の発展に重要な役割を果たした。ロシアの穀物輸出の重要な黒海港としてオデッサが発展したことで、この都市のユダヤ人コミュニティは急速に成長し、ロシア帝国で最大級のコミュニティの一つとなった。ユダヤ人は世俗的な教育を求め、ギムナジウムや大学に大挙して入学した。そして間もなく、彼らはロシア文化に大きく貢献し始めた。

アレクサンドル3世は、ユダヤ人が居住地外の土地を借りたり、村に定住したり、不動産を購入したりすることを禁じた。ユダヤ人のギムナジウムや大学への入学には一定の割合の基準が導入され、居住地内のユダヤ人学生の10%以下、居住地外のユダヤ人学生の5%以下、首都のユダヤ人学生の3%以下とされた。しかし、キリスト教、特に正教会に改宗した者については、いかなる権利制限も解除された。1880年代と1890年代には、数万人のユダヤ人がユダヤ教を捨てた。多くはロシアから移住した（主にアメリカ合衆国へ）。革命運動に参加するユダヤ系住民の数は増加し（1880年代末までに、政治文書に基づいて逮捕された者の約30%を占めた）。



ロシア当局のユダヤ人政策の肯定的な結果と否定的な結果をそれぞれ2つずつ挙げよ。

6. イスラム教徒が居住する地域。イスラム教徒が居住する地域。北コーカサス、アゼルバイジャン、そして特に中央アジアの併合後、ロシアにおけるムスリムの数は急増した。1897年の国勢調査によると、ムスリムは正教に次ぐ第二の宗教集団であり、その数は1,300万人を超えた。そして、この数は着実に増加し、1917年には約2,000万人のムスリムがロシア国内に居住していた。このうち、大多数はスンニ派であり、シーア派が優勢だったのはアゼルバイジャン領土のみであった。

19世紀後半、政府はムスリムのキリスト教化が不可能であることを十分に認識していたため、もはやその課題を課さなくなった。しかし、当局は新たな課題を設定した。それは、すべての国民をロシア語とロシア文化に基づいて統合し、彼らにロシア人としてのアイデンティティを植え付け、それによって宗派、文化、言語において多様な帝国をより統一的なものにすることであった。イスラム教のエリート層や聖職者の忠誠心を確保するため、彼らは彼らを様々な階級や地方自治体に組み入れようとした。19世紀から20世紀初頭にかけて、イスラム貴族の相当数がロシア国家に仕え、東部郊外の行政にも携わった。当時ロシアが戦っていた数々の戦争で、何十人ものイスラム教の将校や将軍が功績を挙げ、世襲貴族の地位を得る権利を与える階級や勲章を授与された。19世紀末までに、ロシアには約7万人のイスラム教徒（世襲貴族と個人貴族（その家族を含む））が存在した。現役軍には最大9人のイスラム教将軍が所属していた。



トランスカスピ軍用鉄道。撮影：P. ナダール



この写真は、1860年代から1890年代にかけてのロシアの中央アジアにおける影響力をどのように反映しているだろうか？

帝政当局は、ロシア系ムスリムの宗教生活の統制を組織化し、「ロシア・イスラム教会」のような組織を設立しようと試みた。幾度もの省庁改革を経て、19世紀末までにはかなり正式なイスラム教の精神的組織体制が確立された。ロシアのヨーロッパ部とシベリアのムスリム人口は、オレンブルク・ムフティアトとタヴリーダ・ムフティアトによって監督され、これらのムフティアトは内務省によって統制されていた。コーカサスのムスリムは、1872年に設立されたスンニ派とシーア派の精神的行政によって指導され、これらはロシアのコーカサス行政に従属していた。最も分権化されていたのは中央アジアのムスリム行政で、彼らは精神的指導者に従属し、精神的指導者は軍総督によって統制されていた。

ロシア帝国の一部であった中央アジアは二つの部分から成り、その大きな部分はロシア政権によって直接統治され、トルキスタン総督府の一部であった。1886年、中央アジアはいくつかの地域（サマルカンド、シルダリヤなど）からなるトルキスタン領となった。ヒヴァ・ハン国とブハラ・アミレートは形式的には独立を維持したが、外交政策と防衛はロシア当局の管理下にあった。しかし、両国は現地住民の宗教生活には干渉しなかった。先住民に対する法的手続きは、現地の言語で、現地の法律に基づき、現地の役人によって行われた。征服後、聖職者は人頭税を免除されたが、イスラム教徒コミュニティの土地所有の一部は没収され、残りは課税された。中央アジアでは鉄道が敷設され、病院や学校が開設された。綿花の栽培が増加し、綿花加工産業が発展した。

カザン州は、ロシアのイスラム地域の中で例外的な役割を果たした（ヴォルガ川流域で唯一、イスラム教徒が正教徒を上回った州だった）。ゲルツェンによれば、カザンは「ヨーロッパの思想をアジアへ、そしてアジアの特質をヨーロッパへ運ぶ主要な隊商宿」だった。18世紀末にロシアにおけるイスラム教育の中心地となったこの都市は、19世紀にもその重要性を維持した。19世紀から20世紀初頭にかけて、タタール人の識字率はロシア人よりも高かったことは興味深い。タタール人教育において傑出した役割を果たしたのは、Sh. マルジャニとK. ナシリだった。その後、ヴォルガ川流域のタタール人の知識階級は、クリミア・タタール人の優れた教育者I. ガスプリンスキーと共に、ロシアにおけるイスラム改革運動全体を牽引した。その代表者たちは、ムスリムの生活をヨーロッパの文化と教育に適應させようと努め、ロシア文化・科学との交流を促進し、ヨーロッパの最新動向をロシアを通じて取り入れることを提唱した。ロシア国内では、カザン・タタール人がバシキール人、アゼルバイジャン人、北コーカサスおよび中央アジアのムスリムに強い教育的影響を与えた。

コーカサス戦争終結後、コーカサスの統治体制は幾分緩和され、より自由主義的になった。山岳部、コサック、そしてロシア人の居住地は、共通の郡または地区に統合された。ロシア当局は概して、コーカサスのより完全な併合を目指した。それは「平和化された」反抗的な、しかし戦略的に重要な辺境地としてではなく、本格的な地域としてである。この時から、コーカサスに相当数のロシア人人口が出現したのである。19世紀末、コーカサス地方は工業と農業の繁栄に沸き立ち、石油の採掘、鉄道の建設が進み、活発な貿易が始まり、コーカサス地方とロシア帝国の他の地域が結ばれるようになった。

7. シベリアと極東。19世紀後半、帝国の東部（アジア）地域では大きな変化が起きた。コサックはしばしば主要な組織力として機能し、ステップ地帯における国境の安全と国内秩序の確保だけでなく、様々な行政機能も担った。コサックの村々は帝国の存在を示す拠点へと変貌を遂げた。アジア地域における他の文明的価値の担い手となったのは、コサックであり、彼らは現地の先住民の経済的・文化的影響を享受した。コサックは、国境地帯の農業と工業の発展への期待と深く結び付けられていた。実際、ロシアのコサックや移住農民の影響を受けて、シベリアの多くの民族は定住生活と農業へと移行した。シベリアのタタール人、ブリヤート人、ハカス人は、ロシアの農民に倣い、木造の家屋、納屋、離れを建て始めた。それに伴い、彼らは木工技術も発展させ始めた。穀物、ジャガイモ、キュウリ、ニンジン、ビート、キャベツなどの作物が栽培された。裕福な「外国人」エリート層は、当時の基準では近代的な農具を手に入れた。干草刈り機、馬に引かせる熊手、鉄製の鋤、ハロー、馬に引かせる脱穀機、蒸気脱穀機、風選機、そして水車も建設した。国家はあらゆる方法で農業の発展を奨励した。地元住民には現金と播種用の種子が貸し付けられ、様々な、時には非常に大幅な減税措置が講じられた。同時に、政府は広大な空き地を活用し、移住政策を推進しようとした。この目的のため、1896年には内務省の部局の一つとして移住局が設立された。鉄道建設の開始に伴い、帝国東部の郊外への移住者の流れは著しく増加した。1896年から1900年までの5年間で、93万2千人の農民がウラル山脈を越えて移住した（全員が旅費と田植えのために国から少額の融資を受けていた）。

8. ロシア正教会の宣教活動。11865年、サンクトペテルブルクで「異教徒へのキリスト教普及宣教協会」が設立された。同協会の憲章第1項には、設立目的が次のように記されていた。「宣教協会は、帝国（コーカサス地方を除く）および近隣諸国の異教徒、そして祖国に住むその他の非キリスト教徒の間に正教を広めることを目的とする。」1870年、同協会は「正教宣教協会」に改組された。その指導権は、長年にわたりシベリア、極東、アラスカの人々の宣教教育に尽力したモスクワおよびコロムナのイノチェンティ（ヴェニアミノフ）府主教に委ねられた。（イノチェンティ神父は15年間、アリューシャン列島のアリュート人の間で正教を説き、その後28年間、カムチャッカ半島、千島列島、アリューシャン列島の司教を務めた。）その後、この修道会はシベリア、ヨーロッパロシア、そして海外（中東・近東、北米、朝鮮半島、中国、日本）の3つの方面で宣教活動を行った。この修道会の重要な任務の一つは、新たに啓蒙されたキリスト教徒の子供たちを教育するための学校を設立することだった。1883年、サンクトペテルブルク大学に通うブルガリア人学生、D.ブラゴエフは、学生からなる小さなマルクス主義グループを設立した。このグループのメンバーは労働者階級場で活発な活動された。

傑出したロシア人宣教師の一人に、日本のニコライ神父がいる。彼の精力的な活動（半世紀以上にわたる）のおかげで、1890年までに日本には200以上の正教会共同体が設立され、正教徒の数は1万8千人を超えた。1906年、ニコライ神父は東京大司教および全日本大司教に昇格した。



ロシア政府はなぜ中央アジアの人々の宗教生活に干渉しなかったのだろうか？ 2つか3つの説明を述べること。

質問とタスク

1. 「国家政策」と「ロシア化」という概念の定義を述べよ。
2. ポーランド独立運動における2つの蜂起を、自分で定義した基準に基づいて比較せよ。この比較からどのような結論を導き出せるか？
3. 西部地域のロシア化による2つの良い結果と2つの悪い結果を述べよ。
4. 1860年代-1890年代のロシア国家の国家政策の違いを説明せよ。3つか4つの条項を挙げること。
5. 1860年代-1890年代のロシアの諸民族の功績の例を挙げよ。
6. 追加資料を用いて、19世紀後半のロシアと近隣諸国における民族のおよび宗教的少数派の立場を比較せよ。この比較からどのような結論を導き出せるか？。

セクションの主な質問に対する答えをまとめること。



独裁政権の国家政策はロシア化政策だったのだろうか？

章のまとめ

アレクサンドル3世は、強大で意志の強い君主であり、自国は急速に経済発展を遂げており、革命的な激動の影響を受けないと考えていた。これが彼の保護主義政策の根拠となっている。アレクサンドル2世の悲劇的な死は、政治・社会分野における自由主義的な改革の終焉につながった。既に実施されていた改革は見直され、言論の自由、教育へのアクセス、地方自治を制限することを目的とした多くの改革が実施された。農民や新たな社会集団（ブルジョアジーと労働者階級）が経済分野でますます重要性を増していたにもかかわらず、政府はかつての支持基盤であった貴族を再び重視するようになった。農奴制廃止後、ロシア経済は衰退したが、鉄道の建設、対外貿易における保護主義、穀物輸出の促進によって経済は回復し、国民の福祉は緩やかに向上した。社会運動にも大きな変化が起きた。「小さな行為」理論の支持者はポピュリズムにおいて優勢となり、マルクス主義の思想が広く普及し始め、労働者はストライキによって声高に自らの主張を表明した。社会運動の活発化により、政府は農民と労働者階級の状況改善を目的とした様々な措置を講じざるを得なくなった。ロシア化は国家政策の主要な潮流となったが、同時にフィンランドの自治権は拡大した。他の周辺諸国とロシア帝国の経済的・文化的発展が進んだ。ロシアの外交政策は、ヨーロッパにおける平和の確保と軍事紛争の回避を目指し、中央アジアの併合が完了した。

質問とタスク

1. アレクサンドル3世治世における主要な出来事を、公的生活と国家政策の主要な分野について年表にまとめよ。
2. アレクサンドル3世治世中にロシア領となった地域はどれか。また、どのような状況下でロシア領となったか。帝国内の一部の領土と民族の政治的・法的地位は、どのように、そしてなぜ変化したのか？
3. アレクサンドル3世時代の歴史上の人物を一人選び、「歴史は私の正当性を証明した」というテーマで、彼に代わってスピーチ（ミニエッセイ）を書く。自分の主人公が何をしなかったのか（そしてその理由）、何を成し遂げたのか（そしてその理由）、そして何を成し遂げられなかったのか（そしてその理由）を書き留めること。
4. 歴史学には論争の的となる問題があり、様々な、しばしば矛盾する見解が表明されている。その一つは、「アレクサンドル3世の政策はロシアの諸民族の発展に貢献した」というようにまとめることができる。歴史知識を用いて、この見解を支持する3つの論拠と、反駁する3つの論拠を挙げよ。それぞれの論拠を提示する際には、必ず歴史的事実を用いること。
5. 「1850年代後半から1890年代初頭にかけてのロシアの社会経済発展」というテーマでレポートを提出するように指示された。それを準備するための複雑な計画を立てよ。
6. 1894年、P.B. ストルーヴェは著書『ロシア経済発展問題に関する批判的覚書』の最後に、「...我々は教養の欠如を認識し、資本主義の学校に通うだろう」という言葉を添えた。この訴えの意味をどのように理解するか？

章の主な質問に対する答えをまとめること。



アレクサンドル3世の治世は反改革の時代だったのだろうか？

プロジェクトのトピック



1. 小さなものの中にある偉大さ：アレクサンドル3世時代の私の故郷（どのように暮らし、何に喜び、何を悲しんだか）。
2. 時代の接触：私の小さな故郷における19世紀後半の産業建築。
3. 抗しがたい魅力：小説、映画、コンピュータゲームにおけるアレクサンドル3世時代。
4. 19世紀後半のロシアの実業家、労働者、農民、地主、児童、学生の日常生活。
5. 音楽イメージを描く：アレクサンドル3世時代についての詩（ラップ）コンテスト（サウンドトラックには19世紀最後の25年間の音楽からの引用を含めること）。
6. 時代を捉える：アレクサンドル3世時代の出来事をテーマにした絵画コンテスト。
7. ブルガリア危機：ロシアの外交的敗北か、それとも大戦争からの救済か？
8. アレクサンドル3世：人民の皇帝？
9. 1880年代から1890年代にかけて、ロシアでマルクス主義が流行したのはなぜか？

章のリソース

1. B. N. ミロノフ著『ロシア社会史』の本文を読み、課題を完了せよ。

「公的民族」理論は、ピョートル大帝以前の君主制こそがロシアにとって最も適切な国家形態であるとする、類似の「人民独裁制」理論に取って代わられた。...アレクサンドル3世は繰り返しこう述べた。「私は農民の王である...下層階級に生存手段を与えることが私の義務である...これが生活機械を動かす最良の方法だと私は信じている...」

1) アレクサンドル3世の発言は、ロシア社会運動のどのような潮流を示唆しているだろうか？その理由を説明すること。2) アレクサンドル3世の自己描写に同意するか？その理由を説明すること。

2. H.H. ブンゲは死の直前、ロシア帝国の支配層に宛てた政治的遺言を書いた。それは「死後からの手記」と呼ばれていた。この本文の断片を読み、課題を完了せよ。

我が国の定期刊行物は、オーストリアの国内構造の混乱がドイツ人、マジャル人、スラヴ人、ルーマニア人の間の争いによって引き起こされていることを頻繁に指摘している。ロシアには、より多くの民族が存在するにもかかわらず、このような混乱は存在しないと彼らは言う。...しかし、彼らはロシアには国を構成する部族間の不和を表明する機関がなく、数で勝るロシア民族がすべての部族を支配していることを忘れて...ロシアの国家権力は、征服者の権力としてではなく、全国民が自らに与えられた恵みと考える権力として、辺境を支配すべきである。...ロシア国家は、ロシアの国家機関の優位性を認識することに基づくべきである。...外国人住民は、ロシア語の使用の必要性だけでなく、その利点も認識すべきである。...支配教会を尊重すべきである。...これらの条件を遵守することによってのみ、辺境と国家全体との緊密な関係を期待できる。残念ながら、我が国の内政は辺境に関して大きな罪を犯してきたことを認めなければならない。征服の間、ロシア政府はほぼ常に並外れた温厚さで際立っていたが、それはむしろ、より顕著だった。征服された人々は当初、いかなる抑圧も感じなかったどころか、新しい政府の中に、以前の政府からは期待できなかった庇護と保護を見出した。...そして時が経つにつれ、外国の要求——独立して生きるだけでなく、国家全体を犠牲にして生き、ロシアのあらゆるものを傲慢に扱うことさえ——が耐え難いものとなった。するとロシア国民の感情が目覚め、突如として、何の疑問も持たずに服従すること、そして長年、あるいは一世紀にもわたって築き上げてきた関係を直ちに變更することを求める声上がり、外国人の間にロシアに対する敵意が芽生えた。こうして、一つの極端な主張が次々と繰り返された...

1) 本文ではどのような政治分野が論じられている？本文を参照して、自分の意見の根拠を示すこと。2) ロシア当局が議会の設立を頑なに拒否した理由について、本文には説明があるか？本文を参照して、自分の意見の根拠を示すこと。3) 本文ではロシア帝国のどのような問題が論じられているか？これらの問題に対してどのような解決策が提案されているか？これらの解決策を裏付ける事実を挙げる。それらはどのような結果をもたらしただろうか？

3. 表のデータを用いて、ロシアにおける工場とプラント産業がどのように発展したかを判断し、これらの変化について2つか3つの説明を立てる。

1863年から1891年にかけてのロシアにおける工場とプラント産業の発展

年	工場とプラントの数	生産量（千ルーブル）	労働者数
1863	11,810	247,614	357,835
1879	8,628	541,602	482,276
1891	16,770	1,108,770	738,146



推奨図書・映画・音楽

ポピュラーサイエンス

A. Yu ポルーノフ『ポベドノスツェフ』。ロシア皇帝二代目の精神的指導者の伝記。

フィクション

A.Ya. ブリュシュテイン『道は遠くへ』。19世紀末のロシア帝国西部における生活、幼少期、学校生活、日常生活を描いた自伝。

K. チュコフスキー『銀の紋章』。『料理人の子供たち』に関する回覧板によって高校を退学させられた少年の運命を描いた自伝。

D.N. マミン＝シビリャク『稼ぎ手』。ウラル地方の工場で働く少年の物語。

A.P. チェーホフ『中二階のある家』。イデオロギー、この場合はリベラル・ポピュリズムに人生を従属させることがいかに愛を破壊するかを描いた素晴らしい物語。主人公の原型は芸術家イサーク・レヴィタン。

A.P. チェーホフ『ある商人の歴史』。ある起業家の偉大な成功を描いた短編小説。

A.P. チェーホフ『貧困者の嘆き』。かつての農奴がかつての地主との経済競争にいかにして、そしてなぜ勝利したかを描いた物語。

A.P. チェーホフ『村長』。19世紀後半、農民の社会移動を共同体がいかに阻害したかを描いた物語。

映画

『中二階のある家』（監督：Ya. L. バゼリャン、1960年、ソ連）。A.P. チェーホフの同名小説の映画化。

『暁の処刑』（監督：E. N. アンドリカーニス、1964年、ソ連）。A. I. ウリヤーノフと、テロ組織「人民戦線」の同志たちを描いた伝記映画。

『ゴーリキーの幼年時代』（M. S. ドンスコイ監督、1938年、ソ連）。マクシム・ゴーリキーの自伝的小説『幼年時代』を映画化した作品。1870年代から1880年代のブルジョワジーの日常生活を見事に再現している。

音楽作品

M.A. バラキレフ：交響詩『ルーシ』

A.P. ボロディン：交響絵画『中央アジアにて』

P. I. チャイコフスキー：交響曲第6番『悲愴』

M. P. ムソルグスキー：ピアノ曲集『展覧会の絵』



VI

19世紀後半のロシア文化



鋤に乗る農夫 L. N. トルストイ。画家 I. E. レーピン

種を蒔く人々へ
 民の畑に知識を蒔く者よ！
 土が不毛だと思いませんか？
 あなたの種は貧弱ですか？
 あなたは心が臆病ですか？力が弱いのですか？
 労働はか弱い芽で報われます。
 良質な穀物はほとんどありません！
 あなたはどこにいますか、腕のいい、明るい顔で。
 あなたはどこにいますか、ライ麦でいっぱいの籠を持って。
 一粒一粒、臆病に種を蒔く人々の労働は、
 前進せよ！
 理にかなうもの、善良なもの、永遠のものを蒔け。
 蒔け！心から感謝いたします
 ロシアの人々」

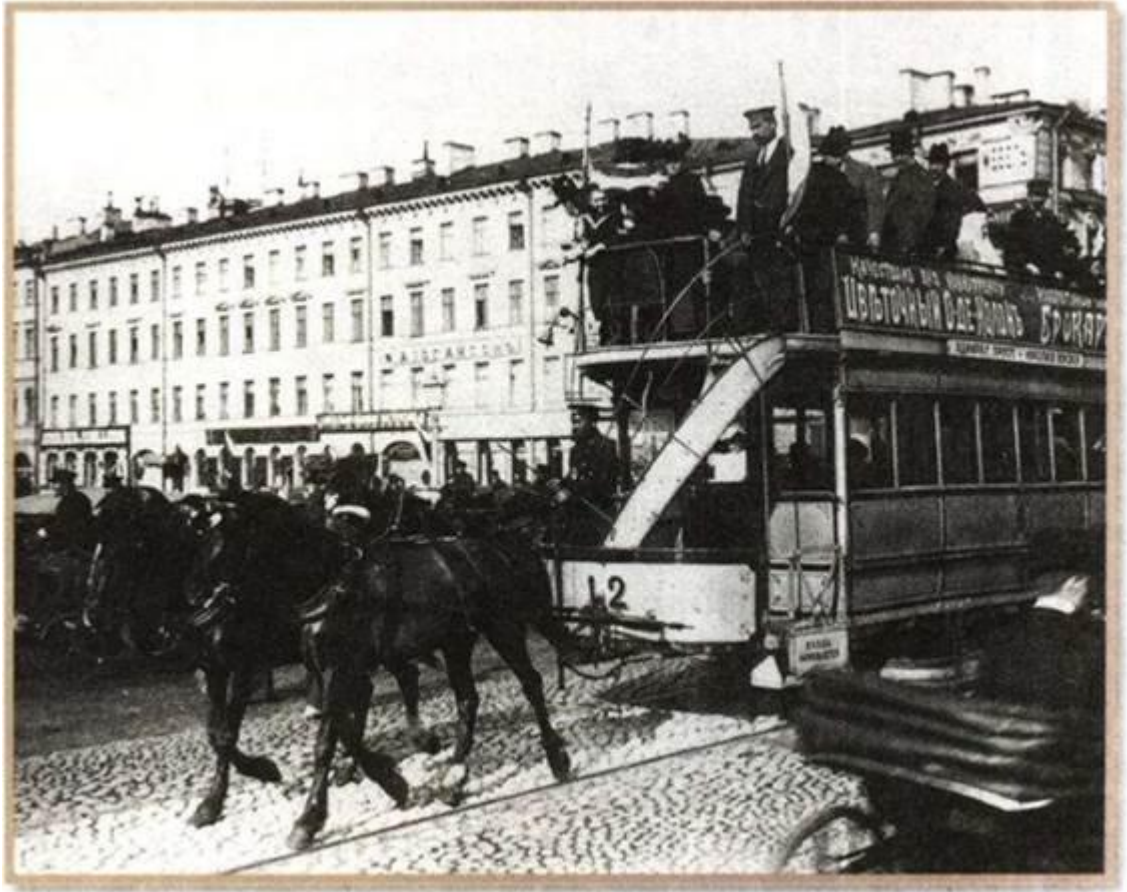
N. A. ネクラースフ、1876年



19世紀後半、ロシア文化はどのような状況下で発展し、それがロシアの功績にどのような影響を与えただろうか？

§ 26

19世紀後半のロシア帝国の文化空間



コンカ。サンクトペテルブルク。写真



19世紀後半、ロシア帝国の文化空間はどのように、そしてなぜ変化したのか？



A. カズベギ・オプティナのアンブロシウス・M.F. アフンドフ・
M.A. ボグダノヴィチ・C.H. ヴァリハノフ・E. ヴィルデ・
I. ガスプリンスキー・Yu. ジェマイテ・F.R. クロイツヴァルト・
クナンバエフ・レーシャ ウクラインカ・N.V. ルイセンコ・
パナス ミールヌイ・M. ナルバンディアン・A.I. プンプル・
V. プシャヴェラ・Ya. レイニス・G. シェンキエヴィチ・Ya. シベリウス・
I.Ya. フランコフルカット・A. ツエレテリ・I. チャフチャヴァゼ・
ショロム アレイヘム・ヤクブ コラス・ヤンカ クパーラ



1863年 - 初の地下鉄開通（ロンドン、イギリス）
1876年 - 電話発明（アレクサンダー・ベル、アメリカ）
1881年 - 初の路面電車運行開始（ベルリン、ドイツ）

1897年 - 初の全ロシア人口調査

1. 文化空間。 19世紀後半のロシア帝国の文化空間は、以下の特徴を特徴としていた。

- ・ ロシア正教徒と正教徒が多数を占める大規模で、民族的・宗教的に多様な人口。人口は急速に増加し、北コーカサスおよび中央アジアのイスラム教徒も加わった。
- ・ 地方自治、裁判所、教育、報道の分野における専制政治に対する自由主義的な改革（1880年代には反改革に取って代わられた）。
- ・ 社会階級構造の漸進的な崩壊（個人の地位において、階級所属よりも所得と教育水準がますます重要になった）。
- ・ 産業と交通の急速な発展は、農業の遅れと衝突した。
- ・ 政治、経済、文化面でのヨーロッパ諸国との交流の拡大と深化。

B. N. チチェリンは次のように記している。「アレクサンドル2世の改革はロシアの国土の様相を急速に変え、社会はこの渦の中で自らの進むべき道を見出すのが困難だった。しかし、この模索こそがロシア社会を文化的発展において目覚ましい成果へと導いた。」

? 19世紀後半のロシア帝国の文化空間において、最も重要な特徴は何だと思うか？ 2つか3つの論拠を挙げて自分の意見を裏付けること。

2. 人口動態と都市化。 1880年代以降、産業の発展とそれに伴う都市化、そして農民区画の減少により出生率は低下したが、人口増加率は依然として高水準を維持した。帝国の人口は、新たな領土の併合によっても増加し、1860年から1897年の間に7,600万人から1億2,600万人に増加した。

1897年に行われた最初の全ロシア人口調査によると、ロシアの都市居住者はわずか13%で、これはヨーロッパで最も低い数値だったが、19世紀後半にはその数は倍増した。1863年には、人口10万人を超える都市はわずか3都市だった。1897年には、そのような都市は14都市にまで増加した（サンクトペテルブルクとモスクワでは100万人を超えた）。



モスクワへ金儲けのため。写真撮影

290

1

街の様相は一変した。石造りやレンガ造りの家が増え、鉄道駅、劇場、病院、学校、図書館、銀行、ゼムストヴォ、レストラン、商店などが見られるようになった。特に工場地区が目立つようになった。工場やプラントの建物の周りには、赤レンガ造りの単一建築様式の労働者寮、いわゆる「バラック」が建てられた。

中心街の通りや広場は、石畳、敷石、アスファルトで舗装された。街灯は灯油、ガス、電気へと拡大した。大都市には発電所が建設され、住宅、公共施設、企業に電力が供給された。19世紀末には、大都市で上下水道が整備された。一部の地域では、蒸気暖房に代わってストーブ暖房が普及した。

ロシアにおける主要な通信手段は郵便局と電信だった。電線が張られた電柱は、ロシアの風景に欠かせないものとなった。1880年代には、首都や港湾都市に最初の電話交換機が登場した。

1860年代には、ロシアの都市で馬車鉄道（俗に「コンカ」と呼ばれていた）という公共交通機関が運行を開始した。1892年には、コンカは電気路面電車に置き換えられ始めた。ロシア初の路面電車はキエフで開通した。



なぜ首都や港湾都市に最初の電話交換機が登場したと思うか？ 2つか3つの説明を述べること。

3. 都市住民。多くのロシアの都市では、個々の地区や近隣地区間の格差がより顕著になった。裕福な人々は通常、中心部に近い場所に定住した。1861年以降、多くの地主の収入は減少した。彼らは都市の土地を売却し、それらはブルジョワジーの代表者の手に渡った。家々では使用人が減り、レセプションや舞踏会はより控えめになった。しかし、文学の朗読、家庭での音楽演奏、アマチュア演奏といった習慣は残った。

最高官僚やトップクラスの知識階級は、生活様式においてブルジョワジーに近かった。大学教授、裕福な個人開業医、弁護士、大規模工場やプラントのエンジニアなどだ。彼らは、下水道、電気、暖房設備を備えた長屋の多部屋アパートを借りていた。作業室や図書室は、これらの層では一般的だった。

大学都市では、教育機関の周囲に「ラテン地区」が形成され、学生たちが、時には数人が借りた部屋に居住していた。安価な食堂、洗濯屋、商店、文房具店、古書店などが、彼らのために開かれていた。

平均的な所得層、つまりブルジョワジーは、中心部から少し離れた場所に定住した。彼らは3世代目、4世代目の都市住民であり、通常は大家族で暮らしていた。これらの地域では、舗装が悪く照明も乏しい通りや、庭や納屋を備えた木造家屋が主流で、そこではしばしば小型の家畜や家禽が飼育されていた。地元住民は、商業、工芸、運送業に従事していた。

郊外には工場や加工場が点在していた。4～5階建てのレンガ造りの建物が密集し、緑もほとんどなかった。人々は工場の汽笛の音を聞きながら暮らしていた。彼らは往年の農民で、若い、家族を持たない人々だった。労働者の余暇はパブや殴り合いに限られていた。しかし、日曜学校や夜間学校で教育を受けようとする人もいた。



ソルモヴォ。ニジニ・ノヴゴロド。写真



写真に写っているのはどのような街区だろうか？その理由を説明すること。



サモワールに座る農民一家。写真



この写真に映る農民の生活様式には、どのような新しい側面があるだろうか？

大都市には、ルンペン（ホームレス、失業者、物乞い、そしてしばしば犯罪組織と関わりのある人々）がひしめくスラム街が出現した。改革後のロシアで居場所を見つけれなかったあらゆる階層の人々がそこに住んでいた。彼らは雑用、物乞い、盗みで生計を立てていた。そのようなスラム街の一例として、モスクワのヒトロフカが挙げられる。

知識人、ブルジョワジー、労働者、そしてルンペンにとって、宗教儀式はしばしばあまり重要視されない単なる伝統に過ぎなかった。しかし、ブルジョワジーの中には、依然として多くの敬虔な信者がいた。



なぜ19世紀後半にロシアの都市における地区間の格差はより顕著になったのだろうか？

4. 農民。農民の生活様式と日常生活はゆっくりと変化した。以前と同様に、彼らは宗教、共同体、そして農作業によって特徴づけられていた。農民は依然として小屋に住んでいたが、工場で作られた布で作られた衣服を身につけるようになった。読み書きができる人の数が増え、多くの家庭に本が置かれるようになった。裕福な農民は灯油ランプや土鍋を手に入れ、鞆皮靴をブーツに交換した。お茶と砂糖は食生活に欠かせないものとなった。

いくつかの村では、住民が農業から工芸へと転向した。ヴァトカ県のディムコヴォ村は、鮮やかな色彩の粘土玩具で有名だった。モスクワ県のグジェリ村は、陶器とファイアンス焼きの食器で有名になった。現在のイヴァノヴォ州パレフ村には、ロシア全土で有名なイコン画家たちが住んでいた。ニジニ・ノヴゴロド州ホフロマでは、地元のゼムストヴォの協力を得て、金色に塗られた木製の食器の生産が組織された。1890年代、モスクワ県セルギエフ・ポサードのゼムストヴォの工房で、芸術家S. V. マリューチンと旋盤工の名手V. P. ズヴェズドチキンは、ボゴロツクの木玩具と日本のだるまに触発され、ロシアで最も有名な文化的シンボルの一つであるマトリョーシカを考案した

? 19世紀後半の農民生活は、どのような点で都市生活に近づいたのだろうか？

5. ロシアのダーチャ。1860年代以降、中流階級の都市住民にとって人気の休暇先はダーチャだった。ダーチャとは、夏の間中借りられ、新鮮な空気の中でくつろぎ、楽しみを味わう田舎の家のことである。当初は、小さな地主の領地や清潔な農家の小屋がダーチャに転用された。まもなく、本格的なダーチャの建設が始まり、独自の建築様式も生まれた。鉄道の建設によってダーチャの人気はさらに高まった。



ダーチャへの到着。画家V. E. マコフスキー



ダーチャ人気の理由を2つか3つ挙げよ。

家庭を持つ父親は、週末に都会へ仕事に出かけたり、愛する人を訪ねたりできた。ダーチャでの一般的な娯楽には、水泳、ボート遊び、テニス、スキットルズ、ホームパフォーマンスなどがあった。政治、文学、芸術、哲学、歴史、科学などについて語り合う中で、ダーチャでの朝食はスムーズに昼食へと、昼食は夕食へと移っていった。ダーチャでロマンスが始まり、劇場、出版社、商業企業、政治団体などのためのプロジェクトが構想され、実行に移された。



ダーチャが、例えばA.P.チェーホフの戯曲『桜の園』など、多くの傑出した文学作品の舞台やプロットの基盤となり、多くの芸術家がダーチャでの生活を絵画の題材にしたのはなぜだと思うか？

6. 教会生活。19世紀後半、人々の精神的な指導者は、教区司祭ではなく、長老、つまり霊的経験に通じ、義にかなった生活で知られる修道士であることがよくあった。ロシア人は、精神的な師や長老たちとの活発な対話の中で、自分を悩ませる道徳的な問いへの答えを見つけようとした。19世紀後半のそのような長老の一人に、オプティナの聖アンブロシウスがいる。様々な時期に、I.V. キレエフスキー兄弟、P.V. キレエフスキー兄弟、K.D. カヴェリン、F.M. ドストエフスキー、I.S. ツルゲーネフ、V.S. ソロヴィヨフ、L.N. トルストイなど、多くの人々がオプティナ修道院に彼のもとを訪れ、精神的な助言を求めた。アンブロシウスは、F.M. ドストエフスキーの有名な小説『カラマーゾフの兄弟』に登場するゾシマ長老の原型となった。彼の尽力により、カザンの聖母マリアのイコンを記念したシャモルディノ修道院をはじめ、いくつかの女子修道院が設立された。



オプティナ・プスティーン。写真



聖地への巡礼は、ロシアのあらゆる階層の代表者たちのライフスタイルの一部だった。なぜだろうか？



19世紀後半のロシアで長老制が普及した理由を2つか3つ挙げよ。

7. ロシア諸民族の文化。19世紀後半、ロシア帝国を構成していた諸民族の民族文化は、大きな発展を遂げた。

1880年代から1890年代にかけて、ポーランドで最も人気があり、ポーランド文学の古典とも言えるG. シェンケヴィチは、1905年にノーベル文学賞を受賞した。この時期に、世界的に有名な作曲家J. シベリウスは、フィンランドで最初の作品となる交響詩と組曲を作曲した。

ロシアでは、イディッシュ語によるユダヤ文学が発展した。この言語で作品を書き、世界的な評価を得た最初の作家は、ショーレム・アレイヘムである。

バルト諸国の近代文学史は、民話の発展から始まる。F.R. クロイツヴァルトは、エストニア民族の英雄叙事詩『カレヴィエポグ』を出版した。A.I. プンプルスーラトビアの英雄叙事詩『ラーチュプレシス』。19世紀末、ラトビアの詩人J. ライニス、リトアニアの作家J. ジャマイテ、エストニアの作家E. ヴィルデが創作活動を開始した。

当時の主要作家には、ウクライナ写実主義小説の作者であるパナス・ミルヌイがいた。著名なウクライナの女流詩人、レーシャ・ウクラインカは、様々なジャンルの詩を創作した。

20世紀初頭には、ベラルーシ語で最初の新聞「ナーシャ・ドルヤ」と「ナーシャ・ニーヴァ」が発行され始めた。これらを中心に、ベラルーシ語の作家と詩人の最初のコミュニティが形成された。その中には、M. ボグダノヴィチ、ヤ・クパラ、ヤ・コラスなどがいた。

1883年、クリミア半島のバフチサライで、I. ガスプリンスキーはロシア初のタタール語新聞『テルジュメン』（翻訳者）の発行を開始した。

1889年には、ウクライナの作曲家N. V. ルイセンコによるオペラ『ナタルカ・ポルタフカ』がオデッサで上演され、今日まで人気を博している。

A. カズベギ、V. プシャヴェラ、I. チャフチャヴァゼ、A. ツェレテリらの作品によって、ジョージア文学は隆盛を極めた。ツェレテリは、ジョージアで最も有名な歌曲の一つ『スリコ』の作詞者である。



G.I. センケヴィチ。写真



レーシャ・ウクラインカ。写真



M. L. ナルバンディアン。
写真

アゼルバイジャン演劇の創始者であり、「アゼルバイジャンのモリエール」ことM. F. アフンドフの作品は、19世紀半ばに遡る。

M. ナルバンディアン (M. Nalbandyan) の作品は、現代アルメニア語文学の発展に極めて重要な役割を果たした。アルメニア共和国の現代国歌は、彼の詩「イタリアの娘の歌」に基づいている。

当時のウズベク語で最も偉大な詩人はフルカットだった。

最初の世俗科学者であり、地理学者、歴史家、民俗学者であり、キルギス人の英雄叙事詩『マナス』の発見者でもあったC. H. ヴァリハノフの業績は、カザフ人の文化の発展にとって極めて重要である。偉大なカザフの詩人、教育者、そしてカザフ語文学の創始者はA. クナンバエフだった。



19世紀後半におけるロシア諸民族の民族文化の発展の理由を2つか3つ挙げよ。

質問とタスク

1. 具体的な例を挙げて、ロシアの文化空間の特徴を説明せよ。
2. 19世紀後半のロシアの人口動態と都市化の特徴はどのようなものだったか？
3. 都市住民の生活様式にはどのような変化が起こったか？
4. 農民の生活様式にどのような新しい変化が起こり、なぜそれが現れたのか？
5. ダーチャは地主の領地の発展における新たな段階と言える男性ろうか？
6. ロシア社会において、長老制はどのような役割を果たしたか？
7. 19世紀後半に、なぜロシアの諸民族の英雄叙事詩への関心が高まったのだろうか？
8. 19世紀後半のロシアの文化空間の特徴を、当時ロシアに隣接していたヨーロッパとアジアの国々の文化空間の特徴と比較せよ。この比較からどのような結論を導き出せるだろうか？

セクションの主な質問に対する答えをまとめること。



19世紀後半、ロシア帝国の文化空間はどのように、そしてなぜ変化したのだろうか？

§ 27

科学と教育



田舎の学校における暗算。画家：N. P. ボグダノフ＝ベリスキー



19世紀後半、ロシアの科学と教育にはどのような変化が起こり、なぜそうなったのか？



ベストウージェフの講座・商業学校・実業学校・教区学校



S.P. ボトキン・N. ヤダニレフスキー・B.V. ドクチャエフ・M.M. コバレフスキー・
S.V. コバレフスカヤ・N.I. コストマロフ・A.N. ロディギン・
メトロポリタン マカリウス (ブルガーコフ)・D.I. メンデレーエフ・
A.F. モジャイスキー・I.P. パブロフ・A.S. ポポフ・N.M. プルジェヴァルスキー・
P.P. セミョノフ＝タイアン＝シャンスキー・I.M. セチェノフ・
B.S. ソロヴィヨフ・S.M. ソロヴィヨフ・A.G. ストレトフ・A.S. スポリン・I.D. シチン・
K.D. ウシンスキー・N.F. フェドロフ・P.L. チェビシエフ・P.N. ヤブロチコフ



1859年 - 進化論と自然選択説 (C. ダーウィン)

1864年 - 感染症の微生物学的本質の発見 (L. パスツール)

1865年 - 遺伝の法則 (G. I. メンデル)

1888年 - 電磁波の存在の証明 (G. ヘルツ)

1895年 - X線の発見 (V. K. レントゲン)

1895年 - 古典電気力学の最終形態 (H. ローレンツ)

1896年 - 放射能の発見 (A. A. ベクレル)、無線電信 (G. マルコーニ)

1864年 - 体育館およびプロ体育館の設立認可

1866年 - ロシア帝国歴史協会の設立

1869年 - D. I. メンデレーエフによる元素周期律の発見

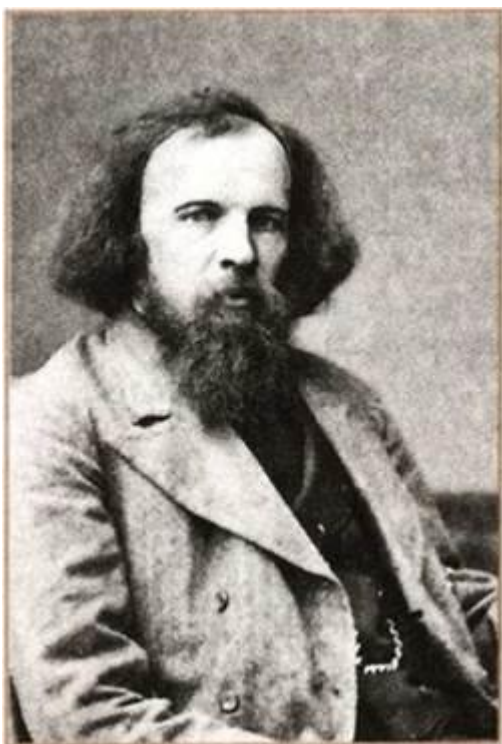
1876年 - 電気「ろうそく」P. N. ヤブロチコフ

1878年 - ベストウージェフ女子高等学校開校

1883年 - モスクワ歴史博物館開館

1890年 - ブロックハウス・エフロン百科事典の刊行開始

1895年4月25日 (5月7日) - A. S. ポポフによる世界初の無線送信機の実演



D.I. メンデレーエフ。写真

1. 精密科学と自然科学。 19世紀後半のロシアの科学者たちは、世界の科学の発展に大きく貢献した。

当時の傑出した数学者には、機械機構論の創始者の一人であるP. L. チェビシェフがいた。

S.V. コヴァレフスカヤは、世界初の女性数学教授となった。彼女はストックホルム大学（スウェーデン）で教鞭をとったが、彼女の業績はロシアでも認められていた。1889年、コヴァレフスカヤは帝国科学アカデミーの通信会員に選出された。

化学においても傑出した発見がなされた。1861年、N.N. ジーニンの弟子であったA.M. ブトレロフは、有機化合物の化学構造理論の基本原則を定式化し、ロシア初の化学科学学派を設立した。

1869年、D.I. メンデレーエフは自然界の基本法則である周期律を発見し、化学元素の性質と原子質量の関係を確立した。

ロシアの物理学者もまた、科学史に大きな足跡を残した。A.G. ストレトフは1888年から1890年にかけて、外部光電効果の研究に関する一連の研究を行い、世界初の光電セル（太陽光を電気エネルギーに変換する装置）を開発した。

1899年、P.N. レベデフは固体、そして後に気体に対する光圧の存在を実験的に証明した。レベデフはロシア初の科学的物理学学校の創設者であり、彼の教え子の多くは後に優れた物理学者となった。

1860年代初頭、科学的生理学の基礎はI.M. セチェノフによって築かれた。彼は化学プロセスが高次神経活動の基盤であると主張した。

K.A. ティミリャゼフは、植物が太陽光の影響下で行う光合成が、二酸化炭素の吸収と有機物の合成において重要な役割を果たしていることを証明する上で決定的な役割を果たした。

S.P. ボトキンは、人類にとって最も危険な病気の一つであるA型肝炎（ボトキン病）を特定し、その症状を記述した。

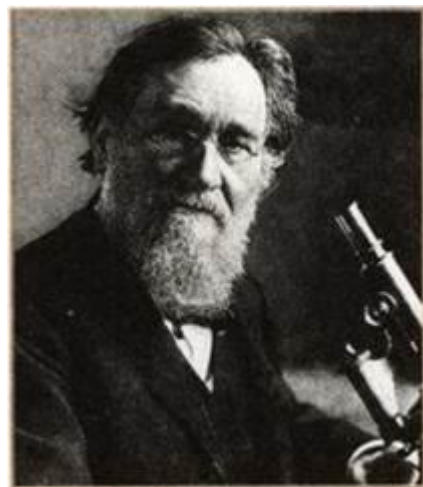
1880年代初頭、I.I. メチニコフは貪食（細胞が固体粒子を捕獲して消化する過程）の現象を研究し、それが生体の防御機能において重要な役割を果たしていることを明らかにした。この卓越した発見により、I.I. メチニコフは1908年にノーベル生理学・医学賞を受賞した。

ロシア土壌科学の創始者は、基礎研究『ロシアのチェルノーゼム』（1883年）の著者であるV.V. ドクチャエフである。

当時の最も偉大な生理学者の一人はI.P. パブロフだった。



S.V. コヴァレフスカヤ。
写真



I.I. メチニコフ。写真



I.M. セチェノフ。写真

興味深い点。I.P. パブロフは消化生理学の分野で世界的な名声を得た。それ以前の時代の研究者たちは消化管の機能の秘密を解明しようと多大な努力を費やしたが、その成果はごくわずかなものだった。パブロフの主な研究ツールは、極めて繊細で高度な実験だった。例えば、胃腺の働きを詳細に研究するために、パブロフはいわゆる小胃を形成する手術を開発し、初めて実施した。その本質は、犬の胃の一部に小さな孤立した袋を切り取ることだった。食物はそこに入ることができず、小胃は大胃で起こるすべての化学反応を映し出す鏡の役割を果たした。1904年、パブロフはその功績によりノーベル賞を受賞した。



1897年、I.P. パブロフは著書『消化腺の働きに関する講義』を出版した。この研究はたちまち注目を集めた。この本は医師だけでなく、医学とは無関係の多くの人々にも読まれた。なぜだと思うか？

ロシアの電気技師たちは傑出した発明家だった。1873年、A.N. ロディギンはサンクトペテルブルクで世界初の白熱電球の動作を実証した。まもなく、それは部屋や街路を照らすのに使われるようになった。

1876年、P.N. ヤブロチコフは独自の白熱電球（ボルタアークの作用に基づく）を発明し、フランスでランプの生産拠点を確立した。1880年代初頭にT. エジソンのランプが登場するまで、ヤブロチコフの「ろうそく」は世界で最も売れた製品だった。

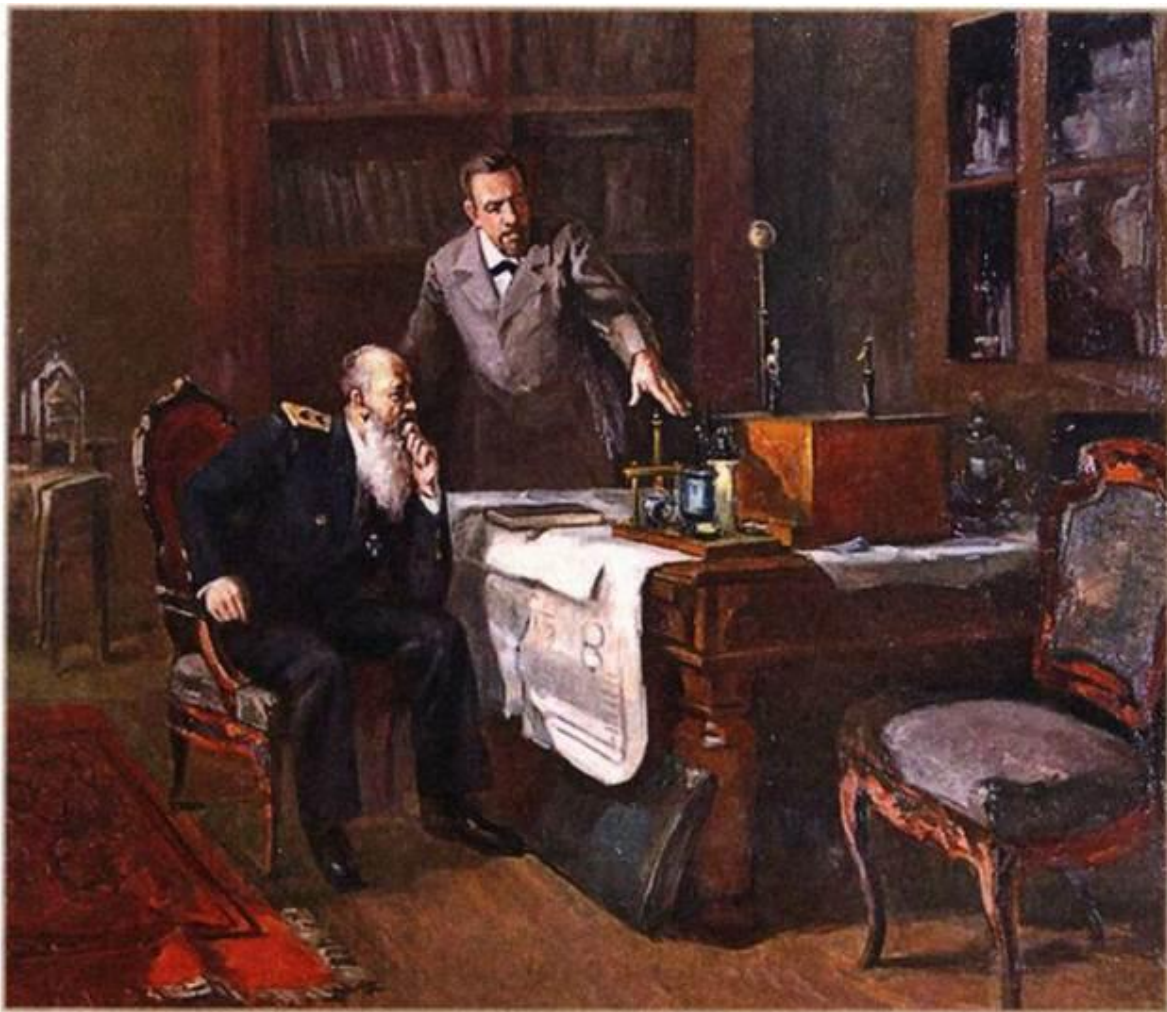
A. F. モジャイスキーは、1882年から1885年にかけて、自ら設計した蒸気機関を搭載した飛行機の飛行を試み、航空の先駆者とされている。



ロディギンのランプ、
1874年。写真

無線の創始者の一人はA. S. ポポフである。1895年4月25日（5月7日）に開催されたロシア物理化学協会の会合で、彼は無線通信装置の動作を実演した。5月7日はロシアで「無線の日」として祝われている。ポポフの無線電信機は、ロシア海軍の艦艇に搭載された。

中央アジアのロシア併合は、この地域の研究の拡大に貢献した。1856年から1858年にかけて、P. P. セミョーノフが率いたロシア地理学会の探検隊は、中央アジアで最も高い山脈の一つである天山山脈を世界で初めて発見した。セミョーノフは、その科学的功績に対する褒賞として、姓に名誉称号「ティアン・シャンスキー」を授けられた。P. P. セミョーノフ＝ティアン・シャンスキーは、ロシア国家統計局の創設者でもあり、1897年にロシア初の国勢調査を主催した。



S.O. マカロフ提督に無線機を披露しているA.S. ポポフ。画家I.S. ソロキン。



なぜ海軍で初めて無線機が使用されたのだろうか？

N. M. プルジェヴァリスキーは中央アジアの探検をさらに進めた。チベット、モンゴル、中国西部を探検する中で、彼はこれまで知られていなかった多くの山脈、河川、湖を発見し、未知の動物種（チベットヒグマ、野生ラクダ、プルジェヴァリスキー馬）を初めて記載した。

人類の起源の統一性を最初に証明した科学者の一人は、優れた人類学者であり民族誌学者でもあるN. N. ミクロウホ＝マクレーだった。

興味深い点。IN. N. ミクロウホ＝マクレーは、ニューギニア島の先住民であるパプア人の間で数年間暮らした。この科学者は、パプア人をイギリスとドイツによる植民地支配から守るため、自らが探検した島の一部をロシア帝国の保護領とするよう政府に説得しようとしたが、理解されなかった。この科学者を偲んで、ニューギニアの海岸の一部はマクレー海岸と呼ばれている。



マクレー海岸の住民の言葉には、「斧」など、今でもロシア語が含まれていることが知られている。この科学者は、今日まで語り継がれるパプア神話の英雄となった。これらの事実をどのように説明できるか？



精密科学および自然科学の分野におけるロシア人科学者の業績を3つ選び、現代社会におけるその重要性を説明せよ。



S.M. ソロヴィヨフ。写真

2. 社会科学と人文科学。 国際的に認められた最初のロシア社会学者はM.M. コヴァレフスキーだった。彼は、あらゆる社会・政治制度は長期的な進化の成果であると主張した。

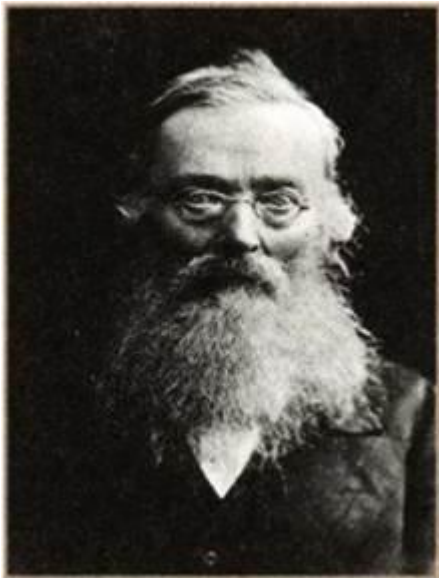
19世紀半ばのロシアは、歴史への関心の高まりを特徴としていた。1866年には帝政ロシア歴史協会が設立され、「ロシア文書館」、「ロシア古代史」など、様々な歴史雑誌が刊行された。1883年には、アレクサンドル3世の主導により、モスクワに歴史博物館が開館した。

1851年には、S. M. ソロヴィヨフによる『古代ロシア史』全29巻の第1巻が出版された。『歴史...』において、彼は歴史上の人物や出来事を評価する際に客観性を追求し、国家の歴史だけでなく社会の歴史にも大きな注意を払った。

ロシア史の普及に大きく貢献したのはN. I. コストマロフだった。彼は『ロシア史 主要人物伝』で名声を博し、「ロシアのプルタルコス」の異名をとった。

優れた文化学者としては、N. Ya. ダニレフスキーがいた。彼は基幹著作『ロシアとヨーロッパ』（1871年）の著者であり、その中で「文化史的類型」という概念を初めて提唱し、世界文明論の創始者となった。

著名な神学者であり教会史家であったのは、モスクワとコロムナのマカリウス府主教（M. P. ブルガーコフ）で、彼は全12巻からなる『ロシア教会史』（1857-1883年）を著した。この本は、初期の説教者から教会分裂までの時代を扱っている。

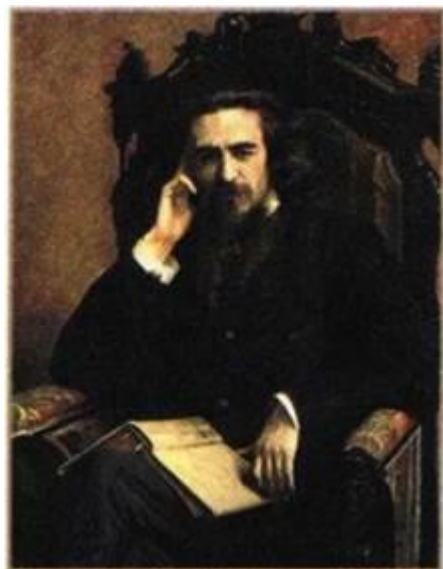


N.I. コストマロフ。写真

19世紀後半、ロシアでは独自の哲学が誕生した。その創始者の一人は、ロシア宇宙主義の創始者であるN. F. フョードロフである。彼の教えは、人間は宇宙と一体であり、普遍的な宇宙法則に基づいて生き、行動するという概念に基づいていた。フョードロフの思想は、F. M. ドストエフスキー、L. N. トルストイ、V. V. マヤコフスキー、K. E. ツィオルコフスキーの関心を集めた。

もう一人の傑出した哲学者は、歴史家S. M. ソロヴィヨフの息子であるV. S. ソロヴィヨフである。彼は著作の中で、神人論、すなわち歴史発展の過程における神と人間の原理の漸進的な統合という教義を展開した。

? ロシア当局は、社会科学と人文科学の発展をどのように促進したのだろうか？



V.S. ソロヴィヨフ。
画家I.N. クラムスコイ

3. 高等教育と中等教育の発展。 1860年代初頭までに、ロシアには7つの大学があった。モスクワ、サンクトペテルブルク、キエフ、カザン、ハリコフ、ドルパト（ユーリエフ）、ヘルシンキである。20世紀初頭には、オデッサ、ワルシャワ、トムスクにさらに3つの大学が設立された。

新たな高等技術教育機関が設立された。モスクワにはペトロフスカヤ農林アカデミーと高等帝国技術学校（現在はN.E. バウマンにちなんで命名）が、サンクトペテルブルクには電気技術大学が開設された。

中等教育制度が改革された。1864年、新たなギムナジウムおよびプロギムナジウム憲章に基づき、ギムナジウムは古典ギムナジウムと実科ギムナジウムの2種類に分けられた。古典ギムナジウムは幅広い教養教育を提供したのに対し、実科ギムナジウムは数学、自然科学、そして「新しい」言語（ドイツ語とフランス語）に重点を置いていた。ギムナジウムがまだ存在しなかった都市では、4年制のギムナジウム（ギムナジウムの初等部に相当）が設立された。1871年、新たな憲章に基づき、実科ギムナジウムは実科学校と改称された。卒業生は高等技術教育機関にのみ入学することができた。



1885年から1918年にかけての女子高等学校（ベストゥージェフ）の正面ファサード。写真



チュメニ・アレクサンドロフスキー実科学学校の化学実験室。写真

女子のための高等教育および中等教育制度が創設された。1862年には女子ギムナジウムが開校した。全国各地で女子のための高等教育課程が編成されるようになった。1878年に著名なロシアの歴史家K. N. ベストゥージェフ＝リュミンの主導で設立されたベストゥージェフの学校は、その教育の質の高さで特に名声を博した。A. M. ブトレロフ、D. I. メンデレーエフ、I. M. セチェノフといった科学者たちがここで教鞭をとった。1897年にサンクトペテルブルクに女子医学研究所が開設されるまで、このコースは女子のための唯一の高等教育機関であり続けた。



1. 19世紀後半のロシアでは、どのような新しい高等教育機関が開設されたか？
2. ロシアにおける社会運動の特徴は、高等教育および中等教育分野における国家政策にどのような影響を与えたか？2～3つの項目を挙げる。

4. 初等教育。1860年代初頭、ロシアにおける識字率は依然として低く、人口の約6%だった。産業、交通、通信、貿易、地方自治の発展に伴い、識字率の急速な向上が求められた。1864年には、「国民の間に宗教的・道徳的概念を確立し、基礎的な有用知識を普及させる」という目的で、「初等公立学校規則」が公布された。この規則には、「宗教を問わず、あらゆる階層の児童が学校に入学できる」と明記されていた。カリキュラムは伝統的なもので、神の律法、民法書および教会法書の読解、作文、四則演算、聖歌などが扱われた。初等学校の修学年数は、プログラムによって2年から4年までで、男女が一緒に学んだ。

1880年代以降、K.P.ポベドノスツェフの主導により、教区学校網が拡大し始め、1884年には教区学校に関する規則が制定された。四半世紀の間に教区学校の数に10倍に増加した（1905年には42,884校、1881年には4,404校）。生徒数もこの時期に20倍に増加した。教区学校は識字率向上に大きく貢献した。都市学校の数も増加した。多くの都市には、熱心な教育者たちの支援を受けて成人向けの日曜学校があった。1897年の国勢調査によると、ロシアの成人識字率は18%に上昇した。



ロシアにおける社会運動の特徴は、初等教育分野における国家政策にどのような影響を与えたか？2～3つの規定を策定すること。

5. 専門教育。19世紀末までに、様々な省庁、個人、公的機関の管轄下には、中等教育、工業、芸術・工業、運輸、農業といった中等教育機関が数百校存在した。1872年以降、3年制の教員養成機関や教員養成神学校が設立された。その多くはゼムストヴォによって設立・維持されていた。

ロシアには優れた教員が数多く登場したが、中でもK. D. ウシンスキーは特筆に値する。彼の教科書、特に『ロドノエ・スローヴォ』は、小学校で最も広く用いられた教科書だった。

1880年代には、起業家精神の分野の専門家を養成する商業学校が登場した。これらの学校は、市当局や商人協会によって維持されていた。1880年にサンクトペテルブルクに設立されたペトロフスキー商業学校は、名声を博した。



K.D. ウシンスキー。写真



1. ロシアの社会経済発展のニーズは、専門教育の発展にどのような影響を与えたか？2つか3つの項目を挙げること。
2. 19世紀後半のロシアで教育学が隆盛したのはなぜか？

6. 書籍出版。庶民向けの安価な書籍を出版していた最大の出版社はI.D. スィチンだった。彼の印刷所は、ロシアの偉大な作家の作品や児童書など、様々な大衆向けSF文学を印刷していた。もう一つの大手出版社兼一般向け書籍販売業者はA.S. スヴォーリンだった。1876年、彼は新聞「ノヴォエ・ヴレーミャ」を買収し、この新聞はすぐにロシアで最も影響力のある印刷機関となった。新聞発行のため、スヴォーリンは自身の印刷所を設立し、「ノヴォエ・ヴレーミャ」に加えて庶民向けの安価な書籍も出版した。1878年には、サンクトペテルブルクに大きな書店を、そして地方にもチェーン店を設立した。



ブロックハウス・エフロン百科事典の表紙

1890年から1907年にかけて、ロシアで出版された『ブロックハウス・エフロン百科事典』（全82巻）は、後にロシア百科事典の最高峰となった。版社は、この百科事典の編集にロシアの知識階級の精鋭を招聘することに成功した。記事の執筆者や編集者には、V. S. ソロヴィヨフ、D. I. メンデレーエフ、K. N. ベストゥージェフ＝リューミン、A. F. コニ、N. P. パブロフ＝シルヴァンスキー、I. M. セチェノフ、A. A. シャフマートフなど、数多くの著名人が名を連ねた。



1. 19世紀後半のロシアで、なぜ安価な書籍の出版が拡大したのだろうか？ 2つの説明を述べること。
2. 19世紀末に、なぜ百科事典的な辞書の必要性が生じたのだろうか？

質問とタスク

1. 大改革はロシア科学の発展にどのような影響を与えたか？具体的な例を3つ挙げること。
2. 大改革はロシア教育の発展にどのような影響を与えたか？具体的な例を3つ挙げること。
3. ロシアにおける産業化が科学技術の発展に与えた影響について、2～3つの例を挙げよ。
4. 19世紀前半と比較したロシアの教育発展の進展を評価せよ。
5. 表「19世紀後半におけるロシア科学の成果と現代における意義」を作成し、記入せよ。
6. ロシアとヨーロッパ諸国間の科学交流の例を挙げよ。
7. ニコライ1世とアレクサンドル3世の教育政策を比較せよ。この比較からどのような結論を導き出せるか？

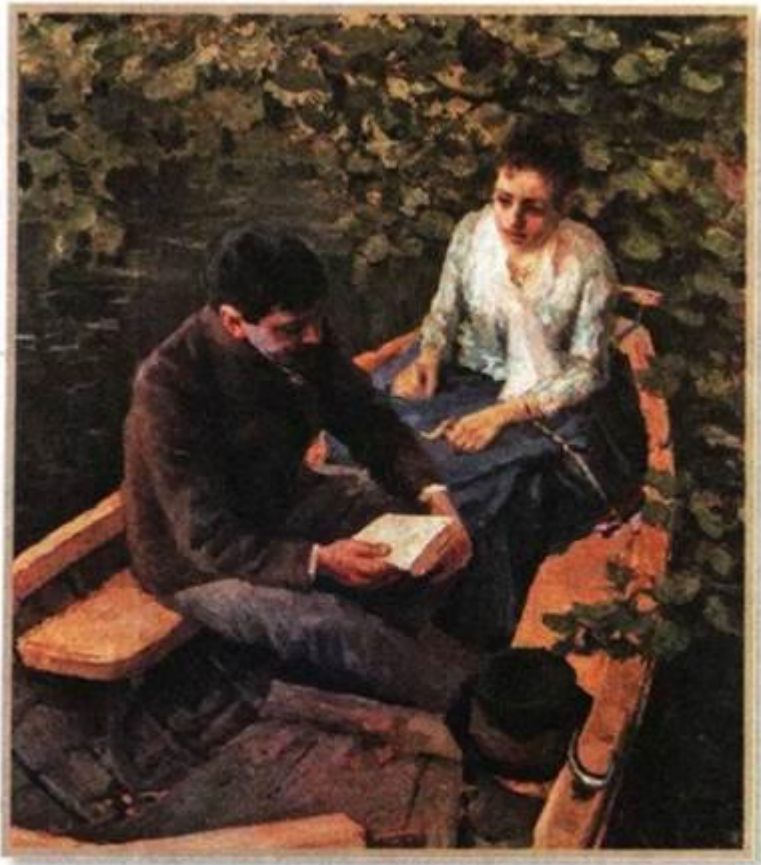
セクションの主な質問に対する答えをまとめること。



19世紀後半のロシアの科学と教育にはどのような変化が起きたか？その理由は？

§ 28

19世紀後半の文学と芸術



船上で。画家 K. A. コローヴィン



19世紀後半のロシア文学と芸術において、どのような新しい特徴（そしてその理由）が見られたか？



『勇敢な一団』・移動派・ロシア写実主義小説



M.M.アントコルスキー・M.A.バラキレフ・A.A.バフルシン・A.P.ボロディン・
V.M.ヴァスネツォフ・V.V.ヴェレシチャーギン・M.I.グルーベル・H.N.ゲー・
I.A.ポッター・V.N.ダヴィドフ・F.M.ドストエフスキー・M.N.エルモロワ・I.
.N.クラムスコイ・A.I.サード・I.I.レヴィタン・H.S.レスコフ・S.I.マンモス・
M.オーミケシン・S.T.モロゾフ・M.P.ムソルグスキー・N.A.ネクラソフ・V.
.I.ネミロヴィッチ＝ダンチェンコ・A.M.オペクシン・A.N.オストロフスキー・
V.G.ペロフ

M.I. プティパ・V.D. ポレノフ・I.E. レーピン・I.A. リムスキー＝コルサコフ・
 A.&N. ルビンシュタイン・AK サブラソフ・P.M. サドフスキー・
 M.E. サルティコフ＝シチュドリノ・V.A. セロフ・K.S. スタニスラフスキー・V
 .V. スターツォフ・P.A. ストレペトワ・V.I. スリコフ・AK トルストイ・
 L.N. トルストイ・P.M. & S.M. トレチャコフ・I.S. ツルゲーネフ・P
 .I. チャイコフスキー・A.P. チェーホフ・V.O. シャーウッド・I.I. シーシキン・
 S.I. パイク



1857年 - 詩集『悪の華』S.H. ボードレー

1861年 - C.H. デイクンズの小説『大いなる希望』

1862年 - V. ユーゴーの叙事詩『追放者』

1869年 - フローベールの小説『感情の教育』

1871年 - R. ワグナーのオペラ『ジークフリート』より D. ヴェルディの『アイダ』

1871-1893年 - E. ゾリャの小説連作『ルゴン＝マッカリ』

1872年 - 絵画『印象』K. モネ作「日の出」

1879年 - 戯曲「人形の家」G. イプセン

1880年 - 考える人像 O. ロデナ

1883-1885年 - F. ニーチェの哲学小説『ツアラトウストラはかく語りき』

1884年 - マーク・トウェインの小説『ハックルベリー・フィンの冒険』、P. ヴェルレーナの随筆集『呪われた詩人たち』

1885年 - ド・モーパッサンの小説『親愛なる友よ』、V. ヴァン・ゴッホの絵画『じゃがいもを食べる人々』

1893年 - E. ムンカの絵画『小川』

1897年 - ウェルズの小説『宇宙戦争』

1859年 - I. A. ゴンチャロフの小説『オブロモフ』、戯曲「嵐」A. N. オストロフスキー

1862年 - I. S. ツルゲーネフの小説「父と子」

1863年 - N. チェルヌイシェフスキーの小説「どうする？」

1866年 - F. M. ドストエフスキーの小説「罪と罰」

1868年 - L. N. トルストイの小説「戦争と平和」

1870-1923年 - 巡回美術展協会の活動

1877年 - バレエ「白鳥の湖」P. I. チャイコフスキー

1881年 - P. I. チャイコフスキーのオペラ「エフゲニー・オネーギン」

1887年 - 絵画「桃を持つ少女」V. A. セロフ

1890年 - 絵画「悪魔」M. A. ヴルーベリ

1896年 - 戯曲『かもめ』と『ワーニャ伯父さん』A. P. チェーホフ

1898年 - モスクワ芸術座設立

1. 後援。農奴制廃止以前は、科学、文学、芸術への主要な支援者は貴族だったが、今やブルジョアジーの代表者にとって代わられた。劇場、図書館、美術館の建設に多額の資金を投じ、彼らは科学者や創造的な知識人層を支援し、民芸品や工芸品を復興させようとした。新世代の後援者の輝かしい代表はS.I.マモントフだった。1870年代から1890年代にかけて、モスクワ近郊の彼の邸宅「アブラムツェヴォ」には、ロシアを代表する芸術家、演出家、音楽家、彫刻家、建築家が集まった。そこには木工や陶芸の工房もあり、芸術家たちは忘れ去られた民芸品や工芸品の伝統を復興させた。マモントフは私財を投じてロシア初の私設オペラを創設した。

芸術のパトロンは他にもいた。S.T.モロゾフはモスクワ芸術座の発展に多額の資金を寄付した。A.A.バフルシンはモスクワに演劇博物館を設立し、維持した。



アブラムツェヴォ。画家I.E. レーピン



なぜアブラムツェヴォは19世紀後半のロシアにおいて、文学と芸術の発展において最も重要な中心地の一つとなったのか？

P.M. トレチャコフとS.M. トレチャコフ兄弟のコレクションを基に、有名なトレチャコフ美術館が1892年に設立され、1867年に一般公開された。フランス絵画、特に印象派やその他のモダニズム絵画の最大のコレクターはS.I. シチューキンだった（後に彼のコレクションはエルミタージュ美術館とプーシキン美術館のコレクションに加わった）。これらのパトロンの活動のおかげで、ロシアの芸術はより広く一般に知られるようになった。

歴史上の人物。 T.S.モロゾフの息子であるサヴァ・ティモフェーヴィチ・モロゾフ（1862-1905）は、優れた教育を受け、モスクワ大学の物理数学科で学び、イギリスのケンブリッジ大学で化学を深く学んだ。1887年からはニコリスカヤ工場の事実上の責任者となり、父が導入した最も露骨な抑圧策の撤廃に尽力した。罰金を廃止し、労働者のための快適な宿舎を建設し、模範的な医療制度を整えた。S.T. モロゾフは偉大な芸術のパトロンであり、当時の多くの文化事業は彼の資本の参加によって行われた。モスクワ芸術座の設立における彼の功績は、K.S. スタニスラフスキーやV.I. ネミロヴィチ＝ダンチェンコに劣らない。スタニスラフスキーによれば、「彼は経済面のすべてを自ら引き受け、あらゆる細部にまで気を配り、自由時間のすべてを劇場に捧げた」。彼がモスクワ芸術座に費やした総額は50万ルーブルに近かった。



19世紀後半の芸術のパトロンが主にブルジョワジーの代表者であったのはなぜか？ 2つの説明を立てること。



N.A.ネクラソフ。
画家 N.N. ゲー

2. 文学。 1850年代から1880年代は、ロシア散文史における重要な時代であった。この時期に書かれた小説や短編小説（I.S. ツルゲーネフの『ルーディン』『貴族の巣』『前夜』『父と子』『煙』『土』、I.A. ゴンチャロフの『オブロモフ』、N.G. チェルヌイシェフスキーの『何をなすべきか』、F.M. ドストエフスキーの『罪と罰』『白痴』『悪霊』『カラマーゾフの兄弟』、M.E. サルトゥイコフ＝シチェドリンの『ある町の歴史』『ゴロヴリョフ家』、L.N. トルストイの『戦争と平和』『アンナ・カレニナ』、N.S. レスコフの『ムツェンスク郡のマクベス夫人』『魔法にかけられた放浪者』『レフティ』など）は非常に独創的であったため、フランスの文学者E. ヴォギュエは、世界文学における新たな決定的な潮流、すなわちロシア写実主義小説を宣言した。

N.A. ネクラソフは、ロシアの著名な詩人であり、大衆雑誌『ソヴレメンニク』と『オテチェストヴェニエ・ザピスキ』の編集長兼発行人でもあった。1850年代から1870年代にかけて、彼の詩『農民の子供たち』『霜』『赤い鼻』『ロシアの女たち』『ルーシで裕福な暮らしをしている人』をはじめとする多くの詩が、ポピュリスト運動の支えとなった。



I.S. ツルゲーネフ。
画家 I.E. レーピン



F.M. ドストエフスキー。
画家 V.G. ペロフ



L.N. トルストイ。
画家 I.N. クラムスコイ

1880年代初頭、A.P. チェーホフのユーモラスな物語が出版され、彼は短編散文の巨匠としての地位を確立した。20世紀初頭には、チェーホフの戯曲（『かもめ』、『ワーニャ伯父さん』など）が世界的な評価を得た。

I.S. ツルゲーネフは、ロシア小説（そしてロシア文化全般）の普及に大きく貢献した。彼は長年フランスに住み、A. ドーデ、E. ゾラ、G. フローベールなど多くのフランス人作家と親交を深めた。彼らにロシア文学を紹介したのはツルゲーネフであり、彼らはその権威と影響力を用いて、フランス語をはじめとするヨーロッパ諸語へのロシア文学の翻訳に貢献した。こうして、ロシア文学は世界中の読者の財産となった。19世紀後半から20世紀初頭にかけて、多くの外国人作家がロシア文学の強力な影響力を感じていた。そして、これは当然のことながら、文学がロシア社会において果たした役割によって説明される。ロシア人の自己認識の特徴は、ロシア国民が人生の切実な問いに対する答えを政治新聞や議会演説、哲学論文ではなく、作家たちの小説、詩、批評記事の中に求め、見出した点にあった。

? 19世紀後半におけるロシア文学の世界的な認知について、2つか3つの説明を述べよ。



A.P. チェーホフ。
画家 O.E. ブラズ

3. 絵画。改革後の最初の数年間、美術アカデミーにはリアリズムを支持し、美術におけるアカデミズムに反対する芸術家たちのサークルが形成された。1863年、アカデミーの最も優秀な卒業生14人が、スカンジナビア神話の特定のテーマを題材としたコンクール作品の制作を拒否し、テーマの自由選択を要求した。拒否された後、I. N. クラムスコイに率いられたこれらの芸術家たちはアカデミーを去り、まず「芸術家連盟」を組織し、続いて1870年には巡回美術展協会を設立した。その後20年間にわたり、協会は20以上のロシアの都市で美術展を開催した。

巡回展には、改革後の著名な芸術家たち、I. N. クラムスコイ、V. M. ヴァスネツォフ兄弟とA. M. ヴァスネツォフ兄弟、I. E. レーピンなどがいた。V. I. スリコフ、V. G. ペロフ、I. I. レヴィタン、V. A. セロフ、V. D. ポレーノフ、I. I. シシキン、N. A. ヤロシェンコ、G. G. ミャソエドフら。放浪派は写実主義のスタイルで作品を制作した。彼らは作品の中で、ロシアの一般市民の生活、ロシアの自然の美しさ、そしてロシア史における最も重要な瞬間を描き出そうとした。例えば、V. I. スリコフのキャンバス作品「ボヤーリニャ・モロゾフ」と「ストレリツィ処刑の朝」は、古い家父長制のルーシと新しいロシアの間の闘争を鮮やかに描き出している。彼の絵画作品「スヴォーロフのアルプス越え」や「エルマーク・ティモフェーヴィチのシベリア征服」は、写実主義に満ちている。新旧の対立は、N. N. ゲーの絵画「ペテルゴフで皇太子アレクセイ・ペトローヴィチを尋問するピョートル1世」にも体现されている。I. E. レーピンの絵画「ヴォルガ川の舳曳き手たち」は、芸術と社会生活において一大事件となった。レーピンが描いた、知識階級のラズノチンツィ（俗悪な知識階級）を描いた作品、「プロパガンダ活動家の逮捕」と「自白拒否」は、当時の切実な問題への解答となった。1885年に完成したレーピンの絵画「イヴァン雷帝とその息子イヴァン」は、同時代の人々に大きな感銘を与えた。



I. N. クラムスコイ。自画像

V. G. ペロフの写実主義絵画（「死者を見送る」「3人組。水を運ぶ職人見習い」「息子の墓に立つ老いた両親」）は、深い内面の悲劇に満ちている。同時に、この画家の鋭い観察眼は、ロシアの現実の滑稽な側面にも目を向けていた（「休憩所の猟師たち」）。

19世紀後半、多くの画家たちの作品において肖像画が驚異的な隆盛を極めた。特に注目すべき肖像画家はI. N. クラムスコイで、彼は同時代の多くの画家たちの姿を捉えた（L. N. トルストイ、A. N. ネクラースフ、D. I. メンデレーエフなどの肖像画）。

V. M. ヴァスネツォフの絵画には、叙事詩的でおとぎ話のようなルーシのイメージが溢れている（「勇敢な人々」）。

風景画は19世紀後半に独立した運動として出現した。A. K. サヴラソフの絵画『カラスが帰ってきた』は、その発展の新たな段階を象徴するものであり、その全盛期は、サヴラソフの弟子であるI. I. レヴィタンの作品と当然結び付けられる。彼は「黄金の秋。スロボトカ」「三月」「秋の日。ソコーリニキ」「夕べ。黄金の入り江」「静かな住まい」「池のほとり」など、傑出した絵画を制作した。



モスクワの中庭（断片）。画家：V.D. ポレノフ

「ロシアの森の歌手」I.I.シーシキン（「ライ麦畑」「松林の朝」など）、V.D.ポレーノフ（「モスクワの庭」「祖母の庭」）、A.I.クインジ（「白樺林」「ドニエプル川の月夜」）、そしてロシアとヨーロッパで最高の海洋画家として知られるI.K. アイヴァゾフスキー（「波の間で」など）もいた。

ロシアの戦争画の古典的名作であるV・V・ヴェレシチャーギンは、ロシア美術において重要な位置を占めている。1877年から1878年の戦争を含むロシア軍の多くの作戦に参加したヴェレシチャーギンは、軍隊生活の多くの細部を正確に再現すると同時に、「戦争の神格化」において戦争の全体的かつ不気味なイメージを描き出している。ヴェレシチャーギンの別の作品群は、彼が長年旅を続けたインドと中央アジアに捧げられている。



桃を持つ少女。画家 V.A. セロフ



なぜこの絵がロシア絵画史上最も有名な作品の一つとなったのだろうか？



悪魔の座像（断片）。
画家：M. A. ヴルーベル

1880年代と1890年代には、旅芸人協会の写実主義的なスタイルから脱却した芸術家たちが名声を博した。V.A. セローフ（「桃を持つ少女」）とK.A. コローヴィン（「船上」）はロシア絵画に印象派の技法をもたらし、M.A. ヴルーベリは象徴主義（「悪魔」）をもたらしした。

1898年、サンクトペテルブルクのみハイロフスキー宮殿にアレクサンドル3世ロシア美術館が開館し、トレチャコフ美術館と並んでロシア絵画の第二の重要なコレクションとなった。

巡回美術展協会が商業的に成功したことはよく知られている。この事実について、2つか3つの説明を述べよ。

4. 建築と彫刻。彫刻においても、写実主義への移行が見られた。この時代で最も有名な彫刻家は、M. M. アントコルスキーである。彼は彫刻肖像画「エルマク」、「年代記作者ネストル」、「イヴァン雷帝」などを制作した。ロシアの記念碑的彫刻は、A. M. オペクシン、ピャチゴルスクのM. Yu. レールモントフ、モスクワのA. S. プーシキンの設計に基づいて建てられた素晴らしい記念碑によってさらに豊かになった。ロシアの記念碑的彫刻の発展において、M. O. ミケシンの作品も同様に重要だった。彼は、ヴェリーキー・ノヴゴロドの壮大な記念碑「ロシアの千年紀」を制作した。

ロシア・ビザンチン様式は、改革後のロシア建築において主流となった。モスクワ歴史博物館（V. O. シャーウッド設計）、モスクワ市議会（D. N. チチャゴフ設計）、赤の広場のアッパー・トレディング・ロウズ（現グム）（A. N. ポメラントフ設計）、そして工科博物館（I. A. モニゲッティとN. A. ショーヒン設計）は、この様式で建てられた。1887年には、サンクトペテルブルクのエカテリーナ運河沿い、アレクサンドル2世が崩御した場所に、血の上の救世主教会（A. A. パーランドとI. V. マリシェフ設計）の建設が始まった。



モスクワ歴史博物館。
建築家V. O. シャーウッド



1. イヴァン4世は「ロシア千年紀」記念碑に描かれた歴史上の人物の中にいない。この事実をどのように説明できるか？
2. 建築における帝政様式がロシア・ビザンチン様式に取って代わられたのは、どのような社会運動の潮流の影響によるものか？2、3の論拠を挙げて自分の意見を正当化すること。

5. 音楽芸術。1859年、A. G. ルービンシュタインを会長とするロシア音楽協会が設立された。その基盤の上に、1862年にロシア初の音楽院がサンクトペテルブルクに開設され、1866年にはA. G. ルービンシュタインの弟であるN. G. ルービンシュタインを会長とする音楽院がモスクワに設立された。

ロシア音楽の発展における新たな方向性は、批評家で美術史家のV. V. スターソフによって「一握りの強者」と称されたサンクトペテルブルク音楽院の活動と結び付けられる。このサークルの主催者は作曲家兼指揮者のM. A. バラキレフで、メンバーにはA. P. ボロディン、T. A. キュイ、M. P. ムソルグスキー、N. A. リムスキー＝コルサコフがいた。彼らの活動は、放浪者たちが絵画にもたらしたのと同じ音楽の刷新と結びついている。これらの作曲家たちは、民俗音楽からインスピレーションを得て、音楽美学の新たな原理を主張した。彼らは主にロシアの歴史と文学に作品のテーマを見出し、独自のロシア流オペラと交響曲の流派を生み出した。M. P. ムソルグスキーのオペラ『ボリス・ゴドゥノフ』と『ホヴァンシチナ』、A. P. ボロディンの『イーゴリ公』、N. A. リムスキー＝コルサコフの『雪娘』、『プスコフの乙女』、『サトコ』、『皇帝の花嫁』などは、国内外で当然の名声を博している。

19世紀後半のロシア音楽の頂点は、オペラ『エフゲニー・オネーギン』『スペードの女王』、バレエ『白鳥の湖』『眠れる森の美女』など、数多くの作品を作曲したP. I. チャイコフスキーの作品だった。今日、チャイコフスキーは世界で最も人気の高い作曲家の一人である。



M. P. ムソルグスキー。写真



P. I. チャイコフスキー。写真

興味深い点。1891年の春、P.I. チャイコフスキーはアメリカ公演に出かけた。この異国の地は彼に深い感銘を与えた。「アメリカではヨーロッパよりも10倍も私の名前が知られている」と、チャイコフスキーはある手紙の中で驚きを込めて書いている。「最初、このことを言われた時、大げさな褒め言葉だと思った。でも今は、それが真実だと分かる。モスクワではまだ知られていない私の作品もあるが、ここではシーズンごとに何度も上演され、それらに関する記事や解説が書かれている。私はロシアよりもここでははるかに大きな存在なのだ。面白いと思わないか!!!」

ロシア・ロマン主義の伝統は受け継がれた。P.I. チャイコフスキー、N.A. リムスキー＝コルサコフ、A.P. ボロディンらの作品は、著名なロシア詩人の言葉に乗せて書かれ、このジャンルの古典となった。



1. V. スターソフが作曲家コミュニティを「一握りの力持ち」と呼んだのはなぜだと思うか？

2. ロシアにおける音楽教育の発展と音楽の繁栄の間には関連性があると思うか？

6. 劇場。19世紀後半、首都の帝国劇場は、国家からの資金援助を受け、最高の俳優、演出家、舞台美術家が集まる演劇の中心地であり続けた。その雰囲気を決定的にしたのは、モスクワのマールイ劇場だった。1853年以来、長年にわたり、この劇場では毎シーズン、A. オストロフスキーの新作戯曲に基づく初演が行われていた。そのため、劇場は「オストロフスキーの家」と呼ばれていた。ロシアの現実を深く理解した上で書かれたオストロフスキーの戯曲（『嵐』、『持参金』、『森』など）は、ロシアの劇場におけるリアリズムの確立に貢献した。P. サドフスキー、G. フェードトヴァ、M. エルモロヴァといった俳優たちは、マリー劇場の舞台上で名声を博した。アレクサンドリンスキー劇場もマリー劇場に次ぐ存在だった。M.G. サヴィナ、P.A. ストレペトヴァ、K.A. ヴァルラモフ、V.N. ダヴィドフらは、サンクトペテルブルクのこの劇場で才能を輝かせた。

ロシアのバレエ芸術は19世紀後半に最高潮に達した。卓越したバレエマスター、M.I. プティパは、これに重要な役割を果たした。

ロシアの国立オペラ歌手養成学校の基礎は、ロシア音楽文化の中心地、サンクトペテルブルクのマリインスキー劇場とモスクワのボリショイ劇場で築かれた。F.I. シャリャピン、A.V. ネジダノヴァ、L.V. ソビノフは、翌世紀にこのオペラ歌手養成学校を世界的な名声へと導いた。

改革後の時代、ロシアでは民間の劇団が広く普及した。小さな町でさえ、ゼムストヴォ、市当局、そして後援者からの資金で劇場が建設された。アマチュア演劇があらゆる階級や身分の都市住民にとって一般的な娯楽となったという事実からも、劇場の人気のうかがえる。



A.P.チェーホフとモスクワ芸術座の俳優たち。写真

1870年代後半、偉大なロシアの演出家K. S. スタニスラフスキーは、モスクワのアマチュア演劇界で創作活動を開始した。1898年、V. I. ネミロヴィチ＝ダンチェンコと共に、私立の公立劇場であるモスクワ芸術座（MKhT）を設立した。この劇場は、20世紀初頭のロシアで最も有名な劇場となった。MKhTの初演は、A. K. トルストイの戯曲『皇帝フォードル・イオアンノーヴィチ』とA. P. チェーホフの戯曲『かもめ』を原作とした作品だった。



19世紀後半のロシアで演劇が人気を博した理由を2、3つ挙げよ。

質問とタスク

1. 美術館、トレチャコフ美術館、ロシア写実主義小説、移動派美術館、「強き一握り」、ロシア・ビザンチン様式、「オストロフスキーの家」、ロシア美術館、モスクワ芸術座（MKhT）といった概念と用語の意味をどのように理解しているか？
2. 国家と社会は、文学と芸術の発展をどのように促進したか？2～3つの例を挙げることに。
3. 19世紀後半のロシア文学と芸術の繁栄の理由を3つ挙げよ。
4. 19世紀後半のロシア文学と芸術における最も重要な成果を3～4つ挙げ、その理由を説明せよ。

5. ロシアと外国の文学と芸術の相互作用について、3～4つの例を挙げよ。
6. 19世紀後半のロシア文学と芸術において、写実主義が支配的な芸術様式となったのはなぜだと思うか？ 2～3つの説明を挙げること。

セクションの主な質問に対する答えをまとめること。



19世紀後半のロシア文学と芸術において、何が新しく、そしてなぜ新しいのか。

章のまとめ

19世紀後半、ロシア文化は開花期を迎えた。文学と芸術において、リアリズムがついに確立された。ロシアの作家、作曲家、芸術家たちは、個人の最も繊細な精神活動からロシア社会全体の地球規模の問題に至るまで、人間の感情や人間関係のあらゆる側面に深く関心を寄せていた。この時代、ロシアのリアリズム小説、ロシア演劇、そしてロシアのクラシック音楽は、世界文化における注目すべき現象となった。ロシアの作家と作曲家は国際的な評価を得た。

質問とタスク

1. 19世紀後半のロシア文化における最も重要な成果について、年表を作成し、その理由を説明せよ。
2. ロシア帝国の地図上で、19世紀後半の教育、科学、芸術、文学の発展の中心地を示せ。
3. 19世紀後半の最も重要なロシアの地理探検のルートを地図上で示せ。
4. 19世紀後半のロシア文化を代表する人物を一人選び、「私は自分自身に記念碑を建てた...」というテーマで、その人物のスピーチ（ミニエッセイ）を書く。その人物が何をしたかったのか（そしてなぜ）、何を成し遂げたのか（そしてなぜ）、何を成し遂げられなかったのか（そしてなぜ）、そしてその行動が後世の人々にとってどのように価値があるのかを書き留めること。
5. 歴史学には、様々な、しばしば矛盾する見解が表明される論争的な問題がある。その一つは、「19世紀後半のロシアにおける教育と科学の発展は、国家の要請に応えた」というようにまとめられる。歴史知識を用いて、この見解を裏付ける3つの論拠と、反証となる3つの論拠を挙げよ。それぞれの論拠を提示する際には、必ず歴史的事実を用いること。
6. 「19世紀後半のロシア文学と芸術の発展」というテーマでレポートを作成することになった。レポート作成のための詳細な計画を立てよ。

章の主な質問に対する答えをまとめること。



19世紀後半のロシア文化はどのような状況下で発展したのか？ そして、それはロシアの業績にどのような影響を与えたのか？

プロジェクトのトピック



1. 小さなものの中にある偉大さ：我が同胞よ — 19世紀後半の科学、文学、芸術、教育界の人物たち
2. 祖国と世界の発見：19世紀後半のロシア人旅行者
3. 「フランス側、異国の地で、私は大学で学ばなければならない...」：19世紀後半のロシアの児童、学生、教師、海外の教育機関での研修
4. 19世紀後半のロシアの児童、学生、そして教師の日常生活
5. 「芸術への既成の道はない...」：19世紀後半のロシア文化の傑出した人物たち（我が同胞よ）の記念碑のスケッチコンクール
6. 音楽のイメージを描く：19世紀後半のロシア文化の功績と人物についての詩（ラップ）コンクール
7. 時代を捉える：19世紀後半のロシア文化の功績をテーマにしたデッサンコンクール19世紀後半のロシアの科学者の日常生活。
8. 19世紀後半のロシアの科学者の日常生活。
9. 19世紀後半のロシアの作家、ジャーナリスト、芸術家の日常生活。
10. 19世紀後半のロシアの都市住民と農民の日常生活。
11. 19世紀後半のロシア絵画におけるロシア帝国の同時代文化空間の特徴の反映。
12. 19世紀後半のダーチャの文化的意義。

章のリソース

1. A. M. ゴーリキーの小説『オクロフの町』の抜粋を読み、課題を完了せよ。

...町は重々しい十字架の形をしている。麓には修道院と墓地があり、頂上のザレチエはプタニツァによって分断され、左翼には年月を経て灰色に変色した牢獄があり、右翼にはブブノフ家の荒廃した屋敷と、剥がれ落ちてボロボロになった大きな家がある。屋根の垂木は、狼に引き裂かれた馬の肋骨のようにむき出しになっており、窓は板で塞がれ、その隙間から家の中は暗闇と空虚さが覗いている。シハンには6000人の住民がおり、ザレチエには約700人の住民がいる。町民は機敏だが、栄養状態は良好だ。彼らは地域の農村市で赤毛やその他の品物を売買し、州のために麻、糸、卵、牛、干し草を購入している。彼らの妻や娘は、色とりどりの毛糸で靴、スカーフ、ベスト、旅行用バッグを編んでいる。メインストリートであるポレチナヤ通りまたはベレジョク通りは、大きな石畳で舗装されている。ポレチナヤ通りには最高級の家々がきちんと並んでいる。-...自治評議会の議長、フォーゲルの白い家...赤いレンガに黄色いシャッター-頭。ピンク色の家々は、大司祭イザヤ・クドリャフスキーの父...そしてもう一つの長い列...居心地の良い小さな家々...そこには...ゼムストヴォの長で、芝居好きで劇作家のシュトレケル...そして、地元の喜劇・演劇愛好家サークルの一番の俳優である陽気な医師リャキン...が住んでいた。街にはたくさんの庭園や前庭があり、カエデ、ナナカマド、ライラック、アカシアが家々の顔を隠していた...

彼らはまた、体育館があればいいとも言っていた。村は年々貧しくなり、商売で暮らすのは難しくなり、工芸品の食糧はますます乏しくなり、地方では子供の教育には費用がかかるが、教育は必要だ。医者、弁護士、そして一般的に学識のある人々は裕福な暮らしをしている。休日には、若者たちが修道院の裏手に集まり、ゴロトキ、ラブタ、ゴルツィで遊んだ...訪ねてきたマジシャンや様々な旅回りの「芸術家」が「リスボン」のホールに集まった。地元のアマチュアサークルの公演にも熱心に通っていたが、特に地元合唱団の世俗的なコンサートが人気だった...

1) このテキストには、19世紀後半のロシアの町民の生活のどのような特徴が反映されている？ 2) 社会経済発展のどのような問題が論じられているか？ どのように解決すべきか？ これらの解決策はどれほど効果的だと思うか？ 自分の見解を正当化すること。

2. A. N. エンゲルハルト著『村からの手紙』の抜粋を読んで、課題を完了せよ。

この輪作制度——すなわち、穀物の栽培によって窒素が比較的枯渇した土地を牧草地とし、窒素が豊富になった土地を穀物栽培に充てるという、適切な循環が行われる制度——のおかげで、私の農場では15年間でライ麦の収穫量が2倍以上に増加した。具体的には、1デシャチーナ（約1.09ヘクタール）の農地から得られたライ麦の収穫量は以下の通りである：1869年：9チェトヴェルチ（約1,890リットル）3メラ（約78リットル）

1870年：5チェトヴェルチ3メラ

1871年：5チェトヴェルチ2メラ

1869～1871年の3年間の平均：6チェトヴェルチ5メラ 1884年：12チェトヴェルチ3メラ

1885年：14チェトヴェルチ7メラ

1886年：15チェトヴェルチ7メラ

1884～1886年の3年間の平均：14チェトヴェルチ7メラしたがって、現在では1デシャチーナあたり、15年前と比較して平均で7チェトヴェルチ3メラ（約1,470リットル）多く収穫できている。

農民たちは私の例に従うだろうか？ 同じシステムに切り替えるだろうか？ 荒れ地を開発する際に、彼らは堆肥で肥料を与え、同時に同じ量の軟弱な土壌に草を蒔くのだろうか？ 荒れ地を購入すれば、農民はこのようなシステムを導入できると思われるし、間違いなく利益をもたらすだろう。飼料の量が増え、堆肥の量も増え、穀物の生育も良くなる。特に冬季に休耕を導入すれば、亜麻や畜産物は収益性の高いものとなるだろう。堆肥管理を徹底すれば、システム全体は正しく合理的になる。窒素を必要とする穀物と、窒素が蓄積される草を交互に植えることになる。

しかし、農民が草を蒔くとは思えない。少なくとも、すぐには考えられない。農民経済に大きな混乱が生じるからだ。農民は徐々に草を蒔くようになるだろうが、今すぐではない。

1) この文章の著者は誰だと思うか？ 本文に基づいて、あなたの意見の根拠を示すこと。
2) 本文ではどのような問題が提起されているか？ どのように解決すべきか？ この問題解決の障害となるものは何か？

3. 1890年の雑誌「科学と生命」第39号に掲載された記事の抜粋を読み、課題を完了せよ。

...予想通り、ヤブロチコフの発明はロシア国内で不信感を抱かれ、彼は国外へ向かわざるを得なかった。最初の大規模な実験は1877年6月15日、ロンドンの西インド・ドックの中庭で行われた。実験は見事に成功し、ヤブロチコフの名は瞬く間にヨーロッパ中に広まった。現在、パリやロンドンなどでは、多くの建物がヤブロチコフのシステムを用いて照明されている。現在、サンクトペテルブルクには、発明家P.N.ヤブロチコフ氏率いる「ロシアにおける電気照明および電気機械・装置製造のための合弁会社」が存在する（ちなみに、この合弁会社は、バッテリーを用いた船舶や馬車を動かす装置の開発に取り組んでおり、取締役会の住所はサンクトペテルブルク、オブヴォドニー運河80番地）。ヤブロチコフのキャンドルは、工場、造船所、店舗、鉄道駅などの照明に最適である。パリでは、ルーブル美術館に加え、プランタンの店舗、コンチネンタルホテル、ヒッポドローム、ファルコットやグアンの工房、イヴリーの工場などがヤブロチコフのシステムで照らされている。モスクワでは、救世主ハリストス大聖堂と石橋近くの広場、多くの工場などが、同じシステムで照らされている。最後に、この発明の歴史を改めて振り返ると、強い苦い思いを抱かずにはいられない。悲しいことだが、ロシアの発明家は外国の特許を取得するまで、ロシア国内で活躍の場を得られない。

19世紀後半のロシアにおける科学技術の進歩の特異性について、どのような結論を導き出せるだろうか？どのように説明できるか？



推奨図書・映画・音楽

フィクション

N.A. ネクラースフ『ルーシで裕福な暮らし』。改革後のロシアの生活を鮮やかに悲劇的に描いた作品。

V.A. ギリャロフスキー『モスクワとモスクワっ子』。19世紀末のモスクワっ子の日常生活を描いた作品。

I.A. ブーニン『アントーノフのリンゴ』。改革後の村の日常生活を描いた作品。

S. アイニ『私の人生について』。タジク語からの翻訳。特に興味深いのは、著者の幼少期と青年期に関する章。

映画

『月から来た男』（O. L. チェルカーソワ作、2002年、ロシア）。この漫画は、N. N. ミクロウホ＝マクレーの絵、日記、そしてニューギニアの先住民の歌や踊りを用いている。

「ダーチャにて」（G. Z. ロミゼ作、1954年、ソ連）。A. P. チェーホフの同名のユーモラスな物語を原作とした漫画。

「アレクサンドル・ポポフ」（G. M. ラポポート、V. V. エイシモント演出、1949年、ソ連）。

「ムソルグスキー」（G. L. ロシャル演出、1950年、ソ連）。

「ニコライ・プルジェヴァリスキー」（S. I. ユトケヴィチ演出、1951年、ソ連）。

「チャイコフスキー」（I. V. タランキン演出、1969年、ソ連）。

音楽作品

P. I. チャイコフスキー、N. A. リムスキー＝コルサコフ、A. P. ボロディン作曲の音楽によるロマンス。



VII

20 世紀初頭のロシア



列車の上を飛ぶ飛行機。画家 N. S. ゴンチャロ

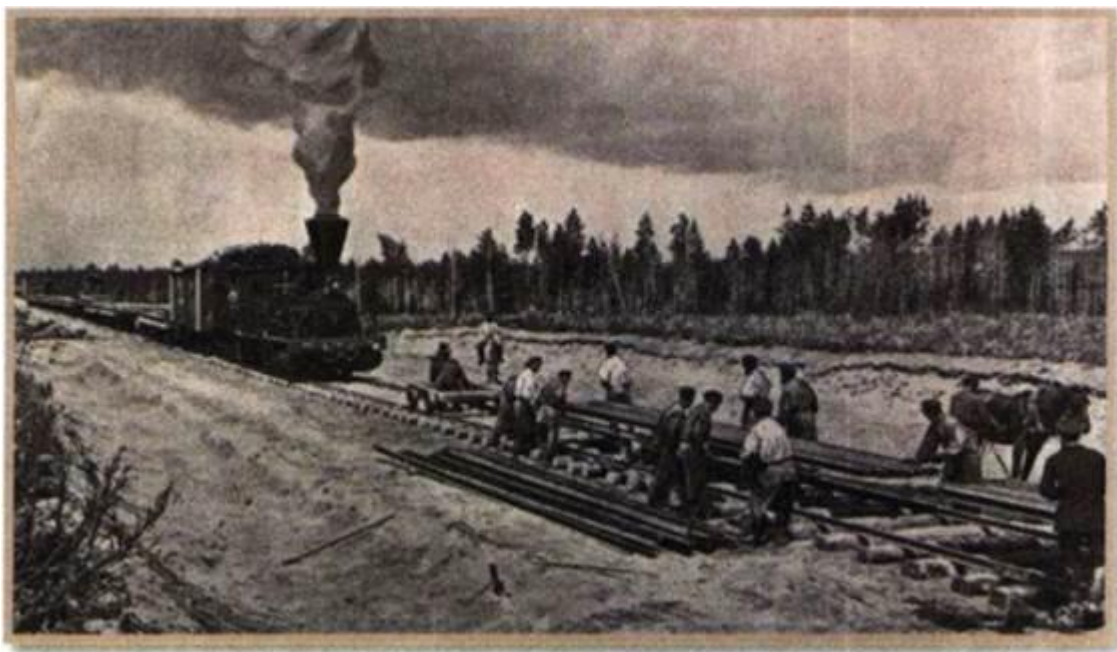
「20 世紀...
 私たちに約束する、血管を膨らませながら、
 すべての境界を破壊し、
 前例のない変化、
 見たことのない反乱...
 人間はどうだ？— 鋼の轟音の中で、
 火の中で、火薬の煙の中で、
 どんな炎の遠くが
 あなたの目に開かれたのか？
 機械の絶え間ないきしみは何を語るのか？
 なぜプロペラは、うなりながら、冷たく空虚な霧を切り裂くのか？

A. A. ブロークの詩「報復」より



1894-1914年に、ロシアの発展の問題はどのように解決されたか？

§ 29-30

世紀の変わり目のロシア：
発展の原動力と矛盾

シベリア横断鉄道の西部区間、オビ川からエニセイ川までの中央シベリア鉄道の建設。1893-1899 年。写真



19 世紀後半から 20 世紀初頭にかけてのロシアの発展の原動力と矛盾は何だったのか？それらの間には関連性があるのだろうか？



「ベゾブラゾフ派」・ワイン独占・東清鉄道・拳・多元的経済・シンジケート・シベリア横断鉄道・ホディンカの悲劇・南満洲鉄道



アレクサンドラ フォードロヴナ・S.Yu. ウィッテ・R.I. コンドラチェンコ・A.N. クロパトキン・S.O. マカロフ・ニコライ2世・Z.P. ロジェストヴェンスキー・A.M. ステッセル



1894-1895 - 日清戦争
1898 - 米西戦争

1894-1917 - ニコライ2世の治世

1898-1901 - 中国で義和団の乱
1899-1902 - ボーア戦争
1900-1903 - 世界経済危機
1901年9月6日 - 無政府主義者レオン・チョルゴツシュが米国大統領ウィリアム・マッキンリーに致命傷を与える
1902 - ロンドン条約によりロシアに対する日英同盟が正式に成立
1905 - ノルウェーがスウェーデンから分離

1895-1897 - スウェーデンの通貨改革ウッテ
1904-1905 - 日露戦争
1904年1月27日 - 巡洋艦「ヴァリヤーク」と砲艦「コレーツ」の偉業
1904年7月-12月 - 旅順港防衛
1905年4月17日 - 「宗教的寛容の原則の強化について」の法令
1905年5月14日-15日(27日-28日) - 対馬海戦で第2太平洋艦隊が潰滅
1905年8月23日(9月5日) - ロシアと日本の間でポーツマス平和条約が締結

1. ニコライ2世とその側近。 1894年10月、50歳のアレクサンドル3世皇帝が急性腎炎で急死。長男のニコライ2世がロシアの帝位に就いた。

帝位継承者は厳格な環境で育った。父と母は、子供を育てる際に弱さや感傷を一切許さなかった。大公たちは簡素な兵士用の寝台で眠り、朝は冷たい風呂に入り、朝食にはオートミールを食べた。彼らの生活は、毎日の義務的な授業を伴う厳格な日課に従っていた。最終段階では、教育過程はK. P. ポベドノスツェフによって監督され、彼は後継者に法学、国家法、民法、刑法のコースを教えた。1890年に訓練は終了した。1884年5月6日、ニコライ・アレクサンドロヴィチ大公は誕生日に軍の宣誓を行った。1889年、彼はヘッセン公女アリス（アリックス）に夢中になった。1894年6月、彼らの結婚が発表され、結婚はアレクサンドル3世の死後に行われた。



皇帝ニコライ2世 画家 V.K. セロフ

興味深い詳細。 皇帝の死は、皇帝の位を継承した26歳の皇太子にとって、誰よりも重大な出来事だった。「彼の目に涙が浮かんでいた」とアレクサンドル・ロマノフ大公は回想する。「彼は私の腕を取り、自分の部屋に連れて行った。私たちは抱き合って、二人とも泣いた。彼は考えをまとめることができなかった。彼は自分が皇帝になったことを知っており、この恐ろしい出来事の重みに圧倒されていた...『サンドロ、私は何をすべきか』と彼は悲しげに叫んだ。『私に、あなたに、アリックスに、母に、そしてロシア全体に何が起こるのか？私は皇帝になる準備ができていない。皇帝になりたいと思ったことは一度もない。政治について何も理解していない。大臣とどのように話せばいいのかさえ分からない』」



ニコライ・アレクサンドロヴィチが統治の準備をしているときに、その準備ができていなかったのはなぜだと思うか？

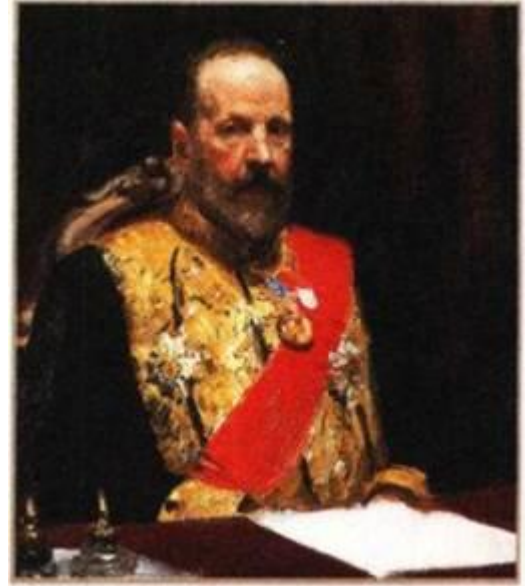
自由主義者は、アレクサンドル3世の死が独裁政治の改革につながることを期待していた。自由主義で知られるトヴェリのゼムストヴォは、新皇帝に帝位継承の伝統的な挨拶を送り、「人々の声と彼らの願いが聞かれる」ことと「法は最高権力の気まぐれな見解や決定よりも優先される」ことへの希望を表明した。ポベドノスツェフは、このフレーズが独裁政治の原則に対する危険な挑戦であると疑い、回答を起草し、皇帝はそれをトヴェリの代表団に読み上げた。ニコライは彼らに「無意味な夢」に対して警告し、「忘れられない亡き父が守ったのと同じくらい、私は独裁政治の原則をしっかりと堅固に守る」と付け加えた。ニコライの演説は社会のリベラルな希望に深刻な打撃を与えた。

ホディンカの悲劇も同様に反響を呼んだ。1896年5月、モスクワで戴冠式が行われた。ホディンカ平原で贈り物を配る公共の祝賀会が開かれた。組織が不十分だったため、群衆が押し寄せ、2,690人が負傷し、そのうち1,389人が死亡した。これらの出来事はニコライに憂鬱な印象を与えた。それでも彼は祝賀会のプログラムをキャンセルせず、その日のうちにフランス大使と舞踏会に行った。この軽率な行動は社会全体で非難された。王室は犠牲者に8万ルーブルを寄付したが、新君主に対する否定的な態度は残った。野党はニコライ2世に「血まみれ」というあだ名を付けた。

若い君主は国を統治する上で必要な経験が不足しており、また政府の決定を下す際に生まれつき不安を抱えていたため、側近たちは彼に大きな影響を与えた。ニコライの常任顧問は、叔父であるウラジーミル大公、アレクセイ大公、セルゲイ・アレクサンドロヴィチ大公であった。皇帝の揺るぎない信頼は妻のアリックスに向けられ、彼女は正教に改宗した後、ロシア名アレクサンドラ・フョードロヴナを授かった。個人的な面では、彼らの結婚生活は非常にうまくいった。夫婦は死ぬまでお互いに熱烈な感情を持ち続けた。しかし、皇后の政治介入は、ほとんどが否定的な結果をもたらした。

ニコライ2世は、強い意志を持った父とは異なり、国の発展に向けて確固とした方針を打ち出すことができなかった。この点で皇帝の政策は一貫性に欠け、保守的・保護主義と自由主義・保守主義という2つの原則がそこに見受けられる。前者の指導者は内務省、後者は財務省で、1892年から1903年にかけてはS.ユーリエヴィチ・ウィッテが長官を務めた。

歴史上の人物。伯爵（1905年以降）セルゲイ・ユーリエヴィチ・ウィッテ（1849-1915年）は、オランダ出身の先祖を持つ高官の家庭に生まれた。ウィッテはオデッサのノヴォロシースク大学を卒業し、その後は鉄道技師としてのキャリアを選んだ。1886年、南満州鉄道の経営者になった。この地位でウィッテはアレクサンドル3世の目に留まり、鉄道局長に任命された。1892年2月、ウィッテは鉄道大臣に任命され、同年8月には財務大臣に任命された。



S.Yu. ウィッテ 画家 I.E. レーピン

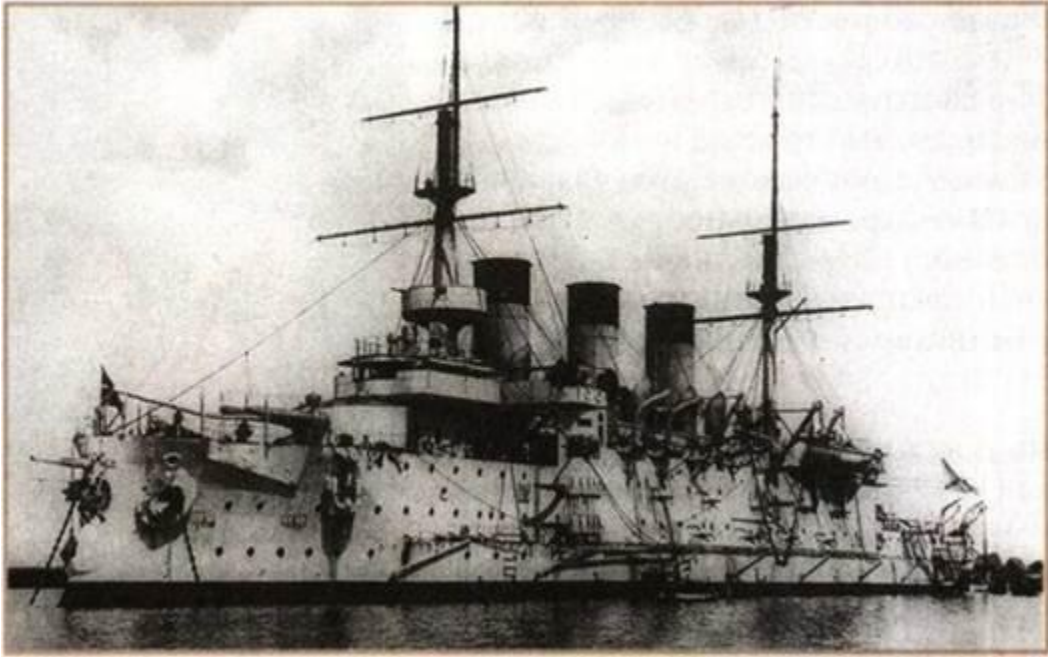


自由主義的・保守的信念とウィッテの職業の間には関連があるか？ 自分の意見を正当化すること。



1. ニコライ2世の見解を、彼らのイデオロギー的所属の観点から特徴づけよ。
2. 政治的反対派がニコライ2世に付けたあだ名は正当だろうか？ 自分の意見を正当化すること。

2. 社会経済的発展。19世紀から20世紀への変り目のロシア経済は、多元的構造だった。人口の大半である農民は、共同の土地所有に基づく半自給自足の経済を営んでいた。農民自身が生産物のほとんどを消費した。税金や償還金の支払い、自分たちで生産できない、あるいは生産量が足りないもの（道具、塩、布地、砂糖など）の購入のために、彼らは余剰分ではなく、必要なものを販売した。出生率の高さと区画の細分化により、彼らの土地はどんどん減少していった。より高度な道具、肥料、収穫量の多い種子、生産性の高い家畜を購入する資金が足りなかった。そのため、農民農場の生産性はゆっくりとしか伸びなかった。それでも、19世紀末には、ロシアは穀物輸出で世界一位を占めていた。しかし、この輸出のほとんどは、クラークと地主農場の生産物で構成されていた。



戦艦オスリャーバ 写真

クラーク（裕福な農民）は、貧しい村人（農場労働者）の雇用労働を利用した。地主の中には、労働者を雇って自ら農場を経営する者もいた。彼らはクラークとともに、農業における私的資本主義システムを形成した。しかし、ほとんどの地主は、労働または小作の形で受け取った穀物を販売していた。これは半封建的な体制だった。20世紀初頭、世界市場でロシアの穀物に対する競争が激化したが、その競争相手はアルゼンチン、オーストラリア、カナダ、米国から供給される穀物だった。世界の穀物価格は下落し、ロシアの農民と地主の収入も下落した。多くの農民は、地主の土地を分割することでこの状況から抜け出す方法を見出した。貧困のため、農民土地銀行からの融資を利用できる農民はほとんどいなかった。

農業とは異なり、ロシアの産業は1890年代後半に急速に発展し、年間平均8%という世界で最も高い生産成長率を示した。これは、以下の要因によって促進された。

- 外国貿易の保護主義 - 工業製品の輸入に対する高い関税。
- 1894年に S.Yu. ウィッテによって導入されたワインの独占 (20世紀初頭、国庫に年間約5億ルーブルをもたらした)。
- 1895-1897年にかけて S.Yu. ウィッテによって実施された通貨改革 (この間にルーブルの金裏付けが導入され、紙幣が金貨と自由に交換されるようになった)。
- 通貨改革のおかげで、自由資本 (特に、銀行に資本を預けて利息で生活する金持ちの資産家たちの資本) がロシアに流入し、ロシアの産業は巨額の投資を受けた。
- 国によって実施された大規模な鉄道建設。1914年までにロシアが所有していたすべての鉄道のうち、40%が1890年代に建設された (総延長は29,000ベルスタから54,000ベルスタに増加した)。ロシアにとって今でも忠実に役立っている「巨大プロジェクト」は、当時は大シベリアルートと呼ばれていた世界最長の鉄道、シベリア横断鉄道の建設だった。1891年から1916年までに8,000ヴェルスタ以上が建設された。
- 海軍の新造船による再軍備。

安定した政府命令が産業の発展を刺激した。鉱業、石油生産、石油精製、冶金、機械工学、電気工学の産業が特に急速に成長した。フランス、ベルギー、ドイツ、イギリス、スウェーデンからの外国の民間資本がここで強い地位を占めていた。しかし、繊維産業は依然として優位を保ち、ロシアの民間資本がそれを支配していた。新しい道路は貿易を刺激し、近代的な産業構造が急速に「成長」している地域の発展を促し、人口はより流動的になり、ロシアの地域間のつながりは強くなった。

ロシアの産業の大部分は民間企業、または当時の言葉で言えば協会に属していた。小売業や卸売業、建設業、河川や海上輸送、鉄道の一部とともに、それは経済の私的資本主義構造を構成していた。軍需工場、鉄道の大部分、郵便局、電信、森林地帯、ワインの独占は国家に属し、経済の国家資本主義構造を構成していた。



プチロフ工場の作業場。写真



この写真のプロットには、ロシア産業の発展のどのような特徴が反映されているか？

さらに、小規模な商品体制もあった。それは、個人の小規模な商人や職人、手工業者、建築業者、荷船の運搬人、荷積み人などの職人で構成されていた。

20世紀初頭、ロシアは工業生産高で米国、ドイツ、英国、フランスに次ぐ世界第5位だった。しかし、労働生産性、したがって労働者の平均賃金は米国の8～10倍低かった。これは、ロシアの労働者のほとんどが最近まで農民であり、通常は文盲だったためである。彼らの労働力は安価だったので、ロシアの起業家は高価な工業設備の購入を節約した。

1900-1903年、ロシアは資本主義世界全体と同様に経済危機に見舞われた。生産は低下し、多くの労働者が解雇され、すでに土地不足に苦しんでいた村に戻ることを余儀なくされた。

この危機により、ロシア産業の独占化が加速した。ロシアの独占の主な形態はシンジケート、つまり製品や原材料などの価格を設定するための、ある産業の企業の連合体だった。「プロドゥゴル」「プロドヴァゴン」「グヴォズド」は、対応する製品の生産分野で優位に立った。「プロダメト」は冶金分野で、「ノーベルマズート」は石油製品の生産分野で優位に立った。

独占は銀行部門にも影響を及ぼした。1914年までに、ロシアの5大民間銀行、すなわちロシアアジア銀行、サンクトペテルブルク国際商業銀行、アゾフドン銀行、ロシア対外貿易銀行、ロシア産業貿易銀行が、民間銀行資産全体の49%を支配した。銀行と産業資本の統合が始まった。銀行は最大の産業企業の株式を取得し、その銀行は最大の銀行の株式を取得した。

産業、文化、教育の急速な発展により、教師、科学者、文化人、ゼムストヴォや市議会の職員、エンジニア、軍事専門家が増加した。20世紀初頭までに、ロシアの知識階級の数 は80万人に達した。知識階級は、ロシア社会で最も政治的に活動的な部分だった。その大部分は大都市、特に首都に住んでいた。工業プロレタリア階級と政治的に活動的な知識階級(その大部分は民主主義的価値観を堅持していた)の印象的な大衆が地方の中心地に集中していたため、独裁政権にとって深刻な危険があった。



1. 20世紀初頭のロシア農業の発展の主な成果と主な問題を特定せよ。自分の意見を正当化すること。
2. 20世紀初頭のロシア産業の発展の主な成果と主な問題を特定せよ。自分の意見を正当化すること。

3. 帝国の中心と地方。ロシアに議会を設立する支持者にとって、その必要性を支持する重要な論拠は、フィンランド大公国におけるセイム（議会）の存在と成功した機能であった。この論拠を否定するために、1899年2月、皇帝ニコライ2世は、フィンランドのセイムとフィンランド上院（政府）の同意なしにフィンランド領土に拘束力のある法律を発布する君主の権利を確認する宣言書に署名した。これはフィンランド人の間で大規模な抗議を引き起こした。2月の宣言書の取り消しを皇帝に求める請願書には、50万以上の署名が集まった。ニコライはこれらの訴えを考慮する必要はないと考えていた。1900年に新しい宣言書が発行され、それによると、ロシア語が事務および行政の言語であると宣言された。1901年、フィンランド軍は解散され、公国の住民は他のロシア国民と同様に兵役に就くことになった。自治権の制限とロシア化に反対する人々の大半は平和的な手段で対抗したが、テロに訴える者もいた。1904年、ヘルシンキでE. シャウマンがフィンランド総督N. I. ボブリコフを銃撃した。しかし、フィンランドは自治権の多く（特に関税法）を保持した。

ニコライ2世の政府は、ユダヤ人住民に関して伝統的な政策を推し進めた。定住地の境界線、農業の禁止、高等教育機関と中等教育機関の割り当ては維持された。ユダヤ人の若者は公生活で自己実現できず、革命組織に積極的に参加した。内務大臣V. K. プレフヴェは、革命の大変動の主犯はユダヤ人であると述べた。一部の政府高官の反ユダヤ的態度はユダヤ人虐殺を引き起こし、その最大かつ最も悲劇的なものは1903年のキシニョフとゴメリでの虐殺であった。当局は無法行為を止めようとした。多くの虐殺実行者が逮捕され、有罪判決を受けた。

コーカサス地方では不穏な動きがあった。1903年、アルメニアのグレゴリアン教会の財産を当局に譲渡する法令をめぐって不穏な動きが起きた。ウクライナ民族運動が成長した（ロシア西方の諸国の支援があったにもかかわらず）。その主な目的は文化的権利を守ることだった



19世紀から20世紀への変わり目に、ロシア当局はフィンランドに対する政策でどのような目標を追求したか？どのような成果を上げたか？

4. 極東におけるロシアの政策。極東におけるロシアの影響力を拡大するためには、不凍港が必要だった。この港は中国か朝鮮のいずれかであった。日本もこれらの国を領有権を主張した。1894年から1895年にかけて、ロシアは中国と戦い、これを破った。勝った側は台湾島と遼東半島を獲得した。ロシアはドイツ、フランスと同盟を組み、日本に遼東半島の放棄を強制した。その結果、ロシアと中国の関係はより緊密になった。1896年、中国はロシアに自国の領土（満州）を通る東清鉄道の建設を許可し、ロシアのトランスバイカルとウラジオストクを最短ルートで結んだ。1898年、中国は遼東半島と旅順港を海軍基地として25年間ロシアに貸与した。ロシアは南満州鉄道を介して東清鉄道と接続する権利を得た。1900年、ロシア軍は義和団の乱から満州を守るために満州を占領した。

日本は、朝鮮における自国の自由を奪うことになると考え、これらすべての占領に同意した。しかし、満州の直後、ロシアは朝鮮に興味を示した。ニコライ2世の側近である「ベゾブラゾフ派」（1903年5月にニコライ2世の国務長官となった将校A.M.ベゾブラゾフにちなんで名付けられた）の何人かは、中国東北部（満州）と北朝鮮への積極的な経済的、政治的進出を主張した。この「派閥」によって設立された商業団体は、満州と朝鮮の国境にある鴨緑江での伐採に従事していた。ロシア軍は労働者を装って朝鮮に送り込まれた。ウィッテ財務大臣は、戦争につながる可能性のあるこの危険な政策に反対した。しかしニコライは彼の主張を無視した。

中国と朝鮮におけるロシアの影響力が拡大したことは、日本とイギリスを怒らせた。1902年、両国はロシアに対抗する軍事同盟を結んだ。日本はイギリスとアメリカから多大な軍事的、経済的援助を受けた。

5. 日露戦争の始まり。 1904年の軍事作戦。1903年夏、日本はロシアに対し、満州と朝鮮の紛争の解決を提案した。交渉中、日本側はロシアの戦争準備の不備を利用し、要求をますます強めた。

ニコライ2世が日本の要求をほぼすべて受け入れることに同意したとき、日本政府はすでに開戦を決めていた。1904年1月27日（2月9日）、日本艦隊は旅順港でロシア艦隊を攻撃した。朝鮮の済物浦港では、14隻の日本艦がロシアの巡洋艦ヴァリャグと砲艦コレーツを攻撃した。ロシア軍は降伏せず、不平等な戦いを受け入れた。兵力では優勢だったにもかかわらず、日本軍はロシア艦を破壊することができなかった。水兵たちが自らヴァリャグを沈め、コレーツを爆破した。



1904年の旅順港 写真



戦争の初日から、事態はニコライ2世が想像していたものとはまったく異なる展開を見せた。全体として、ロシア陸軍と海軍は日本軍の数倍の規模であったが、極東では日本軍が大きな優位に立っていた。さらに、ロシア軍は増援、弾薬、補給品、食料を絶えず必要としていた。全ての輸送は、未完成のトランスシベリア鉄道に沿って6,000キロもの距離を運ばなければならなかった。ロシア軍司令部は防御戦術を選ばざるを得ず、主に旅順港などの既存の陣地を守ろうとした。一方、日本軍は果敢に行動し、すぐに海上で主導権を握った。旅順港は機雷原に囲まれていた。ロシア艦隊は海に出ることを取えなかった。

1904年2月、日本軍が朝鮮に上陸した。旅順港に閉じ込められていたロシア艦隊は、これを阻止できなかった。A. N. クロパトキン将軍が満州陸軍の指揮を執った。彼は経験豊富な軍人と見なされており、1877-1878年の露土戦争に参加し、スコベレフ将軍の下で中央アジアで戦った。しかし、その後の出来事が示すように、クロパトキンには、総司令官に必要な資質、つまり決断力、毅然とした態度、意志の強さが欠けていた。2月末、海軍の積極的行動を支持するS. O. マカロフ中將が海軍司令官として旅順港に到着した。しかし、3月31日、彼の旗艦戦艦ペトロパブロフスクが触雷して沈没した。乗組員のほとんどが死亡し、その中にはS. O. マカロフ自身と、乗船していた有名な戦闘画家V. V. ヴェレシチャーギンも含まれていた。ロシア艦隊は再び守勢に立った。



R. I. コンドラチェンコ将軍。
写真

4月、鴨緑江沿いの十連城市付近での戦いで、ロシア軍は3倍の規模を誇る日本軍の進撃を食い止めることができず、遼陽に撤退した。1904年7月、日本軍は旅順を包囲した。要塞の防衛はA.M.ステッセル将軍が指揮した。R.I.コンドラチェンコ将軍は、この都市の防衛で重要な役割を果たした。

戦争はロシアで愛国心の高まりを引き起こした。社会はロシア軍の勝利を期待していた。陸と海からの絶え間ない砲撃にさらされた旅順守備隊と太平洋艦隊は、猛烈な日本軍の攻撃を勇敢に次々と撃退した。当時、満州軍司令官のクロパトキンは、包囲された人々を助けるために突破口を開くために、遼陽市付近に軍を集めていた。1904年8月、日本軍はロシア軍の陣地を攻撃した。敵に対して数的優位に立たなかったクロパトキンは反撃を敢えてせず、奉天市への撤退を命じた。10月前半、彼は沙河で日本軍に対する攻勢を開始したが、成功しなかった。

このように、旅順で包囲された人々への支援の試みはすべて失敗した。1904年12月2日、旅順防衛の魂であったコンドラチェンコ将軍が亡くなった。12月20日、クロパトキンからの支援を絶望したシュテッセル将軍は、要塞を日本軍に明け渡した。（戦後、シュテッセルは軍事法廷で裁判にかけられ、死刑判決を受けたが、ニコライ2世は恩赦を与えた）。

? 1904-1905年の日露戦争の理由を2つ挙げよ。1904年の軍事行動の結果は何だったか。2つか3つの項目を述べること。

6. 奉天と対馬の戦い。戦争の終結。ニコライ2世は前線からの知らせに衝撃を受けた。最初に考えたのは満州に行き、ロシア軍の指揮を執ることだった。しかし叔父たちがそれを思いとどませた。1904年10月、Z. P. ロジェストヴェンスキー中将率いる第2太平洋艦隊はバルト海のリバヴァ港（現在のラトビアのリエパーヤ）から極東への遠征に出発した。その頃までに、旅順港を拠点とする第1艦隊は存在しなくなっていた。戦闘で損傷した船もあれば、沈没した船もあった。

旅順港陥落後、満州に駐留する日本軍の数は増加した。1905年2月、奉天の戦いでクロパトキン軍はほぼ包囲され、撤退を余儀なくされた。地上軍に続いてロシア艦隊も敗北を喫した。1905年5月14日(27日)、Z.P.ロジェストヴェンスキー率いる第2太平洋艦隊は対馬海峡で日本艦隊の攻撃を受けた。2日間の戦闘の結果、ほぼ壊滅した。戦艦11隻すべて、巡洋艦9隻のうち4隻、駆逐艦9隻のうち6隻が沈没または敵に拿捕された。提督自身も捕らえられた。この頃、ロシアはすでに革命に巻き込まれ、日本軍は疲弊していた。両国は戦争を終わらせたいと考えていた。

交渉は、アメリカのT.ルーズベルト大統領の仲介により、ポーツマス(アメリカ)で始まった。ロシア側では、1905年8月23日(9月5日)にS.Yu. ウィッテによって平和条約が締結された。条約の条項によると、ロシアは南サハリン、遼東半島の租借権、南満州鉄道を日本に譲渡し、朝鮮と南満州に対する請求権を放棄した。しかし、ロシアは、特に賠償金の支払い要求など、いくつかの屈辱的な平和条件を拒否することができた。



日露戦争は、朝鮮と中国の領土で起こった。これらの国の状況をどのように特徴づけるか？

質問とタスク

- 19世紀から20世紀への変り目のロシアにおける農業の発展の成果と問題と産業の発展の成果と問題の間には関連性があるか？3つの論拠で自分の意見を正当化すること。
- ゼムストヴォ憲法主義者のF.I. ロディチェフは次のように主張した。「農民に土地を追加しても役に立たない... 土地割り当てを増やすという話は抽象的な空想にすぎない... ここでの問題は土地不足ではなく、土地が少ないのではなく、耕作が不十分であることだ。」農民は彼の意見に同意すると思うか？自分の意見を正当化すること。
- 「ベズブラゾフ派」、東清鉄道、南満州鉄道の概念の意味をどのように理解しているか？
- 1904-1905年の日露戦争の主な原因を列举せよ。戦争のどの出来事(2つまたは3つ)が最も重要だと思うか？自分の意見を正当化すること。1904-1905年の日露戦争の最も重要な結果を列举せよ。
- 1894年から1905年にかけてのロシアの経済発展と外交政策には、世界社会経済発展と国際関係のどのような傾向が表れていたか？

セクションの主な質問に対する答えをまとめること。



19世紀後半から20世紀初頭にかけてのロシアの発展の原動力と矛盾は何か。それらの間には関連性があるか？

§ 31-32

20世紀初頭の社会運動。
1905年から1907年のロシア革命

1905年1月9日、ヴァシリエフスキー島（サンクトペテルブルク）。画家 V. E. マコフスキー



1905年から1907年のロシア革命の結果は何だったか？



社会革命党の戦闘組織・ボルシェビキ・ドゥーマ君主制・ズバトフシチナ・立憲民主党（カデット）・血の日曜日事件・宣言「国家秩序の改善について」・メンシェビキ・全国政党・社会革命党（エスエル）・労働組合・閣僚会議・労働者代表会議・「10月17日同盟」・「ロシア人民同盟」・「労働組合同盟」・労働組合グループ（トルドヴィキ）・「黒百人組」



E.F.アゼフ・G.A.ガポン・F.A.ゴロビン・A.I.グチコフ・
 A.I.ドゥブロヴィン・S.V.ズバトフ・A.I.コノヴァロフ・
 V.I.レーニン（ウリヤーノフ）・Yu.O.マルトフ（ツェデルバウム）・
 P.N.ミリュコフ・S.A.ムロムツェフ・V.K.プレーヴェ・
 V.M.プリシュケヴィチ・P.D.スヴァトポルク＝ミルスキー・
 P.B.ストルーヴェ・L.D.トロツキー（ブロンシュタイン）・V.M.チェルノフ



<p>1905年 - ノルウェーかスウェーデンとの同君連合を解消し、独立国家を宣言</p> <p>1905-1911年 - イラン革命</p> <p>1906年1月17日 - ハンブルクでドイツ史上初の大規模な政治ストライキが発生</p>	<p>1902年 - 社会革命党（RSDLP）創立</p> <p>1903年 - 第2回ロシア社会革命党大会、ボルシェビキとメンシェビキに分裂</p> <p>1905-1907年 - 第一次ロシア革命</p> <p>1905年1月9日 - 血の日曜日事件、第一次ロシア革命の始まり</p> <p>1905年10月17日 - 宣言「国家秩序の改善について」</p> <p>1905年12月10日-19日 - モスクワ武装蜂起</p> <p>1906年4月23日 - 「ロシア帝国基本法」新版</p> <p>1906年4月27日-7月9日 - 第一国家ドゥーマ</p> <p>1907年2月20日-6月3日 - 第二国家ドゥーマ</p>
--	---

1. 20世紀初頭の反対運動。ニコライ2世治世下における国民の社会活動の活発化は、反対運動の発展を促した。この運動は、「学問の自由」を求める学生たちによって開始された。1899年の冬、全ロシア初の学生ストライキが発生した。騒乱を理由に大学から追放された学生は軍隊に徴兵され、これが民衆の抗議行動と運動の過激化につながった。1901年2月、学生騒乱への参加を理由に追放された元学生P.V. カルボヴィチが、公教育大臣P.S. ボゴレポフを銃撃した。これをきっかけに、政府は高等教育および中等教育の改革に着手した。

20世紀初頭には、女性運動が活発化した。女性に政治的権利と職業選択の自由を与えるという考えは、次第に多くの支持者を獲得した。



プチロフ工場の作業場。
写真



プチロフ工場の作業場。
写真



プチロフ工場の作業場。
写真

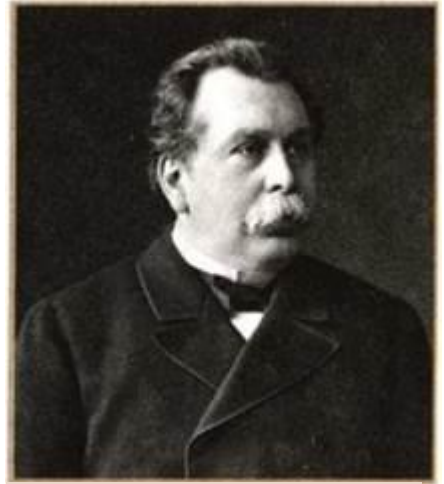
自由主義的な潮流は、P.B. ストルーヴェが編集する雑誌『Osvobozhdenie（大衆運動）』に代表され、1902年6月からシュトゥットガルトで、1904年からはパリで発行された。1903年、スイスで開催された会合で「解放同盟」が結成された。その目的は、非社会主義的な志向を持つあらゆる反政府団体を統合することだった。同盟には主に知識階級の代表者が参加していた。その最も活発なメンバーの一人は、歴史家P.N. ミリュコフであった。

同時に、貴族が主導的な役割を果たしたゼムストヴォ運動が強化された。1903年には「ゼムストヴォ立憲主義者同盟」が結成された。1904年、「解放同盟」の主導により、司法改革40周年を記念してロシア全土で数多くの祝賀会が開催され、政治的自由の要求と憲法制定に関する演説が行われた。

1902年、複数のポピュリストサークルのメンバーが社会革命党（SR）を結成し、ロシア農民の利益の擁護者を自称した。党首はジャーナリストのV.M. チェルノフであった。SRの綱領は、ロシアの社会主義への特別な道という、古くからのポピュリスト思想に基づいていた。この点で、SRは土地の「社会化」、すなわち農民共同体への土地の譲渡というスローガンを掲げた。彼らはまた、専制政治の打倒と民主的な連邦共和国の樹立を要求した。党には陰謀を企む戦闘組織があり、ロシア帝国の高官や皇族に対するテロ行為を組織した。間もなく、E.F. アゼフが戦闘組織の長に就任した。彼が仕組んだ内務大臣殺害は、大きな反響を呼んだ。1902年にはD.S. シピャギン、1904年にはV.K. プレーヴェが殺害された。

歴史上の人物。 ヴャチェスラフ・コンスタンチノヴィチ・プレーヴェ（1846-1904）は、ニコライ2世の内政における保守的かつ防衛的な路線を体現していた。1881年から1884年にかけて、プレーヴェは国家警察長官を務めた。彼の指導の下、革命組織内部の秘密諜報活動システムが構築され、「人民の意志」を迅速に打ち破ることが可能になった。1899年から1902年にかけて、プレーヴェはフィンランド大公国の国務長官を務めた。彼はロシア化政策を断固として推進した。1902年から1904年にかけて内務大臣を務め、反対派や革命運動と激しい闘争を展開した。ゼムストヴォ（ユダヤ人自治政府）の活動を制限しようとし、知事の権限強化を主張した。革命家たちは、1903年にキシナウとホメリで発生したユダヤ人虐殺はプレーヴェの仕業だと考えた。

ロシア社会主義運動のもう一方の翼には、社会民主党（マルクス主義の信奉者）がいた。1898年に開催されたロシア社会民主労働党（RSDLP）第1回大会では、綱領も憲章も採択されなかった。実際、党は単一の組織として機能し始めることはなかった。組織の中心的役割を担ったのは、V.I. レーニンとG.V. プレハーノフが1900年に海外で発行を開始した新聞「イスクラ」だった。「イスクラ」は創刊号から、1903年にブリュッセルとロンドンで開催された第2回党大会への準備を開始した。大会では綱領が採択され、党の最終目標はプロレタリア社会主義革命の遂行とプロレタリア独裁の樹立であると宣言された。大会の代表者の間では、憲章に関する議論が激しい論争を引き起こした。レーニンの編集委員会は、プロの革命家による小規模で厳格に中央集権化された組織の創設を目指した。Yu.O. マルトフが提唱した構想は、多数の党員と広範な党内民主主義を備えた党の構想だった。マルトフ支持者は憲章採択の投票で勝利した。しかし、党中央機関の選挙ではレーニン支持者が過半数を獲得した。この瞬間から、党は事実上二つの派閥、すなわちボリシェヴィキ（レーニンの支持者）とメンシェヴィキ（レーニンの反対者）に分裂した。



V.K. プレーヴェ。写真



V.I. レーニン。写真



Yu.O. ルトフ。写真



1. 自分で定義した基準に従って、ロシア社会運動の主要な潮流を比較せよ。この比較からどのような結論を導き出せるか？
2. 1894年から1903年にかけてのロシアの社会経済的發展は、同時期の社会運動の特徴にどのような影響を与えたか？

2. 「警察社会主義」と血の日曜日事件。 政府は労働者運動を社会主義政党の影響から排除しようとした。モスクワ保安局長S.V. ズバトフは、労働者の経済的利益の平和的保護に向けて労働運動を導くことを目的とした合法的な労働組合の設立を主導した（革命家たちはこの体制を「警察社会主義政策」と呼んだ）。その中で最も影響力があったのは、司祭G.A. ガボンが議長を務める「サンクトペテルブルク市ロシア工場労働者会議」であった。ズバトフの組織の会合では、一般教養に関する講義が行われ、道徳に関する議論も行われた。特に、労働者階級の物質的状況の改善に関する合法的な経済闘争の形態に重点が置かれた。

1905年1月初旬、サンクトペテルブルクのプーチロフ工場で数人の労働者が解雇されたことを受けて、ストライキが発生し、市内の主要企業を巻き込んだ。その組織化において決定的な役割を果たしたのは、「サンクトペテルブルク市工場労働者会議」と、G.A. ガボン自身だった。ストライキ中、ガボンは冬宮殿への労働者行進を呼びかけた。行進は、ニコライ2世に所有者への苦情を訴える請願書を提出することで終了することになっていた。多くの人々は、皇帝が必ず対応し、正義を取り戻すと信じていた。そのため、この行動全体は、絶対的に忠実で誠実な印象を与える必要があった。しかし、請願書には、国民によって選出された制憲議会の招集、政治的自由の保証、政治犯の釈放、身代金支払いの廃止、8時間労働制など、急進的とも言える多くの要望が含まれていた。政府は、計画された行進を強く非難した。皇帝一家はツァールスコエ・セローに住んでおり、請願書を受け取るためにサンクトペテルブルクに来るつもりはなかった。ニコライ2世は、代わりに警察による措置を命じた。1月7日、彼は日記にこう記している。「駐屯地を強化するため、郊外から部隊が派遣された。これで労働者たちの鎮静化には十分だった。」

1905年1月9日（日）、国旗、聖像、皇帝の肖像画を掲げた約14万人が、郊外から市の中心部、冬宮殿へと行進した。彼らの進路は、内務大臣P. D. スヴャトポルク＝ミルスキー公爵が首都に送り込んだ軍隊によって阻まれた。平和的な行進を阻止するためにコサックが派遣された。一部の場所では、労働者たちは銃撃戦に遭遇した。様々な情報源によると、130人から200人が死亡した。G. A. ガボンは、当局による残忍な報復に衝撃を受け、1月9日の夜、労働者に宛てたメッセージを書いた。「ロシア労働者同志諸君！」と彼は記した。「もはやツァーリはいない。今日、彼とロシア国民の間に血の川が流れた…」この出来事は「血の日曜日」として歴史に刻まれた。



1. ズバトフ政策はどのような目標を追求し、どのような成果を上げたか？
2. 1905年1月にどのような出来事が展開したか？これらの出来事は自然発生的と言えるだろうか？その理由を説明すること。



G. A. ガボン、サンクトペテルブルク市長I. A. フルロン、そして「サンクトペテルブルク・ロシア工場労働者会議」のメンバー。写真



この写真には、ズバトフ組織のどのような特徴が表れているか？

3. 革命の拡大。 血の日曜日事件のニュースは瞬く間にロシア全土に広まり、主要工業地帯では連帯ストライキが勃発した。学生や労働者も労働者に加わり始めた。

1905年5月、繊維産業最大の中心地であったイヴァノヴォ＝ヴォズネセンスクで、ロシア初の革命権力である労働者代表評議会が選出された。同時に、複数の労働者・従業員組合がP.N. ミリュコフ議長の下、「組合連合」を結成した。

春になると、農民が蜂起した。彼らは土地を占拠し、地主の領地を破壊した。社会革命党は農民運動の組織化において重要な役割を果たし、「全ロシア農民連合」を結成した。

夏には、オデッサ近海を航行していた最新鋭の戦艦「プリンシパル・ポチョムキン・タヴリチェスキー」で水兵の反乱が発生した。黒海艦隊の他の艦艇はこれを支持しなかった。反乱を起こした水兵たちは船をルーマニアへ連れ去り、現地当局に投降した。

社会を落ち着かせるため、内務大臣A.G. ブリギンは、選挙制の立法諮問機関である国家ドゥーマ（ドゥーマ設立宣言は1905年8月6日に発表された）の招集計画を立案した。ドゥーマでは、主に地主と都市ブルジョアジーに選挙権を与えることが提案された。この中途半端な改革と日露戦争の不名誉な終結に対する憤りが、革命運動を刺激した。1905年10月7日、（主に労働組合連合の活動により）散発的なストライキが全ロシア政治ストライキへと発展し、約200万人が参加した。国内主要鉄道14社が全線ストライキに突入した。ワルシャワからウラル山脈に至るまで、列車は停車し、工場は稼働を停止し、埠頭には停船中の蒸気船が停泊していた。サンクトペテルブルクには食料が届かず、学校や病院は閉鎖され、新聞は発行されず、電灯もほとんど点灯しなかった。省庁や国立銀行の職員さえもストライキを起こした。イヴァノヴォ＝ヴォズネセンスク事件に続き、首都を含むロシアの他の都市でも労働者代表ソビエトが結成された。（サンクトペテルブルク・ソビエトの活動において重要な役割を果たしたのは、事実上ソビエトの指導者であった若き社会民主党員L. D. トロツキー（ブロンシュタイン）であった。）

急速に深刻化する革命的危機に直面し、ニコライ2世は譲歩を余儀なくされた。1905年10月17日、S.Yu. ウィッテ伯爵（1903年から1906年まで閣僚委員会議長を務めた）の圧力を受け、ニコライ2世は「国家秩序の改善に関する宣言」に署名し、「真の人格不可侵性、言論の自由、良心、集会の自由、そして労働組合の自由に基づき、国民に揺るぎない市民的自由の基盤を与える」ことを約束した。皇帝はまた、ドゥーマの設立に同意し、「国家ドゥーマの承認なしにはいかなる法律も施行されない」と厳粛に約束した。1905年11月3日、1907年1月1日からの償還金廃止を定める皇帝の宣言が出された。

皇帝は、10月17日の宣言の公布によって革命が終結することを期待したが、それは叶わなかった。1905年11月、P.P. シュミット中尉の指揮の下、黒海艦隊の巡洋艦オチャコフで蜂起が発生した。他の多くの艦船も反乱に加わった。しかし、蜂起は鎮圧され、シュミットは軍事法廷で銃殺された。

1905年12月4日、モスクワ評議会は12月7日からゼネストを開始することを決定した。3日後、ゼネストは武装蜂起へと拡大し、街はバリケードで覆われた。12月10日から17日にかけて激しい戦闘が繰り広げられ、プレスニャは反乱軍の主要拠点となった。

モスクワ当局が蜂起を鎮圧できたのは、親衛連隊の到着と砲兵の使用によるところが大きい。同時に、ロストフ・ナ・ドヌ、ハリコフ、エカテリノスラフ、クラスノヤルスク、チタなどの都市でも蜂起が発生した。しかし、これらはすべて軍隊によって鎮圧された。



1. 宣言「国家秩序の改善について」の発表は、なぜ第一次ロシア革命の頂点と言えるのか？ 2つか3つの説明を述べること。
2. 1905年の革命的な出来事の中で、最も重要だったと思うものはどれか？ その理由を説明すること。



1905年10月17日の宣言。画家：I. E. レーピン



絵画に描かれた人々は、10月17日の宣言に対してどのような態度をとっていたか、説明せよ。彼らはどのような階級または社会集団に属していたか？どう考えて、そう判断したのか？



モスクワのバリケード。1905年12月。写真

4. 新しい政党。自由主義的な大衆は10月17日の宣言に満足し、革命は終わったと考えた。宣言は既存の政党に合法化の機会を与え、新しい政党が自らを組織する機会を与えた。1905年10月、「解放同盟」、「憲法主義者同盟」、「労働組合同盟」を基盤として立憲民主党（カデット）が結成された。党首はP.N. ミリュコフであった。カデットは、階級特権の廃止、8時間労働制、労働者の労働組合とストライキの権利、地主の土地の部分的譲渡による農民への土地分配の増加、そしてロシア国民が母語で教育を受ける権利を主張した。

1905年11月、「10月17日同盟」が結成された。党首は製造業者のA.I. グチコフであった。十月党は、国家ドゥーマ（下院）を有する世襲立憲君主制を主張し、国のブルジョア的発展を確保するための改革を要求した。彼らは、農民問題の解決として、財産を持たない農民を帝国の郊外の開発が乏しい地域に移住させ、国有地を売却することを提案した。十月党は8時間労働制に反対し、労働者のストライキ権の制限を主張した。

数十の全国政党や運動が政治闘争の舞台に登場した。こうして、ウクライナでは、当時ウクライナの自治を主張していたウクライナ社会民主労働党（V.K. ヴィニチェンコ、S.V. ペトリューラ両党首）が誕生した。アルメニアでは、アルメニア革命連盟「ダシュナクトゥン」が大きな影響力を持ち、トルコ系アルメニアの政治的独立を目指した。最大のユダヤ人社会主義政党はブンドであった。

1905年の強力なストライキ闘争の盛り上がりの中で、労働者による労働組合が台頭した。1905年10月6日、第1回全ロシア労働組合会議において中央労働組合局（CBTU）が結成され、これがロシアにおける労働組合運動の組織的発展と成長の基盤となった。

同時に、君主主義政党も台頭した。ロシア君主主義党、ロシア人民連合（指導者は医師A.I. ドゥブロヴィン、後に大天使ミカエル連合（指導者はV.M. プリシュケヴィチ）などである。これらの組織は、通称「黒百人組」と呼ばれていた。君主主義者たちは、無制限の独裁政治、帝国における正教とロシア国民の優位性の維持を主張し、他民族に民族自決権を与えることに反対した。

興味深い点。中世ロシアにおいて、軍務に就く人々を支援するために徴兵された民兵は「黒百人隊」と呼ばれていた。右翼過激派は、民衆との繋がりを強調するためにこの名称を用いた。「黒百人隊」は、ユダヤ人虐殺や政敵に対するテロ行為への参加で悪名を馳せた。その結果、「黒百人隊」という表現は否定的な意味を持つようになった。



ロシアの君主主義政党を、イデオロギー的側面からどのように特徴づけるか？

5. 1906年から1907年にかけての革命的出来事と行政改革。1905年10月19日、ニコライ2世の勅令により、最高行政機関の活動を調整するため、議長を長とする閣僚評議会が設立された。評議会議長と大臣は皇帝によって任命され、皇帝に対してその活動について責任を負う。

1905年12月11日、国家院選挙に関する勅令が公布された。選挙には25歳以上の男性のみが参加することが認められた。彼らは地主（地主）、都市（ブルジョアジー）、農民、労働者の4つの評議会に統合された。地主1票はブルジョアジーの3.5票、農民15票、労働者45票に相当した。選挙は複数回に分けて実施されることになっていた。国家ドゥーマの議員524名が5年間の任期で選出された。


1906年2月20日の宣言により、ニコライ2世は国家評議会の構成を変更した。今後、議員の半数は「正教会の聖職者、貴族、ゼムストヴォ、そして学界、商工界の代表者から選出される」こととなった。

1906年4月23日、皇帝は「ロシア帝国基本法」の改訂版を承認した。同法によれば、「皇帝は...最高の専制権力を有する。その権力に従うことは...神自身が命じる...皇帝は国家評議会および国家ドゥーマと一体となって立法権を行使する...法律を承認し、皇帝の承認なしにはいかなる法律も施行されない」とされている。皇帝には国家ドゥーマを解散する権限が与えられた。

「基本法」は、個人、住居、財産の不可侵性、居住地と就労地の自由な選択、海外渡航の権利、財産取得の権利、平和的な集会の開催、意見の自由な表明、労働組合や協会の結成の権利を宣言した。

これらの重要な改革はすべて、進行中の革命を背景に実施された。確かに、ストライキ運動は衰退し始めた。しかし、1906年の春から夏にかけて、国の郡の半分以上が農民の暴動に巻き込まれた。地主の領地は至る所で焼失し、陸軍と海軍では時折蜂起が起きた。

同時に、右翼運動が声高に自らを主張した。1906年11月、「ロシア人民連合」が主催する集会が、サンクトペテルブルクのミハイロフスキー・マネージで開催された。モスクワで「地主連合」の大会が開催され、君主の確固たる権力の回復と国家の迅速な秩序確立を訴える君主主義勢力の結集が始まった。

-  1. ロシア帝国における選挙は、普遍的、平等、直接的と言えるのだろうか？
2. 「多段階選挙」とはどういう意味か？

6. 第一国家ドゥーマの活動。 P.A. ストルイピン。第一国家ドゥーマ選挙は1906年2月から3月に行われた。社会革命党、ボルシェビキ、君主主義者は選挙をボイコットした。499人の議員が選出された。ドゥーマにおける最大の代表は、カデット（議席の約30%）と労働者グループ（トルドヴィキ）に結集した農民（議席の約20%）であった。少数民族の代表は議席の14%を獲得した（ポーランド政党の代表33人を含む）。1906年4月27日、サンクトペテルブルクのタヴリーダ宮殿で第一国家ドゥーマの会期がニコライ2世自らによって盛大に開会された。カデットのS.A. ムロムツェフがドゥーマ議長に選出された。

革命の波に乗って、多くの急進派がドゥーマに参入した。彼らは原則として、政府が提案した法案を拒否した。その代わりに、多少なりとも革命的な法案が提案された。カデットは、政府の行動について皇帝ではなくドゥーマに説明責任を果たすよう要求した。トルドヴィキは、農民のために地主から土地を没収するよう要求した。民族の周縁部の代表者たちは、学校や新聞で母語を使用する自由を要求した。第一国家ドゥーマの活動期間中、武装蜂起、ストライキ、地主の領地に対するポグロム、テロ行為、革命家による銀行強盗が続いた。1906年7月9日、ニコライ2世は第一国家ドゥーマを解散した。同時に、皇帝は閣僚評議会議長のI.L. ゴレムイキンを解任した。後任には内務大臣のP.A. ストルイピンが任命された。

歴史上の人物。 ピョートル・アルカディエヴィチ・ストルイピン（1862-1911）は旧貴族の出身で、V・K・プレーヴェによって内務大臣に指名された。1903年にはサラトフ県知事に任命された。革命の間、サラトフ県は農民運動の中心地の一つとなった。ストルイピンはコサックを伴い、反乱を起こした村々を頻繁に視察した。彼の長身、広い肩幅、そして威厳のある口調は、農民の目に、権力の立派な代表者、県の指導者、そして主人としての印象を与えた。反乱が勃発すると、ストルイピンは反乱軍を鎮圧するために軍を派遣した。彼は厳しい手段を用いて、自身の県の秩序を回復しただけでなく、隣接するサマラ県の反乱も鎮圧した。1906年4月、ニコライ2世は彼を内務大臣に任命した。ストルイピンの指導の下、「革命のヒドラ」に対する精力的な攻勢が始まった。



なぜニコライ2世はP.A. ストルイピンをまず内務大臣に、そして後に閣僚評議会議長に任命したのだろうか？

ストルイピンは活動計画を掲げ、その目標を「秩序と改革」と定めた。「秩序」とは革命の鎮圧を意味し、「改革」とは農民問題の解決を意味した。彼は厳格かつ断固たる行動をとった。ドゥーマ解散後に勃発した蜂起（1906年7月、スヴェアボルグ要塞とクロンシュタットで蜂起）は速やかに鎮圧され、扇動者は銃殺された。解散したドゥーマのメンバーで蜂起を呼びかけた者たちは裁判にかけられた。これに対し、社会革命党はサンクトペテルブルクのapteカルスキー島にあるストルイピンの別荘で強力な爆破事件を起こし、24人が死亡した。ストルイピンの子供たちを含む多くの負傷者が出た。彼自身は無傷だった。8月19日、緊急事態における軍事野戦法廷に関する法律が制定され、事件の審理は48時間に制限され、判決は24時間以内に執行された。その後8ヶ月間で、これらの法廷は1,100人に死刑判決を下した。しかし、ストルイピンは前任者たちとは異なり、弾圧によって革命を鎮圧するだけでなく、改革によって革命を議題から外そうとした。革命の主要課題は土地であったため、政府の努力は農地改革に集中せざるを得なかった。



なぜ画家はストルイピンを新聞と共に描いたのだろうか？

ストルイピンによれば、新聞の目的は、力強い農家（現在で言う農家）を育成することだった。これらの農家は、村における統治体制の主要な支えとなるはずだった。



第一国家ドゥーマの解散の理由を2つ述べよ。

7. 第二国家ドゥーマの活動。革命の終結。 1907年1月、第二国家ドゥーマ選挙が実施された。今回は社会革命党と社会民主党が選挙に参加し、518人の議員が選出された。社会党とトルドヴィキ党は合わせて議席の約40%、カデ党は20%、十月党は10%を獲得した。少数民族出身の議員は議席を維持した。ドゥーマは1907年2月20日に開会された。カデ党のF. A. ゴロヴィンが議長に選出された。議員の大多数は、P. A. ストルイピンが提案した農業改革案に反対した。ドゥーマの農業委員会は、再び地主から土地を没収し農民に有利にすることを提案した。



P. A. ストルイピン。
画家 I. E. レーピン

6月1日、ストルイピンは反政府陰謀の容疑で告発された社会民主党員55名を議会から排除し、うち16名から国会議員免責特権を剥奪するよう要求した。議員たちは事件を調査する委員会を任命したが、1907年6月3日、皇帝は委員会の決定を待たずに第二国家院を解散し、新たな選挙法を公布した。これは「ロシア帝国基本法」に違反するものであり、同法によれば、すべての法律は国家院の承認を受けなければならないとされていた。大規模な抗議行動は発生しなかったため、1907年6月3日が第一次ロシア革命の終結日とみなされている。

新たな選挙法によれば、地主1票は都市ブルジョアジー65票、農民260票、労働者543票に相当した。少数民族の代表は、議員総数の14%から3%に減少した。

革命は痕跡を残さずに終わったわけではありません。専制政治は諮問機関である国家ドゥーマによって制限され、ロシアはドゥーマ君主制となった。国は合法的な複数政党制、言論の自由、集会の自由、労働組合の自由、報道の自由、そして宗教の自由を獲得した。労働者は労働組合の結成権と経済目的のストライキ権を獲得した。農民は償還金の支払いから解放された。教育、報道、芸術におけるロシア諸民族の言語の使用制限は撤廃された。



なぜ第二国家ドゥーマの解散は、1905年から1907年のロシア革命の終焉と見なされるのだろうか？ 2つか3つの説明を述べる。

質問とタスク

1. ロシア社会主義革命党（RSDLP）のボルシェビキとメンシェビキへの分裂、血の日曜日事件、社会主義革命党の結成、全ロシア政治ストライキ、「6月3日クーデター」、第一国家院（ドゥーマ）の招集という、一連の出来事の正しい順序を定めよ。
2. 血の日曜日事件、労働者代表評議会、「労働組合連合」、「国家秩序の改善に関する宣言」、閣僚評議会、労働組合グループ（トルドヴィキ）、ドゥーマ君主制といった概念の意味をどのように理解しているか？
3. 1905年から1907年にかけての第一次ロシア革命の主な原因を挙げよ。
4. 第一次ロシア革命はイラン革命に影響を与えたと思うか？ その理由を説明すること。
5. V.K. プレーヴェがかつて、ロシアは革命運動に対処するために小規模な勝利を伴う戦争を必要としていたと述べているという伝説がある。この伝説が生まれた理由を説明せよ。プレーヴェは正しかったのだろうか？ その理由を説明すること。
6. 自分自身が定義した基準に従って、自由主義政党と君主主義政党を比較せよ。この比較からどのような結論が導き出されるか？

セクションの主な質問に対する答えをまとめること。



1905年から1907年にかけてのロシア革命の結果は何だったか？

§ 33

「6月3日帝政」。ロシアの外交政策



1912年12月5日の第四国家ドゥーマ。写真



ロシアにおける「6月3日帝政」の成果と問題点は何だったのか？



協商・レナ川の虐殺・進歩党・カット・「ストルイピンの馬車」・
「6月3日帝政」・農場



V.N.ココフツェフ・R.V.マリノフスキー・G.E.ラスプーチン・M.V.ロジャンコ・
P.P.とF.P.リャブシンスキー兄弟・B.V.サヴィンコフ・S.D.サゾーノフ・
P.A.ストルイピン・N.A.ホミャコフ・V.V.シュルギン



1899年 - ハーグ軍縮・平和共存会議

1904年 - 世界における勢力圏分割に関する英仏条約

1905-1906年 - 第一次モロッコ危機

1907年 - 「三国協商」(協商) 成立

1908-1909年 - 青年トルコ革命

1910年 - ポルトガル革命

1910-1917年 - メキシコ革命

1911年 - 第二次モロッコ危機

1911-1912年 - 中国における辛亥革命、伊土戦争

1912-1913年 - 第一次バルカン戦争

1913年 - 第二次バルカン戦争

1906年11月9日 - 勅令「現行法の規定の一部を補足する件」農民の土地所有と土地利用に関する法律」制定、P.A.ストレイピンによる農地改革の開始

1907-1912年 - 第三国家ドゥーマ

1910年6月14日 - 「農民の土地所有に関する一定の規則の改正および補足に関する法律」制定

1911年9月1日 - D.G.ボグロフによるP.A.ストレイピンの致命傷

1912年4月4日 - レナ川の虐殺

1912年11月15日 - 第四国家ドゥーマの活動開始

1. 第三国家ドゥーマ。社会運動。 革命終結後にロシアで樹立された体制は「6月3日帝政」と呼ばれている。この新しい政治体制の重要な要素の一つは、議会、すなわち国家ドゥーマの運営だった。

第三国家ドゥーマは1907年11月1日に開会され、任期全期を務めた。446人の議員で構成されていた。ロシア民族主義者と君主主義者が最大の議席を占め、議席の約50%を占めた。彼らの指導者はV. V. シュルギンとV. M. プリシュケヴィチだった。十月党は約30%の議席を獲得し、カデット党は10%、社会民主党とトルドヴィキ党は合わせて約5%の議席を獲得した。社会革命党は選挙をボイコットした。3人の十月党員、N. A. ホミャコフ、A. I. グチコフ、M. V. ロジャンコは、第三国家ドゥーマの議長を歴任した。ドゥーマはストレイピンの農地改革(1910年)の条項を承認し、労働者の生活条件を改善するための多くの法案を採択した(特に、1912年1月には、労働者の事故および疾病に対する国家保険に関する法律が採択された)。



M.V. ロジャンコ。写真

比較的穏やかな社会環境は、立法活動の実りある発展に貢献した（最初の2回のドゥーマとは対照的）。1907年以降、ロシア革命運動は衰退の一途を辿った。かつての参加者の多くが運動を離れた。革命に失望した者もいれば、恐れを抱いた者もいた。社会革命党（RSDLP）は事実上いくつかの派閥に分裂し、党员は党内の闘争に没頭した。社会革命党の活動は一時的に下火になった。1908年、戦闘組織の指導者A.E.アゼフが多くの革命家を裏切った秘密警察のエージェントであることが判明し、党の権威は著しく損なわれた。戦闘組織は当時B.V.サヴィンコフが率いていたが、テロ攻撃を一度も成功させることができず、1911年に組織は解散した。

歴史上の人物。ボリス・ヴィクトロヴィチ・サヴィンコフ（1879-1925）は軍法弁護士の家庭に生まれた。サンクトペテルブルク大学で学んだが、追放され、ヴォログダに流刑された。流刑地からスイスへ逃れ、社会革命党に入党し、同党の戦闘組織で最も活発なメンバーの一人となった。サヴィンコフは、V.K.プレフ、セルゲイ・アレクサンドロヴィチ大公らの暗殺準備に関与した。アゼフの暴露後、サヴィンコフは革命テロに幻滅し、文学活動に転向した。彼の最も有名な作品は、主人公が「悔い改めたテロリスト」である物語『蒼ざめた馬』である。彼は1917年、帝政崩壊後にロシアに帰国した。内戦中は白軍側で戦った。内戦後、サヴィンコフは再び亡命した。1924年、彼は密かにソ連に戻り、逮捕された。獄中で死去したが、その状況は不明である。



B.V. サヴィンコフがテロ活動から文学活動に転向したのはなぜだと思うか？

この危機は自由主義運動にも影響を与えた。運動参加者は革命の原因と結果を説明しようと試みた。1909年に出版されたロシア知識人に関する論文集『ヴェーヒ』は、大きな反響を呼んだ。著者には、N.A. ベルジャーエフ、S.N. ブルガーコフ、P.B. ストルーヴェ、M.O. ゲルシェンゾンといった著名な哲学者や著名人が名を連ねていた。彼らは、ロシア革命運動と1905年から1907年の出来事における知識人の役割を評価しようと試みた。結論は、ほとんどが否定的なものだった。例えば、M.O. ゲルシェンゾンはこう書いている。「我々は現状のままでは、人民と融合することなど夢にも思わないどころか、権力によるあらゆる処刑よりも人民を恐れ、銃剣と牢獄によってのみ人民の怒りから我々を守ってくれるこの権力を祝福しなければならない。」

「6月3日帝政」という状況下で、国家ドゥーマの活動と社会運動にはどのような変化が起きたか？どのように説明できるか？



2. ストルイピンの農地改革。1906年11月9日、P.A. ストルイピンの主導により、ニコライ2世は農民に共同体からの自由な離脱権を与え、同時に彼らの土地を私有化するという勅令を發布した。ストルイピンの農地改革はこの勅令から始まった。農民は、それぞれが所有する細長い土地を一つの土地区画に統合することができた。村から土地区画に移れば、そこは農場となった。1910年6月14日、ドゥーマでの2年間の議論を経て、皇帝は「農民の土地所有に関する一定の規則の改正および補足に関する法律」に署名し、公布した。これは1906年の勅令の最終版であった。改革はこの頃には既に本格化していた。

共同体からの離脱権を最初に行使したのは、貧困層とクラークであった。貧しい人々は都市へ移住するか、シベリアの植民地化に参加するために、自分たちの土地を売却した。クラークは、貧しい人々への援助という相互責任を回避するために、共同体を離れた。農民のほとんどは共同体のメンバーであり続けた。結局、最終的な分配後も、彼らの土地はごくわずかであり、まともな農場など考えられなかった。主な問題である農民の土地不足は未解決のままだった。



ストルイピンは、この悪弊に対する効果的な手段を二つ見出した。農民土地銀行を通じた国家による土地基金の再分配と、主にシベリアと極東の空き地の植民地化である。1906年8月、国有地の一部を農民銀行に移譲し、農民に売却する旨の法令が公布された。同時に、銀行は地主の土地を買い上げるための資金も提供された（彼らの多くは、農民反乱の猛威に怯え、急いで土地を手放そうとしていた）。こうして得られた土地基金から、有力な地主に土地が丸々売却された。しかし、このプロセスは非常に遅々としたものだった。植民地化はむしろ土地不足の解消に役立つと考えたストルイピンは、このプロセスを促進するためにあらゆる手を尽くした（彼の短い首相在任期間中に、約150万人が帝国の東郊に移住し、一人当たり12～15デシアティーヌの土地と、定住のための少額の国家融資を受けた）。家族や家畜を連れて移動する入植者のために、後に「ストルイピン馬車」と呼ばれる特別な客車も作られた。入植者は5年間の税金免除を受け、男性は兵役も免除された。

1909年請願者と入植者のための参考図書



地域によって、コミュニティを離れた農民の割合が異なる理由を説明せよ。土壌の肥沃度と農産物市場への近さは地域によって異なっていたことに留意すること。



移住地にて。写真



「ストルイピン」入植者たちを待ち受けていた問題はどのようなものだったと思うか？

ストルイピンは東部郊外の植民化に包括的に取り組んだ。彼の計画では、新たな人口流入に伴い、インフラ整備、鉄道建設、シベリアにおける大学や学校の設立が予定されていた。しかし、多くの肯定的な側面があったにもかかわらず、移住政策は組織的ではなかった。シベリアに到着し、多くの困難に直面した農民の約15%は、新たな土地に定住することができず、破産して故郷へ戻ることを余儀なくされた。

1910年8月、ストルイピン自身もシベリアを訪れ、現地の入植者たちが抱える問題を把握した。彼は概ね満足していたが、同時に多くの問題点も発見した。改善策が概説されたが、ストルイピンにはそれを実行する時間がなかった。1911年9月1日、ストルイピンはキエフ・オペラハウスで皇帝の目の前で、無政府主義者で秘密警察の工作員であったD. G. ボグロフに致命傷を負わされた。ストルイピンは差し迫った革命を信じようとせず、未来を楽観視していたことが知られている。彼は「国家に内外ともに20年間の平和を与えれば、今日のロシアはもはや見分けがつかないだろう」と述べた。しかし、歴史は彼自身にも、彼の改革にも、そのような時期を許さなかった。



P. A. ストルイピンの改革の主要な方向性を具体的に示し、具体的な例を挙げて説明しなさい。

3. ロシアの経済発展。 日露戦争と1905年から1907年の革命によって引き起こされた経済不況の時代は、1904年から1908年にかけてである。1909年には新たな産業の隆盛が始まり、第一次世界大戦勃発まで続いた。

ストルイピン改革の結果、農業生産のレベルと量は飛躍的に向上した。1909年から1911年にかけて、ロシアは年間7億5000万ルーブル以上の穀物を輸出した。年間平均収穫量は40億プードを超えた。シベリアへの移住により、新しい村落が生まれ、3000万デシアティーヌ以上の土地が開発され、パン、バター、肉などの生産量が急増した。シベリア横断鉄道の収益性も向上した。協同組合が急速に発展し、コミュニティを離れた多くの農民が参加した。こうして、「シベリアバター製造業者組合」はシベリアでの活動を拡大し、バターを海外（主にイギリス）に輸出した。



穀物脱穀機「レーベル兄弟」。写真

しかし、1914年に始まった世界大戦により改革は中断され、未完のままとなった。そのため、農業の複雑な矛盾を解決することはできず、ストルイピンが村に強力な農民私有主層（政府への信頼できる支持層）を築くという政治目標は達成されなかった。

農民の所得増加は工業製品の需要増加をもたらした。さらに、日露戦争で大きな打撃を受けた海軍は再建され、国際関係の緊張の高まりを受けて陸軍の装備も再整備された。主要産業（燃料、鉄・非鉄冶金、機械工学）では生産量が大幅に増加し、鉄道網も大幅に拡張された。

しかし、工業の成長は労働者の状況にほとんど影響を与えなかった。1912年4月4日、東シベリアのレナ金鉱山で、劣悪な生活環境とストライキ委員会メンバーの逮捕に抗議する労働者のデモに対し、軍が銃撃した。その結果、数百人が死亡した。レナでの銃撃事件は、全国的なストライキ運動の急激な高まりを引き起こした。「独裁を打倒せよ！」というスローガンの下、多くのストライキが行われた。

4. 第四国家ドゥーマ。新たな革命的高揚。産業発展とそれに伴う諸問題は、1912年11月15日に開会された第四国家ドゥーマの活動に影響を与えた。院は442人の議員で構成されていた。ロシアの民族主義者と右翼（君主主義者）の代表権は30%にまで減少した。十月党は院議席の約22%、カデットは約14%を占めていた。社会民主党はメンシェヴィキ（8名）とボリシェヴィキ（6名）に分裂した。（ボリシェヴィキ派の指導者R.V.マリノフスキーは後に秘密警察の工作員であることが発覚した。）1912年に誕生したロシアの実業家の政治組織である進歩党も、第四国家ドゥーマに代表を送り込んだ。進歩党は議席の10%を占めていた。彼らの指導者は、ロシア最大の実業家であるA.I. コノヴァロフとP.P. リャブシンスキー兄弟、F.P. リャブシンスキー兄弟だった。



G. E. ラスプーチン。写真

第4国家ドゥーマの活動は、民衆の高揚と革命運動の活性化という雰囲気の中で展開された。ドゥーマはもはや以前のように従順ではなかった。1913年以降、ドゥーマの過半数（カデット、進歩派、急進派）は政府に反対する立場をとるようになった。ニコライ2世は、ドゥーマの演壇で政府を批判し、非難する演説を行った議員の責任を問う問題を繰り返し提起した。

皇帝の社会における人気低下は、皇族と「兄」G. E. ラスプーチンとの間に生じた親密さによって促進された。

歴史上の人物。グリゴリー・エフィモヴィチ・ラスプーチン（1809-1916）は、疑いのようなない超感覚能力を持っていたシベリアの素朴な農民だった。彼の才能の一つは止血能力だった。ニコライ2世の一人息子、皇太子アレクセイは血友病（血液凝固障害）を患っていた。些細な注射でさえ、彼にとっては命取りになりかねなかった。そのため、ラスプーチンは皇室（特に皇后アレクサンドラ・フョードロヴナ）にとって真の「神の使者」となった。医師たちが皇太子の命を救う術を諦めた時、ラスプーチンだけが彼を救えた。皇帝夫妻は1905年にラスプーチンと出会った。それ以来、彼は皇后に大きな影響を与えるようになった。一方、ラスプーチンの奔放な振る舞いは首都の社会を騒がせた。彼は無礼で、無知で、放蕩。皇太子の病状を誰も知らなかったため、このような人物が皇室と親しいことは多くの噂を引き起こした。皇太子夫妻はラスプーチンの悪癖について何度も皇后に告げようとしたが、皇后は一言も信じなかった。そして、大臣や司教が「長老」を告発すると、彼女は彼に辞任を求めることで彼らに復讐した。こうして、P.A. ストルイピンは1911年にラスプーチンを首都から追放することに成功し、皇后の激しい怒りを買った。



ラスプーチンに対する皇室と社会の認識の違いをどのように説明できるか？



「6月3日帝政」の功績と問題点を2〜3つ挙げよ。産業の発展は第4国家ドゥーマにどのような影響を与えたか？例を2〜3つ挙げること。

5. 外交政策。19世紀末から20世紀初頭にかけては、国際関係の緊張が高まった。1899年、ニコライ2世の主導により、ヨーロッパ、アメリカ、アジアの26カ国が参加する国際会議がオランダのハーグで開催された。会議の目的は、「世界平和の維持と、あらゆる国に重くのしかかる過剰な軍備の可能な限りの削減」だった。「財政負担の増大は公共の福祉を根本的に損なう」ためだった。会議では、一部の「野蛮な」兵器が禁止された。国際紛争の平和的解決のために、ハーグに国際裁判所が設立された。これらの決定は、44カ国が参加した1907年の第2回ハーグ会議で最終的に法的に承認された。しかし、ロシア皇帝の善意は国際関係の根本的な変化にはつながらなかった。関税戦争により、ロシアとドイツの関係は徐々に悪化した。ロシアは自国の産業発展を支援するため、ドイツからの工業製品の輸入を制限した。これに対し、ドイツ当局はロシア産穀物の輸入関税を引き上げた。同時に、ドイツは強力な海軍を建設しており、「海の女王」イギリスを脅かしていた。この状況により、イギリス政府は従来の反ロシア政策を放棄せざるを得なくなった。1907年、チベット、アフガニスタン、イランにおける勢力圏分割に関するロシアとイギリスの協定がサンクトペテルブルクで締結された。これは1904年のイギリスとフランスの条約を補完するものだった。その結果、軍事・政治ブロック「三国協商」または「協商」（フランス語で「コルディアル協定」）が形成された。これに対抗したのは、三国同盟（オーストリア＝ハンガリー帝国、ドイツ、イタリアからなる中央同盟国）だった。1908年から1909年にかけて、オスマン帝国で青年トルコ革命が起こり、帝国は弱体化した。近隣諸国はこれに乗り、ブルガリアは独立を宣言した。

オーストリア＝ハンガリー帝国はボスニア・ヘルツェゴビナ（1878年のベルリン条約に基づき支配下にあった、スラブ系住民が居住するオスマン帝国の諸州）を併合した。これはセルビアとモンテネグロの憤慨を招いた。彼らはロシアからの支援を期待していたが、ロシアは支援を与えることができなかった。



協商。1914年のロシアのポスター



このポスターに描かれたロシアの寓意的な人物像について、どのように説明できるか？

1911年から1912年にかけての戦争中、イタリア軍はオスマン帝国の北アフリカの属州であったリビアを占領した。この戦争により黒海海峡が一時的に封鎖され、ロシアの穀物と石油の輸出に影響が出た。ブルガリア、ギリシャ、セルビア、モンテネグロはオスマン帝国の領土の割り当てを獲得しようとした。ロシア帝国閣僚評議会議長のV.N.ココフツェフと外務大臣のS.D.サゾーノフは、これらの国々を戦争に巻き込まないように試みたが、無駄だった。1912年から1913年にかけての第一次バルカン戦争で、オスマン帝国はヨーロッパの領土のほぼすべてを失った。それから間もなく、1913年に第二次バルカン戦争が勃発し、ブルガリアは大きな領土損失を被った。その、オスマン帝国とブルガリアの支配層は、オーストリア＝ハンガリー帝国とドイツとの和解に向かい、彼らの協力を得て復讐を果たそうとした。ロシアにとって、これは黒海海峡封鎖という新たな脅威を意味した。

1. 「六月第三帝政」時代のロシア外交政策における成果と問題点をそれぞれ2～3つ挙げよ。
2. ニコライ2世治世初期におけるロシア外交政策の方向性の一つが、軍備拡張競争の抑制と平和維持だったのはなぜか？ 2つの説明を述べ

質問とタスク

1. 次の概念の意味を説明せよ。「チョップ」、「農場」、「ストルイピンの馬車」、「六月第三帝政」、レナ川の虐殺、進歩党、三国協商（協商）。
2. 協商の成立、パレスチナ自治政府の発足という出来事の順序を正しく説明せよ。ストルイピンの農地改革、レナ川の虐殺、P.A.ストルイピンの死、第三国会議（ドゥーマ）の開設。
3. 自分自身で定義した基準に基づき、「ドゥーマの活動」表を作成せよ。この表を分析することで、どのような結論を導き出せるか？
4. 1907年にロシア帝国の選挙法が改正されたのはなぜだと思うか？ これはどのような影響を及ぼしたか？ 2～3つの例を挙げること。
5. P.A.ストルイピンの改革によるプラス面とマイナス面について、2～3つの例を挙げよ。
6. 「6月3日帝政」期におけるロシアの内政と外交政策の間には関連性があったか？ 2～3つの論拠を挙げて、自分の意見を正当化すること。
7. パラグラフ3の点について、自ら質問を組み立てよ。

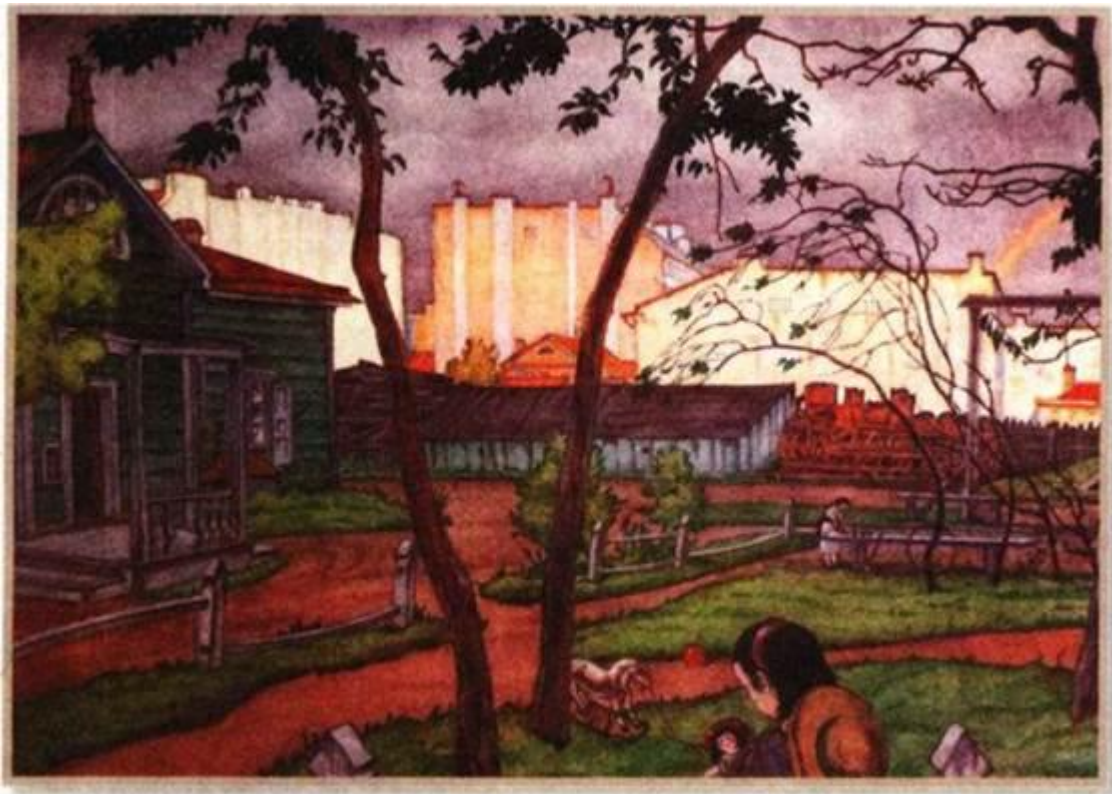
セクションの主な質問に対する答えをまとめること。



ロシアにおける「6月3日帝政」の成果と問題点は何だったか？

§ 34

ロシア文化の「銀の時代」



庭園。画家 M.V. ドブジンスキー



19世紀後半から20世紀初頭のロシア文化史に「銀の時代」という呼称を用いることに賛同できるだろうか？



アクメイズム・「ダイヤのジャック」・「青いバラ」・デカダンス・
「芸術の世界」・モダニズム・ネオロシア様式・ロシアの四季・
象徴主義・未来派



L.N.アンドレーエフ・I.F.アンネンスキー・A.A.アフマートヴァ・
K.D.バルモント・アンドレイ・ベールイ・A.N.ベノワ・N.A.ベルジャーエフ・
A.A.ブローク・V.ヤーヴェブリュソフ・S.N.ブルガーコフ・I.A.ブーニン・
V.I.ヴェルナツキー・マキシム・ゴーリキー・N.S.グミリョフ・
S.P.ディアギレフ・S.A.エセーニン・N.E.ジュコフスキー・
N.D.ゼリンスキー・ヨアン・クロンスタツキー・V.V.カンディンスキー・
V.O.クリュチェフスキー・V.F.コミッサルジェフスカヤ・S.T.コネンコフ

A.I.クプリン・K.S.マレーヴィチ・O.E.マンデルシュタム・
 V.V.マヤコフスキー・V.E.メイエルホリド・D.S.メレジコフスキー・
 V.F.ニジンスキー・A.P.パブロワ・N.P.パブロフ＝シルバンスキー・
 S.V.ラフマニノフ・I.I.シコルスキー・A.N.スクリャービン・
 I.F.ストラヴィンスキー・A.A.ハンゾンコフ・M.I.ツヴェターエフ・
 ヴェリミールフレブニコフ・K.E.ツィオルコフスキー・
 A.A.シャフマートフ・F.O.シェフテル・A.V.シュシュージェフ



1901年 - 血液型の発見 (K. ランドシュタイナー)

1904年 - K. カヴァフィの詩集 (初版)

1905年 特殊相対性理論 (A. アインシュタイン)、精神分析 (Z. フロイト)

1906年 - 熱力学第三法則 (W. ネルンスト)、E. フェルハーレンの戯曲『夜明け』

1907年 - パブロ・ピカソの絵画『アヴィニョンの乙女たち』、絵画におけるキュビズムの幕開け

1910年 - 化学療法 (P. エールリッヒ)

1911年 - 金属の超伝導の発見 (H. カメルリング)

1912年 - A. シェーンベルクの歌曲・器楽作品集『月に憑かれたピエロ』

1913年 - 原子の量子論 (N. ボーア)、G. フォードのコンベアの完成、M. プルーストの小説集『失われた時を求めて』の刊行開始

1895年 - V. Ya. による『ロシア象徴主義者』第三集プリューソフ

1898-1927年 - 「芸術の世界」協会

1900年 - V. S. ソロヴィヨフ作「三つの対話」

1903年 - K. E. ツィオルコフスキーの論文「ジェット機による世界空間の探究」

1905年4月17日 - ニコライ2世の勅令「宗教的寛容の原則の強化について」

1907年 - A. N. スクリャービン作「エクスタシーの詩」

1909-1913年 - パリのロシアの四季

1911年 - A. A. ハンゾンコフ作「セヴァストポリ防衛」

1915年 - K. S. マレーヴィチ作「黒の正方形」

、映画など、あらゆる芸術形態がこの時代に異例の急速な発展を遂げた。かつての写実主義派の巨匠たち（この時代にはL. N. トルストイ、A. P. チューホフ、I. E. レーピンらが創作活動を続けていた）に加え、新たな潮流が力強く生まれ、新たな顔ぶれが声高に存在感を示した。芸術の意味、現実との関係、そして詩人（芸術家）の地位と目的をめぐる激しい論争が、数多くの雑誌の紙面上で様々な運動の間で繰り広げられた。モダニストやアヴァンギャルドのグループは、大胆な創造的実験に取り組んでいた。新しい詩集、新しい絵画、演劇やバレエの作品、新しい音楽は、社会に活発な反応を引き起こし、芸術界のあらゆる変化を深い関心をもって見守っている。

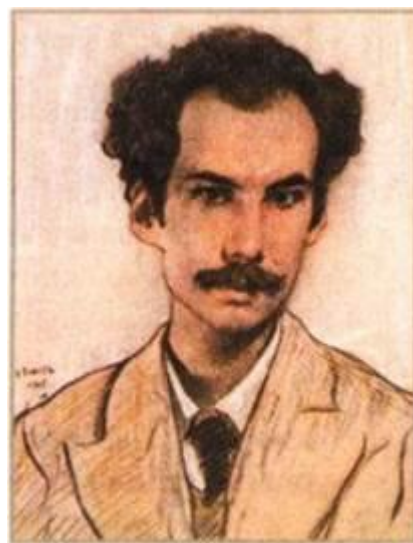
? 19世紀後半から20世紀初頭にかけてのロシア文化の隆盛期は、なぜ「銀の時代」と呼ばれたのだろうか？

2. 文学。。ロシアの作家の中には、I. A. ブーニン（短編小説『アントーノフのリンゴ』『サンフランシスコから来た紳士』『安らかな呼吸』、中編小説『村』『スホドル』）、A. I. クプリン（短編小説・長編小説『オレシア』『ガーネットの腕輪』『決闘』）のように、リアリズムの信奉者もいた。一方で、目の前に生まれつつある新しい世界は新しい芸術と呼応するべきだと考え、創造性の新たな道を模索した作家もいた。新たな芸術潮流を特徴づける概念は、イタリア語のモダニズム（「近代的潮流」）に由来するモダニズムとなった。モダニズムには多くの潮流が含まれていた。ロシアでは、象徴主義、アクメイズム、未来派が最も大きな存在感を示した。

象徴主義はフランスから借用されたが、ロシア象徴主義者たちは哲学者V. S. ソロヴィヨフの思想を補完した。この運動は、芸術を社会発展の産物と捉えたリアリズムへの反動だった。これに対し、象徴主義者たちは、社会のプロセスとは独立して存在する永遠の価値（美、知恵、神など）があると信じていた。それらは象徴を通して人々に与えられる。芸術と文学の使命は、人々がそれらを理解することで、自分自身と世界をより良い方向に変えていく。象徴主義者の批評家たちは、彼らが読者（視聴者、聴衆）を幻想の世界に誘い込んでいると考え、彼らをデカダン（フランス語のdécadent「退廃的な」に由来）と呼んだ。しかしながら、ロシア象徴主義者たち——D. S. メレシュコフスキー（三部作『キリストと反キリスト』、『獣の王国』）、フョードル・ソログブ（三部作『作られた伝説』、小説『小さな悪魔』）、アンドレイ・ベールイ（小説『ペテルブルク』）、V. Ya. ブリュースフ（小説『炎の天使』）——は、散文（劇）と詩の両方で傑出した作品を創作した。詩人A. A. ブローク（連作『美女についての詩』、『恐ろしい世界』、『祖国』）とK. D. バルモント（『太陽のようになろう』）も非常に人気があった。



V. Ya. ブリュースフ。
画家 M. A. ヴルーベリ



アンドレイ・ベールイ。
画家 L. S. バクスト



N.S. グミリョフ、A.A. アフマートヴァ、そして彼らの息子（後に歴史家・哲学者となる）L.N. グミリョフ。1915年の写真。

アクメイズム（ギリシャ語のakme「繁栄」に由来）は、モダニズムの他の潮流とは異なり、ロシアで生まれた。象徴主義と比較した場合のアクメイズムの最も顕著な特徴は、神秘的な知覚と生命現象の神秘的な深化を拒否したことである。アクメイズムの創始者はN. S. グミリョフ（連作詩『大尉たち』、詩『麒麟』『サド・ヤコ』など）だった。20世紀のロシアの傑出した詩人、A. A. アフマートヴァとO. E. マンデリシュタムもアクメイズムから出発した。

歴史上の人物。ニコライ・ステパノヴィチ・グミリョフ（1886-1921）は、クロンシュタットの船医の家庭に生まれた。彼はツァールスコエ・セロー・ギムナジウムを卒業した。同校の校長は、著名な詩人で翻訳家のI. F. アンネンスキーだった。グミリョフはパリのソルボンヌ大学とサンクトペテルブルク大学で学んだ。詩集、戯曲集、散文集を多数著し、雑誌『シリウス』と『アポロ』を発行した。1908年から1913年にかけて、彼はアフリカを数回訪れ、エジプト、ソマリア（現ジブチ）、アビシニア（現エチオピア）を訪れた。第一次世界大戦中、グミリョフは前線に志願入隊し、騎兵隊で戦った。聖ゲオルギオス十字章第四等級を授与された。1921年、ソビエト政府に対する陰謀に関与した疑いで銃殺された。グミリョフは詩人A. A. アフマートヴァと結婚していた。



BN.S. グミリョフの多様な関心をどのように説明できるか？

未来派（ラテン語のfuturum「未来」に由来）はイタリアからロシアに伝わった。イタリアの未来派は、科学技術の進歩とそれに伴う社会の変化を称賛した。詩人や芸術家の使命は、それらを加速させ、古い芸術形式を破壊し、その代わりに新しい形式を創造することだと彼らは信じていた。ロシアの未来派、D. D. ブルリューク、ヴェリミール・フレブニコフ（「笑いの呪文」）、V. V. マヤコフスキー（「ズボンをはいた雲」）、A. I. クルチェヌイフは、韻文に真の革命をもたらした。

20世紀初頭の詩において特別な位置を占めていたのは、農民詩人のN. A. クリュエフとS. A. エセーニンだった。彼らは作品の中で、ロシアの民話の伝統とモダニズムの要素を融合させた。

I. F. アンネンスキー、M. A. ヴォロシン、M. A. クズミン、イーゴリ・セヴェリヤニン、M. I. ツヴェターエフは、こうした潮流の外で作品を制作した。



未来派のタペのポスター

このポスターのデザインには、未来派の思想がどのように反映されているか？

作家であり劇作家でもあるL. N. アンドレーエフは、リアリストであると同時に象徴主義者でもあった（戯曲『星々へ』『ある男の生涯』『黒い仮面』、短編『赤い笑い』『七人の絞首刑の物語』）。

マクシム・ゴーリキーは、よりリアリスト（戯曲『底辺にて』）だったが、特に初期の作品においては、ロマン主義（短編『チェルカーシュ』『老女イゼルギル』）や象徴主義（キリスト教的イメージを多く含んだ小説『母』）へと傾倒した。

20世紀初頭、哲学者、科学者、そして革命家（RSDLPのメンバーでもあった）であるA. A. ボグダーノフは、SFというジャンルにおける最初の重要な小説『赤い星』と『技師マニー』を執筆した。

ユーモラスな物語の作者であるA. T. アヴェルチェンコとテフィ（N. A. ロフヴィツカヤ）は、全ロシアで名声を博した。

? ロシアのモダニストには何か共通点があるか？ 自分の意見の根拠を示すこと。

3. 絵画と建築。放浪者たちの作品への一種の反応として生まれた芸術家協会「芸術世界」（A.N. ベノワ、L.S. バクスト、M.V. ドブジンスキー、B.M. クストディエフ、E.E. ランスレー、Z.E. セレブリャコフ、F.A. マリャヴィン、K.S. ペトロフ＝ヴォドキン、N.K. レーリヒ、K.A. ソーモフ）は、20世紀初頭のロシア美術において重要な役割を果たし始めた。芸術世界の美学はアクメイズムに類似していた。20世紀初頭には、奇抜な名前の人々を驚かせようとした芸術団体が数多く存在した。中でも特に有名なのは、「ダイヤのジャック」（A.V. レントゥロフ、R.R. フォルク他）、「青いバラ」（P.V. クズネツォフ、M.S. サリャン、S.Yu. スデイキン他）、「ロバのしっぽ」（N.S. ゴンチャロフ、M.F. ラリオノフ他）である。

「ダイヤモンドのジャック」展では、J.ブラック、A.マティス、P.ピカソ、A.ルソーなど、当時最も著名な外国人画家たちの絵画が展示された。

V.カンディンスキーとK.マレーヴィチは、世界絵画における新たな潮流、抽象芸術（非具象芸術）の創始者となった。

彫刻においても、創造性の高まりが顕著だった。彫刻の発展に大きく貢献したのは、「ロシアのロダン」と呼ばれたS.コネンコフである。A.ゴルブキナの作品（「歩く男」、「眠る人々」）は、印象派とモダニズムの融合を特徴としている。彼は、L.トルストイ、S.ウィッテ、F.シャリアピンなどの彫刻肖像画で知られている。P.トルベツコイもその一人だった。ロシアの記念碑的彫刻史における重要な節目は、アレクサンドル3世の設計に基づいて制作され、1909年10月にサンクトペテルブルクで除幕されたアレクサンドル3世の記念碑だった。

都市の急速な発展、交通の発達、そして市民生活の変化は、新たな建築的解決策を必要とした。コンクリート、鉄骨構造、強化ガラスといった新しい素材が建築界に影響を与え、アール・ヌーヴォーという新たな潮流が活発に発展した。アール・ヌーヴォーは、非対称の線、自由な設計、そして過去の時代や他国の様式の要素の活用を特徴としていた。アール・ヌーヴォーは、20世紀初頭の主流となった。この様式の象徴的な建築物には、モスクワのメトロポール・ホテルがある。このホテルは、1899年から1903年にかけて、建築家L.N.ケクシェフによってV.F.ウォルコットの設計で建設された。（ホテルのファサードは、M.A.ヴルーベリの壮大な作品「グレーザ公女」を基にした巨大なマジョリカ焼きパネルで装飾されている。）

著名なロシア人建築家F.O.シェフテルはアール・ヌーヴォー様式で活躍した。ニキーツキー門にある製造業者S.P.リャブシンスキーの邸宅、モスクワのヤロスラヴリ駅、そしてモスクワ芸術座は、彼の設計に基づいて建てられた。



『イタリア喜劇』 画家 A.N.ベノワ



『削り器』 画家 K.S.マレーヴィチ



モスクワのメトロポールホテル。ファサードにはM.A.ヴルーベリ作のパネル「グレーザ公女」が描かれている。建築家：L.N.ケクシェフ、V.F.ヴァルコット



聖母マリア修道院の生け贄教会。
建築家：A.V.シュシュセフ



リャブシンスキー邸。モスクワ。建築家：F.O.シェフテリ



この建物の外観から、アール・ヌーヴォー様式の主な特徴を見つける。

ロシア・ビザンチン様式とアール・ヌーヴォーの要素が融合したことで、A.V. シュシュセフが手がけたネオロシア様式が誕生した。モスクワの聖 MARIA 修道院とカザン駅は、彼の設計に基づいて建設された。V・M・ヴァスネツォフの名もこの分野と結び付けられており、彼の建築作品の中で最も有名なものは、国立トレチャコフ美術館のファサードである。



20世紀初頭の絵画において、画家が何を描いたかではなく、どのように描いたかが評価された。この現象を説明してみよう。

4. 音楽、バレエ、演劇、映画。 I. タネーエフは、独自の作曲派を築き上げ、音楽芸術の発展に重要な役割を果たした。彼の最も有名な弟子は、作曲家でありピアニストでもあったA.N. スクリャービンである。1905年、彼の交響曲第3番（神の詩）はパリで華々しく演奏され、スクリャービン独自の作風が鮮やかに披露された。1909年から1910年にかけて、彼は同じく有名な作品である「火の詩（プロメテウス）」を作曲した。この作品には、史上初めて軽音楽パートが取り入れられた。



A.N. スクリャービン。写真

ピアニスト、指揮者、作曲家としても名声を博したS.V. ラフマニノフは、ロシア国内のみならず世界的に名声を博し、ロシア、ヨーロッパ、アメリカ合衆国、カナダの各都市で演奏会を開催した。この時期の彼の最も重要で印象的な作品は、カンタータ「N.A. ネクラースフの作詞による春」（緑の雑音がやって来て、ハミングする...）と、壮麗な「交響曲第2番」である。

ロシアの音楽と演劇界における傑出した出来事の一つは、1913年にサンクトペテルブルクで上演された未来派オペラ『太陽の勝利』であった。演出はK.S. マレーヴィチ、音楽はM.V. マチューシン、台本はA.I. クルチェヌイフが担当した。

1909年から1913年にかけて、ロシアの傑出した興行師S.P. ディアギレフがパリ、ロンドン、ローマ、そして西ヨーロッパの他の首都で企画したバレエとオペラの公演「ロシアの四季」は、ロシア芸術の真の勝利となった。演出家A.A. ゴルスキーとM.M. フォーキンによるバレエは、A.P. パブロフの動きの自由さと技巧性で人々を驚かせた。V.F. ニジンスキー。これらのバレエの音楽は、I.F. ストラヴィンスキー（『火の鳥』、『ペトルーシュカ』、『春の祭典』）によって作曲され、世界的な名声を博した。舞台装置は、K.A. コローヴィン、A.N. ベノワ、L.S. バクスト、N.K. レーリヒといった「銀の時代」を代表する芸術家たちによって作曲された。1907年にM.M. フォーキンがバレリーナA.P. パブロワのために、フランスの名作曲家カミーユ・サン＝サーンスの音楽に合わせて特別に上演した振付練習曲『瀕死の白鳥』は、ロシア古典バレエの象徴となった。



バレエは現実生活から最も遠い芸術形式と考えられている。なぜ20世紀初頭に特に人気を博したのだろうか？

ロシアを代表する劇場はモスクワ芸術座だった。A.P. チェーホフ（『三人姉妹』）とM.ゴーリキー（『フィリスティーン人』、『どん底』）の戯曲に基づいた公演で名声を博した。複雑なレパートリーには特別な俳優が必要だった。K.S.スタニスラフスキーは、世界初の俳優養成システムを開発した。モスクワ芸術座の傑出した俳優には、V.E.メイエルホリド、I.M.モスクヴィン、V.I.カチャロフ、L.M.レオニドフ、O.L.クニッペル＝チェーホワなどがいた。

1904年、サンクトペテルブルクにドラマ劇場が設立され、女優V.F.コミサルジェフスカヤが監督を務めた。かつてV.E.メイエルホリドがここで演出家を務め、A.A.ブローク作『小屋』とL.N.アンドレーエフ作『ある男の生涯』を上演した。どちらの劇も観客に大好評だった。



アンナ・パブロワとヴァーツラフ・ニジンスキー。写真



ポロヴェツィア・キャンプ。オペラ『イーゴリ公』の舞台美術のスケッチ。1909年のパリにおけるロシアの四季。画家N. K. レーリヒ

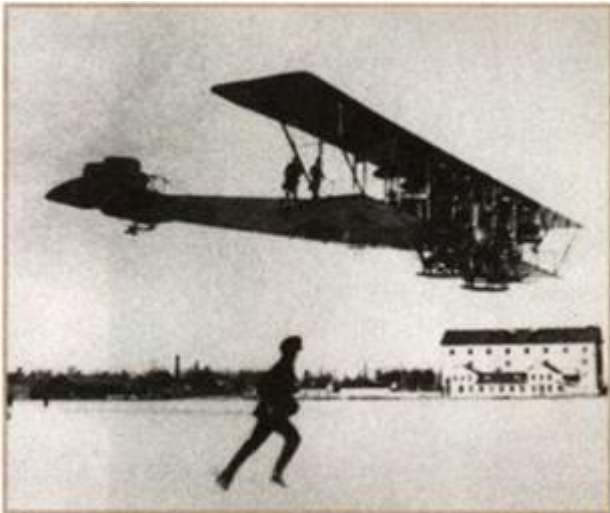
ロシアで最も人気があったバラエティ・アーティストはA. N. ヴェルチンスキーだった。

20世紀最初の10年間、ロシアでは映画撮影という新たな芸術形式が確立された。1908年には、同名のポピュラーソングに基づいてロシア初の長編映画『ステンカ・ラージンと公女』（V. F. ロマシコフ監督）が制作され、1911年には初の長編映画『セヴァストポリ防衛』（A. A. ハンゾンコフとV. M. ゴンチャロフ監督）が制作された。1914年までに約4,000の映画館が開館し、年間数百本の映画を制作する国内映画会社は約30社あった。最初のロシア映画スターが登場した。監督のYa. A. プロタザノフ、E. F. バウアー、俳優のI. I. モジュヒン、V. V. ホロドナヤである。収益性の高い映画製作組織の先駆者は、プロデューサー兼監督のA. A. ハンゾンコフだった。



なぜ最初のロシア映画はポピュラーソングを題材にしていたと思うか？

5. 科学、社会思想、教育。 N. E. ジュコーフスキーとS. A. チャプリギンの理論的著作は、近代航空機製造の基礎を築いた。20世紀初頭、ロシアは世界有数の航空大国となった。I. I. シコルスキーは世界初の多発エンジン航空機「ロシアの騎士」と「イリヤ・ムーロメツ」を建造した。1903年、K. E. ツィオルコフスキーは「ジェット機による世界空間の探査」という論文を発表し、世界で初めてロケット科学の科学的理論を展開した。化学者のN. D. ゼリンスキーは有機触媒の分野で重要な発見をした。V. I. ヴェルナツキーは、地球化学、生化学、生態学といったいくつかの新しい科学分野を築いた。



I. I. シコルスキーによる飛行機「イリヤ・ムーロメツ」。写真

ロシアの歴史学は発展を続けた。V. O. クリュチェフスキー、N. P. パブロフ＝シルヴァンスキー、S. F. プラトノフ、M. N. ポクロフスキー、A. A. シャフマートフは、地理学、経済学、言語学、社会学などの科学データを用いて歴史的出来事を解明した。ロシアの科学者であるP. G. ヴィノグラードフ、R. Yu. ヴィッパー、E. V. タルレは、外国の歴史研究に真剣に取り組んだ。

N. A. ベルジャーエフ、S. N. ブルガーコフ、P. A. フロレンスキーは、V. S. ソロヴィヨフの研究を引き継ぎ、独自のロシア宗教哲学を発展させた。



長距離多発エンジン航空機の開発というアイデアがロシアで生まれたのはなぜだと思うか？

1909年、論文集『ヴェーヒー』の著者たち（M.O. ゲルシェンゾン、N.A. ベルジャーエフ、S.N. ブルガーコフ、A.S. イズゴエフ、B.A. キスチャコフスキー、P.B. ストルーヴェ、S.L. フランク）は、知識階級と学生に対し、革命運動への支持をやめ、ロシア国民の利益のために働き、学ぼう呼びかけた。政府はこの呼びかけに耳を傾けたようである。1900年から1915年にかけて、政府の教育支出は5倍に増加した。高等技術教育機関と女子高等教育機関が新たに設立された。1909年にはサラトフに大学が開校した。総じて、あらゆる階層の代表者が教育を受けやすくなり、該当年齢の児童のほぼ半数が少なくとも小学校に通学した。あるデータによると、ロシアの識字率は1913年までに30%に達した。



教員養成コース。写真

? 長距離多発エンジン航空機の開発というアイデアがロシアで生まれたのはなぜだ
と思うか？

6. ロシアの宗教状況。 . N20世紀初頭、ロシア正教会はロシア帝国で最大の宗派だった。しかし、シノドス時代に精神的に不自由な状態に陥ったため、当局からは主に国家の影響力の伝達者とみなされていたため、権威ある独立した社会勢力として機能することができなかった。1904年12月末、サンクトペテルブルクのアントニー大主教はS.Yu. ウィッテに「覚書」を提出し、教会の緊急改革を提案した。それは、教区聖職者への物質的支援の改善、神学校の教育の再構築、そして教会の独立性の強化だった。K.P. ポベドノスツェフは、教会改革が皇帝の専制権力にとって危険であると指摘し、これらの提案に断固として反対した。

1905年から1907年の革命の間、社会における市民権獲得のための闘争の一つは、宗教的寛容の要求であった。1905年4月17日、革命の進展の中で、皇帝は「宗教的寛容の原則の強化について」という勅令を発布した。この勅令によれば、すべてのロシア国民はあらゆる信仰を告白する権利を与えられ、ロシアにおけるすべての宗教の権利は平等とされた。

1905年から1907年の革命の間、正教会の聖職者と信徒の多くの代表者が総主教制の復活の問題を提起した。教会ジャーナリズムでは、国内で起こっている変化が肯定的に評価され、教会が官僚主義の重圧から解放されることへの期待が表明された。皇帝は信者の意向に従わざるを得なかった。1905年12月、ポベドノスツェフはシノドの主任検察官の職を解任された。皇帝はロシア正教会の地方評議会の招集に同意したが、1907年6月3日の事件以降、この構想は再び検討されることはなかった。

? 1905年から1907年の革命期において、宗教政策はどのように、そしてなぜ変化したのだろうか？

ロシア正教会の権威の復活には、数人の素朴な司祭たちの献身的な司牧奉仕が貢献した。その一人がクロンシュタットのイオアンだった。

興味深い点。 クロンシュタットのイオアン（1829-1908）は、クロンシュタットの聖アンドレイ大聖堂で53年間（1855年から死去まで）奉仕した。当時、クロンシュタットは、物乞い、浮浪者、泥棒など、社会的に危険な人物がサンクトペテルブルクから行政的に追放される場所だった。これらの人々は皆、街の郊外で極度の貧困の中で暮らしていた。イオアン神父は毎日、彼らのみずばらしい小屋、掘っ建て小屋、地下室を訪れ、住人たちと語り合い、慰め、病人の世話をし、経済的な援助に努めた。彼自身も食料品店へ食料品を買いに行き、薬局へ薬を買いに行き、医者を訪ね、わずかな給料の最後の一銭まで貧しい人々、病人、そして運命に翻弄された人々のために使った。しかし、もちろん、神父自身の資金だけでは、困窮するすべての人々を助けるには足りなかった。そこでイオアン神父は、クロンシュタットの住民に、そしてやがてロシア全土へと助けを求め、貧しい人々への支援と物資の提供を呼びかけた。彼の言葉、そして何よりも彼の模範によって、多くの人々が貧しい人々を助けるために彼に寄付をしたり、送ったりするようになった。そして時が経つにつれ、この支援はますます大きな影響力を持つようになった。晩年、聖人が全ロシアで名声を得た時、彼の手には数十万ルーブル、あるいは数百万ルーブルという巨額のお金が流れた。しかし、これらのお金は彼の手元に留まらなかった。イオアン神父自身、このことについてこう語っている。「私には自分のお金はない。人々が私に寄付し、私も寄付する...必要としている場所、そしてこのお金が役に立つ場所に。」

質問とタスク

1. モダニズム、デカダン、象徴主義、アクメイズム、未来派、「芸術の世界」、「ダイヤのジャック」、「青いバラ」、ネオロシア様式、「ロシアの四季」、「マイルストーン」といった概念と用語の意味をどのように理解しているか？
2. 19世紀後半、国家と社会は文学と芸術の発展をどのように促進したか？2〜3つの例を挙げる。
3. 19世紀後半から20世紀初頭にかけてロシア文化が繁栄した3つの理由を挙げよ。
4. 19世紀後半から20世紀初頭にかけてのロシア文化の最も重要な成果を、自分たの考えでは3〜4つ挙げよ。その理由を説明すること。
5. 19世紀後半から20世紀初頭にかけて、ロシアと外国の文学・芸術が相互作用した例を3〜4つ挙げよ。
6. 19世紀後半から20世紀初頭にかけて、ロシア文学と芸術においてモダニズムが支配的な芸術様式となったのはなぜだと思うか？2つか3つの説明を述べる。

セクションの主な質問に対する答えをまとめること。



ロシア文化の歴史において、「銀の時代」という呼称に同意できるか？

章のまとめ

日本との戦争の失敗はロシアの内政を悪化させ、1905年から1907年にかけての革命へと繋がった。この革命により、ニコライ2世はロシアに市民的自由を導入し、独裁制（選挙で選出される立法諮問機関である国家院、複数政党制）に対する一定の制限に同意し、少数民族の文化と政治発展により一層の配慮を払うことを余儀なくされた。ストルイピンの改革は、農民の土地不足問題の解決と産業発展に一定の進展をもたらした。しかし、ロシア社会のすべての階層が経済成長の恩恵を享受したわけではない。不満は当局によって容赦なく抑圧され、それが革命運動の新たな高揚をもたらした。政治的、社会経済的激変の状況下において、ロシア文化は「銀の時代」において大きな繁栄の時代を迎えた。

質問とタスク

1. 1894年から1914年にかけてのロシアの経済、内政・外交政策、社会経済・文化発展の分野における、あなたの考えで最も重要だった出来事を年表にまとめ、その表の中でその理由を説明せよ。
2. ロシア帝国の地図上で、1894年から1914年にかけての政治、経済発展、教育、科学、芸術、文学の中心地を示せ。
3. 1894年から1914年にかけて、ロシアの領土はどのように、そしてなぜ変化したのか。
4. 1894年から1914年にかけてのロシアの歴史上の人物を一人選び、「歴史は私の正当性を証明するだろう...」というテーマで、その人物を代表してスピーチ（ミニエッセイ）を書く。自分の主人公が何をしようとしたか（そしてその理由）、彼が何を成し遂げたか（そしてその理由）、彼が何を成し遂げられなかったか（そしてその理由）、そして彼の活動が子孫にとってどのように価値があるかを書き留めること。
5. 歴史学には、様々な、しばしば矛盾する見解が表明される論争的となる問題が存在する。その一つは、「P.A.ストルイピンの改革は、ロシアの政治的安定と社会経済的発展に貢献した」というようにまとめられる。自分の歴史知識を用いて、この見解を支持する論拠を3つ、反駁する論拠を3つ挙げよ。それぞれの論拠を提示する際には、必ず歴史的事実を用いること。
6. 「1894年から1914年におけるロシア文化の発展」というテーマでレポートを作成することになっている。レポート作成のための綿密な計画を立てよ。

章の主な質問に対する答えをまとめること。



1894年から1914年にかけて、ロシアの発展における問題はどのように解決されただろうか？

プロジェクトのトピック



1. 小さな中に宿る偉大さ：我が同胞よ — 1894年から1914年の歴史的出来事の参加者
2. 祖国と世界の発見：1894年から1914年のロシア人旅行者
3. 「禁じることは禁じられている…」：1894年から1914年のロシアの児童、学生、教師
4. ストルイピン入植者の日常生活
5. 1894年から1914年のロシアの偉人（我が同胞よ）の記念碑のスケッチコンクール
6. 音楽のイメージを描く：1894年から1914年のロシアの人々を題材にした詩（ラップ）コンクール
7. 時代を捉える：1894年から1914年のロシア文化の成果を称えるデッサンコンクール
8. 銀の時代のロシア詩におけるロシアの政治・社会経済生活の現実の反映
9. 人物と映画：20世紀初頭のロシア映画
10. ロシアの人々はどのような感情と夢を抱いて生きていたのか（A.N.ヴェルチンスキーの歌曲分析に基づく）。
11. 1894年から1914年のロシア絵画におけるロシア帝国の文化空間の特殊性の反映。
12. ロシアの生活を映し出す20世紀初頭のロシアSF。

章のリソース

1. 表を分析し、課題を完了せよ。

1898-1912年のモスクワにおける主要食料品の一人当たり平均消費量（プード/年）

製品の種類	1898—1902	1903—1907	1908—1912
1. ライ麦粉	6,38	6,70	5,55
2. 小麦粉	4,67	5,16	4,85
3. ひき割り穀物とキビ	2,46	1,66	1,46
4. ジャガイモ	2,67	2,36	2,48
5. 肉類	5,12	4,75	4,59
6. 魚類（ニシンを除く）	0,88	0,79	0,74
7. ニシン	0,49	0,52	0,57
8. 砂糖	2,05	1,68	1,48
9. 塩	1,15	1,17	1,28
10. 野菜	2,19	2,07	1,93

- 1) モスクワにおける主要食料品の消費動向について、どのような結論を導き出せるか。この動向について2つの説明を立てなさい。
- 2) この時期のモスクワの生活水準はどのように特徴づけられるか。これは国の政治情勢にどのような影響を与えたか。

1901年と1912年のヨーロッパ・ロシアにおける農民の税金と納付額（千ルーブル）

項目	1901	1912
総納税額	764,373.5	11,078,932.0
農村人口（千人）	87,791.7	108,809.2
一人当たり納税額（ルーブル）	8.71	10.18
農業所得	2,569,676.0	467,443.0
一人当たり納税額（ルーブル）	30.30	42.96
一人当たり納税額の残り（ルーブル）	21.59	32.78
所得に対する課税額と納税額の割合	28,74	23,70

この表の分析から、1901年から1912年にかけてのロシアの農業の発展と農民の生活水準に関してどのような結論を導き出せるか。

2. L. N. トルストイの論文「私は黙ってられない」（1908年）の抜粋を読み、課題を完了せよ。

「...今日、5月9日、恐ろしい出来事があった。新聞には短い文章が載っていた。「今日、ヘルソンのストレリビツコエ平原で、エリザヴェトグラード地区の地主の領地を強盗したとして、12人の農民が絞首刑に処された。」まさにその労働によって我々が生きる糧を得ている人々、我々が全力で墮落させ、そして今も墮落させている人々、ウォッカの毒に始まり、我々が信じていないが、全力で彼らに植え付けようとしている恐ろしい嘘の信仰に終わる人々、まさにその12人が、自分たちが食事を与え、衣服を与え、住居を与え、墮落させ、そして今も墮落させている人々によって縄で絞殺された。12人の夫、父、息子、彼らの優しさ、勤勉さ、そして質素さこそがロシアの生活の基盤となっている人々...。あなた方はこう言う。「始めたのは我々ではなく、革命家たちであり、革命家たちの恐ろしい残虐行為は、政府の断固たる（あなた方が言うところの）断固たる措置によってのみ鎮圧できるのだ。」革命家たちの犯した残虐行為は恐ろしいとあなた方は言う。私は異論を唱えない。むしろ、彼らの行為は、あなたの行為と同じくらいひどいだけでなく、愚かでの外れでもあると付け加えておく。

彼らはあなたと全く同じことを、同じ動機で行っている。彼らはあなたと同じように、一部の人が、自分たちにとって望ましい社会構造であるべきだという計画を立て、その計画に従って他の人々の人生を整える権利と機会を持っているという妄想に陥っている...彼らはあなたと同じことをしているだけ。あなたはスパイを雇い、欺き、報道で嘘を広め、彼らも同じことをしている。あなたはあらゆる暴力を用いて人々の財産を奪い、それを自分のやり方で処分し、彼らも同じことをしている。あなたが有害だとみなした人々を処刑し、彼らも同じことをしている...あなたがしていることをやめてください。あなた自身のためではなく、あなたの魂のために、あなたがどんなに抑圧しようともあなたの中に生きるあの神のために。」

1) 本文では、ロシア帝国の国内政策のどのような方向性が論じられているか？ それに対する著者の意見をどのように特徴づけることができるか？ それを裏付ける本文中の断片を示せ。2) 著者は国内政策をどのように変更しようと提案しているか？ その提案の正当性をどのように示しているか？ 著者の意見に賛成か？ 自分たの見解を正当化すること。

3. N. A. オツプの論文「ロシア詩の銀の時代」から抜粋を読み、課題を完了せよ。

「...発展が遅れていたロシアは、いくつかの歴史的な理由から、ヨーロッパで数世紀にわたって行われてきたことを短期間で実行せざるを得なかった。「黄金時代」の比類なき隆盛は、部分的にはこの点によって説明できる。しかし、我々が「銀の時代」と呼んでいる時代は、その力強さとエネルギー、そして驚くべき創作の豊かさにおいて、西洋に類を見ないものがほとんどない。まるでこれらの現象が、例えばフランスでは19世紀全体と20世紀初頭に及んだ30年間に凝縮されているかのようだ。... ロシアでは、精神的にも芸術的にも最も大きな高揚をもたらした2つの世紀が、破局の兆しの下で過ぎ去ろうとしているという事実を、我話絵は一瞬たりとも見失ってはならない。... ロシアのあらゆる重要な作家たちは、何らかの形で、共通の運命に対する特別な、悲劇的な責任感に苛まれている。... 20世紀初頭の作家や詩人たちは、偉大な先人たちが恐怖と希望をもって夢見た役割を担った。それは、もはや隠れることなく、地下から湧き出て、あらゆるもの、あらゆる人々を飲み込む革命そのものへの参加だった。ジナイダ・ギッピウスは、革命の始まりに、アレクサンドル・ブロークが興奮と不安に駆られ、彼女にこう尋ねたと語っている。

— 今、私はどうすれば彼に仕えることができるだろうか？

— 誰に？

— ロシア国民...」

著者は、ロシア文学の発展における「銀の時代」の到来をどのように説明しているか？ 2つか3つの立場を述べること。



推奨図書・映画・音楽

ポピュラーサイエンス

『1913年のロシア。統計と資料の参考書』
S.S. オルデンブルク著「ニコライ2世の治世」

フィクション

A.N. トルストイ「ゴルゴタへの道」第1巻「姉妹たち」。第一次世界大戦前夜のロシア中産階級の生活を描いた小説。

マクシム・ゴーリキー「ロシア童話集」(I-XI)。「六月三日帝政」時代のロシア生活の様相を機知に富んだ描写。

I.A. ブーニン「アントーノフのリンゴ」。明るく、味わい深く、叙情的な散文。興味深いディテールに満ち、20世紀初頭のロシア農村の社会経済的発展の特徴を明快に描いている。

映画

『クリム・サムギンの生涯』(V・A・チトフ監督、1988年、ソ連)。M・ゴーリキーの同名小説の映画化。「空虚な魂」を持つ「意志に反して革命を起こした」男の物語。

『戦艦ポチョムキン』(S・M・エイゼンシュテイン監督、1925年、ソ連)。歴史的事実からは程遠いものの、形式と精神において革命的な作品。1905年から1907年の革命期における黒海艦隊の水兵たちの有名な蜂起を再現している。

『マクシムの青春』(G・M・コージンツェフ、L・Z・トラウベルク監督、1935年、ソ連)。1905年から1907年の革命後のロシアを描いた、時にユーモラスで時に悲劇的な物語。

音楽作品

P.S.・V. ラフマニノフ：カンタータ『春』

A.N. スクリャービン。『火の詩』(『プロメテウス』)

結論

諸君!

歴史家は、19世紀が1789年(フランス大革命の始まり)から1914年(第一次世界大戦の始まり)まで125年間続いたため、19世紀を「長い」世紀と呼んでいる。この時代の主な特徴は、主要な帝国主義諸国の世界的支配だった。この新しい世界秩序の形成は、多くの重要な社会経済的および政治的問題を引き起こし、最終的には1914年の世界大戦につながった。この時代の終わりが、ロシア、ドイツ、オスマン帝国、オーストリア・ハンガリー帝国の4つの帝国の崩壊によって特徴付けられたのは偶然ではない。一方、ヨーロッパの文化、社会思想、教育が栄えたのもこの時代だった。

「長い19世紀」は、ロシア史においても特別な位置を占めている。ロシアの領土は、主に北コーカサス、トランスコーカサス、中央アジア、極東によって形成された。人口は3倍以上に増加した。社会、経済、政治、外交政策において根本的な変化が起こり、ロシア帝国自体もロシア軍のパリ入城で新世紀を迎え、軍事的、外交的成功だけでなく、20世紀初頭までにロシアの科学、文学、芸術が世界の文化プロセスの不可欠な部分となったおかげで、世界の大国の中で立派な地位を獲得した。同時に、ロシアは急速に発展する産業社会と国の伝統的な社会・政治構造との間の矛盾の激化に伴う、拡大する組織的危機の状態で20世紀を迎えた。第一次世界大戦はこれらすべての矛盾の深化のきっかけとなり、ロシアを1917年の革命へと導いた。

教科書の著者は、出来事、一般の人々と政治家の運命、偉大な業績と大きな悲劇、そして一見矛盾しているように見えるロシアの現実の世界が、読者の目の前を体系的に通過するように努めた。しかし、教科書のページをめくりながら、歴史上の人物の最も重要な日付と名前を覚えているだけでなく、祖国の過去についての独自の見解を形成し、歴史的出来事の論理、それらの因果関係を理解しようと努めることができたことを願っている。特に、こ教科書を書いている間、19世紀から20世紀初頭のロシアの激動の歴史の複雑で議論の多い問題を避けないように努めたからである。なぜなら、我々の現代の問題は、一滴の水のように、「長い19世紀」の矛盾の中に反映されていたからである。

概念と用語集

アクメイズム： 1910年代のロシア詩における運動であり、「理想」への象徴的衝動からの解放、物質世界への回帰（まさにこの言葉の真の意味）を主張した。

農業問題： 広義には土地所有、そして土地所有をめぐる社会階級間の関係性の問題である。

帝政様式： 建築と応用芸術における後期古典主義の様式であり、ナポレオン1世の治世中にフランスで生まれた。

アナキズム： あらゆる国家権力の即時廃止を主張した社会政治運動である。

協商： 1904年から1907年にかけて、ドイツ、オーストリア＝ハンガリー、イタリアの三国同盟に対抗するために形成された、ロシア、イギリス、フランスの軍事政治ブロックである。

ブルジョワジー： 資本主義社会の支配階級であり、生産手段を所有し、その財産からの収入によって生活している。

官僚制： 社会の上に立つ官僚によって運営される政治体制。

屯田兵制度： 兵役と農業労働を組み合わせた軍隊を組織する制度。

一時義務農民： 農奴制廃止改革の実施中に生まれた概念で、2年間の移行期間が設けられた。この期間中、農民は従前の義務を履行する必要があったが、その義務は期間に応じて制限され、軽減された。実際には、「臨時義務国家」は20年以上続いた。

償還金： 1861年の改革の際に、農民が土地の割り当てに対して国家に支払った金額。

国家評議会： 1810年から1906年にかけてロシア皇帝の下で最高位の立法諮問機関。

デカブリスト： 1810年代後半から1820年代前半にかけてロシアで反体制的な社会政治運動に参加した貴族。

西欧派： 1830年代から1850年代にかけて出現した社会哲学思想の潮流。西欧人は、ロシアが西ヨーロッパの道筋に沿って発展する必要性を認めることを主張。

ゼムストヴォ： 1864年に出現した選挙で選ばれた地方自治機関。教育、医療、福祉全般を担当。

工業化： 大規模な機械生産を創出し、それを基盤として農業社会から工業社会への移行を進める過程。

インテリゲンツィア： 知的かつ創造的な仕事に専門的に従事する社会階層。

インフレーション： 貨幣の購買力の低下、貨幣価値の下落。

資本主義： 生産手段の私有と雇用労働の搾取に基づく社会経済体制。

資本主義的農民： 貿易活動と起業家精神を発揮するために必要な手段を有していた農業生産者。

古典主義： 古代の遺産を規範や理想的なモデルとして捉えた文学と芸術の様式と潮流。

成文化： 法規範の大幅な改訂、変更、刷新、すなわち新しい法体系の採用。

保守主義： 宗教、家族、国家といった社会の伝統的価値観の不可侵性を主張する哲学的・社会政治的運動。

立憲主義： 憲法と立憲的な統治手段に基づく政治体制。

分担金： 戦勝国が敗戦国に課す支払い。

対抗改革： アレクサンドル3世が1864年から1874年の改革の影響を抑えることを目的として実施した一連の措置。

コロベイニキ： 小規模な行商人。

職人： 主に手作業で商品を製造する小規模な製造業者である。

リベラリズム： 人権と個人の自由の不可侵性を主張する哲学的・社会政治的運動。

マジョラート： コモンローにおける財産相続の順序。これによれば、財産は氏族または家族の長子にのみ継承される。

マルクス主義： K. マルクスとF. エンゲルスによって創始された哲学的、経済的、政治的見解の科学的体系。階級闘争とプロレタリア独裁の教義に基づく。

メシアツィナ： 土地を持たない農奴が地主から6日間の賦役として受け取る現物扶養。

ミッション： 教会や宗教団体の活動形態の一つ。その目的は、非信者や他の宗教の代表者をキリスト教に改宗させることである。

モダニズム： 芸術における様式的方向性。アール・ヌーヴォー建築の特徴の一つは、独特の装飾であり、それが非凡で際立った個性を持つ建物の創造に貢献した。

君主主義： 君主制の確立、維持、または復活を目的とする社会政治運動。

独占： 最大の利益を得るために物質的および財政的資源を集中させることで市場を支配する企業連合。

ナロードニキ： 1860年代から1880年代にかけてロシアで農民共同体に基づく社会主義の建設を目指した革命家。

ナショナリズム： 国家を社会統合の最高の形態として価値づける思想と政策方針であり、その根本原理は、国家の価値を社会統合の最高の形態とする考え方。

国民： 領土、経済的つながり、文学言語、民族的特徴、文化、そして性格といった共通の特性を形成する過程で発展する、人々の歴史的な共同体である。

共同体： 生産手段の共同所有と、完全または部分的な自治を特徴とする農民の組合の一形態。

オトレツキ： 農奴制廃止改革の際に、地主のために農民から奪われた土地の一部。

オトルブ： P.A.ストルイピンの改革の際に生まれた概念で、各農民は共同体を離れ、所有するすべての土地区画を一箇所に集約することで、割当地を個人財産として確保する権利を得た。

議会主義： 立法権と行政権の機能が明確に区別され、議会が特権的な地位を有する国家の政治組織体制。

保護主義： 国内生産の発展を促進することを目的とした経済・財政政策体制。

労働者階級： 生産手段を所有せず、労働力を売って生活する雇用労働者を指す。

急進主義： いかなる見解や概念に対しても、極端で妥協を許さない姿勢。

リアリズム： 現実をその典型的な特徴において忠実に再現することを目指す芸術運動。

革命： 急進的、根本的、深遠な質的变化であり、社会の発展における飛躍であり、従来の状態との明確な決別を伴う。

ロマン主義： ヨーロッパ文化における思想的・芸術的運動であり、個人の精神的・創造的生活の本質的価値の主張、強い（しばしば反抗的な）情熱と性格の描写、そして精神化された自然を特徴とする。

神聖同盟： ウィーン会議で確立された国際秩序を維持することを目的として、ロシア、プロイセン、オーストリアの保守的な連合体。

スラヴ派： ロシアの社会哲学思想における文学的、宗教的、哲学的な運動であり、ロシアの独自性、すなわち西洋との典型的な相違点を明らかにすることを目的とした。

社会主義： 社会正義、自由、平等の原則を体現する社会体制。

テロ： 暴力的な手段によって政敵を滅ぼすこと。

都市化： 社会の発展において都市の役割を増大させるプロセス。

インターネットリソース

<http://gotourl.ru/9704> - 歴史Ru

<http://gotourl.ru/9705> - インターネットプロジェクト「1812」

<http://gotourl.ru/9706> - ロシア国立図書館

<http://gotourl.ru/9707> - ロシア歴史家による講演

<http://gotourl.ru/9708> - 写真で見るロシア帝国

<http://gotourl.ru/9709> - ロシアの歴史図解雑誌「ロディナ」

<http://gotourl.ru/9710> - デカブリスト博物館

<http://gotourl.ru/9711> - ニコライ1世とその時代（文書、手紙、日記、回想録、同時代の人々の証言、歴史家の著作）

<http://gotourl.ru/9712> - 1877-1878年の露土戦争：戦争の前提条件、両陣営の軍備、戦争の経過、結果

<http://gotourl.ru/9713> - アレクサンドル1世III

<http://gotourl.ru/9714> - 日記と手紙。ニコライ2世皇帝

<http://gotourl.ru/9715> - 日露戦争（海上、1904～1905年）ピン

<http://gotourl.ru/9716> - P. A. ストルイ遺産研究財団

<http://gotourl.ru/9717> - ロシア帝国

<http://gotourl.ru/9718> - 歴史。ロシア連邦歴史ポータル

<http://gotourl.ru/9719> - 文化。ロシア連邦文化遺産ポータル...

目次

序論：1801年から1914年のロシア

第1章：1801年から1825年のアレクサンドル1世統治下のロシア

§ 1. 19世紀初頭のロシア帝国

§ 2. 1801年から1812年のアレクサンドル1世の国内政策

§ 3. 1801年から1812年のアレクサンドル1世の外交政策

§ 4. 1812年の祖国戦争

§ 5. ナポレオンの敗北：ウィーン会議と神聖同盟

§ 6. 1815年から1825年のロシア

§ 7. デカブリストの反乱

本章の参考文献

第2章：ニコライ1世統治下のロシア（1825～1855年）

§ 8. ニコライ1世の内政

§ 9. 19世紀前半の社会経済発展

§ 10. ニコライ1世の外交政策

§ 11. 19世紀第2四半期の社会運動

§ 12. 19世紀前半のロシア帝国の諸民族

§ 13. クリミア戦争

本章の参考文献

第3章 19世紀前半の社会の精神生活

§ 14. 19世紀前半のロシア帝国の文化空間

§ 15. 教育と科学

§ 16. 19世紀前半の文学と芸術

本章の参考文献

第4章 大改革時代のロシア

§ 17. アレクサンドル2世治世の始まり農奴制の廃止

§ 18. アレクサンドル2世の改革

§ 19. アレクサンドル2世治世下のロシアの外交政策

§ 20-21. 社会政治運動

本章の参考文献

第5章 1880年代～1890年代のロシア

§ 22. アレクサンドル3世の内政・外交政策

§ 23. 改革後ロシアの社会経済発展

§ 24. 1880年代～1890年代の社会運動

§ 25. 1860年代～1890年代のロシア帝国の諸民族

本章の参考文献

第6章 19世紀後半のロシア文化

§ 26. 19世紀後半のロシア帝国の文化空間

§ 27. 科学と教育

§ 28. 19世紀後半の文学と芸術

本章の参考文献

第7章 20世紀初頭のロシア

§ 29-30. 世紀転換期のロシア：発展のダイナミズムと矛盾

§ 31-32. 20世紀初頭の社会運動 1905-1907年のロシア革命

§ 33. 「6月3日帝政」ロシアの外交政策

§ 34. ロシア文化の「銀の時代」

本章の参考文献

結論

概念と用語集

インターネットリソース

年表

- 1867年 - アラスカのアメリカ合衆国への売却
- 1870年 - 市政改革
- 1877-1878年 - 露土戦争、サン・ステファノ条約、ベルリン会議
- 1881年3月1日 - ナロードナヤ・ヴォリアによるアレクサンドル2世の暗殺
- 1881-1894年 - アレクサンドル3世の治世
- 1882年 - 三国同盟の結成
- 1891年 - シベリア横断鉄道の建設開始
- 1891-1893年 - ロシア・フランス同盟の結成
- 1894-1917年 - ニコライ2世の治世
- 1897年 - S. ユー・ウィッテの通貨改革、金ループルの導入
- 1898年 - ロシア社会民主労働党 (RSDLP) の結成
- 1901-1902年 - 社会革命党 (SR) の結成
- 1903年 - RSDLP 第2回大会、党がボルシェビキとメンシェビキに分裂
- 1904-1905年 - 日露戦争。ポーツマス条約
- 1905-1907年 - 第一次ロシア革命
- 1905年1月9日 - 血の日曜日
- 1905年10月7日-25日 - 全ロシア政治ストライキ
- 1905年10月17日 - 国家秩序の改善に関する宣言
- 1905年10月-11月年 - 立憲民主党（カデット）、ロシア人民連合、10月17日連合（十月党）の創設
- 1905年12月年 - モスクワで武装蜂起。国会選挙法
- 1906年4月27日-7月8日 - 第一国会の活動
- 1906年11月9日 - ストルイピンの農地改革の開始
- 1907年2月20日-6月3日 - 第二国会の活動
- 1907-1912年 - 第三国会の活動
- 1907年 - 英露協商会議、協商国の最終的な成立
- 1912-1917年 - 第四国会の活動

